(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第275集

主要地方道高崎渋川線改築(改良)工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第4集

小八木志志貝戸遺跡群3

小八木志志貝戸遺跡・小八木井野川遺跡

(高崎市)

中世編

Koyagi-shishikaido site and Koyagi-inogawa site,

Takasaki City, Gunma

Vol.3
The Middle Ages

2001

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

『小八木志志貝戸遺跡群３』　正誤表

頁	行	誤	正
例言	下から15行目	青木巡代	青木昌代
例言	下から10行目	関根秀雄	関根英雄
例言	下から６行目	中島靖男	中島康男
例言	下から６行目	根岸具一	根岸正一
例言	下から４行目	橋本祐司	橋元祐児
9	上から４・５行目	字関添　字井野川	（ルビ）せきそえ　いのがわ
9	上から11行目	（なし）	小八木志志貝戸遺跡４・５区
			小八木井野川遺跡（２・３面）
81	下から３行目	サイコロ（4552）	（挿入）CD-ROMに写真掲載
103	下から２行目	旧地割（1948年の	旧地割（1950年の
119	下から３行目	対象遺跡としてされないまま	対象遺跡として認知されないまま
236	上から４～６行目	２　遺構写真～入っている。	２　上記写真はCD-ROMに入っている。
抄録	所在地	〒370-8555	〒377-8555

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第275集

主要地方道高崎渋川線改築(改良)工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第4集

小八木志志貝戸遺跡群 3

小八木志志貝戸遺跡・小八木井野川遺跡

(高崎市)

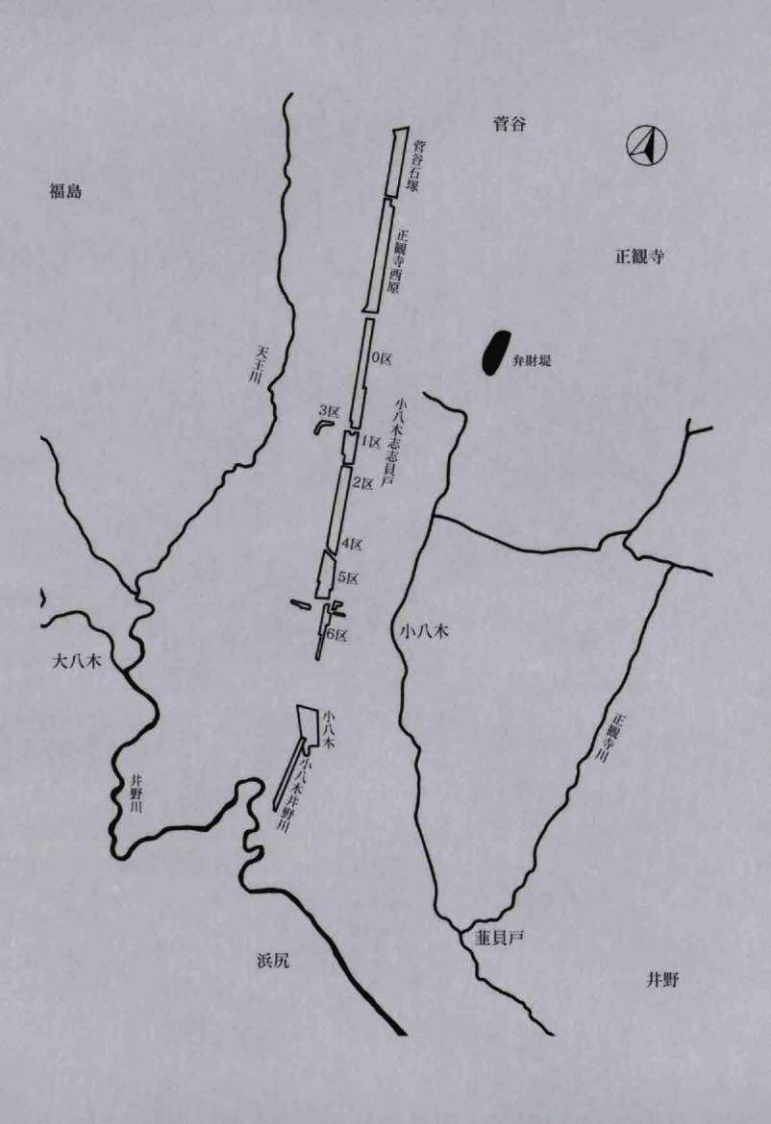
中世編

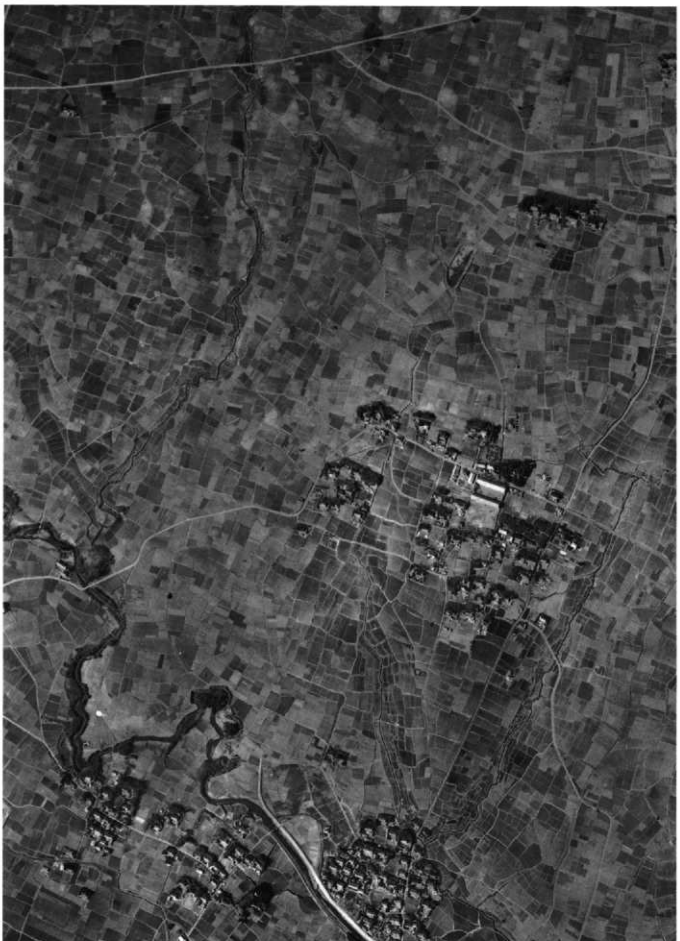
Koyagi-shishikaido site and Koyagi-inogawa site,
Takasaki City, Gunma

Vol.3
The Middle Ages

2001

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団


菅谷
菅谷石塚
福島
正願寺西原
正願寺
弁財堤
天王川
0区
3区
小八木志志貝戸
1区
2区
4区
5区
6区
小八木
大八木
小八木
小八木井野川
井野川
正願寺川
浜尻
韮貝戸
井野



1950年の小八木町周辺　（国土地理院提供の米軍撮影写真による）

本写真から図化した遺跡周辺図は6・7頁に掲載した。

序

主要地方道高崎渋川線は近世の三国往還を踏襲しており、古くから往来が盛んな道路として知られています。現在では高崎市街地を南北に縦断してから国道17号線と交差して渋川市を結ぶ地方幹線道として、近年交通量がさらに増加しています。

本道路改築（改良）工事は、現道の東側を迂回するバイパスとして整備しつつあり、渋滞緩和のための早期開通が嘱望されておりました。この工事に先立って、当該する埋蔵文化財の記録保存として、昭和63年から群馬町教育委員会そして平成６年からは当事業団が発掘調査を実施してまいりました。

本遺跡群の北西方向には箕輪城跡、保渡田古墳群や三ッ寺Ⅰ遺跡など県内の有数の遺跡が分布し、東には日高遺跡のような重要な遺跡が近接しています。また周辺では高速道路や新幹線建設、土地改良工事などに伴って、発掘調査が数多くなされてきました。それらの中間にあたる地域として、本遺跡群は当地域の歴史を考える上で重要な資料を提供することと思います。

本遺跡群では縄文時代から近世にいたる、特にさまざまな信仰・埋葬の痕跡が密集して発見されております。これまでの弥生時代編・古墳時代編に続く本書では、群馬県内最大規模と思われる中世墓地の中心部分また井野川沿いにあった中世居館について報告いたします。調査で発見した近世仏頭が地元に返還されたことも含め、当地域の歴史をさらに解明するために、今後に資する事実を数多く提供できるでしょう。

本報告書の刊行に至るまでには、群馬県土木部道路建設課、高崎土木事務所、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会の諸機関並びに地元関係者の皆さまに大変ご尽力を賜りました。銘記して心から感謝申し上げると共に、本報告書が広く基本的な歴史資料として活用されることを念願し、序とします。

平成13年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　小　野　宇三郎

例　言

1　本書は、群馬県主要地方道高崎渋川線改築（改良）工事に伴う発掘調査報告書である。

2　下記所収遺跡の第３冊目の調査報告となる。

小八木志志貝戸遺跡（こやぎししかいど）　高崎市小八木町字志志貝戸他

小八木井野川遺跡（こやぎいのがわ）　高崎市小八木町字井野川

3　事業主体　群馬県土木部道路建設課・高崎土木事務所

4　調査主体　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

5　調査期間・担当

小八木志志貝戸遺跡　平成９年６月26日～11年12月22日

担当　坂井　隆・神谷佳明・横山千晶・長岡将之

入沢雪絵（嘱託員）・小林一弘（嘱託員）

小八木井野川遺跡　平成10年10月28日～11年12月22日

担当　坂井　隆・神谷佳明・長岡将之

小林一弘（嘱託員）

6　整理期間・担当　平成12年４月１日～12年12月31日　整理担当　坂井　隆

担当部長　水田　稔　担当課長　西田健彦

7　整理班　大友幸江　岸　佳子　小久保トシ子　小菅優子　中橋たみ子　矢野純子　六本木弘子

8　本書の執筆は署名部分以外は坂井が行ったが、**1-1調査に至る経過（３頁）の下段及び1-3-1調査経過の一部（９頁）は群馬県教育委員会文化財保護課が記述した。**

9　本書の報告範囲は小八木志志貝戸遺跡の４・５区の中世以降と小八木井野川遺跡である。本遺跡群の主な掲載区分は次の通りである。

小八木志志貝戸遺跡群１（既刊）　各遺跡の弥生時代の遺構・遺物

小八木志志貝戸遺跡群２（既刊）　各遺跡の古墳時代以降の遺構・遺物

小八木志志貝戸遺跡群３（本書）　小八木志志貝戸の中世の遺構・遺物及び小八木井野川

小八木志志貝戸遺跡群４　小八木志志貝戸の古代及び縄文時代の遺構・遺物

10　発掘調査作業員（平成９～11年度）

あ　青木雅代　朝倉政代　足立信二　天田トシ　新井勝枝　新井勝治　伊佐悦子　石川真也　石川輝子　植杉あや子　宇賀美代子　栄女直美
生方智恵子　柄沢マサ子　江原治志　大霜興子　岡田金五　小川原男　小木博　小木良江　小野木年江

か　笠井正雄　怜田寿　片平小夜子　金井百合子　金子くみ子　狩野登茂子　加納文代　狩野實　狩野基次　加納康利　鹿子木勉子　川浦邦夫
川浦純子　久保田正司　栗原静江　栗原保　高野辺トリ子　小杉岩代　小湯キヨエ　小湯幾深夏　小和瀬幸子　近藤上

さ　斉藤初美　斉藤八重子　坂井育子　佐藤和子　佐藤ミサオ　佐々木雅子　佐藤健一　静幸代　設楽清　芝田勝江　島田てつ　嶋村みどり
清水幸子　清水茂　清水近江　清水友子　志村千恵子　神宮香代子　須藤満佐子　関口弘子　関根清子　関根照代　関根秀雄　関根文子
芹沢市子

た　高垣松子　高島操　高橋一江　高橋千秋　田島絹二　田島美枝子　武井ヒロ子　武石正美　竹内昭子　竹内八重子　竹鼻タキノ　田中美代子
田野満陶　塚越栄子　辻みつる　土屋時子　堤弘　堤静子　手島栄治　鉄本亜紀乃　戸塚清市　富沢宗一　富沢成子　富所祐美子

な　内藤浪　永井寛治　長井登喜雄　永井源子　中里見友江　中島エイ子　（故）中島源次郎　中嶋明男　成瀬ケイ子　西浦登　根岸一夫　根岸昇一
野口市子

は　橋本裕司　長谷川ツネ子　馬場陽子　深沢日出次　深沢ヨシ子　福島菊郎　星野悦子　星野ミドリ　堀純子

ま　前川章　増田香織里　松井多喜　松島淳子　松本町子　松本玲子　丸山幸男　武藤とく江　村磯光子　室清美　茂木ナツ子

や　矢口いつ子　矢口昇一　矢口豊子　矢島キクエ　矢島三男　山本芳子　吉沢繁

わ　綿貫梅子　渡部富江　渡辺紀子

凡　　例

報告内容　：　本第３集は小八木志志貝戸遺跡４・５区の中世以降そして小八木井野川遺跡の調査成果を中心としたが、第２集で掲載の漏れた小八木志志貝戸遺跡３・６区の石製品も併せて報告した。

遺構　：１　調査で検出した全ての該当遺構を報告した。

２　番号は小八木志志貝戸では調査区ごと、小八木井野川では全体での通し番号である。前者では４-001号遺構あるいは５-002号遺構と記し、後者では001号遺構のように表記した。

３　小八木志志貝戸４・５区では古代以前の遺構は本書で報告しないため、掲載した遺構の番号は完全には連続していない。

４　遺構計測値は、掘込み面の上場最大値を測った。

５　使用方位は、座標北である。

６　土層説明での火山テフラの呼称は次のとおりである。

浅間 As-A：浅間山の天明３（1783）年噴火軽石

浅間 As-B：浅間山の天仁１（1108）年噴火軽石

浅間 As-C：浅間山の弥生時代後期終末頃噴火軽石

榛名 Hr-FA：榛名山二ツ岳の６世紀噴火火山灰

７　番号順の検索は、第５章遺構索引を利用されたい。

遺物　：１　番号は出土状態に関わらず４桁の通し番号を、本書での両遺跡出土遺物全体に付与した。第１桁目は次のように種類で区分した。

１（土器陶磁器）　２（石製品）　３（金属製品）　４（有機物）

２　第２集で掲載した遺物については２-2001のように表記した。

３　五輪塔空風輪の高さ計測値は、接合突起部を除いている。

４　掲載図の縮小率は、それぞれの遺物図に記した。

５　地元に返却した近世の仏頭を除いて、全て群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

６　種類順の検索は、第５章遺物索引を利用されたい。

７　非報告遺物については、種類別の重量を遺構索引に記した。

８　石材鑑定は飯島静男氏によった。

写真　：１　遺構写真は調査時に撮影した全カットを、CD-ROM に収録した。

２　遺物写真は報告遺物全てを、CD-ROM に収録した。

３　CD-ROM の使用方法は、第６章に記した。

４　遺構写真は一部良好には撮影できなかったものもあるが、そのまま収録した。

その他　：１　参考文献などの記載では、当事業団を群埋文と略称した。

目次

1950年周辺空中写真
序
凡例・例言
目次

1　序章……1
1-1　調査に至る経緯…3
1-2　周辺の地形と遺跡…4
1-3　調査経過と方法…9

2　考古学的検出内容……11
2-1　小八木志貝戸遺跡４・５区……13
2-1-1　近世祠堂…17
2-1-2　中世墓地…39
2-1-3　中世居館…83
2-1-4　その他の遺構…89
2-1-5　遺構外出土遺物…116
2-2　小八木井野川遺跡……119
2-2-1　中近世…122
2-2-2　弥生～古代…146
2-2-3　縄文時代…167
2-2-4　遺構外出土遺物…178

3　自然科学調査……179
3-1　人歯骨・獣歯（宮崎重雄）…181
3-2　プラント・オパール・花粉分析（パレオ・ラボ）…193
3-3　樹種同定（パレオ・ラボ）…201
3-4　自然科学調査成果まとめ…202

4　まとめ……203
4-1　中世墓地と居館…205
4-2　中世石塔…215
4-3　成果概要・summary…219

5　資料……221
5-1　遺構索引…223　　5-2　遺物索引…227

6　付録……235
CD-ROM（遺構・遺物写真）
抄録

第1章　序　　章

1-1　調査に至る経緯

群馬県主要地方道高崎渋川線は、県中央部を南北に縦貫して交通の要衝である高崎市と北部の拠点渋川市を結ぶ都市間連絡道路である。人口集中地帯の榛名山東麓平野部を通っているため、通勤通学など地域住民が日常生活に利用することが多く、生活基盤路線として位置づけられてきた。

しかし年々増加する交通量をまかなうには片側1車線と狭く、最近では朝夕の交通渋滞は日常的なものになるに至った。そのため、いくつかの交通隘路を迂回するバイパスの建設整備により、渋滞緩和が求められるようになった。

計画された高崎渋川線バイパスは、国道17号線高崎前橋バイパスの高崎市問屋町を起点として、現在の高崎渋川線の東側にほぼ平行して走っている。経路は、同市小八木町そして群馬郡群馬町の菅谷・冷水・金古、前橋市青梨子町などを経て、渋川に至る。

このバイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、昭和63年から群馬町教育委員会によって次のように行われてきた。

西三社免遺跡	群馬町棟高	昭和63年度調査
小池遺跡	同　引間	平成2年度調査
諏訪西遺跡	同　引間	平成5年度調査

その後平成5年度より、整備事業の主体者である県土木部道路建設課より早期供用開始を計る要請が県教育委員会文化財保護課にあり、平成6年度より当事業団が次のように発掘調査を行ってきた。

冷水村東遺跡（ひやみずむらひがし）	群馬町冷水	平成6年度調査
西国分新田遺跡（にしこくぶしんでん）	同　西国分	平成6年度調査
金古北十三町遺跡（かねこきたじゅうさんちょう）	同　金古	平成7～9年度調査

上記群馬町調査分より南側の高崎市小八木町を中心とする本遺跡群の地域については、平成8年度に県教育委員会による試掘調査が実施されて遺跡の存在が明白になった。そして本バイパス整備事業に伴う記録保存の発掘調査を、平成8年12月より当事業団が実施することになった。

しかし本地域はすでに昭和50年代の土地改良事業が進展しており、それに伴うものを中心として高崎市教育委員会及び群馬町教育委員会による発掘調査もかなり多く行われてきている（『小八木志志貝戸遺跡群2』15頁図参照）。

特に本書で報告する部分に関しては、昭和53・54年度に高崎市教育委員会が「小八木遺跡」として発掘調査を行っている。調査報告書『小八木遺跡Ⅰ・Ⅱ』がそれぞれ調査年度末には刊行されており、10頁図に記したように、同調査地は全く本バイパス予定地と重なっている。平成8年度になり、土木部から県教育委員会に、本地区に対する協議があったが、既に小八木志志貝戸遺跡6区から小八木井野川遺跡南端に至る500mの区間については協議がなされないまま工事が先行している状況がみられた。

このため、平成10年度に、工事が行われていなかった東側車線部分に対する県教育委員会による再度の試掘調査が行われ、遺跡地であることが改めて確認されたため、小八木志志貝戸遺跡6区（『小八木志志貝戸遺跡群2』で既報告）及び小八木井野川遺跡として発掘をすることになった。

また小八木志志貝戸遺跡2・4・5区は、現在の集落地と重なっており、家屋の移転の際に掘られた廃棄坑のため、遺構の残存状態は良くない状況であった（群馬県教育委員会文化財保護課）。

1-2　周辺の地形と遺跡

1　地理的位置

本遺跡群（A・B）は、榛名山南東麓の斜面が平地に変化する海抜110m前後に位置する。現利根川とその支流の烏川に挟まれたこの斜面一体は、海抜115mあたりから急速に傾斜度を弱めると共に、山中から流れたきた伏流水が湧き出る池が数多く見られる。また同時に有史前の榛名山の噴火により流出した瘤状の泥流丘も、そのような平地に点在している。

周辺河川の大部分は北西に当たる榛名山方向から南東流して平野部を進んでいるが、この地域ではまだ大規模な沖積平野の形成はなく、地形的には旧利根川（桃の木川）右岸の前橋台地として区分されている。

2　歴史的特徴

比較的水の得やすい平坦地であるため、周辺での人々の生活は早くから始まっており、その足跡は無数に散在するといって良い。特に6世紀代の榛名山噴火による堆積物（Hr-FA）と1108年の浅間山噴火の火山灰（As-B）は概ね厚く堆積しており、それぞれの時代の生活を良く地中に残している。

同時に近年、群馬県の二大都市前橋と高崎の中間地域として人口集中は著しく、特に関越自動車道・上越新幹線・長野新幹線などの広域幹線交通網の建設や、さまざまな大小の開発が絶えず進められている。そのため発掘調査事例も膨大に及んでおり、成果も多岐に広がっている。以下、本報告と直接関係の深い中世墓地遺跡を高崎市と群馬町を中心に紹介する。

3　中世遺跡の概要

近世高崎城（51、52）の前身は、榛名山斜面部に位置する長野氏の本拠地箕輪城跡（77）である。長野氏は群馬郡全体に大きな影響力を15・16世紀に持っていた。特に16世紀初頭の箕輪城移転以前の本拠地だった井野川上流には、発掘調査された城館跡が集中している。主なものだけでも右岸では浜川高田遺跡（66）・北新波砦跡（33）・矢島館跡（59）・寺ノ内遺跡（58）・大八木屋敷遺跡（28）・融通寺遺跡（27）などがある。また左岸では保渡田・井出城館群（2～6）など濃密に分布している。

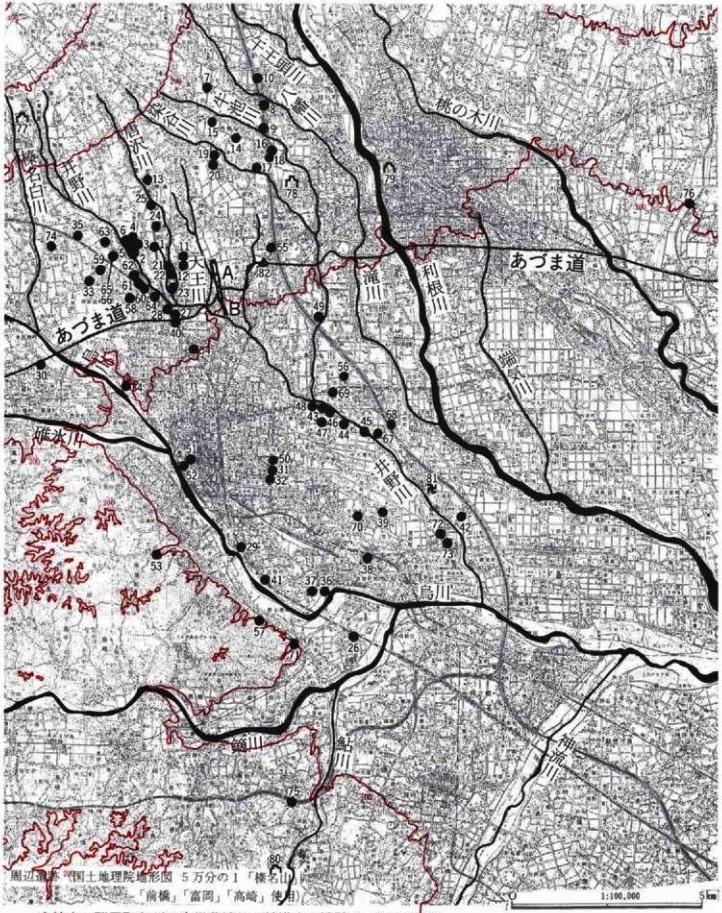
一方現利根川にかけての群馬郡東部は、上野国府跡に形成された蒼海城跡（78）を本拠とする総社長尾氏が15世紀には力を持っていた。その関連の遺跡としては、染谷川流域周辺には中尾遺跡（55）のような城館跡や国分寺中間地域遺跡（18）・下東西遺跡（10）のような寺院跡がある。近世前橋城の前身である厩橋城（79）も同氏の影響下にあった。なお16世紀以前の利根川は、東側に離れた現在の桃の木川を流路としている。

またこれら榛名山南東麓を東西に横切るあづま道は、古代の東山道の役割を引き継いだ幹線道で、中世には大きな流通路であった。本遺跡での検出状況は『小八木志志貝戸遺跡群２』で報告した。15世紀後半には関東管領山内上杉氏が鎌倉から、15km南の平井に移転してくる。その本拠地平井城跡（80）と以上の長野氏や総社長尾氏の拠点との交通も盛んだったはずである。

4　中世墓地遺跡と五輪塔遺跡

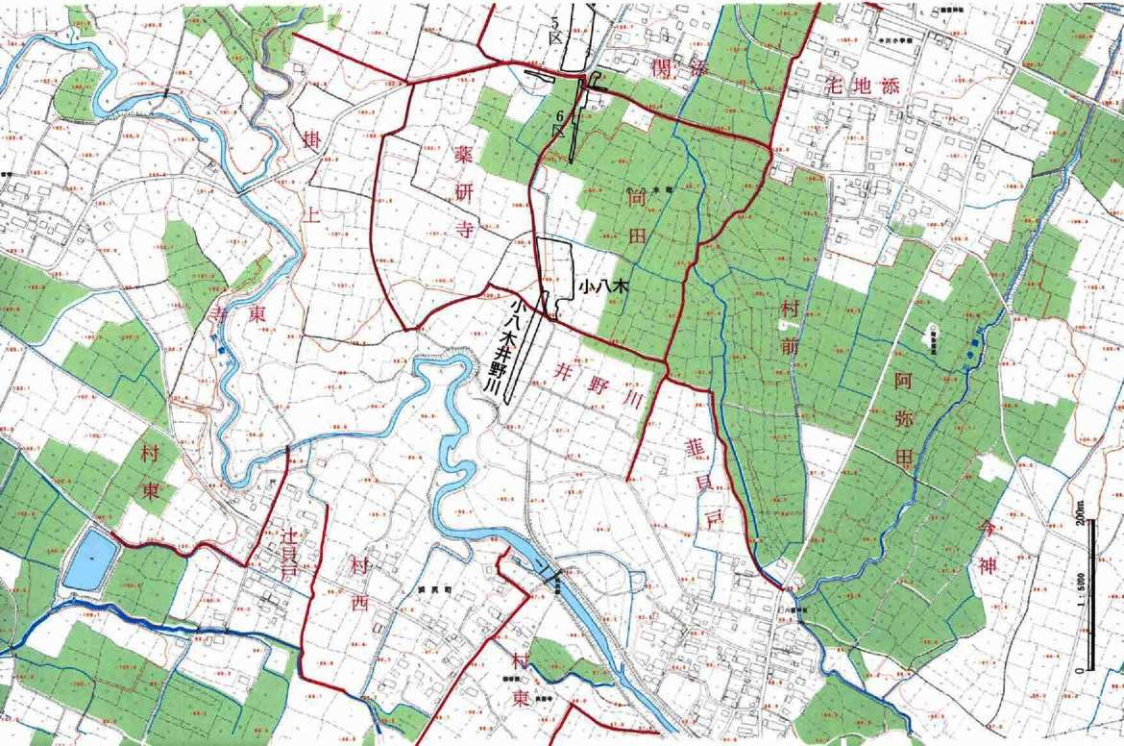
この地域でこれまで検出された中世墓地遺跡は、上記国分寺中間地域・下東西に加えて、染谷川流域では西国分Ⅱ遺跡（14）がある。また近くの北原遺跡（８）は近世墓地のまとまった調査がなされている。南の烏川右岸の根小屋一丁畑遺跡（57）では板碑墓が集中して発見された。域外では鮎川流域の白石大御堂遺跡（75）と桃の木川左岸の富田遺跡群（76）が上野での代表的な中世墓地であった。

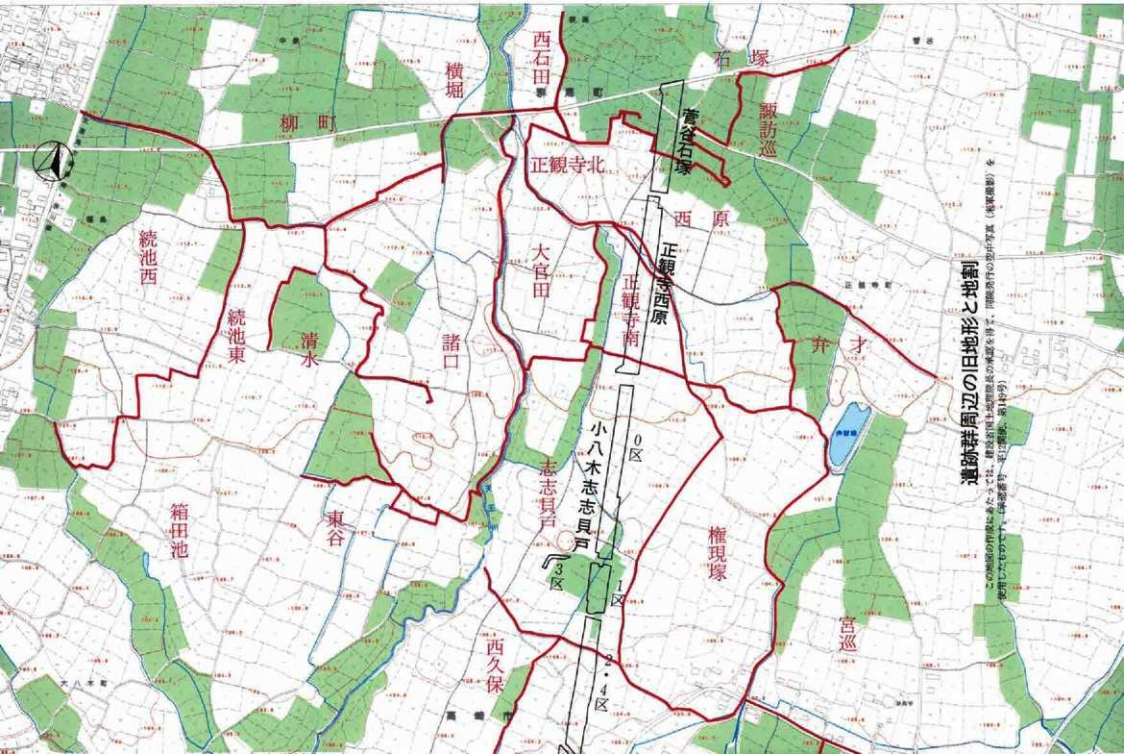
現存する中世後期の五輪塔は、井野川上流の浜川北遺跡（63）隣接の来迎寺、下流の慈眼寺（81）に集中している。また中世前期の五輪塔は、本遺跡隣接の小八木妙典寺と共に中尾町墓地（82）が知られている。



周辺地形　国土地理院地形図　5万分の1「榛名山」「前橋」「富岡」「高崎」使用）

高崎市・群馬町などの中世墓地と五輪塔出土遺跡（一覧表は8頁）


5区
6区
閑静
宅地添
掛上
薬研寺
尚田
小八木
小八木井野川
井野川
村前
阿弥田
寺東
村東
韮貝戸
辻貝戸
村西
村東
今神
200m
1:5000
0


遺跡群周辺の旧地形と地割
西石田
横堀
柳町
石塚
諏訪巡
菅谷石塚
正観寺北
西原
正観寺西原
正観寺南
大宮田
続池西
続池東
清水
諸口
弁才
小八木志
志貝戸
0区
1区
2・4区
3区
権現塚
宮巡
箱田池
東谷
西久保

高崎市・群馬町などの中世墓地と五輪塔出土遺跡一覧（5頁図）

番号	遺跡名	所在地	土師器	火葬墓	瓦質土器	五輪塔	調査主体	報告書	備考
1	井出村東	群馬町井出		○		○	調査会	1983	貞治4年銘板碑
2	同道	群馬町井出	○				群埋文	1983	
3	井出地区遺跡群水田遺跡	群馬町井出他		○			町教委	1988『井出地区遺跡群』	
4	花城寺廻跡	群馬町井出他				○	町教委	1999『井出地区遺跡群』	
5	元井出	群馬町井出他	○			○	町教委	1999『井出地区遺跡群』	
6	元井出廻跡	群馬町井出他	○			○	町教委	1999『井出地区遺跡群』	
7	金古北十三町	群馬町金古他	○				群埋文	1998『冷水村東遺跡他』	
8	北原	群馬町北原	○				町教委	1986	
9	国分堀田	群馬町北原	○				町教委	1993	
10	下東西	群馬町北原	○	○	○	○	群埋文	1987	延文2年銘板碑
11	権現原Ⅰ	群馬町中屋	○				町教委	1994『南部遺跡群』	
12	権現原Ⅱ	群馬町中屋	○				町教委	1994『南部遺跡群』	
13	藤新	群馬町中屋	○				町教委	1991『西芝・中道・押出・薬師・尾沙門Ⅰ』	
14	西国分Ⅱ	群馬町西国分他			○	○	町教委	1990	康安3年銘薬師像
15	西国分新田	群馬町西国分他		○			群埋文	1988『冷水村東遺跡他』	
16	東国分中道南	群馬町東国分	○				町教委	1958	
17	上野国分寺跡	群馬町東国分他	○		○	○	県教委	1988	
18	上野国分寺尼寺中間地域	群馬町東国分他	○	○		○	群埋文	1986	
19	引間小豊	群馬町引間				○	調査会	2000	
20	引間小南	群馬町引間	○				町教委	1992	
21	西浦北	群馬町福島		○			町教委	1989	
22	西浦北Ⅱ	群馬町福島	○				町教委	1994『南部遺跡群』	
23	西浦南	群馬町福島	○				町教委	1992『小池遺跡』	
24	三ツ寺Ⅱ	群馬町三ツ寺	○			○	群埋文	1990	
25	三ツ寺Ⅲ	群馬町三ツ寺		○			群埋文	1985	
26	田端	高崎市阿久津町他	○	○		○	群埋文	1988	
27	柳通寺	高崎市大八木町他	○				群埋文	1991	文保2・嘉応2年銘板碑
28	大八木屋敷	高崎市大八木町	○				群埋文	1995	
29	命機	高崎市上佐野町		○			群埋文	1989	
30	引間Ⅴ	高崎市上豊岡町	○	○			市調査会	1997	
31	上中居甘薬師Ⅱ	高崎市上中居町		○			市教委	1992	
32	上中居西屋敷Ⅱ	高崎市上中居町				○	市調査会	1997	
33	北新波香址	高崎市北新波町				○	市教委	1985,86	
34	上並榎南	高崎市上並榎町	○				群埋文	1985	
35	棒名北	高崎市行力町				○	市教委	1990	
36	倉賀野万福寺	高崎市倉賀野町	○				市調査会	1993	
37	倉賀野万福寺Ⅱ	高崎市倉賀野町	○	○			市調査会	1984	
38	倉賀野中屋敷	高崎市倉賀野町		○			市調査会	1996	
39	保崎熊野前	高崎市保崎町		○			群埋文	1998	
40	下小島神戸	高崎市下小島町	○	○			群埋文	1997	
41	下佐野Ⅰ・寺前	高崎市下佐野町他	○	○		○	群埋文	1989	
42	下滝梅崎	高崎市下滝町		○			市教委	1995『平成6年度小規模調査概要』	
43	天田Ⅱ	高崎市宿大類町	○	○		○	市教委	1984	
44	山島	高崎市宿大類町		○			市教委	1984『山島・天神遺跡』	
45	万相寺	高崎市宿大類町	○	○			市教委	1985	
46	村北	高崎市宿大類町	○	○			市教委	1985『村北・矢島前・村東遺跡』	
47	宿大類町村西	高崎市宿大類町		○		○	市教委	1987	
48	天田・川押	高崎市宿大類町他	○	○			市教委	1983	
49	新保田中村南	高崎市新保田中町	○				群埋文	1990	
50	高関村前Ⅱ・高関東川・村前	高崎市高関町		○			市教委	1995	
51	高崎城梅ノ木例	高崎市高松町				○	市調査会	1993	
52	高崎城三の丸	高崎市高松町	○		○	○	市教委	1994	
53	寺尾殿台	高崎市寺尾町		○			市調査会	1999	
54	下小島	高崎市田端町				○	群埋文	1991	
55	中尾	高崎市中尾町	○				群埋文	1983,84	
56	諏訪	高崎市西島町		○		○	市教委	1987『西島遺跡群Ⅳ』	
57	根小屋一丁畑	高崎市根小屋町	○	○			市教委	1989『小規模埋蔵文化財概報3』	
58	寺ノ内	高崎市浜川町	○				市教委	1979	
59	矢島	高崎市浜川町				○	市教委	1979	弘安7年銘板碑
60	御布呂Ⅰ	高崎市浜川町				○	市教委	1979	
61	御布呂Ⅱ	高崎市浜川町	○	○		○	市教委	1980	
62	御布呂	高崎市浜川町	○				群埋文	1998	
63	浜川北	高崎市浜川町		○		○	市教委	1989	来迎寺長野氏累代の墓陵説
64	芦田貝戸Ⅰ・Ⅱ	高崎市浜川町		○			市教委	1979,80	
65	高田	高崎市浜川町	○			○	市教委	1989『道場遺跡群』	
66	浜川高田	高崎市浜川町	○			○	群埋文	1998『浜川遺跡群』	
67	元島名	高崎市元島名町	○			○	市教委	1979	延慶2年銘板碑
68	元島名B	高崎市元島名町				○	群埋文	1982	
69	矢島町村西・増殿	高崎市矢島町		○			市教委	1986	
70	下村北都城	高崎市谷中町				○	市教委	1986『谷中遺跡群9 下村北・砂内遺跡』	〔?〕安2年銘板碑
71	山名柳沢	高崎市山名町		○			市調査会	1998	
72	鞍谷山古墳	高崎市鞍賀町		○			集教委	1981	
73	不動山東	高崎市鞍賀町		○			市調査会	1986	
74	下芝・原	箕郷町下芝	○		○		町教委	1983	
75	白石大御堂	藤岡市白石	○	○		○	群埋文	1991	
76	東田遺跡群	前橋市東田町		○		○	市教委	1980	建治1～貞和4年銘板碑
77	箕輪城跡	箕郷町西明屋							
78	善福城跡	前橋市元総社町							
79	糟錦城跡	前橋市大手町							
80	平井城跡	藤岡市西平井							
81	星屋浄	高崎市下滝町				○			
82	中尾町墓地	高崎市中尾町				○			

1-3　調査経過と方法

1-3-1　調査経過

遺跡区分　遺跡の区分は、次のように分かれる。

小八木志志貝戸遺跡４・５区　　高崎市小八木町西部（字関添）
小八木井野川遺跡　　高崎市小八木町南西部（字井野川）

前述のように小八木井野川遺跡は、昭和53年度高崎市教育委員会調査の小八木遺跡と同一の遺跡である。

調査時期　本遺跡群の発掘調査は多次に及んだが、本書報告関係は次の調査である。

第２次調査　　平成９年６月26日～10年12月10日
小八木志志貝戸遺跡５区（１面）・小八木井野川遺跡（１面）
第３次調査　　平成11年４月１日～12月22日

調査に至る経緯　平成８年度になり、土木部から県教育委員会に、本地区に対する協議があったが、既に小八木志志貝戸遺跡６区から小八木井野川遺跡南端に至る500mの区間については協議がなされないまま工事が先行している状況が見られた。

このため、平成10年度に、工事が行われていなかった東側車線部分に対する県教育委員会による再度の試掘調査が行われ、遺跡であることが確認されたため、小八木志志貝戸遺跡６区及び小八木井野川遺跡として発掘することになった。

また小八木志志貝戸遺跡２・４・５区は、現在の集落地と重なっており、家屋の移転の際に掘られた廃棄坑のため、遺構の残存状態は良くない状況であった（**群馬県教育委員会文化財保護課**）。

現地説明会　地元小八木町住民の遺跡への関心は大きく、次のように現地説明会を行った。

第１回　　平成10年３月14・15日　　小八木志志貝戸１・２区
第２回　　同年12月10日　　小八木志志貝戸６区
第３回　　11年10月11日　　小八木志志貝戸４・５区

1-3-2　調査方法

調査区設定　調査の基準点は、国土座標に準拠した５m方眼をグリッドとして設定した。X軸方向にアルファベットをY軸方向にアラビア数字を用いて、100m四方（20×20グリッド）をアラビア数字による大グリッドとした。呼称は、大グリッドX軸名称Y軸名称の順で記し、南東側の点名で呼称した。

小八木井野川遺跡では、第２次調査で設置（株式会社横田調査設計に委託）したグリッド杭は、第３次調査で東に14.4cm北に4.9cm誤っていることが判明した（株式会社湖研　測量）。しかし継続性を考えて、最後まで第２次調査設定グリッド杭を踏襲して使用した。また本報告でも、調査時のものをそのまま用いている。従って本遺跡調査成果は、平面的には国土座標に対して上記誤差があることを報告する。

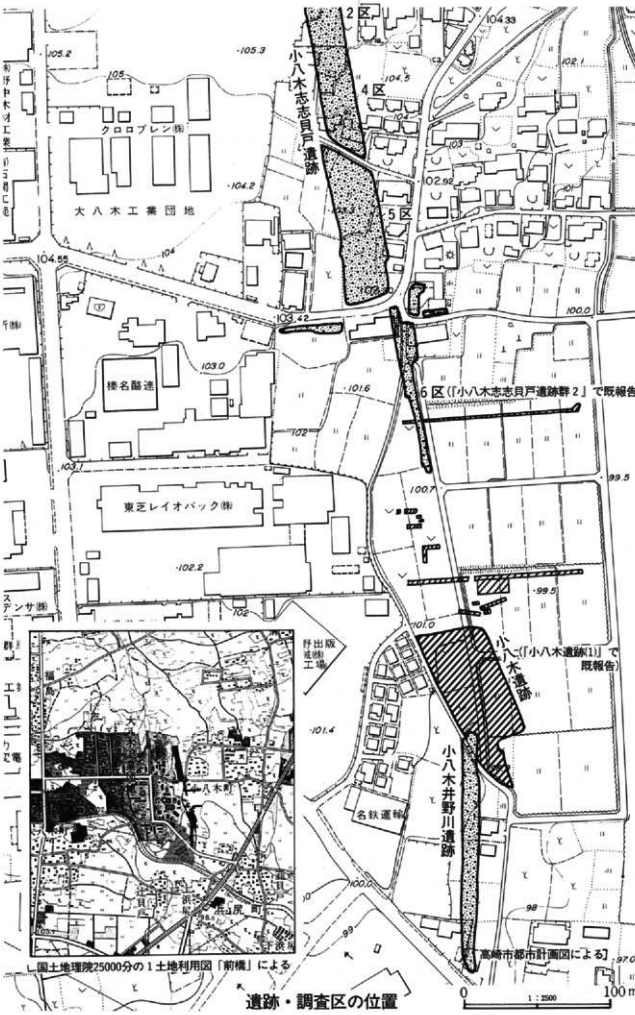
標準層序　次の標準層序があるが、Ⅲ層とⅤ層は基本的には遺構の埋土中でしか検出されていない。

Ⅰ層：表土　　Ⅱ層：褐色砂質土　浅間 As-B 軽石混在
Ⅲ層：浅間 As-B 軽石（1108年降下）　Ⅳ層：灰褐色粘質土　榛名二ツ岳 Hr-FA 火山灰混在
Ⅴ層：榛名二ツ岳 Hr-FA 火山灰（３世紀末～４世紀前半頃降下）
Ⅵ層：暗褐色粘質土　浅間 As-C 軽石混在　Ⅶ層：黒褐色粘質土　Ⅷ層：白色シルト質土

遺構検出面　原則として次の各面で遺構検出を行った。

第１面：Ⅳ層上面（中世以降）　　第２面：Ⅵ層上面（古墳・古代）
第３面：Ⅶ層上面（弥生）　　第４面：Ⅷ層上面（縄文）

ただし小八木井野川遺跡では、Ⅵ層の堆積はほとんど見られなかったため、Ⅶ層上面が第２面となった。上層がすでに流出している部分も多く、第１面調査の際に縄文時代遺構が現れた部分も見られた。


2区
4区
5区
6区（「小八木志志貝戸遺跡群２」で既報告）
小八木志志貝戸遺跡
大八木工業団地
クロロプレン㈱
棟名醸造
東芝レイオバック㈱
印出版㈱工場
小八木遺跡（「小八木遺跡[1]」で既報告）
小八木井野川遺跡
名鉄運輸
八木町
焼出尻町
新田駅
福島
【国土地理院25000分の１土地利用図「前橋」による
【高崎市都市計画図による】
0
100m
1：2500

遺跡・調査区の位置

第 2 章　考古学的検出内容

2-1　小八木志志貝戸遺跡４・５区

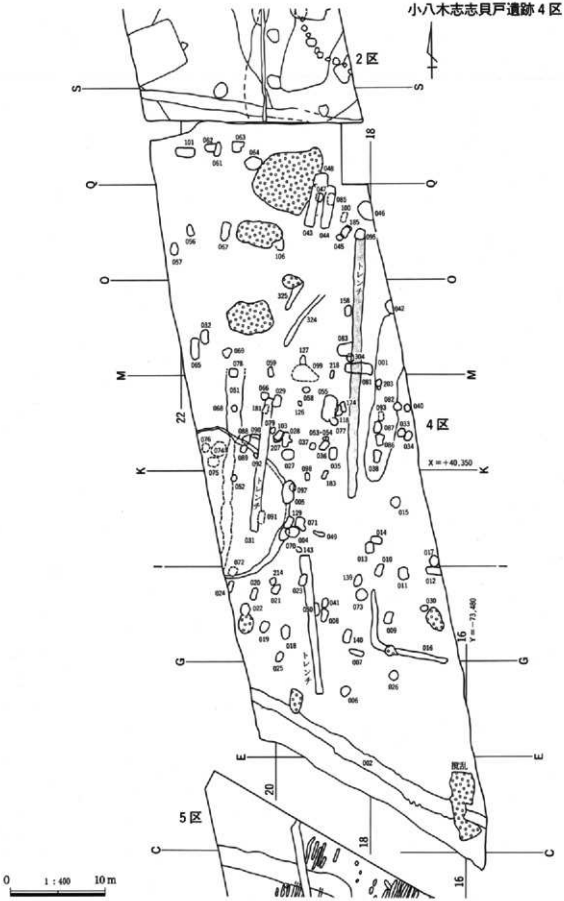
ここでの検出遺構は次のとおりである。

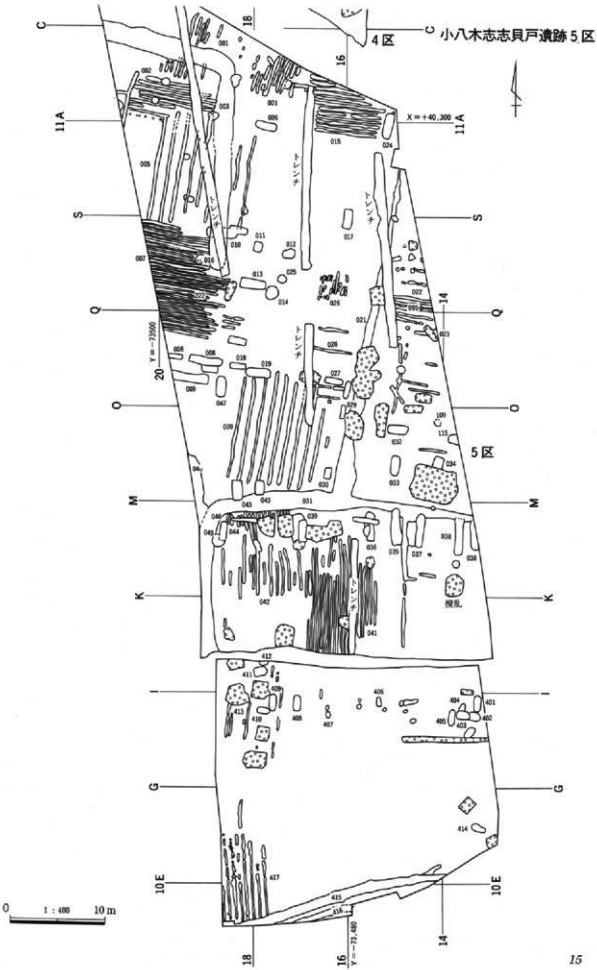
近世	削平跡 ……1	集石 ……3	集石土坑 …1	溝 ……4
	地境溝 ……2	井戸 ……4	畠……13	土坑……49
	土坑群 ……8	道路 ……2		
中世	堀 ……1	溝 ……3	井戸 ……5	方形竪穴 …1
	火葬跡 ……2	火葬墓 ……7	集石墓 ……1	石塔墓 ……1
	土葬墓……44	土坑……10	ピット ……2	
時期不明	土坑……15	ピット ……2		

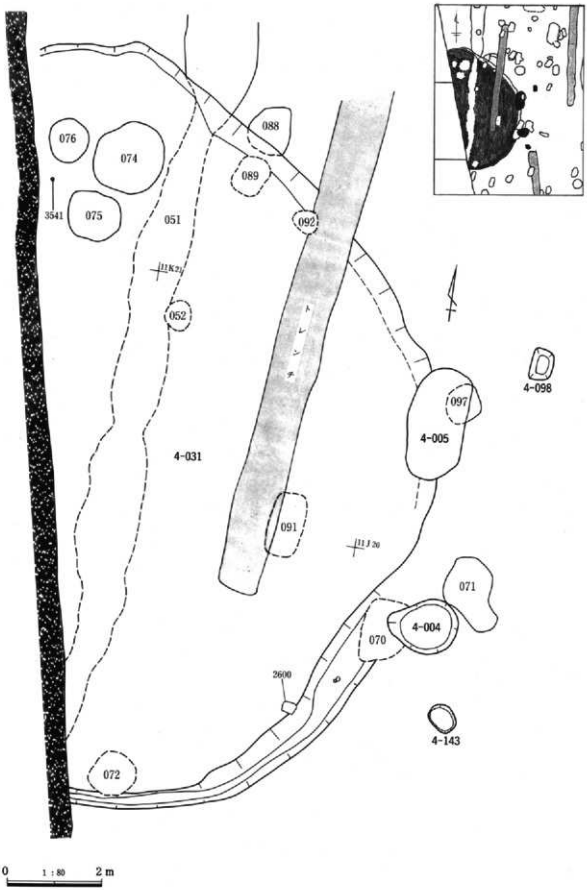
近世は、北側の削平跡と盛土跡を中心とする祠堂遺構群、そして南側の畠地に大きく遺構群は大別できる。祠堂遺構群には、中世墓地の石塔を廃棄した廃棄土坑が６基含まれている。また同じ北側には井戸や溝などの屋敷を構成する遺構群もあるが、調査範囲内では一部が現れたに過ぎない。

中世は、やはり北側の墓地と南側の居館に、遺構群を大別できる。墓地はさらに北側から続き（『小八木志志貝戸遺跡群２』で既報告）、全体の検出数は80基以上となる大規模なものである。居館はＬ字形に屈曲する内濠とその外側の溝を中心とするが、中心部分は調査範囲外となっているため、内容はあまりはっきりはしない。

相互に識別された南北の土地利用関係は、継続性がある。北側での墓地から祠堂と屋敷への変化と、南側での居館から畠地への変化は、共に同一の範囲内（概ね調査区の４区と５区に相当）のものである。


小八木志志貝戸遺跡４区
２区
４区
５区
X＝＋40,350
Y＝−73,400
撹乱
0
1：400
10m


小八木志志貝戸遺跡 5 区
4 区
5 区
X＝+40,300
Y＝−72800
Y＝−73,400
トレンチ
撹乱
C
11A
S
Q
O
M
K
I
G
10E
18
16
14
20
0
1 : 400
10 m


076
074
088
089
3541
075
051
092
052
4-031
097
4-005
4-098
091
071
4-004
070
2600
4-143
072
0
1 : 80
2 m

2-1-1 近世祠堂

小八木志志貝戸4区031号遺構（遺構16頁・遺物29,30頁）

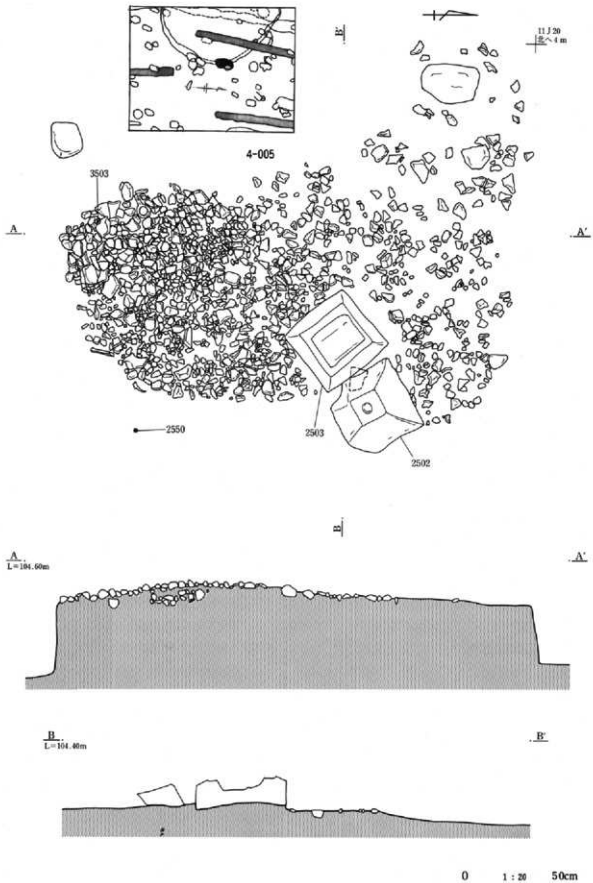
【位置】11H20～K21g **【種類】**削平跡 **【形状】**円形？（直径15.6m） 北側は周囲より削り（最大0.24m）、南側は環状に浅い溝（深さ0.1m）で平坦面状（最大高低差0.3m）に区画 **【重複】**東側で集石005号・集石土坑004号、北側で土坑074～076号、東側で土坑070号より旧、中央で溝051号、土葬墓072・088・091号、土坑089・ピット092号より新。土坑052号と重複。**【土層】**不明 **【遺物】**南東側溝肩で、石製鞆基礎（2600）出土。覆土中に陶磁器片の出土多い。皿と調度具が集中し碗類は少ない。16世紀末～17世紀代のものが目立つが、19世紀前半～中葉の肥前染付蓋碗蓋（1601）も含まれる。銅銭は11枚あるが、明治18年十銭（3653）新寛永通宝（3542,44,45,51,54）と古寛永通宝（3540,52）が本遺構と直接関連。**【備考】**近代陶磁片も少し出土し、17世紀代の造成後も継続的に使用。遺構の性格上、該当グリッドで取上げた遺物も含めた。

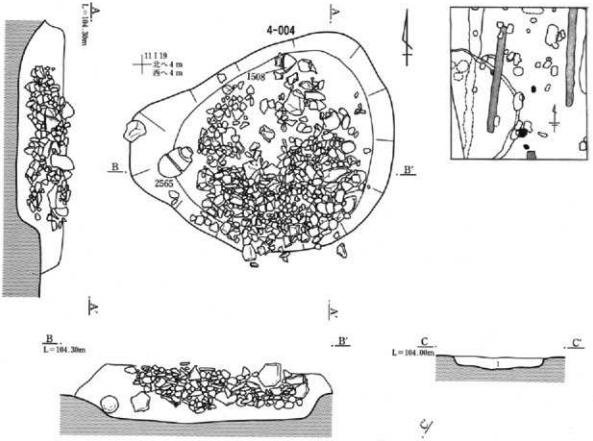
小八木志志貝戸4区005号遺構（遺構16,18頁・遺物20～28頁）

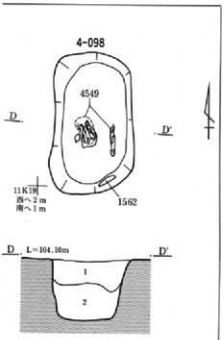
【位置】11J19g **【種類】**集石 **【形状】** 楕円形（2.4×1.2m） **【重複】**削平跡031号・土坑097号より新。**【土層】**不明（031号より0.6m高い） **【遺物】**グリ石が平坦に敷き詰められた上に粗粒輝石安山岩製の五輪塔火輪（2502）と同石塔台座（2503）が露出。敷石下部より仏頭（2624）が出土し34点の石製品が混在。大部分は五輪塔各部位と同未成品（空風輪12、火輪1、水輪7、地輪5、台座2）。墨書雲母石英片岩磨石（2611）、粗粒輝石安山岩灯籠？脚部（2534）に「高橋」姓が記される。陶磁片は16世紀末～19世紀のものが大部分。漳州窯白磁菊皿（1510）・肥前染付墨弾き小皿（1515）が特筆。瀬戸美濃鉄絵小皿（1509,14,93）が量的にやや多い。小片では2.2キロの近代陶磁片がある。**【備考】**本遺構は、粗粒輝石凝灰岩製の五輪塔などの石塔あるいは仏像が安置されていた祭壇的な構造物の基礎と考えられる。その出発は、削平跡031号の造成に伴って集積された中世五輪塔群の廃棄場であろう。近世にその他の廃棄物をも含めながら構造物の基礎として形成され、最終的に石敷がなされたのは19世紀以降と思われる。ここは、調査前には「ヤクシサマ」と通称された小堂が建っていた場所で、上記仏頭と接合の可能性がある仏像体部他複数の石仏があった。

小八木志志貝戸4区004号遺構（遺構16,19頁・遺物31頁）

【位置】11I19g **【種類】**集石土坑 **【形状】**円形（直径約1.2m深さ0.3m）に径10センチ以下の礫を約0.25mの深さで敷き詰める。**【重複】**東側で土坑071号、西側で土坑070号を壊し、また削平跡031号より新。**【土層】**不明 **【遺物】**礫中に陶磁片類が含まれるが、中世の白磁皿（1506）と瓦質土器擂鉢（1508）及び瀬戸美濃灰釉小皿（1507）は混入で、19世紀の地方窯染付小碗（1505）が造成時期のものだろう。西端下位の五輪塔空風輪（2565）は、070号の遺物である。**【備考】**005号と同時期の何らかの重量ある構造物の基礎と考えられる。


4-005
3503
A
A'
B
B'
11 J 20
北へ 4 m
2550
2503
2502
A
L=104.60m
A'
B
L=104.40m
B'
0
1 : 20
50cm



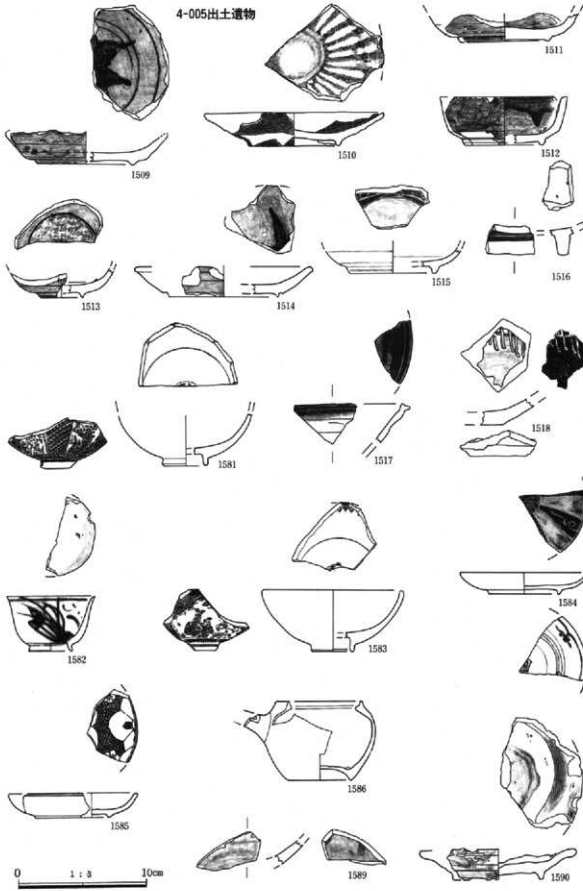


小八木志志貝戸４区143号遺構（遺構16, 19頁）

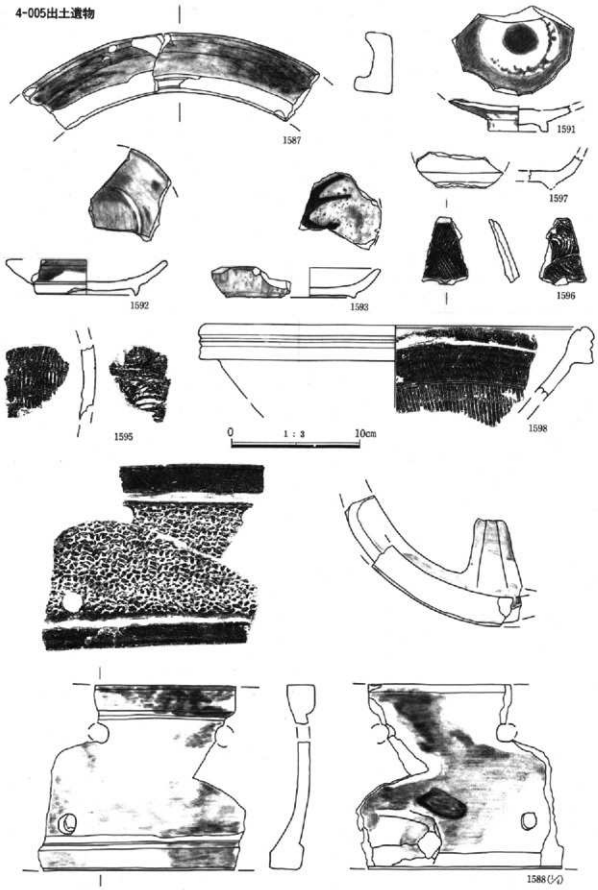
【位置】11 I 19 g　**【種類】**集石　**【形状】**楕円形（0.5×0.6m）**【重複】**北側の004号とは1.2m離れる。**【土層】**１灰黄褐色砂　**【遺物】**近代陶磁小片60 g **【備考】**004号との関係が想定できるが浅い。

小八木志志貝戸４区098号遺構（遺構16, 19頁・遺物31頁）

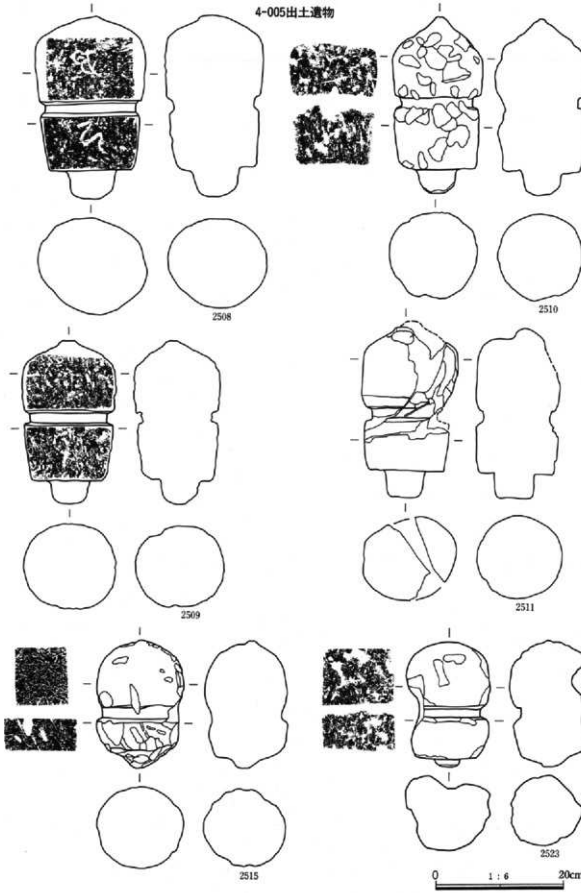
【位置】11 J 19 g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（0.7×0.4×0.3m）　**【重複】**南西側で005号と1.2m、東側で中世墓183号と1.5m離れる。**【土層】**１暗褐色砂質土　黒褐色土塊含む　２黒褐色砂質土　黒褐色土塊やや多　**【遺物】**南端埋土最上位で産地不明鉄釉焼締小皿（1562）出土し、底には成人？骨（4549）　**【備考】**1562は副葬品とは考えにくい出土状態であり、中世墓の上に005号関連の遺物が混在したと考えられる。


4-005出土遺物
1509
1510
1511
1512
1513
1514
1515
1516
1517
1518
1581
1582
1583
1584
1585
1586
1589
1590
0
1 : 3
10cm

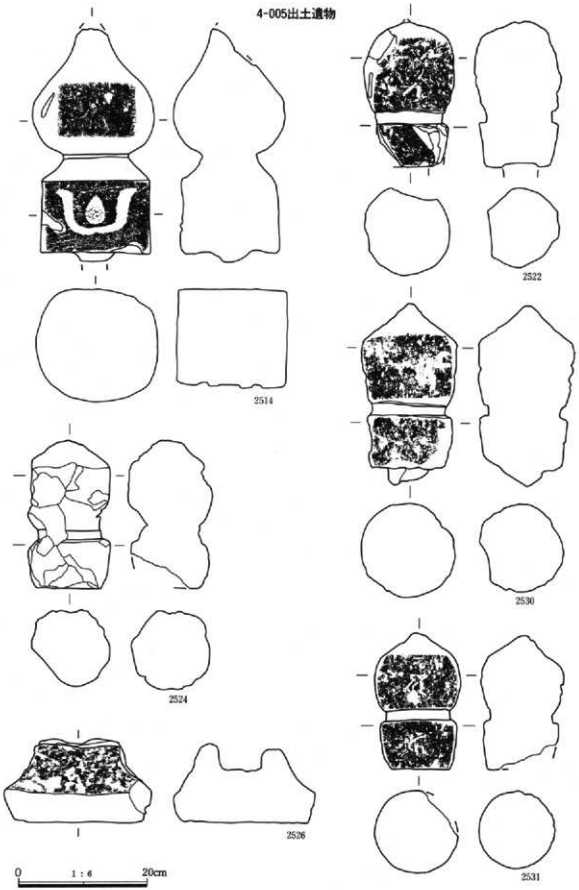
4-005出土遺物

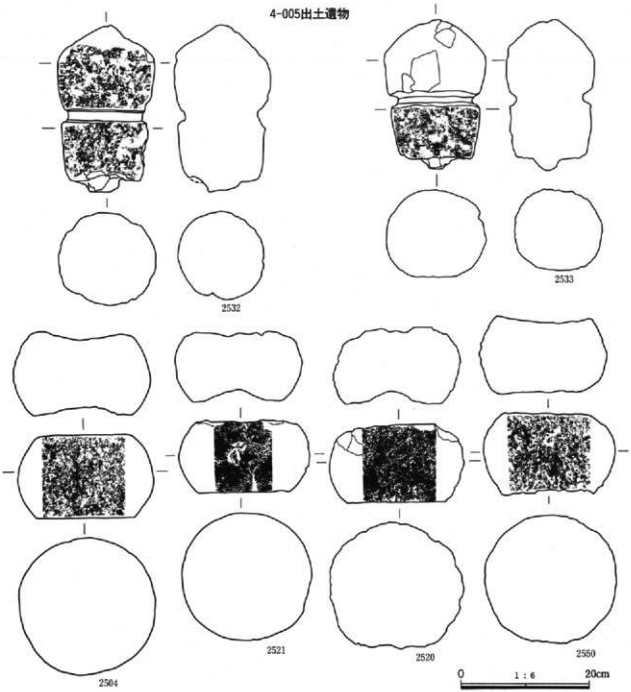


4~005出土遺物



4-005出土遺物

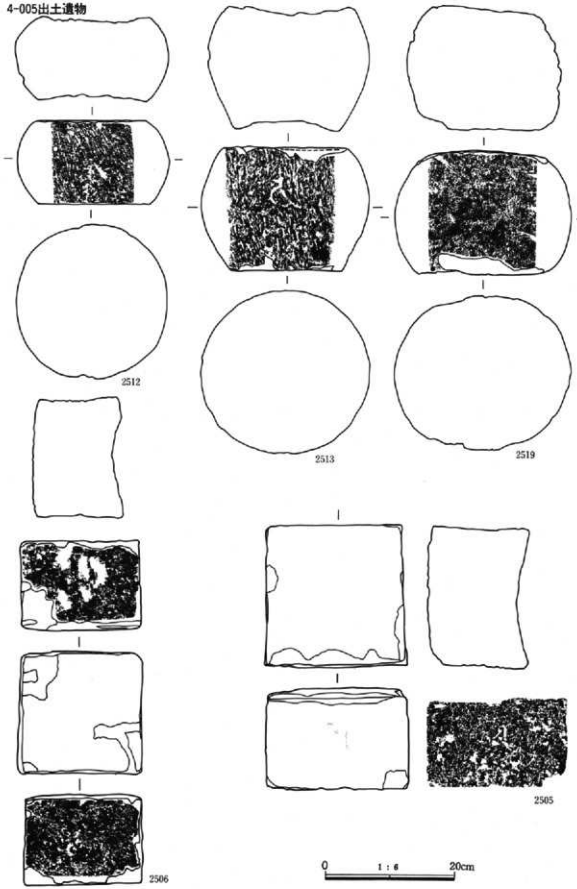




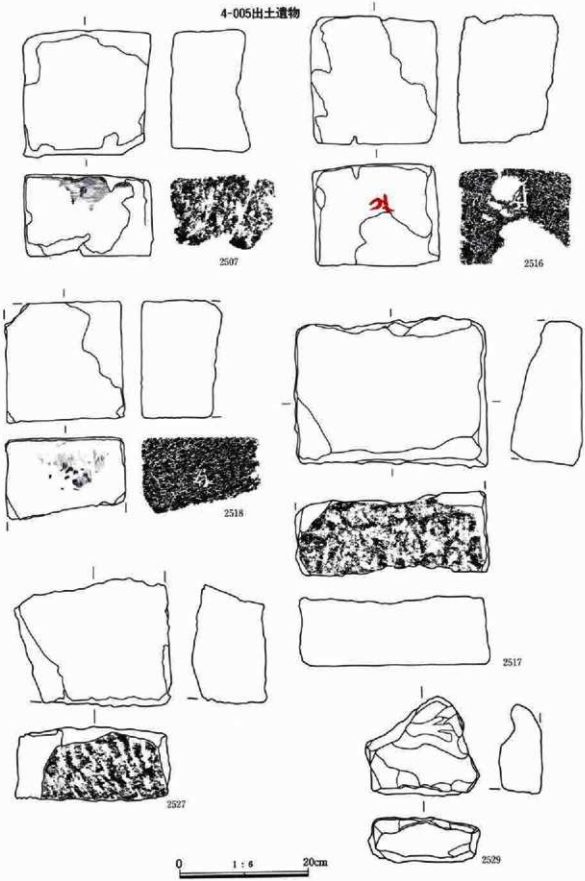
石塔類の大部分は、粗粒輝石安山岩もしくは二ツ岳軽石製である。特に五輪塔空風輪で後者の材質のものは、削痕が残り、種子が不明で、火輪との接合突起が曖昧なものが多いため、未成品と考えられる。

粗粒輝石安山岩製の輪基礎（2535）は、031号出土のもの（2600）とほとんど同型で、一対をなしていた可能性がある。仏頭（2624）と接合の可能性が高い現薬師堂安置の石仏体部裏には、享保年間の銘が刻まれてある。

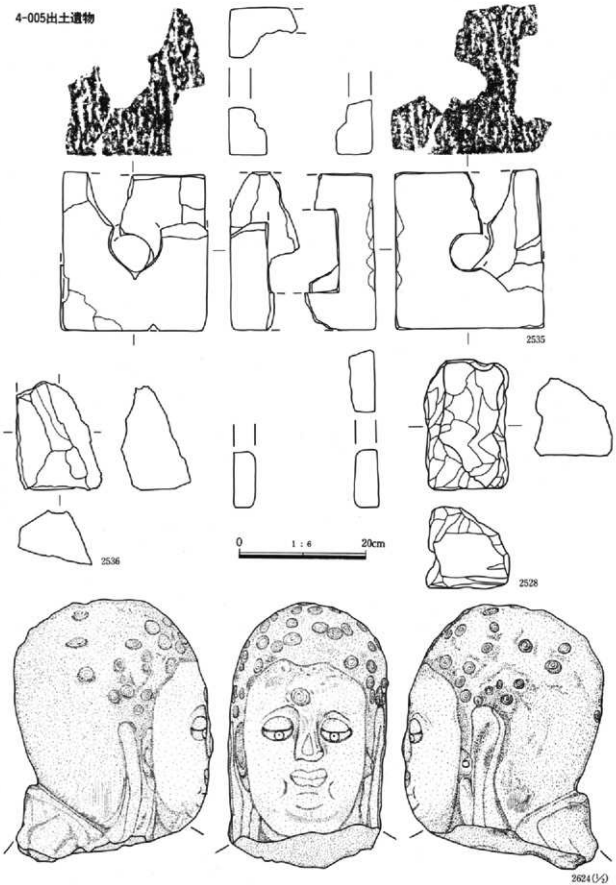
4-005出土遺物



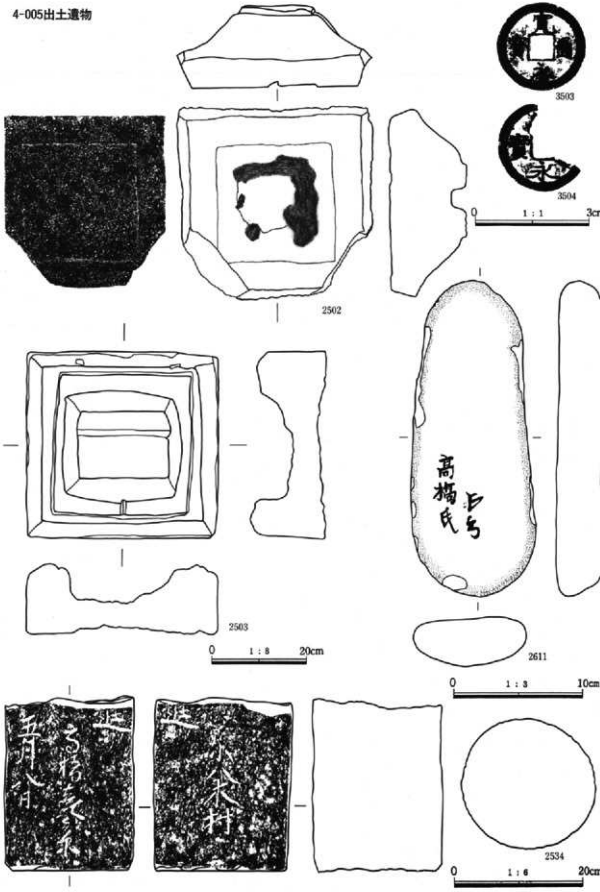
4-005出土遺物



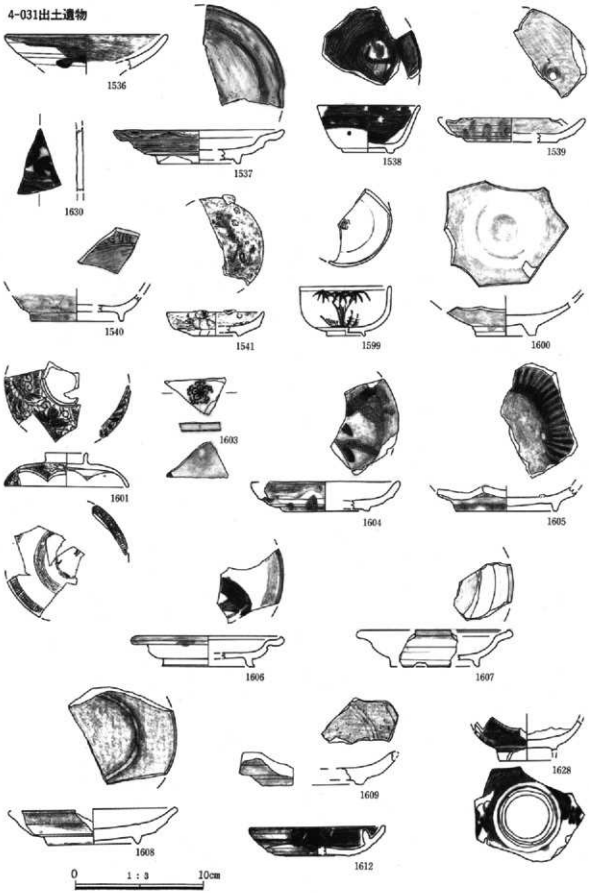
4-005出土遺物



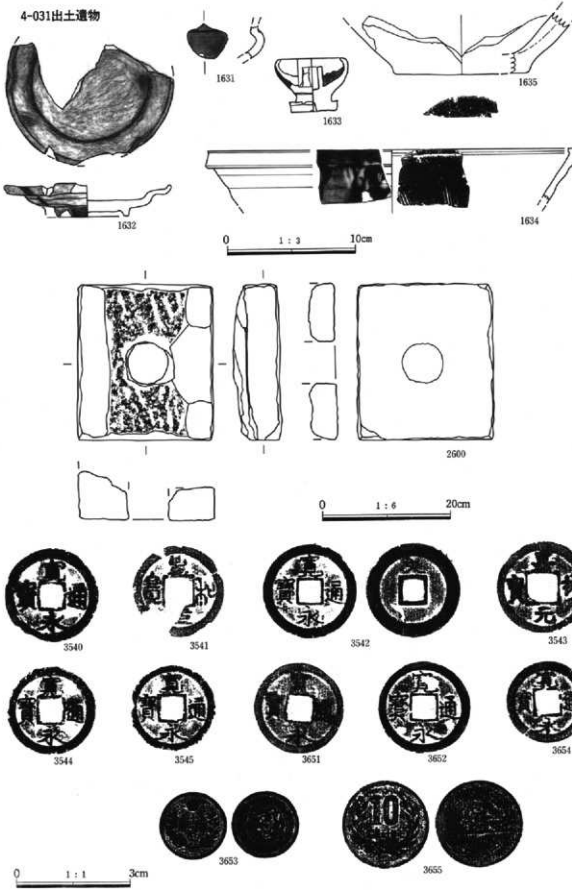
4-005出土遺物

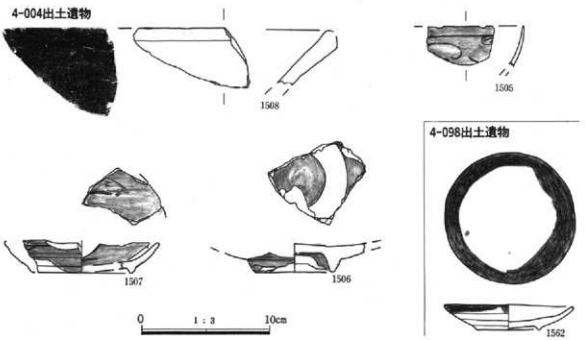

3503
3504
0 1：1 3cm
2502
高橋氏
2503
0 1：8 20cm
2611
0 1：3 10cm
2534
0 1：6 20cm

4-031出土遺物


1536
1537
1538
1539
1630
1540
1541
1599
1600
1601
1603
1604
1605
1606
1607
1608
1609
1612
1628
0
1：3
10cm

4-031出土遺物


1631
1632
1633
1634
1635
0 1：3 10cm
2600
0 1：6 20cm
3540
3541
3542
3543
3544
3545
3651
3652
3654
3653
3655
0 1：1 3cm



小八木志志貝戸4区070号遺構（遺構32,33頁・遺物33,34頁）

【位置】11Ⅰ19g　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（1.4×0.9×0.4m）　**【重複】**集石土坑004号より古く、削平跡031号より新しい。**【土層】**1暗褐色砂質土　2明黄褐色砂質土　黒褐色土塊含む　3黒褐色砂質土　黒褐色土塊含む　**【遺物】**埋土中より五輪塔空風輪（2565,67,2608）・火輪（2564,68）また砥石（2566）と瓦質土器コネ鉢（1546）が出土。**【備考】**五輪塔は明らかに複数あり、その廃棄坑と考えられる。

小八木志志貝戸4区071号遺構（遺構32,33頁・遺物34～36頁）

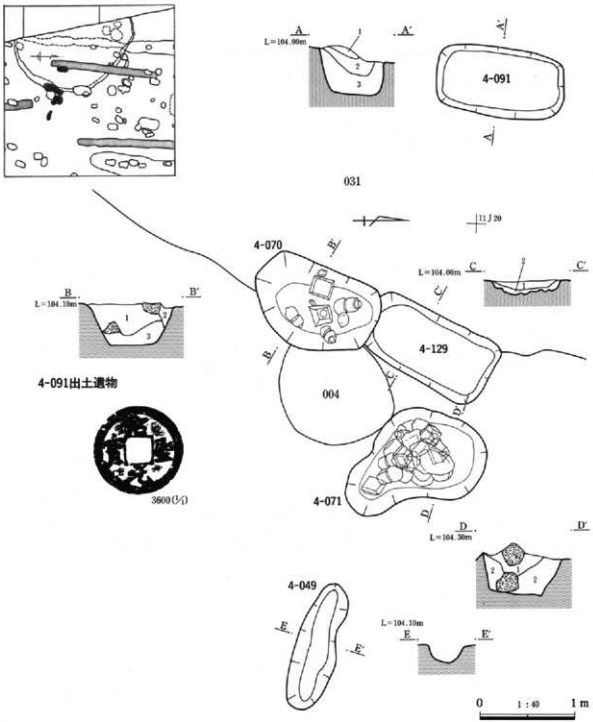
【位置】11Ⅰ19g　**【種類】**土坑　**【形状】**不定形（1.6×1.0×0.4m）　**【重複】**集石土坑004号と土坑129号に近接　**【土層】**1暗褐色砂質土　2黒褐色砂質土　黒褐色土塊含む　**【遺物】**五輪塔空風輪5・火輪5・水輪5個が乱雑に投棄された状態で出土。**【備考】**五輪塔各部位は数が揃うが、材質の割合は完全には一致しないため、6基以上のものを廃棄した土坑だろう。

小八木志志貝戸4区129号遺構（遺構32頁）

【位置】11Ⅰ19g　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（1.4×0.7×0.1m）　**【重複】**土坑070号、削平跡031号より古い。**【土層】**1暗褐色粘質土　2浅黄色粘質土　シルト塊含む　**【遺物】**なし　**【備考】**形状は中世土壙墓に似ているが不明。

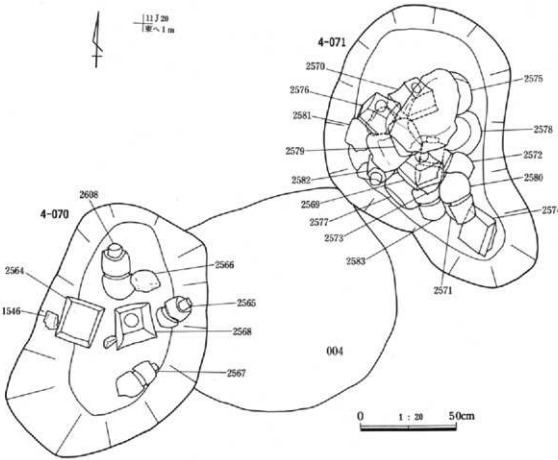
小八木志志貝戸4区049号遺構（遺構32頁）

【位置】11Ⅰ19g　**【種類】**土坑　**【形状】**小溝状（1.4×0.5×0.2m）　**【重複】**なし　**【土層】**不明　**【遺物】**なし　**【備考】**性格・時期不明

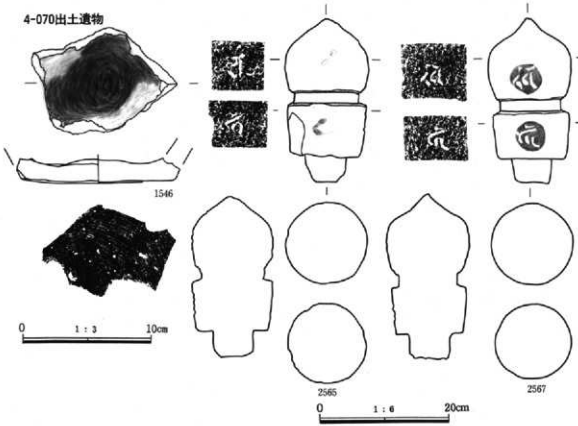


小八木志志貝戸４区091号遺構（遺構・遺物32頁）

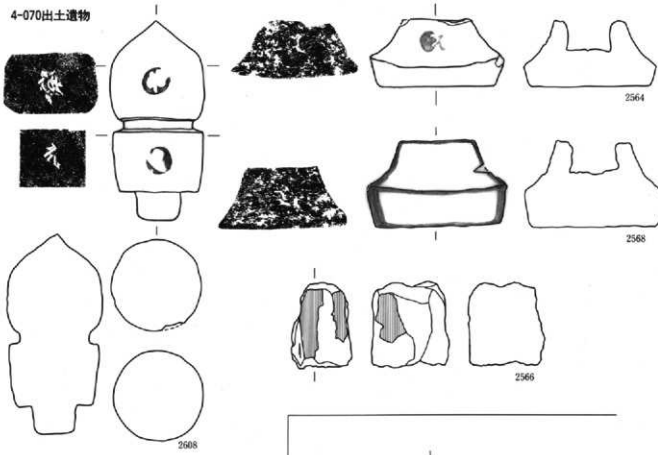
【位置】11Ｉ20ｇ　**【種類】**土葬墓？　**【形状】**小判形（1.4×0.8×0.5m）　**【重複】**削平跡031号より古い。**【土層】**１明黄褐色シルト質土　２黒褐色粘質土　黒褐色土塊含む　３同前　黒褐色土塊多　**【遺物】**埋土中より紹聖元宝（3600）出土　**【備考】**形状と遺物より中世土葬墓の可能性がある。


4-071
2570
2576
2581
2579
2582
2569
2577
2573
2583
2575
2578
2572
2580
2574
2571
4-070
2698
2564
1546
2566
2565
2568
2567
004
0
1：20
50cm

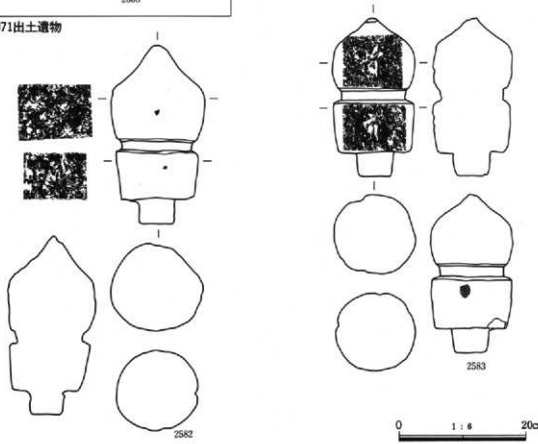
4-070出土遺物


1546
0
1：3
10cm
2565
2567
0
1：6
20cm

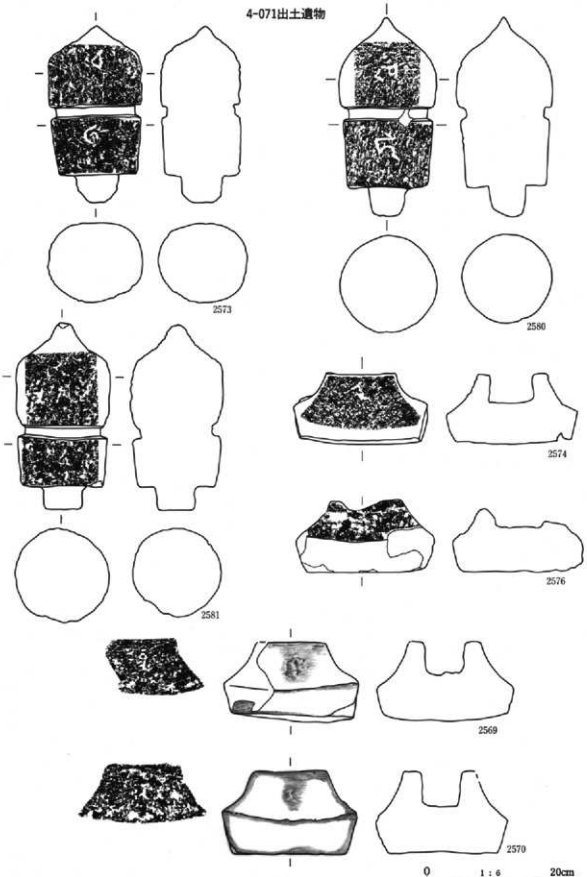
4-070出土遺物



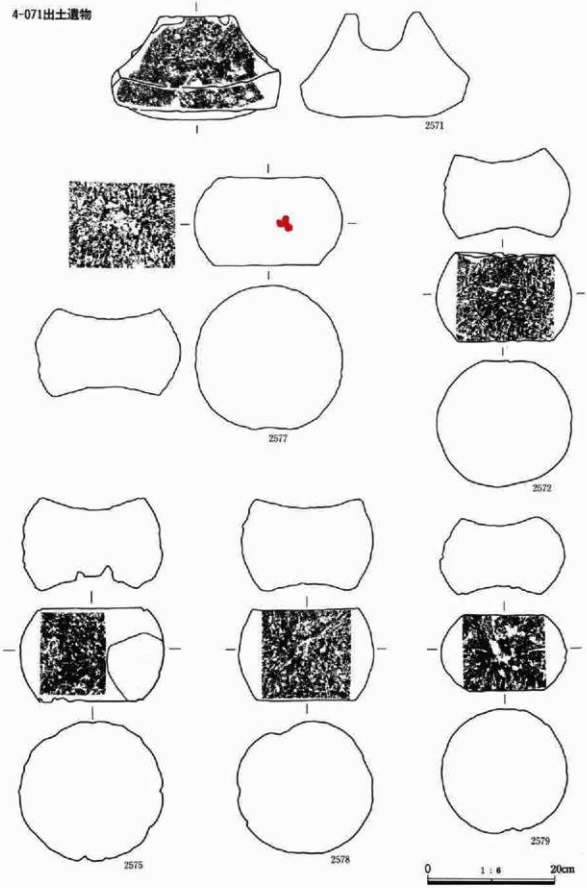
4-071出土遺物

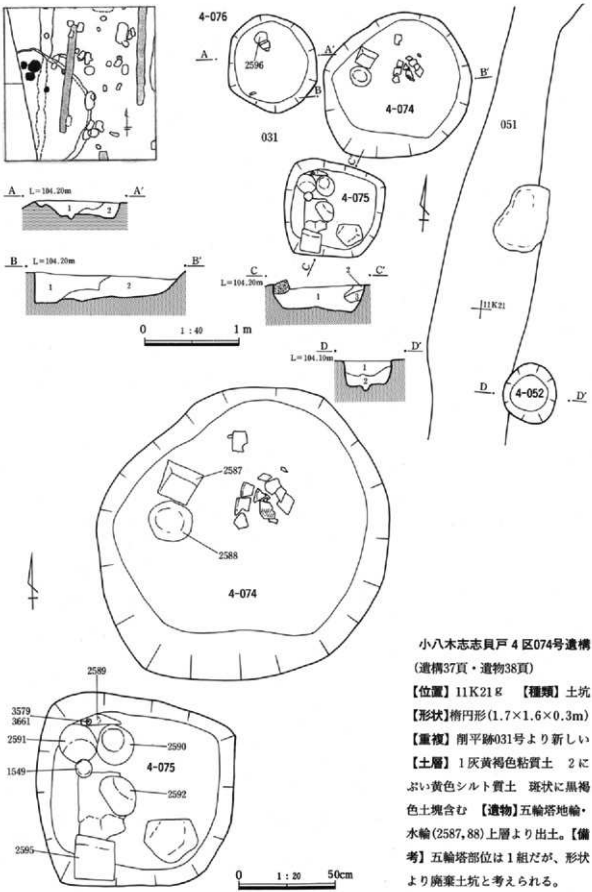


4-071出土遺物

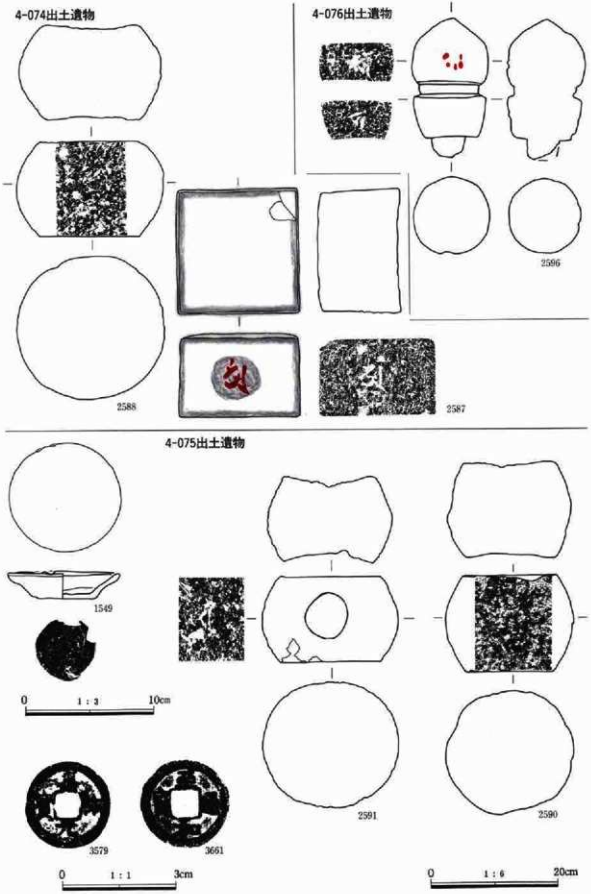


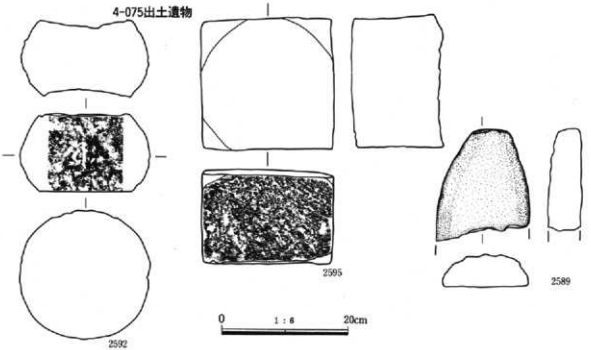
4-071出土遺物





小八木志志貝戸4区074号遺構
（遺構37頁・遺物38頁）
【位置】11K21g　**【種類】**土坑
【形状】楕円形(1.7×1.6×0.3m)
【重複】削平跡031号より新しい
【土層】1灰黄褐色粘質土　2にぶい黄色シルト質土　斑状に黒褐色土塊含む　**【遺物】**五輪塔地輪・水輪(2587,88)上層より出土。**【備考】**五輪塔部位は1組だが、形状より廃棄土坑と考えられる。


4-074出土遺物
4-076出土遺物
2588
2587
2596
4-075出土遺物
1549
0
1 : 3
10cm
3579
3661
0
1 : 1
3cm
2591
2590
0
1 : 6
20cm



小八木志志貝戸４区075号遺構（遺構37頁・遺物38,39頁）

【位置】11K21g　**【種類】**土坑　**【形状】**正方形（1.0×1.0×0.3m）　**【重複】**削平跡031号より新しい　**【土層】**１黒褐色粘質土　シルト塊含む　２黒褐色粘質土　暗褐色土塊含む　３明黄褐色シルト質土　**【遺物】**五輪塔水輪（2590～92）・地輪（2595）、舟形石製品（2589）、北宋銭（3579,3661）、かわらけ小皿（1549）出土　**【備考】**遺物の構成は土葬墓に似るが、五輪塔の数が複数で形状も特異なため廃棄土坑だろう。

小八木志志貝戸４区076号遺構（遺構37頁・遺物38頁）

【位置】11K21g　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（1.1×1.0×0.2m）　**【重複】**削平跡031号より新しい　**【土層】**１黒色粘質土　シルト塊多い　２明黄褐色シルト質土　**【遺物】**埋土中より五輪塔空風輪（2596）出土　**【備考】**形状より廃棄土坑と考えられる。

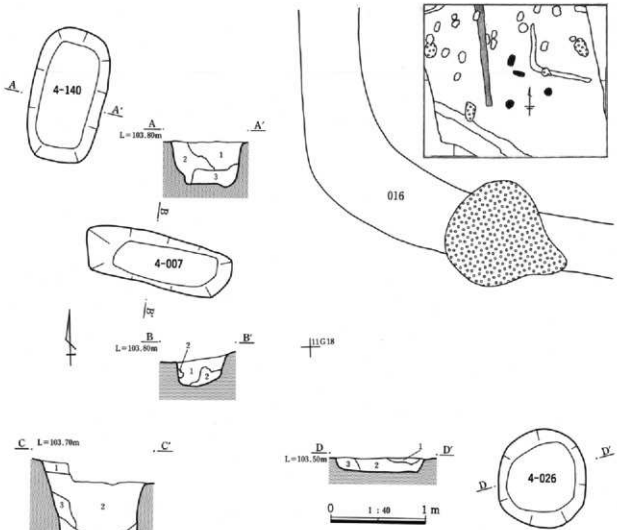
小八木志志貝戸４区052号遺構（遺構37頁）

【位置】11J20g　**【種類】**土坑　**【形状】**ピット状（0.6×0.5×0.3m）　**【重複】**溝051号より新しく削平跡031号とは不明　**【土層】**１暗褐色砂質土　シルト塊混じる　２黒褐色砂質土　シルト塊多　**【遺物】**なし　**【備考】**近世の可能性あるが性格不明。

2-1-2　中世墓地

小八木志志貝戸４区140号遺構（遺構40頁）

【位置】11G18g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.4×0.8×0.5m）　**【重複】**なし　**【土層】**１にぶい黄褐色砂質土　シルト塊含む　２黒褐色砂質土　シルト塊含む　３黒色砂質土　シルト粒混じる　**【遺物】**埋土中より壮年女性歯（4522）出土　**【備考】**中世の土葬墓。



小八木志志貝戸４区007号遺構（遺構40頁）

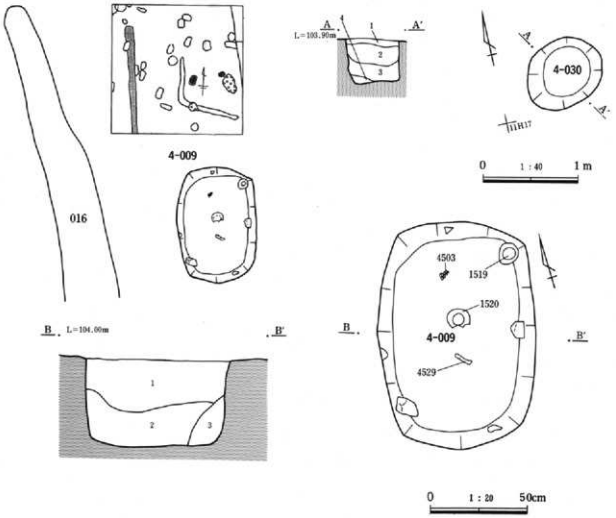
【位置】11Ｇ18ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**短冊形（1.6×0.6×0.4m）　**【重複】**なし　**【土層】**１暗褐色砂質土　シルト塊混じる　２同前　シルト塊多　**【遺物】**なし　**【備考】**近世の短冊形土坑。

小八木志志貝戸４区005号遺構（遺構40頁）

【位置】11Ｆ18ｇ　**【種類】**井戸　**【形状】**円形（1.2×1.1×1.0m）**【重複】**なし　**【土層】**１黒褐色砂質土　２同前　シルト塊多　３同前　シルト塊少　４同前　シルト塊やや多　**【遺物】**なし　**【備考】**短期間の使用、近世の可能性。

小八木志志貝戸４区026号遺構（遺構40頁）

【位置】11Ｆ17ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（1.1×1.0×0.2m）　**【重複】**なし　**【土層】**１暗褐色粘質土　シルト粒含む　２黒色粘質土　シルト粒含む　３明黄褐色シルト質土　**【遺物】**なし　**【備考】**近世の可能性あるが性格不明。

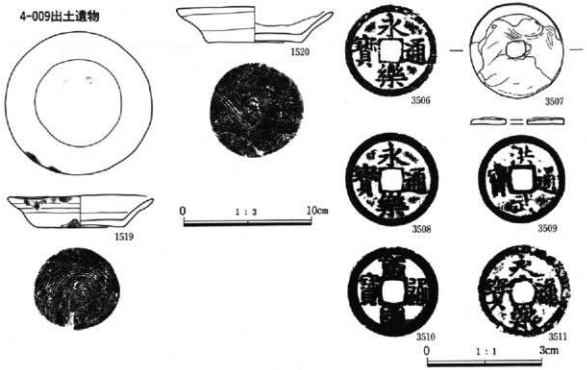


小八木志志貝戸4区009号遺構（遺構41頁・遺物42頁）

【位置】11G17g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.3×0.9×0.5m）　**【重複】**なし　**【土層】**1にぶい黒褐色砂質土　シルト塊混じる　2黒褐色粘質土　シルト塊混じる　3暗褐色粘質土　**【遺物】**かわらけ片口（1519,20）、明銭（3506,08,09,11）繊維付着北宋銭（3507）五代銭（3510）、壮年女性？歯骨（4503,29）出土　**【備考】**頭部北側、顔西向きで埋葬。

小八木志志貝戸4区030号遺構（遺構41頁）

【位置】11H16g　**【種類】**土坑　**【形状】**ピット状（0.9×0.7×0.5m）　**【重複】**なし　**【土層】**1明黄褐色砂質土　シルト・黒褐色土塊混在　2黒色粘質土　3黒色粘質土　4明黄褐色シルト質土　**【遺物】**なし　**【備考】**時期性格不明。



小八木志志貝戸４区018号遺構（遺構43頁）

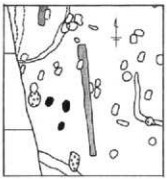
【位置】11G19g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.4×1.0×0.5m）　**【重複】**なし　**【土層】**１黒褐色砂質土　シルト塊含む　２同前　シルト粒混じる　３暗褐色砂質土　シルト粒含む　**【遺物】**壮年男性歯(4506)出土　**【備考】**頭部北側で埋葬。

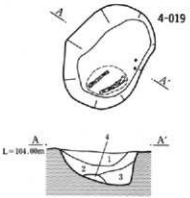
小八木志志貝戸４区019号遺構（遺構43頁・遺物43頁）

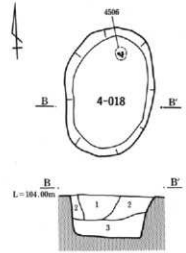
【位置】11G20g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.2×0.9×0.4m）　**【重複】**なし　**【土層】**１黒褐色砂質土　２暗褐色粘質土　シルト塊混じる　３同前　シルト粒少　４黒褐色粘質土　シルト塊混じる　**【遺物】**明銭（3524,25）北宋銭（3522,26）唐銭（3523）、成人骨（4532）出土　**【備考】**頭部北側で埋葬。

小八木志志貝戸４区025号遺構（遺構43頁・遺物43頁）

【位置】11G19g　**【種類】**火葬墓　**【形状】**長方形（1.1×0.7×0.6m）　**【重複】**なし　**【土層】**１オリーブ褐色砂質土　２同前　シルト塊多く含む　３黒褐色砂質土　黒褐色土塊含む　４暗灰黄色砂質土　**【遺物】**明銭（3534）北宋銭（3533,35）、壮年～熟年男性歯焼骨（4510,36,57）出土　**【備考】**頭部北側の埋葬痕が残っており、他の場所で半火葬した遺体を埋葬したと考えられる。







4-019出土遺物

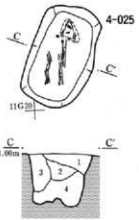
3522

3523

3524

3525

3526



4-025出土遺物

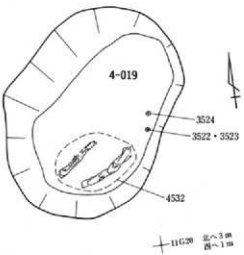
3533

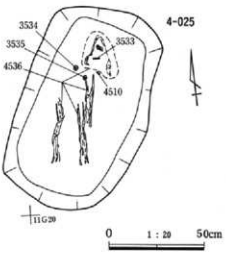
3534

3535

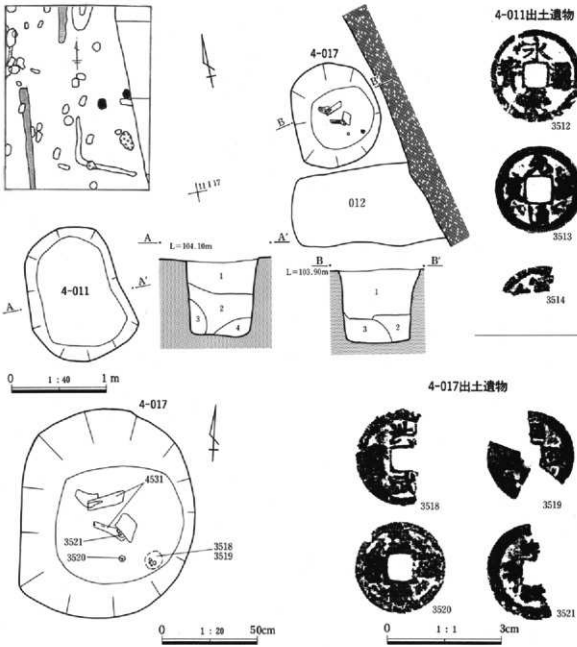
0　1：1　3cm

0　1：40　1 m





0　1：20　50cm

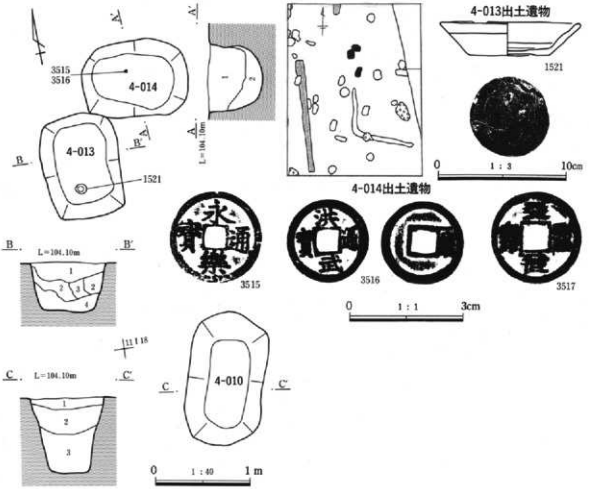


小八木志志貝戸4区011号遺構（遺構44頁・遺物44頁）

【位置】11H17g　【種類】土葬墓　【形状】小判形（1.4×1.1×0.7m）　【重複】なし　【土層】1暗灰褐色砂質土　2黒褐色砂質土　シルト塊多く含む　3オリーブ褐色砂質土　シルト塊混在　4同前　シルト塊少ない　【遺物】明銭（3512）北宋銭（3513）不明銭（3514）出土　【備考】中層よりかわらけ皿も出土（紛失）しており土葬墓である。

小八木志志貝戸4区017号遺構（遺構44頁・遺物44頁）

【位置】11I16g　【種類】土葬墓　【形状】円形（1.1×0.9×0.7m）　【重複】なし　【土層】1暗褐色砂質土　シルト粒混じる　2同前　シルト塊含む　3黒褐色砂質土　シルト塊混じる　【遺物】明銭（3518）不明銭（3519,20,21）、壮年期前半女性？歯骨（4505,31）出土　【備考】大きさから横臥位の埋葬は難しく、坐位と思われる。



小八木志志貝戸4区014号遺構（遺構・遺物45頁）

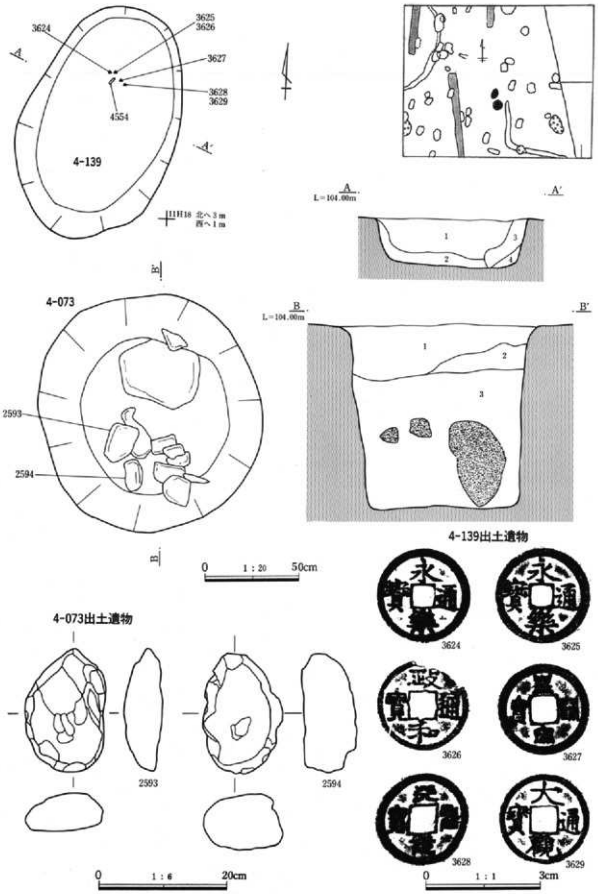
【位置】11Ⅰ17g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.1×0.8×0.6m）　**【重複】**013号と近接　**【土層】**1明黄褐色砂質土　シルト粒混じる　2灰黄褐色砂質土　やや粘質　**【遺物】**明銭(3515,16) 北宋銭(3517) 出土　**【備考】**埋土中でベンガラ検出。銅銭のみだが、形態より土葬墓と考えられる。長軸が東西になっている。

小八木志志貝戸4区013号遺構（遺構・遺物45頁）

【位置】11Ⅰ17g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**長方形（1.1×0.8×0.5m）　**【重複】**014号と近接　**【土層】**1灰黄褐色砂質土　2黒褐色砂質土　3黒褐色粘質土　4浅黄橙色シルト質土　2層混在　**【遺物】**かわらけ皿（1521）、壮年期歯（4504）出土　**【備考】**典型的な形態。

小八木志志貝戸4区010号遺構（遺構45頁）

【位置】11H17g　**【種類】**土葬墓？　**【形状】**小判形（1.4×0.8×0.8m）　**【重複】**なし　**【土層】**1明黄褐色砂質土　シルト粒混じる　2黄褐色砂質土　シルト塊混在　3黒褐色砂質土　シルト塊含む　**【遺物】**なし　**【備考】**形態より土葬墓の可能性がある。


3624
3625
3626
3627
3628
3629
4554
4-139
A
A'
H18 北へ３m
西へ１m
B
B'
L=104.00m
1
2
3
4-073
2593
2594
0 1:20 50cm
4-139出土遺物
3624
3625
3626
3627
3628
3629
4-073出土遺物
2593
2594
0 1:6 20cm
0 1:1 3cm

小八木志志貝戸4区139号遺構（遺構46頁・遺物46頁）

【位置】11H18g **【種類】**土葬墓 **【形状】**楕円形（1.3×0.8×0.2m） **【重複】**なし **【土層】**1暗褐色粘質土 2黒褐色粘質土 暗褐色土混じる 3同前 灰褐色粘質土混じる 4黄褐色粘質土 黒褐色粘質土混じる **【遺物】**明銭（3624,25）不明銭（3626～29）、年齢性別不明人骨（4554）出土 **【備考】**浅いが、上面が削平されたと考えられる。

小八木志志貝戸4区073号遺構（遺構46頁・遺物46頁）

【位置】11H18g **【種類】**井戸 **【形状】**略円形（1.3×1.2×1.0m） **【重複】**なし **【土層】**1灰黄褐色砂質土 2黒褐色砂質土 3同前 シルト粒混じる **【遺物】**二ツ岳軽石石塔剝片（2593,94）出土 **【備考】**石塔剝片出土より近世に下る可能性がある。

小八木志志貝戸4区023号遺構（遺構48頁・遺物49頁）

【位置】11H19g **【種類】**土葬墓 **【形状】**小判形（1.3×0.8×0.5m） **【重複】**なし **【土層】**1暗褐色砂質土 2同前 シルト粒少し混じる 3明褐色粘質土 シルト塊混在 **【遺物】**かわらけ片口（1525）皿（1526,27）、明銭(3528,30,31) 北宋銭(3529)、壮年期男性歯骨（4509,34）出土 **【備考】**頭部北側で埋葬。

小八木志志貝戸4区021号遺構（遺構48頁・遺物49頁）

【位置】11H19g **【種類】**集石墓 **【形状】**楕円形（1.1×0.8×0.4m） **【重複】**なし **【土層】**1暗褐色砂質土 シルト粒少し混じる **【遺物】**かわらけ片口（1522,23）、北宋銭（3527）、少年期男性歯（4507）出土 **【備考】**上層の自然礫は、石塔の地業かもしれない。

小八木志志貝戸4区214号遺構（遺構48頁・遺物49頁）

【位置】11H19g **【種類】**土葬墓 **【形状】**円形？（0.9×0.8×0.2m） **【重複】**なし **【土層】**1黒褐色粘質土 As-C少し混じる **【遺物】**北宋銭（3646,47）、壮年期？歯（4527）出土 **【備考】**上面が削平されている。

小八木志志貝戸4区041号遺構（遺構48頁）

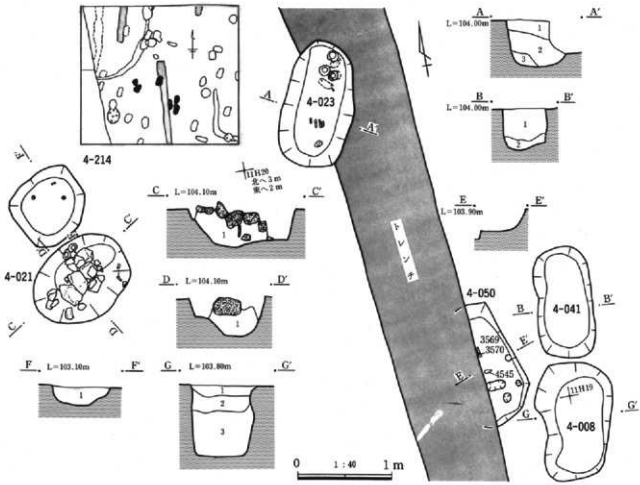
【位置】11H18g **【種類】**土葬墓？ **【形状】**小判形（1.2×0.6×0.5m） **【重複】**なし **【土層】**1灰黄褐色砂質土 2黒褐色粘質土 シルト粒含む **【遺物】**なし **【備考】**形態より土葬墓の可能性が考えられる。

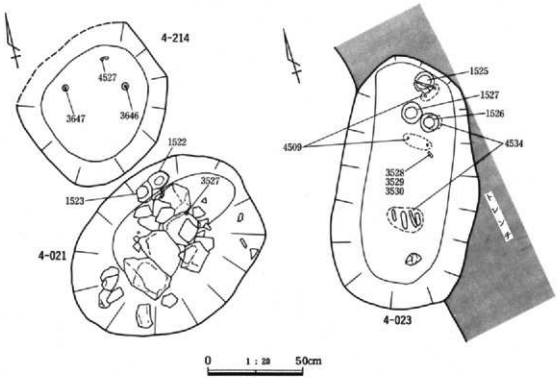
小八木志志貝戸4区050号遺構（遺構48頁・遺物49頁）

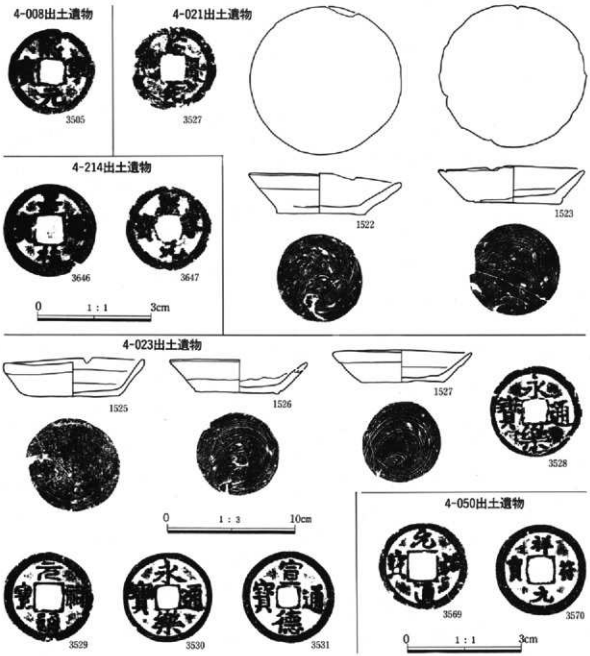
【位置】11H19g **【種類】**土葬墓 **【形状】**小判形？（1.3×？×0.3m） **【重複】**なし **【土層】**不明 **【遺物】**北宋銭（3569,70）、成人？人骨（4545）出土 **【備考】**西側試掘で破壊。

小八木志志貝戸4区008号遺構（遺構48頁・遺物49頁）

【位置】11G18g **【種類】**土葬墓 **【形状】**小判形（1.3×0.8×0.8m） **【重複】**なし **【土層】**1黄褐色粘質土 シルト粒混じる 2同前 シルト粒混在 3黒褐色砂質土 シルト粒含む **【遺物】**北宋銭（3505）、熟年期女性歯（4502）出土 **【備考】**西側の050号に比べ掘り込みが深い。

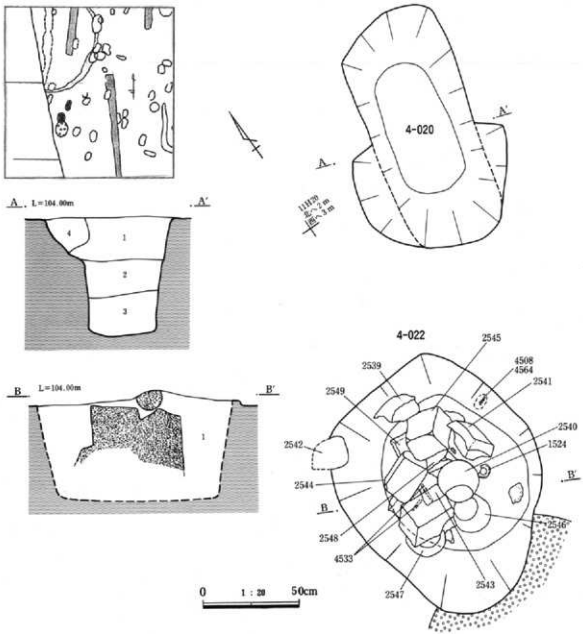

4-214
4-023
4-021
4-050
4-041
4-008
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
L=104.00m
L=104.10m
L=103.90m
L=103.10m
L=103.80m
北へ3m
東へ2m
ムンノキ
3569
3570
4545
0
1:40
1m


4-214
4527
3647
3646
1522
1523
3527
4-021
1525
1527
1526
4509
4534
3528
3529
3530
ムンノキ
4-023
0
1:20
50cm



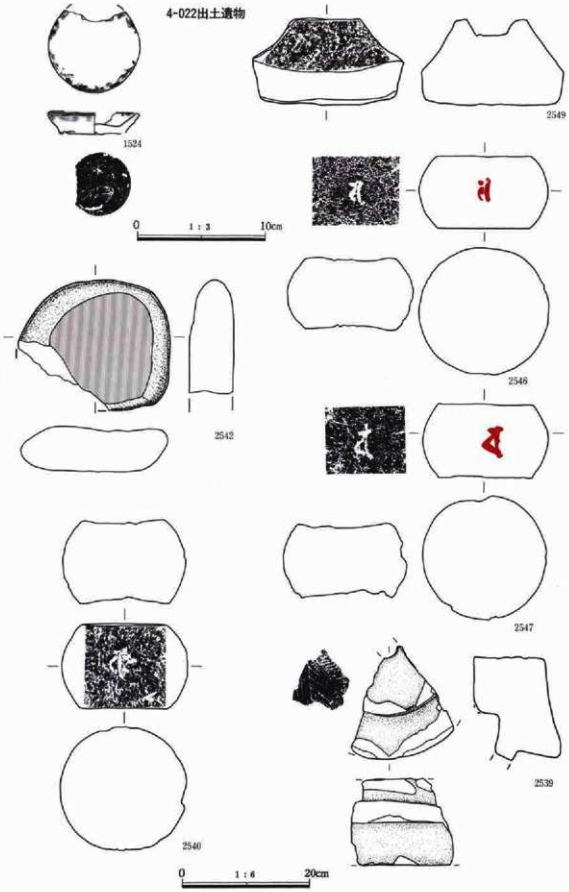
小八木志志貝戸4区020号遺構（遺構50頁）

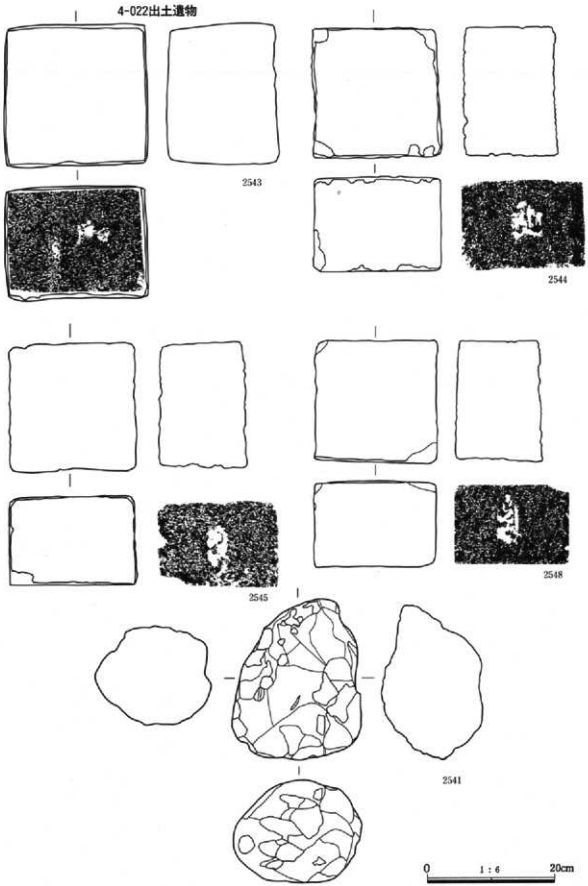
【位置】11H20g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.3×0.6×0.6m）　**【重複】**なし　**【土層】**1灰黄褐色砂質土　2褐色砂質土　シルト粒混じる　3にぶい褐色砂質土　シルト粒含む　4黒褐色砂質土　**【遺物】**銅銭1枚と人歯が出土したが、水没により紛失　**【備考】**幅が狭いため、成人男性の土葬は難しい。

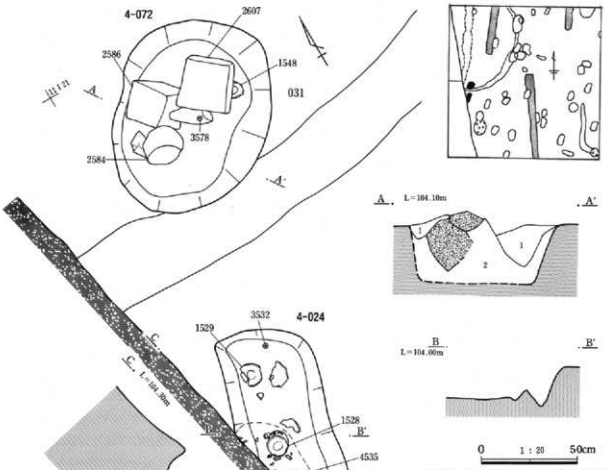


小八木志志貝戸４区022号遺構（遺構50頁・遺物51,52頁）

【位置】11H20ヌ　**【種類】**土葬墓　**【形状】**楕円形（1.4×1.1×0.5m）　**【重複】**南端を攪乱に壊される　**【土層】**１暗褐色粘質土　**【遺物】**かわらけ小皿（1524）、茶臼（2539）、五輪塔火輪（2549）水輪（2540,46,47）地輪（2543～45,48）、石塔未成品（2541）、台石（2542）、青年期後半男性歯骨（4508,33）、木片（4564）出土　**【備考】**五輪塔は４組分の一部であり、茶臼なども含めて明らかに他から廃棄されたものである。しかし骨歯及びかわらけの存在より、もともと土葬墓であったことは間違いない。


4-022出土遺物
1524
2549
0
1：3
10cm
2546
2542
2547
2539
2540
0
1：6
20cm


4-022出土遺物
2543
2544
2545
2548
2541
0
1：6
20cm

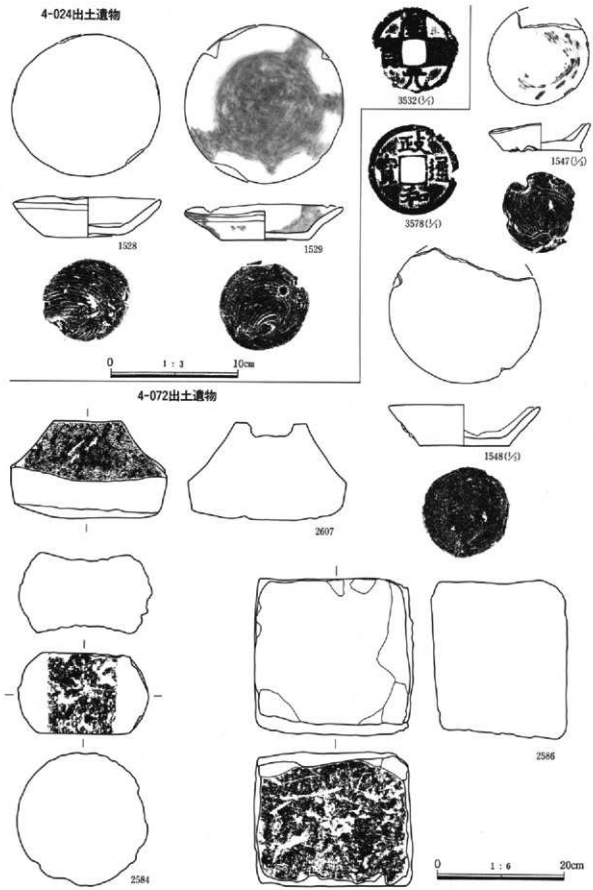


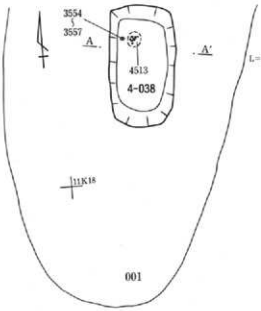
小八木志志貝戸4区072号遺構（遺構53頁・遺物54頁）

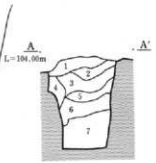
【位置】11H20ｇ　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.0×0.8×0.3m）　**【重複】**削平跡031号に上面壊される　**【土層】**1暗褐色砂質土　2同前　シルト粒混じる　**【遺物】**北宋銭（3578）、かわらけ片口（1547）皿（1548）、五輪塔火輪未成品？（2607）水輪（2584）地輪(2586)出土　**【備考】**五輪塔は同じ二ツ岳軽石製だが大きさが揃わず投棄されたものだろう。銅銭とかわらけの出土と形状より土葬墓と考えられる。

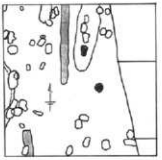
小八木志志貝戸4区024号遺構（遺構53頁・遺物54頁）

【位置】11H20ｇ　**【種類】**火葬墓　**【形状】**長方形（1.4×0.5×0.5m）残存は下位0.2mのみ　**【重複】**西側で古代遺構壊す　**【土層】**不明　**【遺物】**唐銭（3532）、かわらけ片口（1528,29）、成人性別不明焼骨（4535）、炭片（4565）出土　**【備考】**火葬骨が出土しているが一般土葬墓に似た規模である。炭片があったためここで火葬してそのまま葬ったものである。しかし壁が焼土化するほどにはなっていない。


4-024出土遺物
3532(1/2)
1547(1/2)
1528
1529
3578(1/1)
0
1 : 3
10cm
4-072出土遺物
1548(1/2)
2607
2586
2584
0
1 : 6
20cm





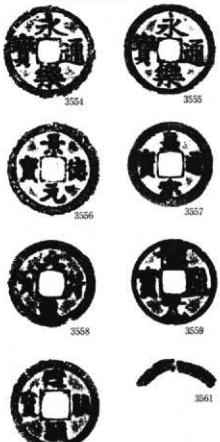


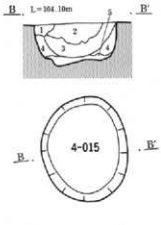
小八木志志貝戸4区038号遺構

（遺構55頁・遺物55頁）

【位置】11K17g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.3×0.7×1.0m）　**【重複】**溝001号と重複　**【土層】**1褐色砂質土　2明黄褐色砂質土　3明褐色砂質土　シルト粒混じる　4灰褐色土塊　5明黄褐色シルト質土　砂質土塊混在　6黒褐色粘質土　シルト粒混じる　7明黄褐色シルト質土　砂質土混在　**【遺物】**唐銭（3559）北宋銭（3556,57,58,60）明銭（3554,55）不明銭（3561）、青年期性別不明歯（4513）出土　**【備考】**頭部北側で埋葬。

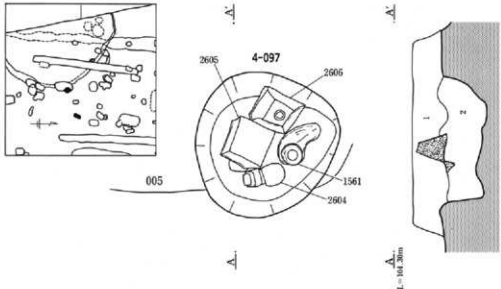
4-038出土遺物





小八木志志貝戸4区015号遺構（遺構55頁）

【位置】11J17g　**【種類】**火葬墓　**【形状】**楕円形（1.1×0.9×0.4m）　**【重複】**なし　**【土層】**1灰黄褐色砂質土　炭化粒混じる　2灰黄褐色砂質土　3黒褐色シルト質土　炭化粒主体　4灰黄褐色粘質土　5にぶい黄褐色シルト質土　**【遺物】**成人性別不明焼骨（4530）出土　**【備考】**火葬骨が出土しているが一般土葬墓にやや似た規模である。厚い炭化層があり、ここで火葬してそのまま葬ったものである。しかし壁が焼土化するほどにはなっていない。

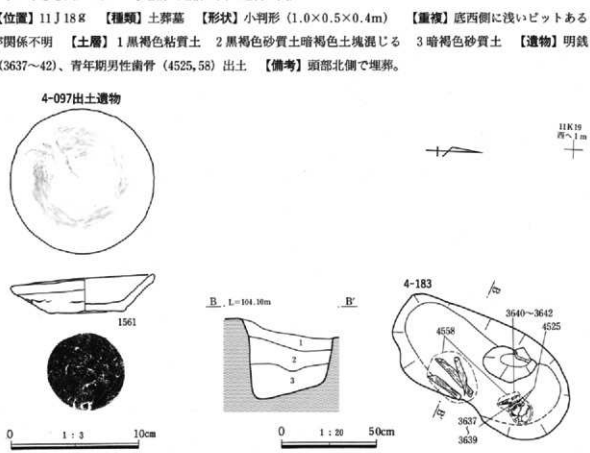


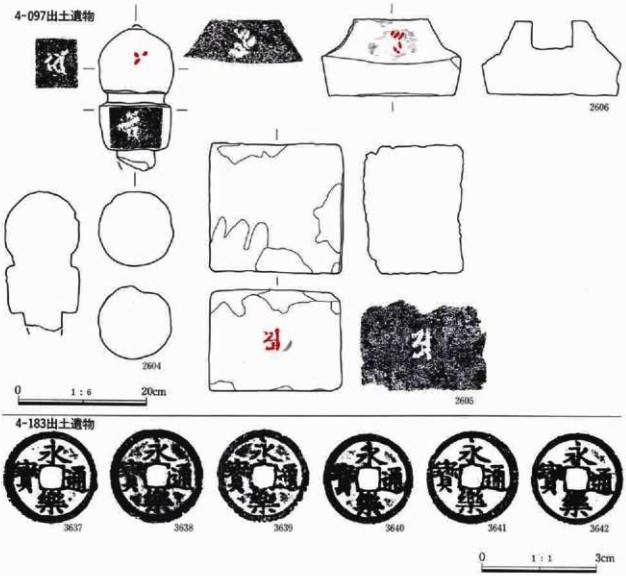
小八木志志貝戸４区097号遺構（遺構56頁・遺物56,57頁）

【位置】11Ｊ19ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**円形（0.8×0.8×0.2m）　**【重複】**集石005号より旧　**【土層】**１暗黄褐色砂質土（005号下位層）　２黒褐色砂質土　**【遺物】**かわらけ片口（1561）、五輪塔空風輪（2604）火輪（2606）地輪（2605）出土**【備考】**五輪塔部位は材質が揃い、かわらけも出土しているが、005号の直下であり骨歯もないことから、廃棄坑と考えられる。

小八木志志貝戸４区183号遺構（遺構56頁・遺物57頁）

【位置】11Ｊ18ｇ　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.0×0.5×0.4m）　**【重複】**底西側に浅いピットあるが関係不明　**【土層】**１黒褐色粘質土　２黒褐色砂質土暗褐色土塊混じる　３暗褐色砂質土　**【遺物】**明銭（3637～42）、青年期男性歯骨（4525,58）出土　**【備考】**頭部北側で埋葬。



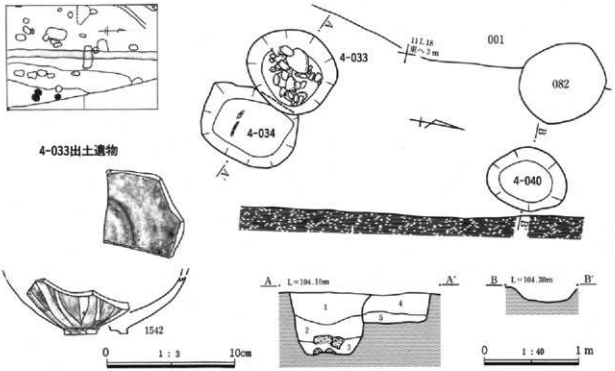


小八木志志貝戸4区033号遺構（遺構58頁・遺物58頁）

【位置】11K17g　【種類】井戸　【形状】隅丸方形（1.0×0.9×0.6m）　【重複】土葬墓034号と重複　【土層】1灰黄褐色砂質土　シルト粒混じる　2黒褐色粘質土　砂質土混在　3黒褐色粘質土　シルト塊含む　【遺物】青磁碗（1542）、青年期後半～壮年期前半性別不明歯（4511）出土　最下層の自然礫多い　【備考】歯は重複する034号のものだろう。034号との新旧は土層断面ほど明確ではない。

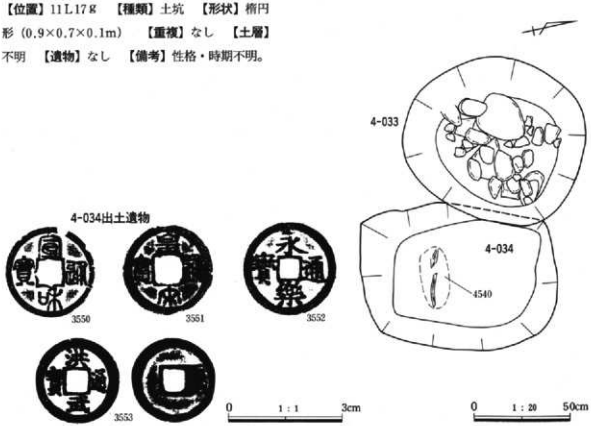
小八木志志貝戸4区034号遺構（遺構58頁・遺物58頁）

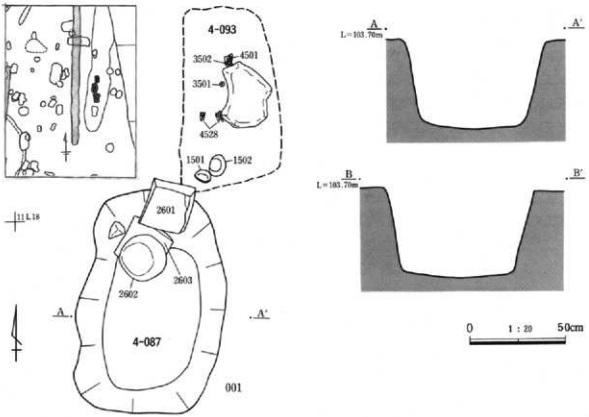
【位置】11K17g　【種類】土葬墓　【形状】小判形（1.0×0.8×0.3m）　【重複】井戸033号と重複　【土層】4暗褐色砂質土　5暗灰色粘質土　シルト塊混在　【遺物】北宋銭（3550,51）明銭（3552,53）、成人？骨（4540）出土　【備考】033号中の歯は、本遺構のものだろう。頭部北側で埋葬か。033号との関係不明。

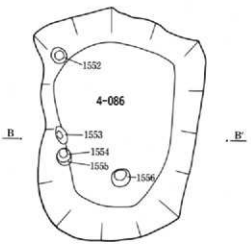


小八木志志貝戸４区040号遺構（遺構58頁）

【位置】11L17g　【種類】土坑　【形状】楕円形（0.9×0.7×0.1m）　【重複】なし　【土層】不明　【遺物】なし　【備考】性格・時期不明。







小八木志志貝戸4区093号遺構（遺構59頁・遺物61頁）

【位置】11L17g　**【種類】**火葬墓　**【形状】**長方形（1.0×0.5×？m）　**【重複】**溝001号より新　**【土層】**不明　**【遺物】**かわらけ片口（1501,02）、北宋銭（3502）南宋銭（3501）、壮年期前半女性歯（4501,17）焼骨（4528）出土　**【備考】**001号を調査中に本遺構の底のみを検出。北側で確認した自然石と本遺構の関係は不明。南側で087号が近接するが、0.5mほど浅い掘り込みになる。

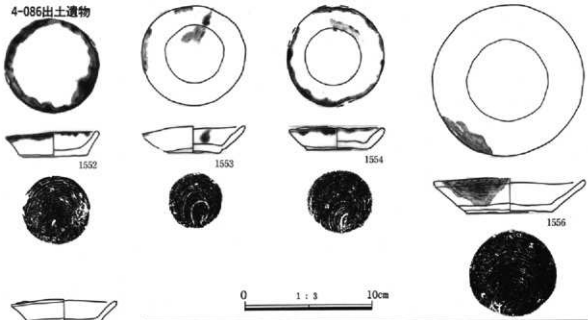
小八木志志貝戸4区087号遺構（遺構59頁・遺物60頁）

【位置】11K17g　**【種類】**土葬墓？　**【形状】**小判形（1.2×0.8×0.5m）　**【重複】**溝001号より新　**【土層】**不明　**【遺物】**五輪塔水輪（2602）地輪（2601,03）出土　**【備考】**五輪塔は2組で廃棄されたものだが、形状より土葬墓の可能性が高い。

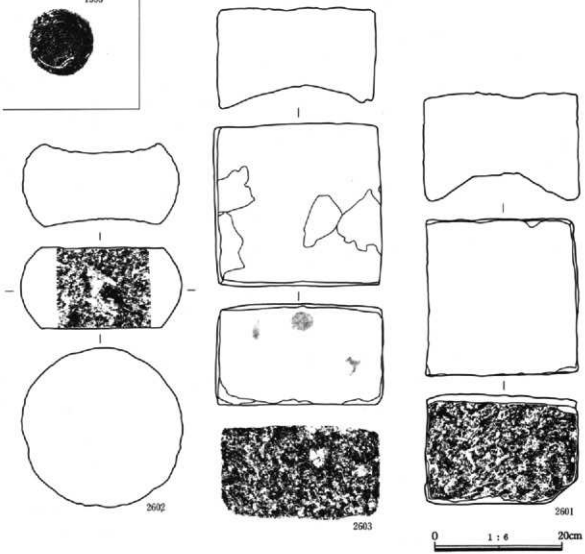
小八木志志貝戸4区086号遺構（遺構59頁・遺物60頁）

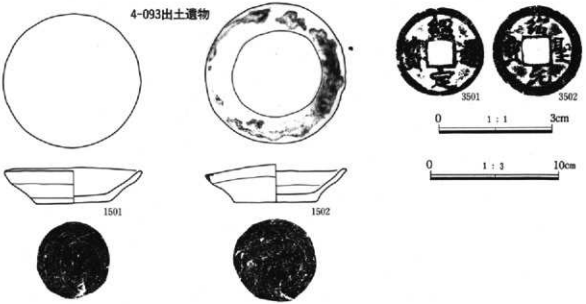
【位置】11K17g　**【種類】**土葬墓？　**【形状】**小判形（1.2×0.9×0.5m）　**【重複】**溝001号より新　**【土層】**不明　**【遺物】**かわらけ片口（1553,55,56）小皿（1552,54）出土　**【備考】**かわらけのみの出土だが、形状より土葬墓の可能性が考えられる。

4-086出土遺物



4-087出土遺物





小八木志志貝戸４区037号遺構（遺構62頁）

【位置】11K19g　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（0.8×0.7×0.3m）　**【重複】**なし　**【土層】**１褐灰色砂質土　２灰黄褐色砂質土　３黒褐色粘質土　４黒褐色粘質土　**【遺物】**なし　**【備考】**土葬墓にも似るが、性格不明。

小八木志志貝戸４区053，054号遺構（遺構62頁・遺物62頁）

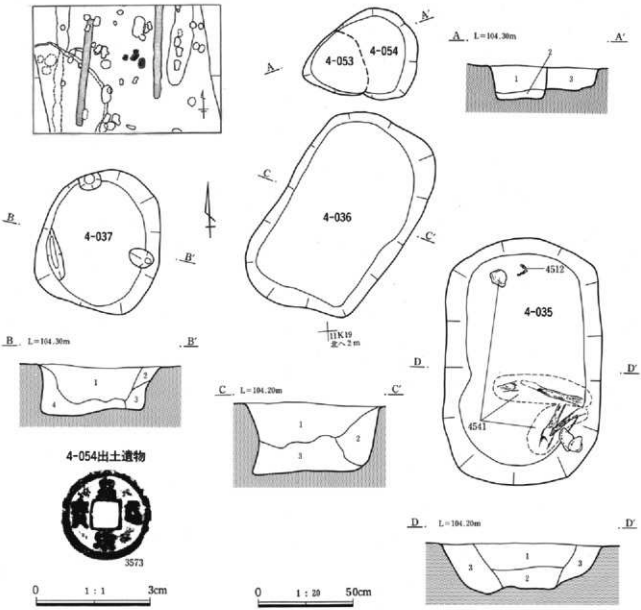
【位置】11K18g　**【種類】**ピット　**【形状】**２基重複　053号（径0.3×0.3m）054号（径0.5×0.5m）　**【重複】**053号が新しい　**【土層】**１暗褐色砂質土　２黒褐色粘質土　シルト粒混じる　３黒褐色粘質土　**【遺物】**054号上層より北宋銭（3573）出土　**【備考】**銅銭は南側の036号のものの流入かもしれない。性格不明。

小八木志志貝戸４区036号遺構（遺構62頁）

【位置】11K18g　**【種類】**土葬墓？　**【形状】**小判形（1.2×0.7×0.4m）　**【重複】**なし　**【土層】**１褐灰色砂質土　２黒褐色砂質土　粘質土塊混在　３同前　粘質土塊少ない　**【遺物】**なし　**【備考】**遺物はないが、形状及び上記054号の銅銭より土葬墓の可能性がある。

小八木志志貝戸４区035号遺構（遺構62頁）

【位置】11K18g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.3×0.8×0.3m）　**【重複】**１褐灰色砂質土　２黒褐色粘質土　３褐灰色砂質土　**【土層】**不明　**【遺物】**壮年期？性別不明歯骨（4512，41）出土　**【備考】**頭部北側で埋葬。

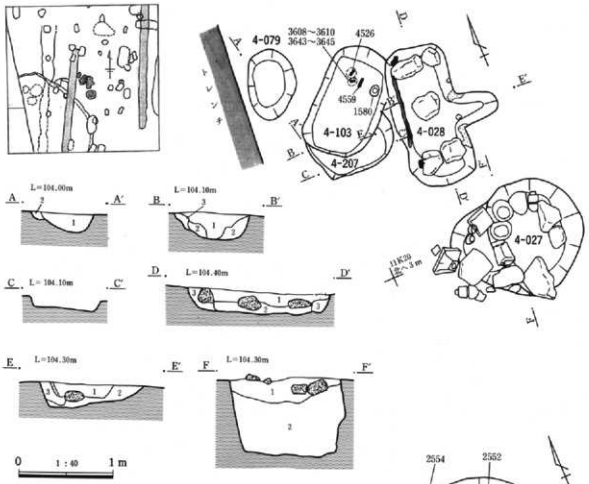


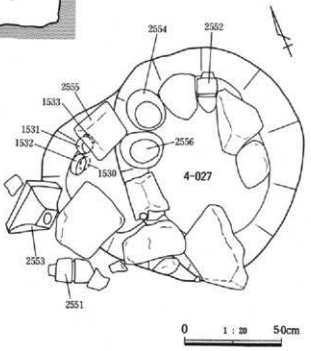
小八木志志貝戸４区079号遺構（遺構63頁）

【位置】11K20ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（0.8×0.5×0.2m）　**【重複】**　なし　**【土層】**１暗褐色砂質土　２同前　より暗色　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。

小八木志志貝戸４区103号遺構（遺構63頁・遺物65頁）

【位置】11K19ｇ　**【種類】**火葬墓　**【形状】**長方形（1.2×0.7×0.3m）　**【重複】**207号より新　028号と重複　弥生土器棺180号を壊す　**【土層】**１黒褐色砂質土　シルト粒混じる　２同前　シルト粒多く含む　３明黄褐色シルト質土　**【遺物】**かわらけ片口（1580）、北宋銭（3609, 44）南宋銭（3608）明銭（3610）不明銭（3643, 45）、壮年期男性歯焼骨（4526, 4559）出土　**【備考】**焼成痕は顕著でないが028号とは異なる焼骨（4559）があり火葬墓と考えられる。埋土上位に弥生土器棺の破片が含まれる。

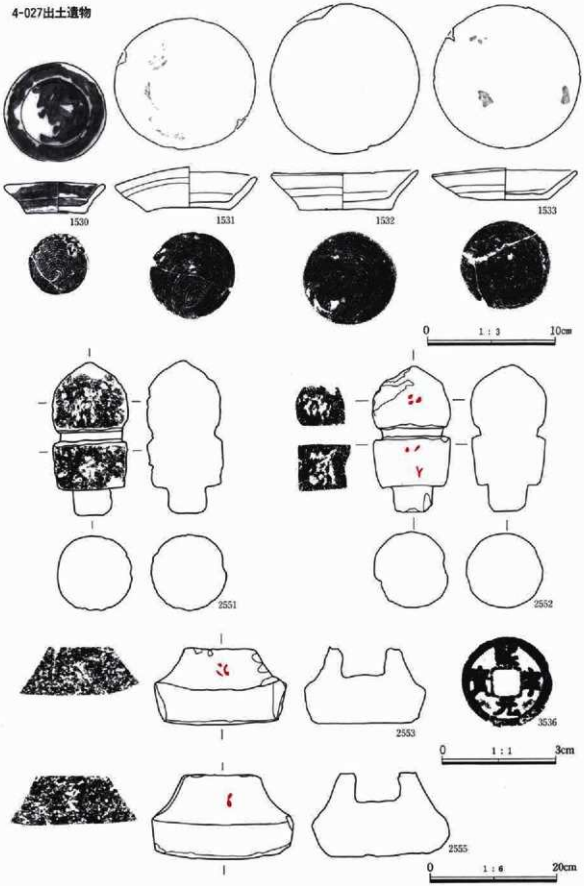


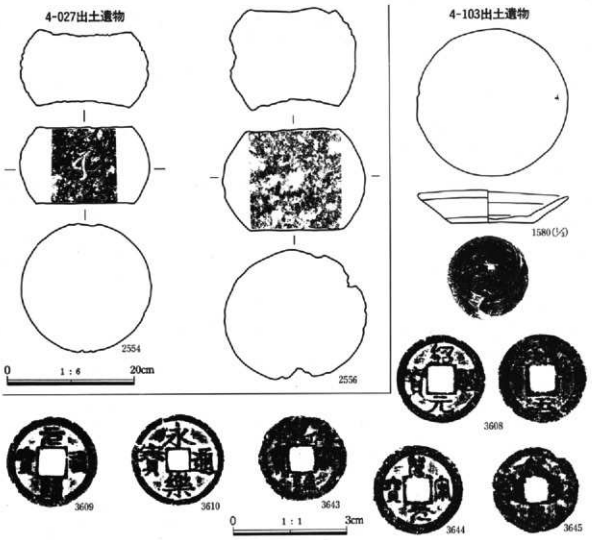


小八木志志貝戸4区207号遺構（遺構63頁）**【位置】**11K19g **【種類】**土坑 **【形状】**楕円形（0.9×？×0.2m） **【重複】**103号より旧 **【土層】**不明 **【遺物】**なし **【備考】**性格不明。

小八木志志貝戸4区028号遺構（遺構63頁）**【位置】**11K19g **【種類】**火葬跡 **【形状】**T字形（1.5×1.1×0.3m） **【重複】**103号より新 **【土層】**1暗褐色砂質土 2黒褐色シルト質土 灰炭化物と焼骨含む 3暗褐色砂質土 シルト粒含む **【遺物】**壮年期男性焼骨(4538,50)、クリ炭化材(4566)出土 **【備考】**東側に煙道を持ち、やや扁平な自然礫5個を両端と中央に配している。焼骨は拾い残しで、ここが埋葬場所を兼ねる証拠はない。

4-027出土遺物


1530
1531
1532
1533
0
1 : 3
10cm
2551
2552
2553
3536
0
1 : 1
3cm
2555
0
1 : 6
20cm



小八木志志貝戸4区027号遺構（遺構63頁・遺物64,65頁）

【位置】11K19g　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（1.3×1.2×0.9m）　**【重複】**なし　**【土層】**1にぶい黄褐色砂質土　シルト塊多く含む　2黒褐色粘質土　シルト塊混じる　**【遺物】**かわらけ片口（1531,33）皿（1532）小皿（1530）、五輪塔空風輪（2551,52）火輪（2553,55）水輪（2554,56）、北宋銭（3536）、成人性別不明焼骨（4537）出土　**【備考】**五輪塔は2組ありかわらけも全て1層の出土で、廃棄されたものである。西側のテラス状部分がその掘り込みになる。焼骨は埋土中の出土であり、火葬痕がないことから028号のものの流入だろう。本遺構の中心部分の性格は不明。

小八木志志貝戸４区088号遺構（遺構67頁・遺物67,68頁）

【位置】11K20ｇ　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.0×0.9×0.2m）　**【重複】**削平跡031号より旧　089号と090号の延長の溝と重複　**【土層】**１暗褐色砂質土　シルト粒少し含む　**【遺物】**かわらけ耳皿（1557）皿（1558）、五輪塔空風輪未成品（2599）石塔未成品（2597,98）、北宋銭（3585,87～93）不明銭（3586）、幼年期男性歯（4515）出土　**【備考】**石塔類は廃棄されたものだが、形状と他の遺物は揃っているため、土葬墓と考えられる。銅銭は石塔類の下からの出土である。

小八木志志貝戸４区089号遺構（遺構67頁）

【位置】11K20ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（1.1？×0.6×0.2m）　**【重複】**削平跡031号より旧　088号と重複　**【土層】**１黒褐色砂質土　シルト粒含む　２同前　シルト粒少ない　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。

小八木志志貝戸４区090号遺構（遺構67頁・遺物68頁）

【位置】11K20ｇ　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小長方形（0.9以上×0.3×0.2m）　**【重複】**西に浅い溝があるが関係不明　**【土層】**１暗褐色砂質土　**【遺物】**かわらけ片口（1559）皿（1560）、北宋銭（3594,96,98）明銭（3595,97,99）、乳児期性別不明歯骨（4516,47）出土　**【備考】**形状はかなり特異だが、乳児の土葬墓とすれば理解できる。かわらけは他の墓出土のものとは異なる赤手。

小八木志志貝戸４区092号遺構（遺構67頁）

【位置】11K20ｇ　**【種類】**ピット　**【形状】**２基の楕円形重複（径0.5×0.5m）　**【重複】**削平跡031号より旧　**【土層】**不明　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。

小八木志志貝戸４区055号遺構（遺構69頁）

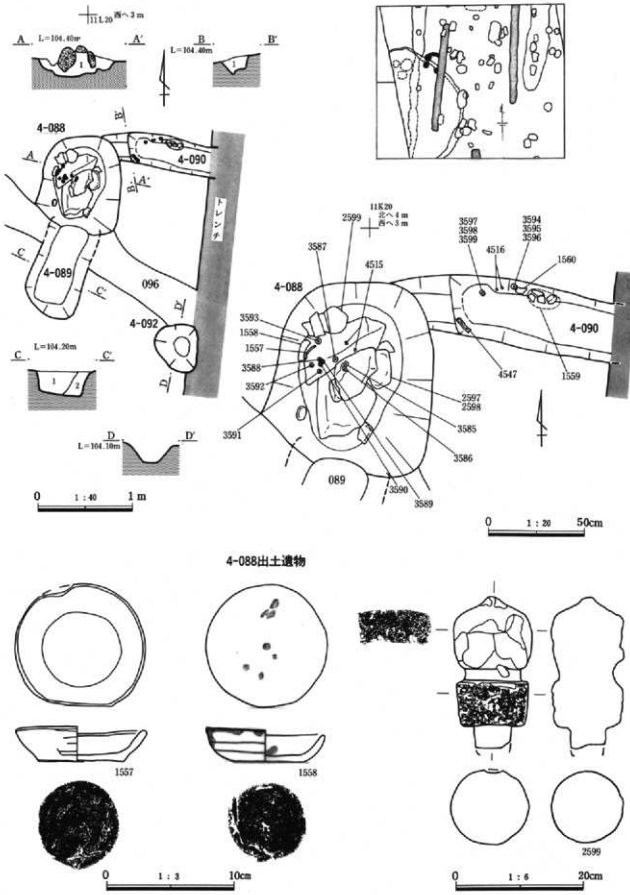
【位置】11L18ｇ　**【種類】**方形竪穴？　**【形状】**隅丸長方形（2.8×1.4×0.3m）　**【重複】**077･118号と重複　**【土層】**１褐色砂質土　２暗褐色砂質土　シルト粒少し混じる　３黒褐色砂質土　粘質土混在　４明黄褐色シルト質土　砂質土混在　**【遺物】**なし　**【備考】**底はややあまいが床を貼ったような感じがあり、ピットは重複ではないだろう。

小八木志志貝戸４区174号遺構（遺構69頁・遺物70頁）

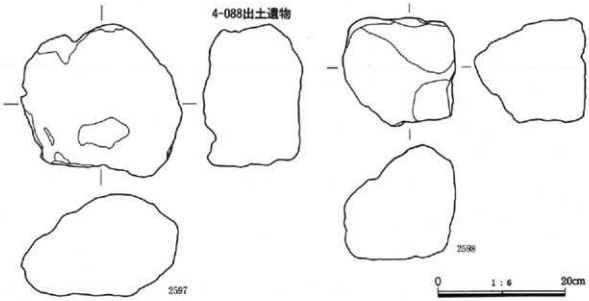
【位置】11L18ｇ　**【種類】**火葬墓　**【形状】**長方形（1.0×0.5×0.4m）　**【重複】**118号より旧　**【土層】**１にぶい黄褐色砂質土　骨片混じる　２黒褐色砂質土　骨炭化物片混じる　**【遺物】**北宋銭（3633）不明銭（3634）、成人性別不明焼骨（4556）、炭化材（4568,69）出土　**【備考】**両端の人頭大の自然石は火葬の際の支脚だろう。銅銭はいずれも被熱で変形しており、遺体と共に埋納されている。

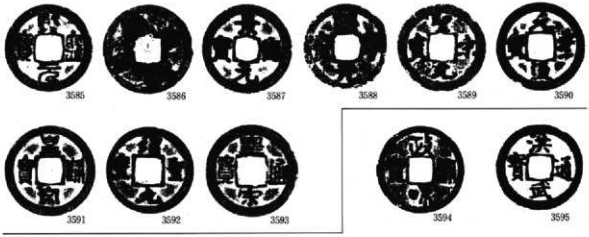
小八木志志貝戸４区118号遺構（遺構69頁・遺物70頁）

【位置】11L18ｇ　**【種類】**土葬墓　**【形状】**長方形（1.2×0.6×0.4m）　**【重複】**055号と重複　174号より新　**【土層】**１黒褐色粘質土　粘質土塊含む　２灰黄褐色粘質土　３暗褐色粘質土　シルト粒混じる　**【遺物】**かわらけ片口（1572,75,77）皿（1573,78）小皿（1574,76）、北宋銭（3617～21）明銭（3622）、カスガイ状鉄製品（3660）、熟年期性別不明歯骨（4520,53）出土　**【備考】**頭部北側で埋葬か。

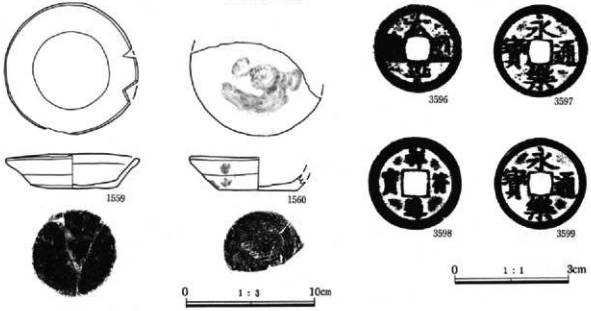

11L20
西へ3m
A
L=104.60m
A'
B
L=104.40m
B'
4-088
4-090
4-089
096
4-092
C
L=104.20m
C'
D
L=104.10m
D'
0
1:40
1m
11K20
北へ4m
西へ3m
2599
3587
4515
3597
3598
3599
3594
3595
3596
4516
1560
4-088
4-090
3593
1558
1557
3588
3592
3591
4547
1559
2597
2598
3585
3586
089
3590
3589
0
1:20
50cm
4-088出土遺物
1557
1558
2599
0
1:3
10cm
0
1:6
20cm

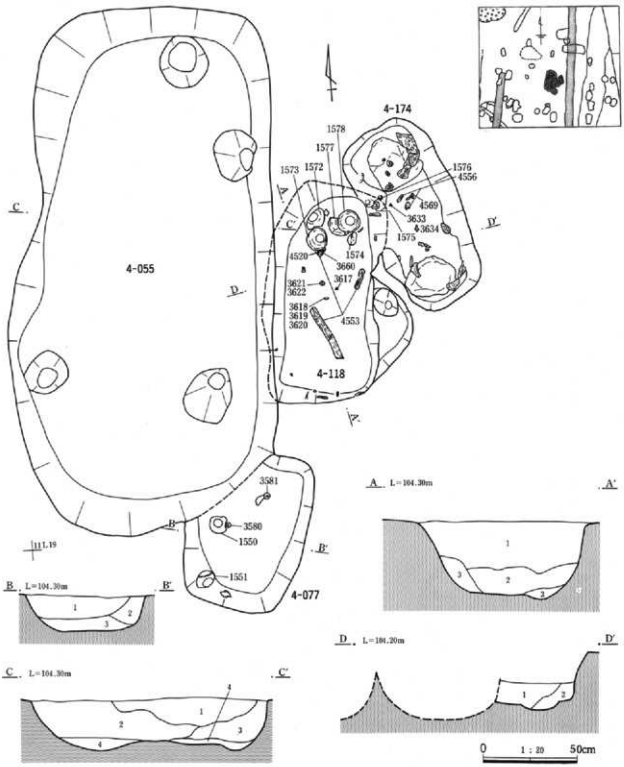
4-088出土遺物





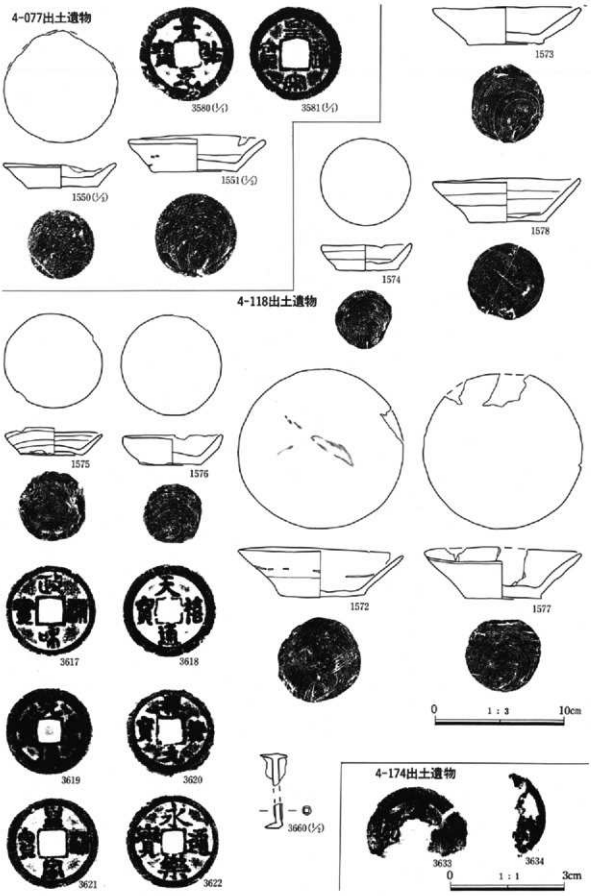
4-090出土遺物

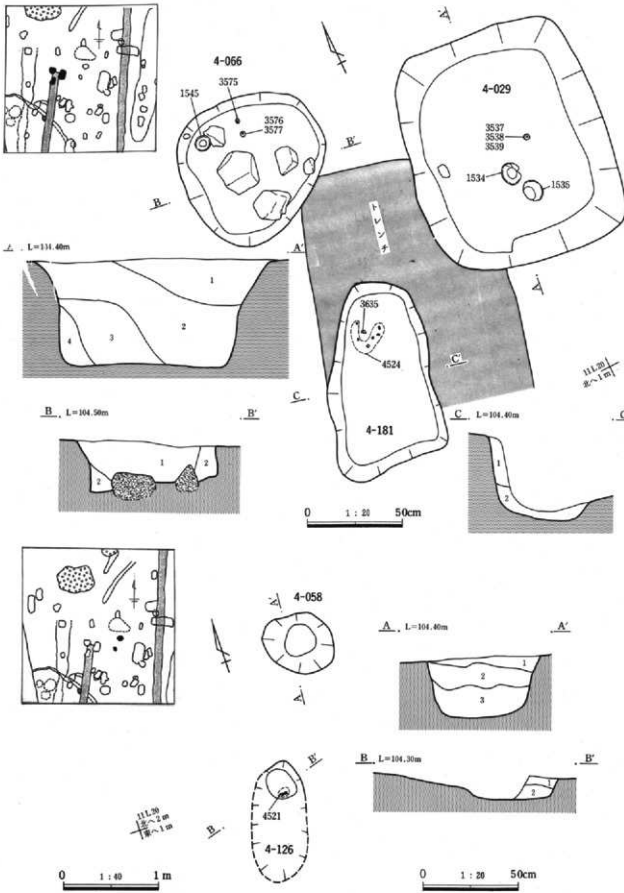


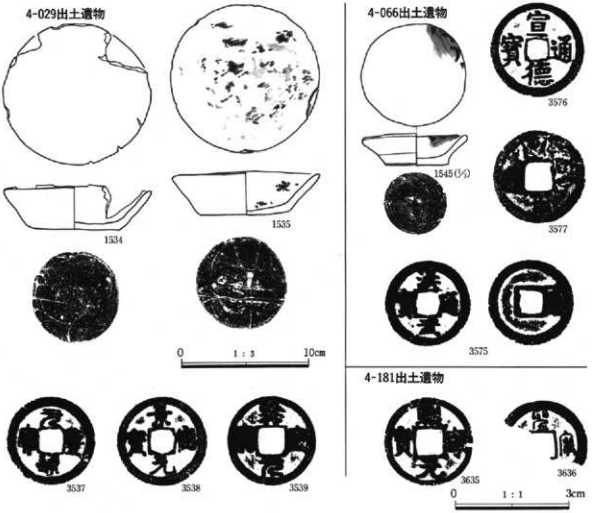


小八木志志貝戸4区077号遺構（遺構69頁・遺物70頁）

【位置】11L18g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**長方形（0.9×0.6×0.2m）　**【重複】**055号と重複　**【土層】**1暗褐色砂質土　2黒褐色砂質土　3同前　粘質土含む　**【遺物】**かわらけ片口（1551）小皿（1550）、北宋銭（3580,81）出土　**【備考】**遺物の組み合わせと形状より土葬墓の可能性が高い。


4-077出土遺物
3580(1/1)
3581(1/1)
1550(1/2)
1551(1/2)
1573
1578
1574
4-118出土遺物
1575
1576
1572
1577
3617
3618
3619
3620
3621
3622
0
1 : 3
10cm
3660(1/2)
4-174出土遺物
3633
3634
0
1 : 1
3cm


4-066
3575
1545
3576
3577
4-029
3537
3538
3539
1534
1535
トレンチ
3635
4524
4-181
A. L=114.40m
A'
B. L=104.50m
B'
C. L=104.40m
C'
1:20
50cm
4-058
A. L=104.40m
A'
B. L=104.30m
B'
4521
4-126
1:40
1m
1:20
50cm



小八木志志貝戸４区058号遺構（遺構71頁）

【位置】11Ｌ19ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（0.8×0.6×0.3m）　**【重複】**なし　**【土層】**１暗褐色砂質土　２黒褐色砂質土　３同前　粘質土含む　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。

小八木志志貝戸４区126号遺構（遺構71頁）

【位置】11Ｌ19ｇ　**【種類】**土葬墓　**【形状】**楕円形（1.3？×0.6？×0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**１にぶい黄褐色砂質土　暗褐色土塊含む　２同前　灰褐色土粒混じる　**【遺物】**壮年期男性歯（4521）出土　**【備考】**大部分が壊される。

小八木志志貝戸４区066号遺構（遺構71頁・遺物72頁）

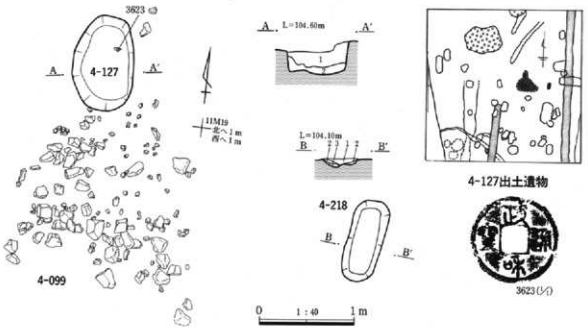
【位置】11Ｌ20ｇ　**【種類】**土葬墓？　**【形状】**不定形（0.8×0.8×0.3m）　**【重複】**なし　**【土層】**１暗褐色砂質土　２黒褐色粘質土　砂質土混じる　**【遺物】**かわらけ小皿（1545）、明銭（3575,76）不明銭（3577）出土　**【備考】**形状が不安定で自然礫も入っており、廃棄坑の可能性もある。かわらけは赤手。

小八木志志貝戸4区029号遺構（遺構71頁・遺物72頁）

【位置】11L19g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.3×1.1×0.6m）　**【重複】**なし　**【土層】**1褐色砂質土　2にぶい黄褐色砂質土　シルト塊混じる　3暗褐色砂質土　シルト塊含む　4明黄褐色シルト質土　**【遺物】**かわらけ皿(1534,35)、北宋銭(3537～39) 出土　**【備考】**やや幅広だが、小判形土葬墓の変形だろう。

小八木志志貝戸4区181号遺構（遺構71頁・遺物72頁）

【位置】11L20g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**楕円形（1.1×0.6×0.5m）　**【重複】**なし　**【土層】**1暗褐色砂質土　2黒褐色砂質土　**【遺物】**北宋銭（3635,36）、幼年期性別不明歯（4524）出土　**【備考】**試掘坑で壊してしまったため、検出状況は悪い。



小八木志志貝戸４区099号遺構（遺構73頁）

【位置】11L19g　**【種類】**集石　**【形状】**不定形（2.5×2.0m）　**【重複】**127号と重複　**【土層】**不明　**【遺物】**なし　**【備考】**角礫がやや粗放に集まるが、性格不明。

小八木志志貝戸４区127号遺構（遺構73頁・遺物73頁）

【位置】11M19g　**【種類】**土葬墓？　**【形状】**小判形（1.0×0.7×0.3m）　**【重複】**099号と重複　**【土層】**１暗褐色砂質土　２黒褐色粘質土　**【遺物】**北宋銭（3623）出土**【備考】**形状と銅銭の出土より土葬墓の可能性がある。

小八木志志貝戸４区218号遺構（遺構73頁）

【位置】11L18g　**【種類】**火葬跡　**【形状】**小長方形（0.9×0.4×0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**１黒褐色シルト質土　炭化物焼土塊混在　２黒褐色粘質土　砂質土含む　３オリーブ褐色粘質土　シルト粒含む**【遺物】**成人性別不明焼骨（4560）炭（4570）出土**【備考】**規模は小さいが、副葬品ないため火葬跡と考えられる。

小八木志志貝戸４区032号遺構（遺構75頁・遺物75頁）

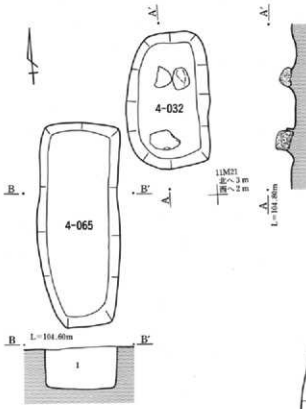
【位置】11M21g　**【種類】**火葬墓　**【形状】**長方形（1.4×0.9×0.1m）　**【重複】**065号近接　**【土層】**１暗褐色粘質土　２暗褐色砂質土　焼土粒混じる　３褐色砂質土　**【遺物】**北宋銭（3546,49）明銭（3548）不明銭（3547,3659）成人女性焼骨（4539）クリ炭化材（4567）出土　**【備考】**銅銭はいずれも被熱、3546は繊維付着。ここで火葬し同時に埋葬。石は火葬時の支脚だろう。かわらけ出土したが紛失。

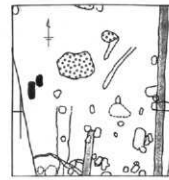
小八木志志貝戸４区065号遺構（遺構75頁・遺物75頁）

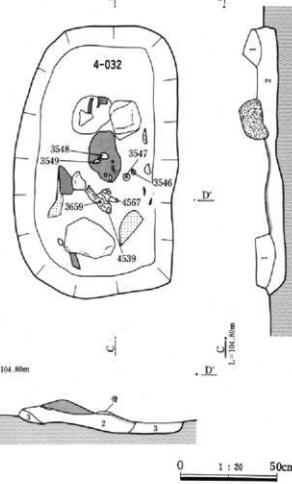
【位置】11M21g　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（2.2×0.9×0.5m）　**【重複】**032号近接　**【土層】**１暗褐色砂質土　シルト粒混じる　**【遺物】**埋土中より北宋銭（3574）出土**【備考】**銅銭が出土しているが、形態より近世の短冊形土坑の可能性がある。

小八木志志貝戸４区042号遺構（遺構76頁・遺物76頁）

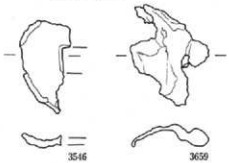
【位置】11N17g　**【種類】**石塔墓　**【形状】**小判形？（長1.4m）　**【重複】**溝001号と近接　**【土層】**不明**【遺物】**五輪塔空風輪（2559）火輪（2562）水輪（2560）地輪（2563）石塔剝片（2561）、成人？性別不明焼骨（4542）出土**【備考】**断面・写真記録がとれなかったが、１組になる五輪塔各部はいずれも上層出土。材質はほぼ同じで同一塔の可能性あるが、下位の火葬墓の上に確実に立っていたかは不明。



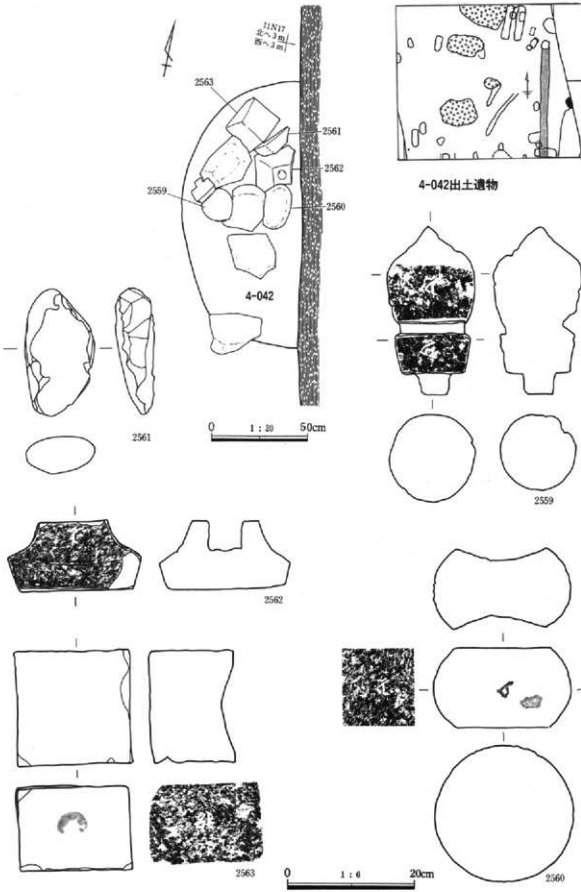


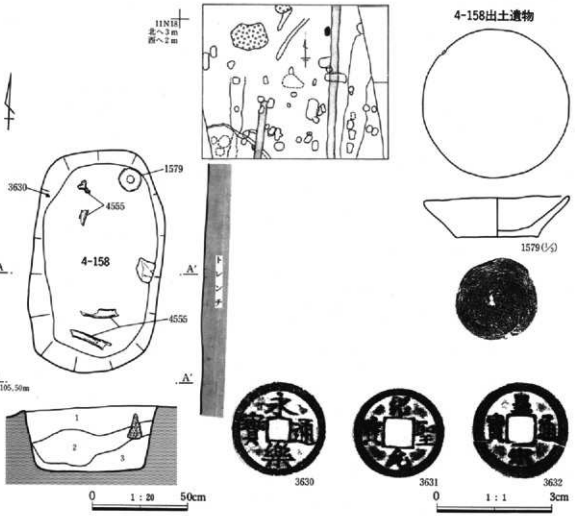


4-032出土遺物



4-065出土遺物


11N17
北へ3m
西へ3m
2563
2561
2562
2559
2560
4-042
4-042出土遺物
2561
0
1：20
50cm
2559
2562
2563
0
1：6
20cm
2560



小八木志志貝戸4区158号遺構（遺構77頁・遺物77頁）

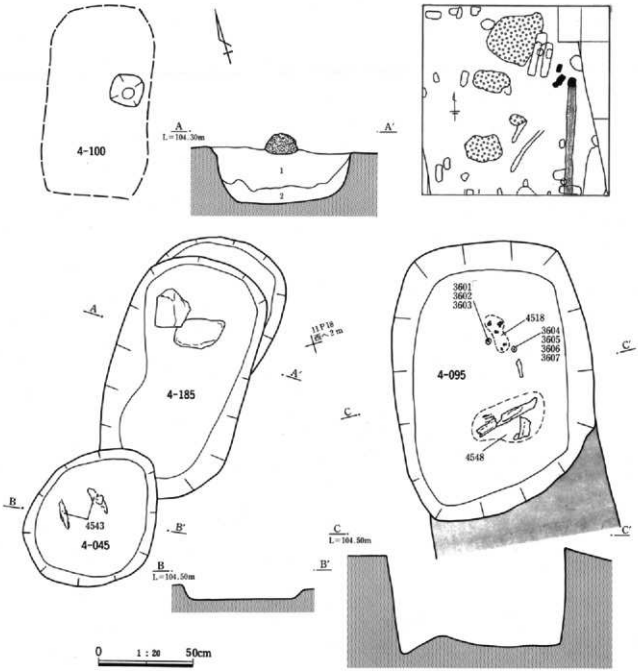
【位置】11N18g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**小判形（1.2×0.7×0.4m）　**【重複】**なし　**【土層】**1暗褐色砂質土　2黒褐色砂質土　3同前　シルト粒混じる　**【遺物】**かわらけ皿(1579)、北宋銭(3631,32)明銭(3630)、壮年期女性歯骨（4523,55）出土　**【備考】**頭部北側で埋葬。

小八木志志貝戸4区100号遺構（遺構78頁・遺物79頁）

【位置】11P18g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**不明　**【重複】**なし　**【土層】**不明**【遺物】**かわらけ片口（1565）皿（1564）小皿（1563）出土　**【備考】**遺構確認時に歯骨も出土したが紛失。土葬墓であることは確実である。

小八木志志貝戸4区185号遺構（遺構78頁・遺物79頁）

【位置】11O18g　**【種類】**土葬墓？　**【形状】**小判形（1.3×0.7×0.3m）　**【重複】**045号より旧か　**【土層】**1黒褐色粘質土　灰褐色土混在　2にぶい黄色粘質土　黒褐色土混じる　**【遺物】**かわらけ小皿（1566）出土　**【備考】**埋土上位に自然礫。形状より土葬墓の可能性がある。北側の段差は重複遺構か。

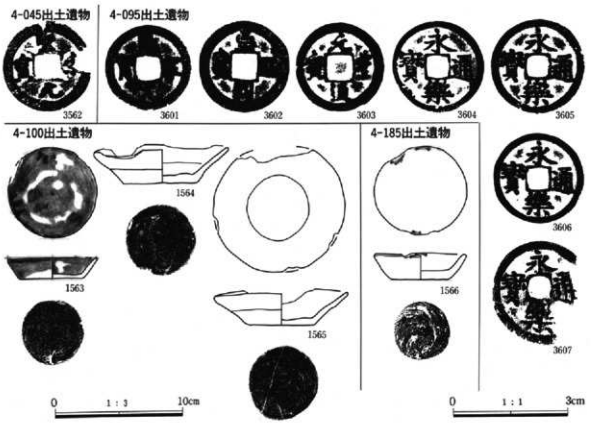


小八木志志貝戸４区045号遺構（遺構78頁・遺物79頁）

【位置】11O18ｇ　**【種類】**土葬墓　**【形状】**円形？（0.8×0.7×0.1m）　**【重複】**185号より新か　**【土層】**不明　**【遺物】**北宋銭（3562）、成人？性別不明骨（4543）出土　**【備考】**土葬墓としては小さすぎるため、本来の形でない可能性がある。

小八木志志貝戸４区095号遺構（遺構78頁・遺物79頁）

【位置】11O18ｇ　**【種類】**土葬墓　**【形状】**長方形（1.5×1.1×0.5m）　**【重複】**なし　**【土層】**不明　**【遺物】**北宋銭（3601～03）明銭（3604～07）、壮年期前半女性歯骨（4518, 48）出土　**【備考】**試掘で上層を壊す。頭部北側で埋葬。



小八木志志貝戸4区048号遺構（遺構80頁）

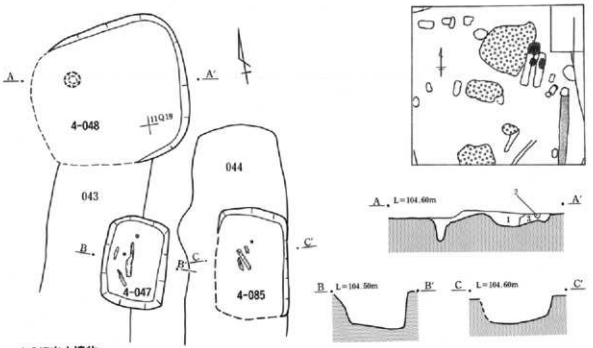
【位置】11Q19g　【種類】土坑　【形状】長方形（1.7以上×1.5×0.2m）　【重複】土坑043号より旧か　【土層】1黒褐色砂質土　2黒褐色粘質土塊　3明黄褐色シルト質土塊　暗褐色粘質土塊含む　【遺物】なし　【備考】底不均一で性格不明。

小八木志志貝戸4区047号遺構（遺構80頁・遺物80頁）

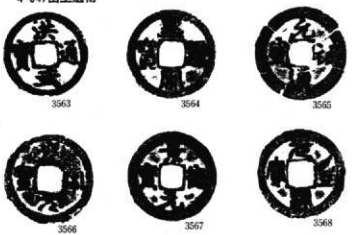
【位置】11P19g　【種類】土葬墓　【形状】長方形（1.0×0.7×0.4m）　【重複】土坑043号より旧　【土層】不明　【遺物】北宋銭（3564～68）明銭（3563）、成人？性別不明骨（4544）出土　【備考】頭部北側で埋葬と思われる。

小八木志志貝戸4区085号遺構（遺構80頁・遺物80頁）

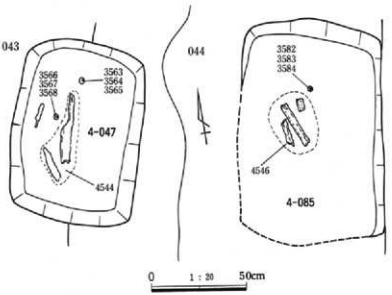
【位置】11P18g　【種類】土葬墓　【形状】長方形？（1.2？×0.8？×0.3m）　【重複】土坑044号より旧　【土層】不明　【遺物】北宋銭（3582,84）明銭（3583）、成人？性別不明骨（4546）出土　【備考】上層は044号に壊される。

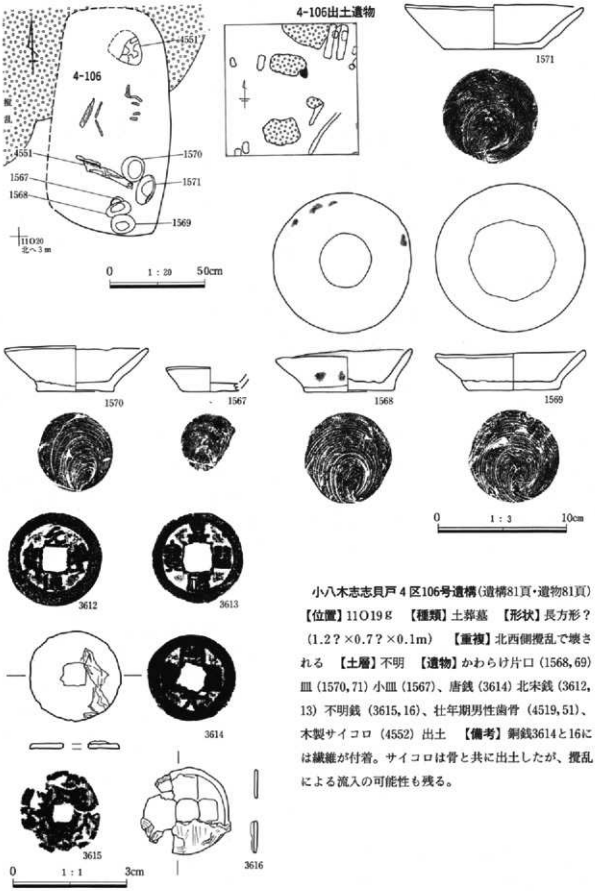


4-047出土遺物



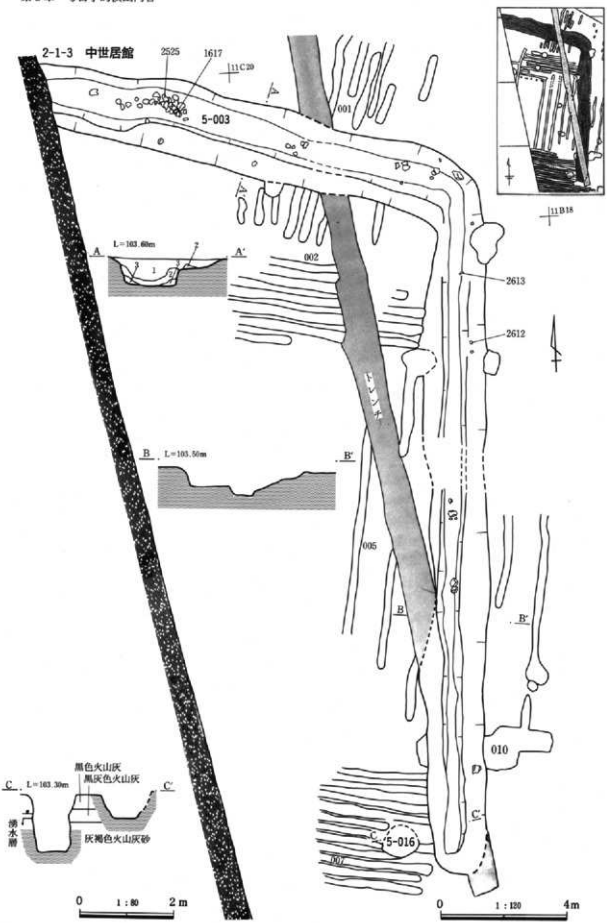
4-085出土遺物



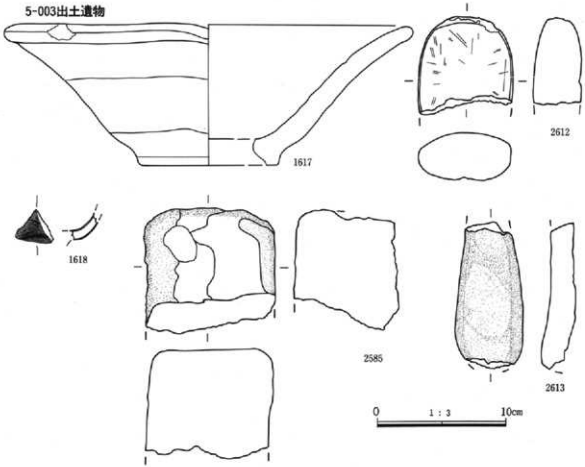


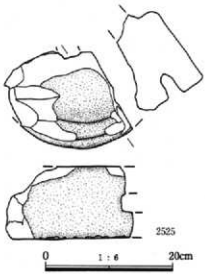
小八木志志貝戸4区106号遺構（遺構81頁・遺物81頁）**【位置】**11O19g　**【種類】**土葬墓　**【形状】**長方形？（1.2？×0.7？×0.1m）　**【重複】**北西側攪乱で壊される　**【土層】**不明　**【遺物】**かわらけ片口（1568,69）皿（1570,71）小皿（1567）、唐銭（3614）北宋銭（3612,13）不明銭（3615,16）、壮年期男性歯骨（4519,51）、木製サイコロ（4552）出土　**【備考】**銅銭3614と16には繊維が付着。サイコロは骨と共に出土したが、攪乱による流入の可能性も残る。

2-1-3　中世居館


2525
1617
11C20
5-003
001
002
005
007
010
2613
2612
11B18
A
A'
L=103.60m
B
B'
L=103.50m
C
C'
L=103.30m
黒色火山灰
黒灰色火山灰
灰褐色火山灰砂
排水溝
5-016
0
1：80
2m
0
1：120
4m

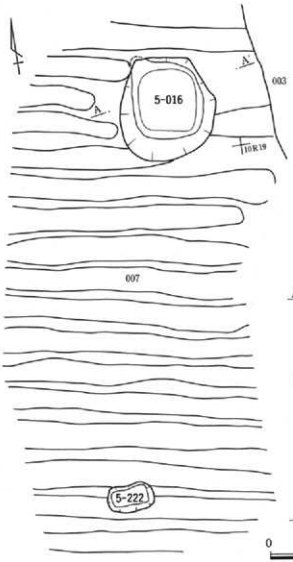
5-003出土遺物

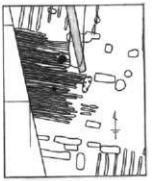


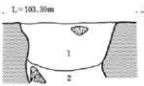


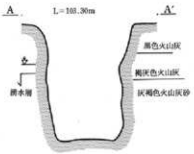
2-1-3　中世居館

小八木志志貝戸5区003号遺構（遺構82頁・遺物83頁）**【位置】**10Q18～11B21g　**【種類】**堀　**【形状】**南北走向22m東西走向13m以上（最大上幅2.4×底幅1.0×深0.6m）逆L字形に屈曲（112度）　**【重複】**近世畠001・002・005・007号、土坑010号より旧　**【土層】**1褐灰色砂質土　2黒褐色粘質土　シルト粒含む　3明黄褐色シルト質土　砂質土混在　**【遺物】**下層より瓦質土器コネ鉢（1617）、石臼上玉（2525）、不明石製品（2585）、磨石（2612,13）、埋土中より同安窯系青磁皿片（1618）出土　**【備考】**調査中には大量の出水があったが、顕著な砂の堆積はなく、また南端が切れているため、使用時には流水はなかったと考えられる。東西部分は旧地割に一致している。









小八木志志貝戸５区016号遺構

（遺構84頁・遺物84頁）

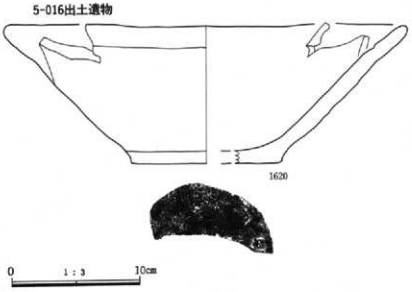
【位置】10Ｒ19ｇ **【種類】**井戸 **【形状】**方形（0.8×1.3m） **【重複】**畠007号より旧 **【土層】**１暗褐色砂質土　As-Ｂ混じる　２黒褐色砂質土　砂礫含む **【遺物】**瓦質土器コネ鉢（1620）出土 **【備考】**底から0.7mで湧水層。短期間使用。堀003号遺構とは上場で0.6m弱の距離。

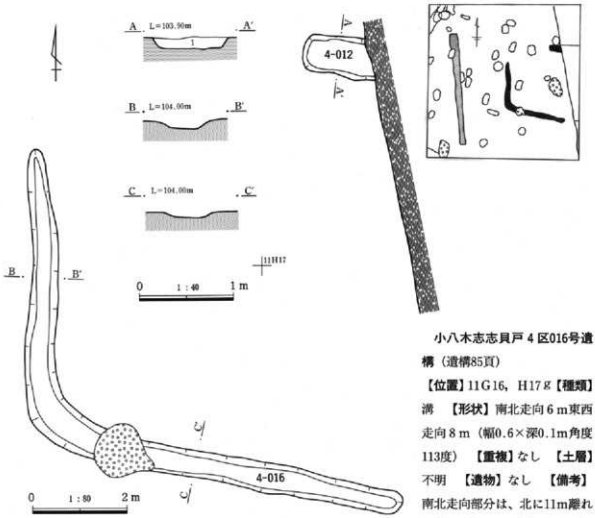
小八木志志貝戸５区222号遺構

（遺構84頁）

【位置】10Ｑ19ｇ **【種類】**土坑 **【形状】**長方形（0.4×0.2m） **【重複】**畠007号より旧 **【土層】**不明 **【遺物】**なし **【備考】**第２面で確認

5-016出土遺物





小八木志志貝戸4区016号遺構（遺構85頁）

【位置】11G16，H17g **【種類】**溝　**【形状】**南北走向6m東西走向8m（幅0.6×深0.1m角度113度）　**【重複】**なし　**【土層】**不明　**【遺物】**なし　**【備考】**南北走向部分は、北に11m離れた溝001号とやや走向が似る。

小八木志志貝戸4区012号遺構（遺構85頁）

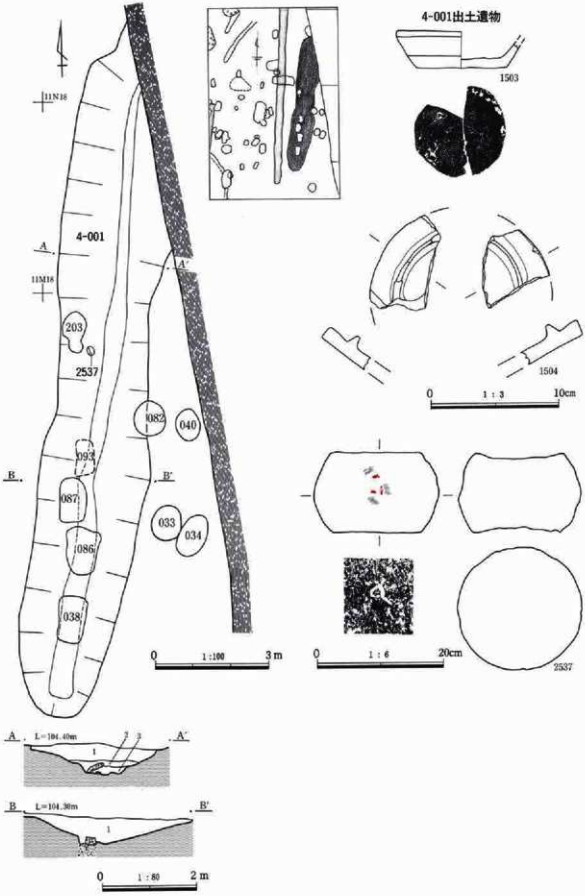
【位置】11H16g **【種類】**土坑　**【形状】**長方形（1.6以上×0.8×0.1m）　**【重複】**土葬墓017号近接　**【土層】**1暗褐色砂質土　**【遺物】**なし **【備考】**近世の短冊形土坑か。

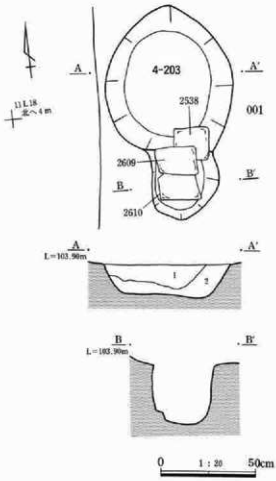
小八木志志貝戸4区001号遺構（遺構86頁・遺物86頁）

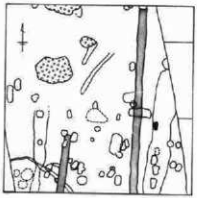
【位置】11J～N17g **【種類】**溝　**【形状】**南北走向18m（上幅3.0底幅0.5深0.6m）　**【重複】**土葬墓038・086・087号、火葬墓093号、土坑203号より旧　井戸082号と重複　石塔墓042号と近接　**【土層】**1暗褐色砂質土　2黒褐色砂質土　3同前　より暗色 **【遺物】**下層より五輪塔水輪(2537)、埋土中よりかわらけ皿(1503)、瓦質土器焜炉？片（1504）出土　**【備考】**調査範囲北端で東に曲がる可能性がある。旧地割とは不一致。

小八木志志貝戸4区203号遺構（遺構87頁・遺物87頁）

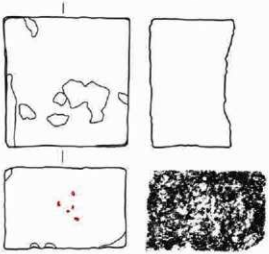
【位置】11L17g **【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（0.8×0.7×0.2m）とピット状（0.4×0.3×0.3m）が重複 **【重複】**溝001号より新　**【土層】**1暗褐色粘質土　シルト粒混じる　2同前　シルト粒多い　**【遺物】**五輪塔地輪（2538,2609,10）出土　**【備考】**3個の地輪がかたまっており廃棄土坑と考えられる。

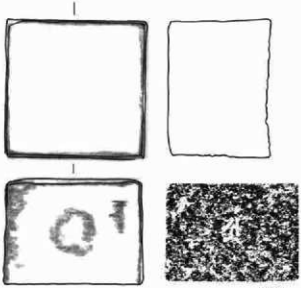

4-001出土遺物
1503
1504
2537
11N16
11M16
4-001
A
A'
B
B'
203
2537
082
040
093
087
086
033
034
038
0
1:100
3 m
0
1:6
20cm
0
1:3
10cm
L=104.40m
L=104.30m
0
1:80
2 m

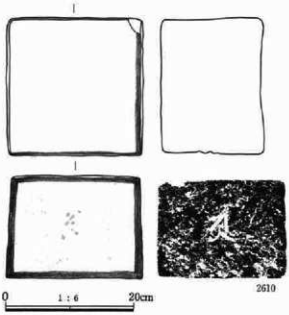

4-203
A
A'
B
B'
2538
2609
2610
001
11L18
北へ4m
L=103.90m
1
2
0
1:20
50cm

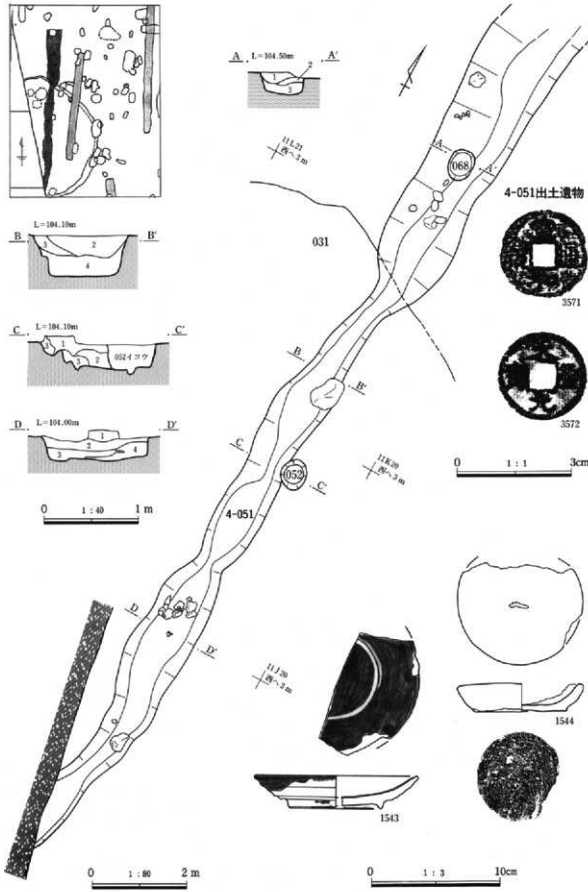


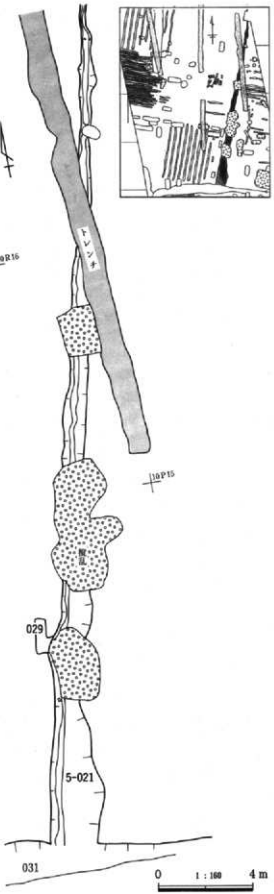
4-203出土遺物


2538


2609


2610
0
1:6
20cm


A
L=104.50m
A'
B
L=104.10m
B'
C
L=104.10m
C'
052イカヤ
D
L=104.00m
D'
0
1 : 40
1 m
031
068
052
4-051
4-051出土遺物
3571
3572
0
1 : 1
3cm
1544
1543
0
1 : 80
2 m
0
1 : 3
10cm



小八木志志貝戸４区051号遺構（遺構・遺物88頁）**【位置】**11Ｉ～Ｌ20ｇ**【種類】**溝**【形状】**南北走向23m以上（上幅1.8底幅0.8深0.3m）**【重複】**削平跡031号、土坑052・068・078号より旧**【土層】**１暗灰黄色砂質土　砂含む　２にぶい黄褐色砂質土　粘質土粒混じる　３黒褐色砂質土　シルト粒混じる　４オリーブ褐色シルト質土　粘質土混じる**【遺物】**埋土中より瀬戸美濃灰釉皿(1543)、かわらけ皿(1544)、北宋銭（3571,72）、壮年期男性歯（4514）出土　**【備考】**灰釉皿を除き他の遺物は土葬墓のもの。土葬墓を壊して築かれたと思われる。

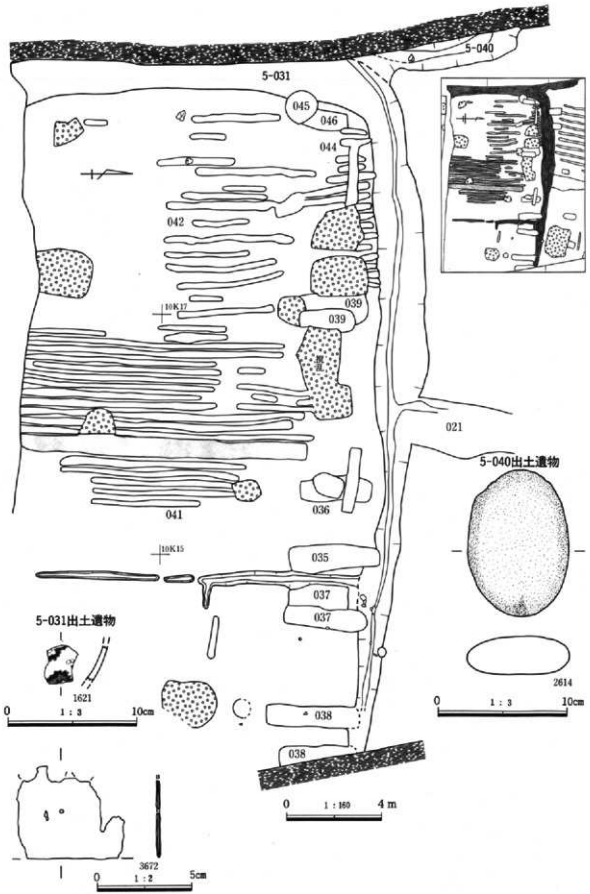
小八木志志貝戸４区068号遺構（遺構88頁）**【位置】**11Ｌ20ｇ**【種類】**土坑**【形状】**楕円形（0.7×0.5×0.3m）**【重複】**溝051号より新　**【土層】**１暗褐色砂質土　２黒褐色砂質土　３黒褐色粘質土シルト粒混じる　**【遺物】**なし**【備考】**性格不明。

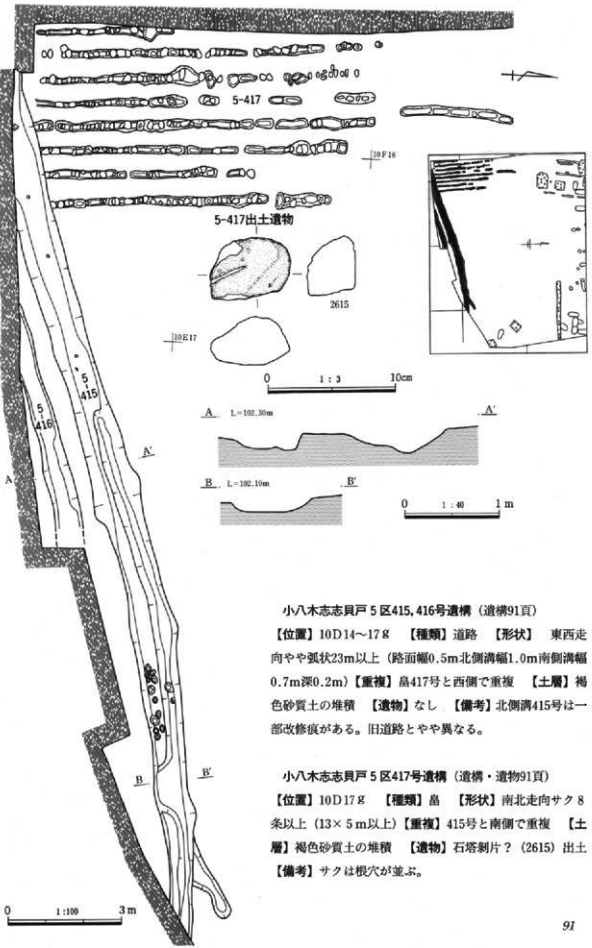
2-1-4　その他の遺構

小八木志志貝戸５区021号遺構（遺構89頁）**【位置】**10M16～Ｓ15ｇ**【種類】**地境溝**【形状】**南北走向37m以上（最大上幅2.0m底幅0.4m深約0.3m）**【重複】**地境溝031号と南側で合流**【土層】**褐色砂質土の堆積**【遺物】**なし**【備考】**合流点では本遺構が浅い。旧地割と一致。

小八木志志貝戸５区031号遺構（遺構・遺物90頁）**【位置】**10Ｉ18～Ｌ13ｇ**【種類】**地境溝**【形状】**東西走向29m以上（最大上幅2.0m底幅0.2m深約0.5m）南北走向16m以上**【重複】**021号と東西走向中央で合流。040号と重複　短冊形土坑035・037・038号より旧**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**瀬戸美濃染付碗（1621）、鉄板片（3672）出土**【備考】**合流点で本遺構が深い。旧地割と一致。

小八木志志貝戸５区040号遺構（遺構・遺物90頁）**【位置】**10M19ｇ**【種類】**溝**【形状】**南北走向やや弧状６m以上（最大上幅1.2m底幅0.2m深約0.3m）**【重複】**地境溝031号と南側で重複　**【土層】**褐色砂質土の堆積**【遺物】**扁平磨石（2614）、古代瓦（1627、非報告）出土**【備考】**合流点で本遺構が浅い。旧地割と一致せず。


5-040
5-031
045
046
044
042
039
039
10K17
置土
021
5-040出土遺物
041
036
10K15
035
037
037
5-031出土遺物
1621
0
1 : 3
10cm
2614
0
1 : 3
10cm
038
038
0
1 : 160
4 m
3672
0
1 : 2
5cm

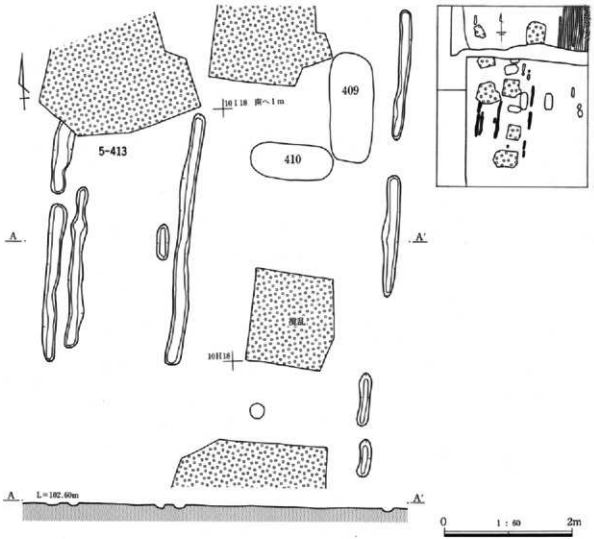


小八木志志貝戸5区415, 416号遺構（遺構91頁）

【位置】10D14～17g　**【種類】**道路　**【形状】**　東西走向やや弧状23m以上（路面幅0.5m北側溝幅1.0m南側溝幅0.7m深0.2m）**【重複】**畠417号と西側で重複　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**北側溝415号は一部改修痕がある。旧道路とやや異なる。

小八木志志貝戸5区417号遺構（遺構・遺物91頁）

【位置】10D17g　**【種類】**畠　**【形状】**南北走向サク8条以上（13×5m以上）**【重複】**415号と南側で重複　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**石塔剝片？（2615）出土　**【備考】**サクは根穴が並ぶ。



小八木志志貝戸５区413号遺構（遺構92頁）

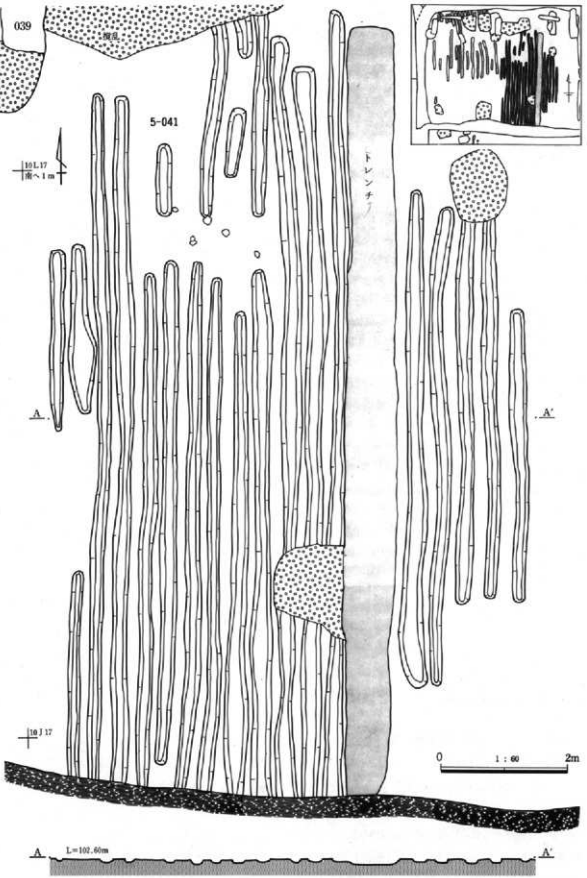
【位置】10Ｇ17ｇ　**【種類】**畠　**【形状】**南北走向サク５条以上（7.5×5.6m）**【重複】**なし　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**サクは浅い溝状。

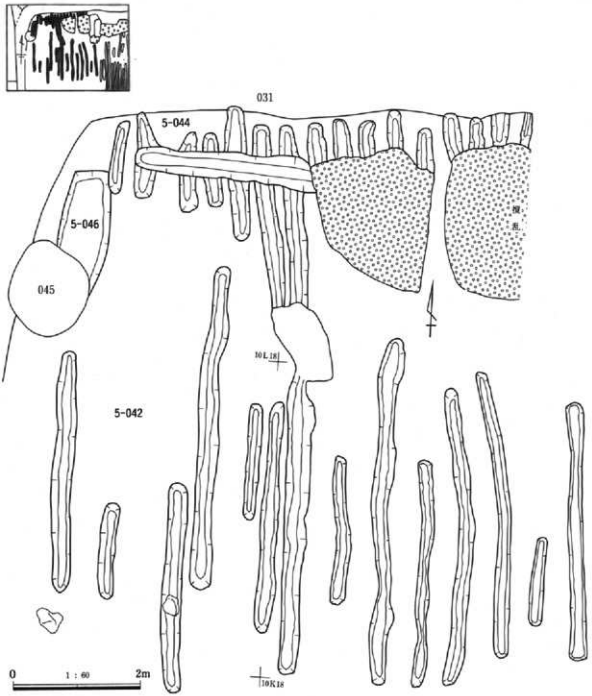
小八木志志貝戸５区041号遺構（遺構93頁）

【位置】10Ｊ15ｇ　**【種類】**畠　**【形状】**南北走向サク18条以上（12.5×7.6m以上）**【重複】**なし　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**サクは浅い溝状。

小八木志志貝戸５区042号遺構（遺構94頁）

【位置】10Ｋ17ｇ　**【種類】**畠　**【形状】**南北走向サク14条以上（8.5×6.8m）**【重複】**なし　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**サクは根穴が並ぶ。


039
5層目
5-041
10 L 17
南へ1m
トレンチ
A
A'
10 J 17
0
1：60
2m
A
L=102.60m
A'

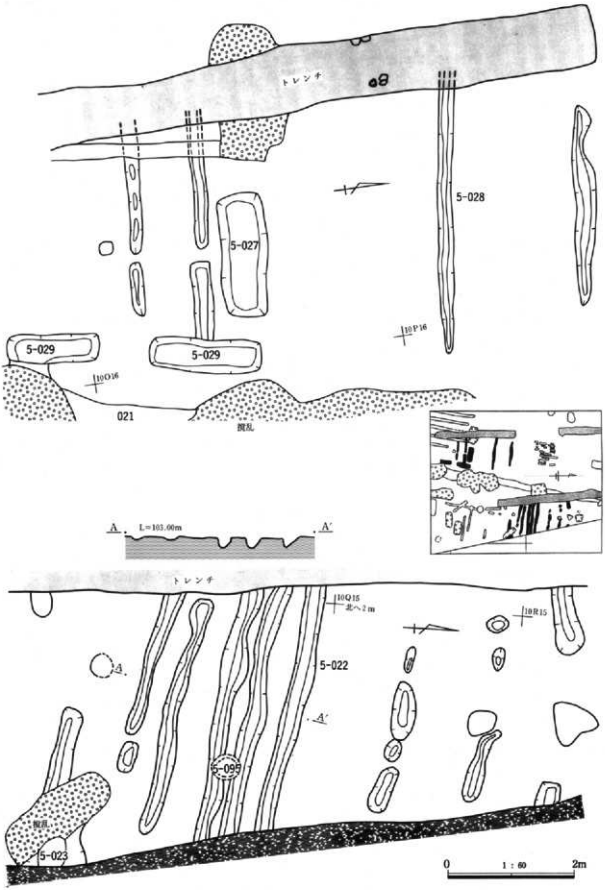


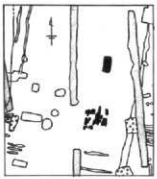
小八木志志貝戸５区044号遺構（遺構94頁）

【位置】10Ｌ17ｇ　**【種類】**畠　**【形状】**南北走向サク16条以上（6.8×3.0m以上）**【重複】**地境溝031号・未命名溝・土坑046号と重複　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**サクは根穴が並ぶ。

小八木志志貝戸５区046号遺構（遺構94頁）

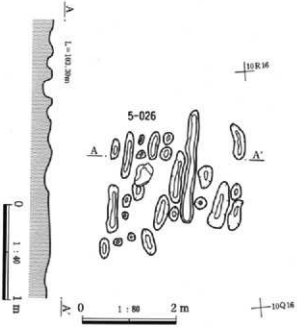
【位置】10Ｌ18ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**短冊形（2.0×0.8×0.1m）**【重複】**井戸045号と南側で重複　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**短冊形土坑。深さは写真より判断。


トレンチ
48
5-028
5-027
5-029
5-029
10P16
10O16
021
撹乱
A
L=103.00m
A'
トレンチ
10Q15
北へ2m
10R15
A
A'
5-022
5-095
撹乱
5-023
0
1：60
2m



小八木志志貝戸５区028号遺構（遺構95頁）

【位置】10Ｐ16ｇ　【種類】畠　【形状】東西走向サク４条以上（7.5×4.2m以上）【重複】029号と東側で重複　【土層】褐色砂質土の堆積　【遺物】なし【備考】サクは浅い溝状。間隔があるため南北に分かれるかもしれない。



小八木志志貝戸５区027,029号遺構（遺構95頁）

【位置】10NO16ｇ　【種類】土坑群　【形状】短冊形027号（2.0×0.8m）029号（1.5～1.8×0.4～0.5m）【重複】028号南側と重複　【土層】褐色砂質土の堆積　【遺物】なし　【備考】短冊形土坑群。

小八木志志貝戸５区022号遺構（遺構95頁）

【位置】10Ｐ14ｇ　【種類】畠　【形状】東西走向サク９条以上（8.2×4.2m以上）【重複】土坑095号より新　【土層】褐色砂質土の堆積　【遺物】なし【備考】サクは浅い溝状。

小八木志志貝戸５区023,095号遺構（遺構95頁）

【位置】10PQ14ｇ　【種類】土坑、ピット　【形状】楕円形023号（0.5×1.1m以上）095号（0.5×0.4m）【重複】095号は022号より旧　【土層】褐色砂質土の堆積　【遺物】なし　【備考】性格不明。

小八木志志貝戸５区017号遺構（遺構96頁）

【位置】10Ｒ16ｇ　【種類】土坑　【形状】長方形（2.0×1.0m）　【重複】なし　【土層】褐色砂質土の堆積　【遺物】なし　【備考】短冊形土坑。

小八木志志貝戸５区026号遺構（遺構96頁）

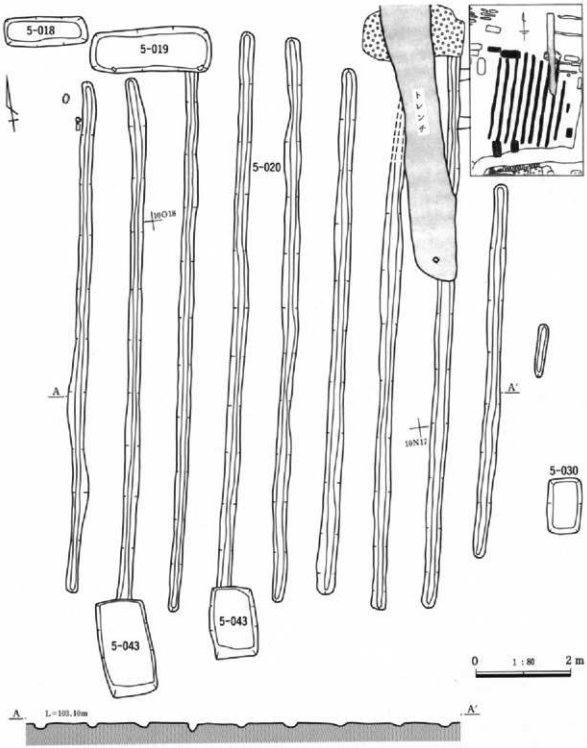
【位置】10Q16ｇ　【種類】畠　【形状】南北走向サク10条（3.2×3.0m）【重複】なし【土層】褐色砂質土の堆積　【遺物】なし　【備考】サクは浅い溝状。

小八木志志貝戸５区018,019号遺構（遺構97頁）

【位置】10O17,18ｇ　【種類】土坑　【形状】長方形（2.6～1.8×0.9～0.6m）　【重複】畠020号と重複　【土層】褐色砂質土の堆積　【遺物】なし　【備考】短冊形土坑。

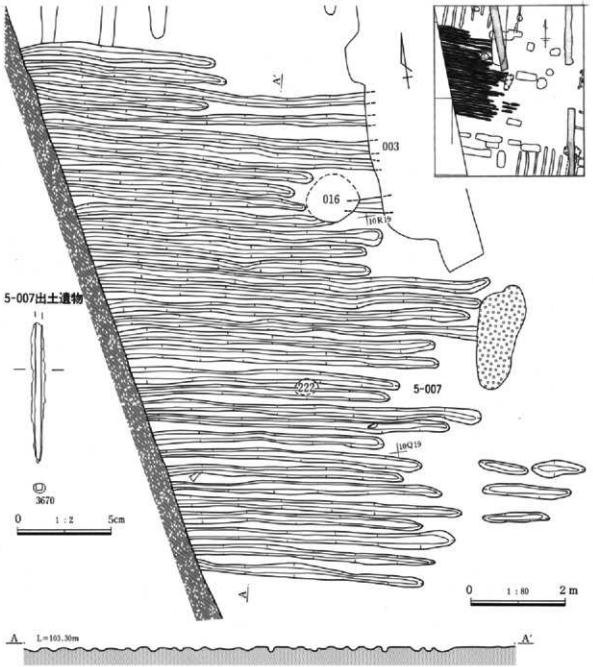
小八木志志貝戸５区030,043号遺構（遺構97頁）

【位置】10M16,17ｇ　【種類】土坑　【形状】長方形（2.1～1.2×1.1～0.7m以上）　【重複】畠020号と重複　【土層】褐色砂質土の堆積　【遺物】なし　【備考】短冊形土坑。



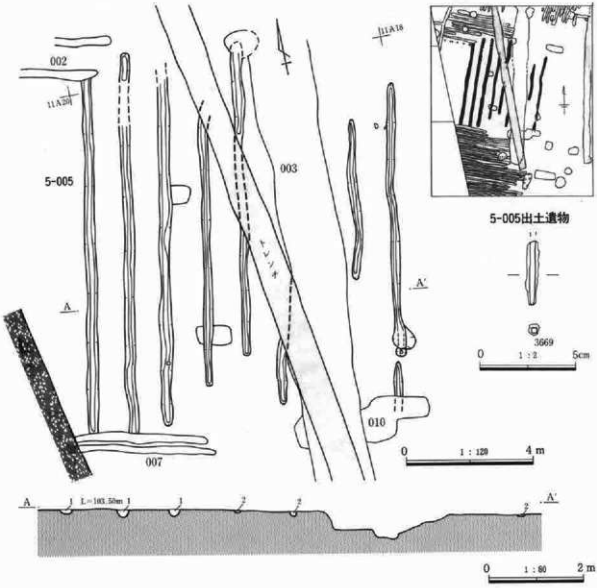
小八木志志貝戸5区020号遺構（遺構97頁）

【位置】10M16g　**【種類】**畠　**【形状】**南北走向サク10条（11.9×10.1m）　**【重複】**土坑019・043号と重複　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**浅い溝状で、サク間は等間隔。



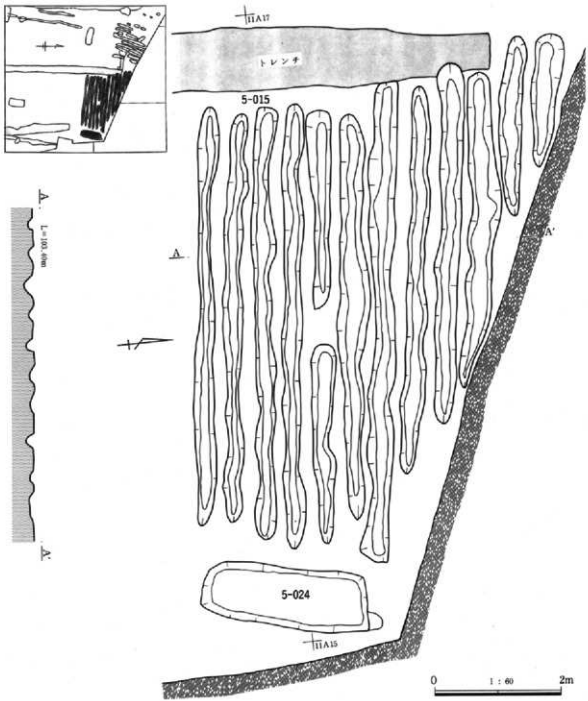
小八木志志貝戸５区007号遺構（遺構・遺物98頁）

【位置】10Ｐ19ｇ　**【種類】**畠　**【形状】**東西走向サク33条（12×11m）　**【重複】**井戸016号、土坑222号より新　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**鉄釘（3670）出土　**【備考】**浅い溝状で、サク間はほとんど密着。



小八木志志貝戸5区005号遺構（遺構・遺物99頁）

【位置】10S19g　**【種類】**畠　**【形状】**南北走向サク8条以上（12.2×10.2m）　**【重複】**畠002、土坑010号と重複　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**鉄釘（3669）出土　**【備考】**浅い溝状で、サク間は等間隔。

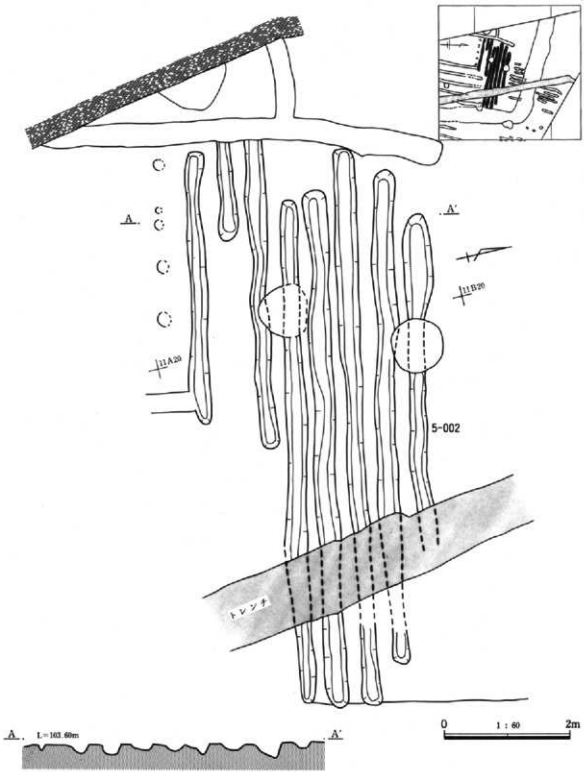


小八木志志貝戸５区015号遺構（遺構100頁）

【位置】10T15g　**【種類】**畠　**【形状】**東西走向サク12条（8.2×5.8m）　**【重複】**なし　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**浅い溝状で、サク間はほとんど密着。

小八木志志貝戸５区024号遺構（遺構100頁）

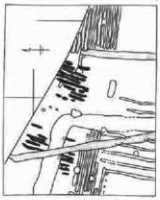
【位置】10T15g　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（2.7×1.0m）　**【重複】**なし　**【土層】**褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**短冊形土坑。



小八木志志貝戸５区002号遺構（遺構101頁）

【位置】11Ａ19g　**【種類】**畠　**【形状】**東西走向サク８条（９×４ｍ）　**【重複】**畠005号、未命名溝と重複

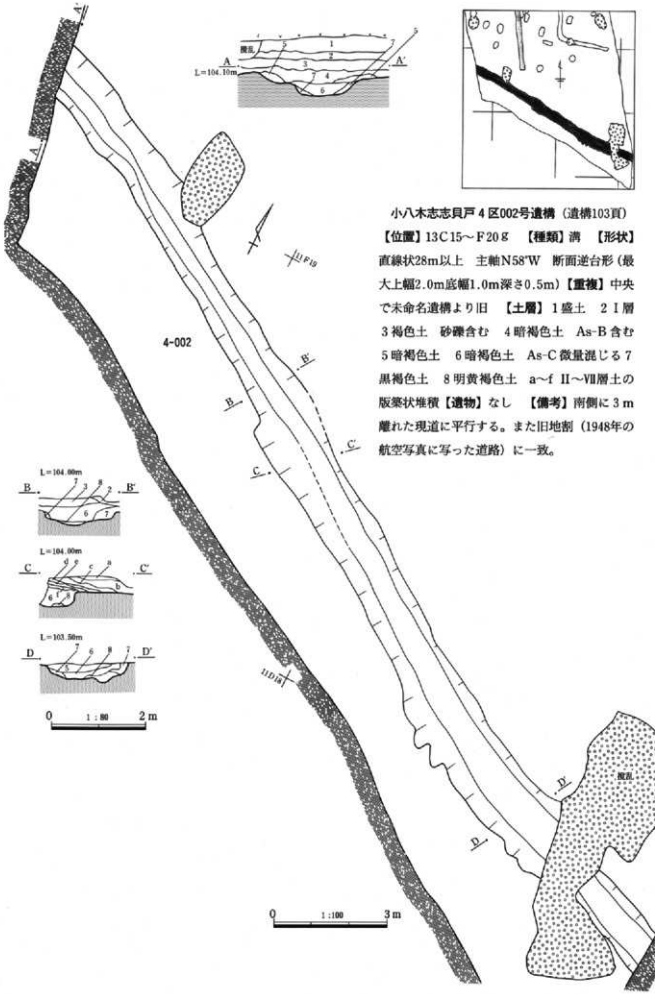
【土層】褐色砂質土の堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**浅い溝状で、サク間は密着。



小八木志志貝戸５区

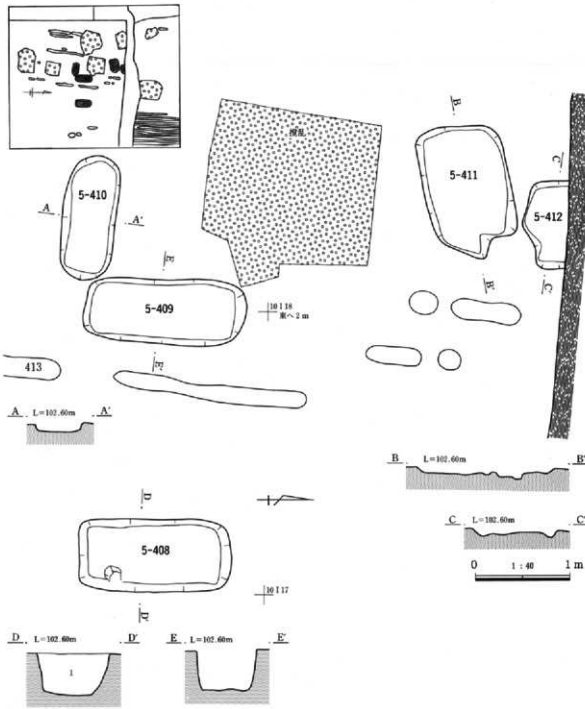
001号遺構（遺構102頁）

【位置】11A17g　**【種類】**畠　**【形状】**南北走向サク20条（14.5×7.3m）　**【重複】**堀003号より新　**【土層】**1　褐色砂質土　黒褐色粘質土粒含む　**【遺物】**なし　**【備考】**浅い溝状で、サク間は密着。東西両側に分かれるかもしれない。



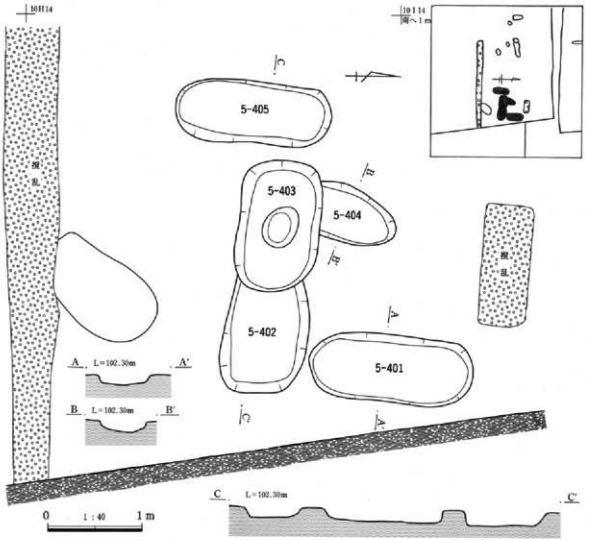
小八木志志貝戸４区002号遺構（遺構103頁）

【位置】13C15～F20g　**【種類】**溝　**【形状】**直線状28m以上　主軸N58°W　断面逆台形（最大上幅2.0m底幅1.0m深さ0.5m）**【重複】**中央で未命名遺構より旧　**【土層】**１盛土　２Ⅰ層　３褐色土　砂礫含む　４暗褐色土　As-B含む　５暗褐色土　６暗褐色土　As-C微量混じる７黒褐色土　８明黄褐色土　a～f Ⅱ～Ⅶ層土の版築状堆積**【遺物】**なし　**【備考】**南側に３m離れた現道に平行する。また旧地割（1948年の航空写真に写った道路）に一致。



小八木志志貝戸５区408～412号遺構（遺構104頁）

【位置】10HI17ｇ　**【種類】**土坑群　**【形状】**長方形（1.7～1.0×0.9～0.6×0.4～0.1m）　**【重複】**411号と412号は２基重複　**【土層】**408号：１暗褐色砂質土　シルト粒焼土粒少し混じる　他も同様　**【遺物】**なし　**【備考】**短冊形土坑群。



小八木志志貝戸5区401～405号遺構（遺構105頁）

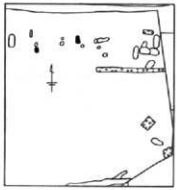
【位置】10H13g　**【種類】**土坑群　**【形状】**長方形（1.8～0.8×0.9～0.6×0.1～0.1m）　**【重複】**403号は402号、404号より新　**【土層】**暗褐色砂質土堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**短冊形土坑群。

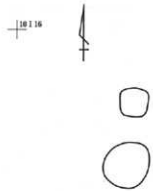
小八木志志貝戸5区407号遺構（遺構106頁）

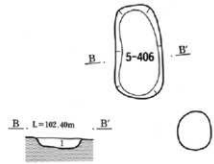
【位置】10H16g　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（0.7×0.5×0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**1暗褐色砂質土　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。

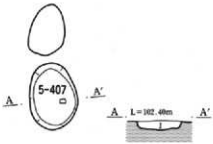
小八木志志貝戸5区406号遺構（遺構106頁）

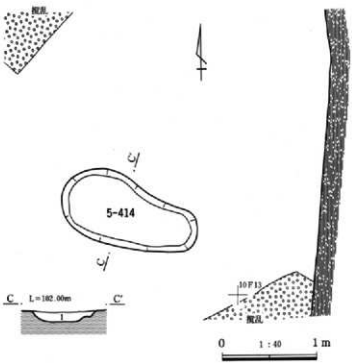
【位置】10H15g　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（1.0×0.5×0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**1灰黄褐色砂質土　As-B軽石含む　**【遺物】**なし　**【備考】**短冊形土坑か。

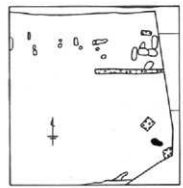




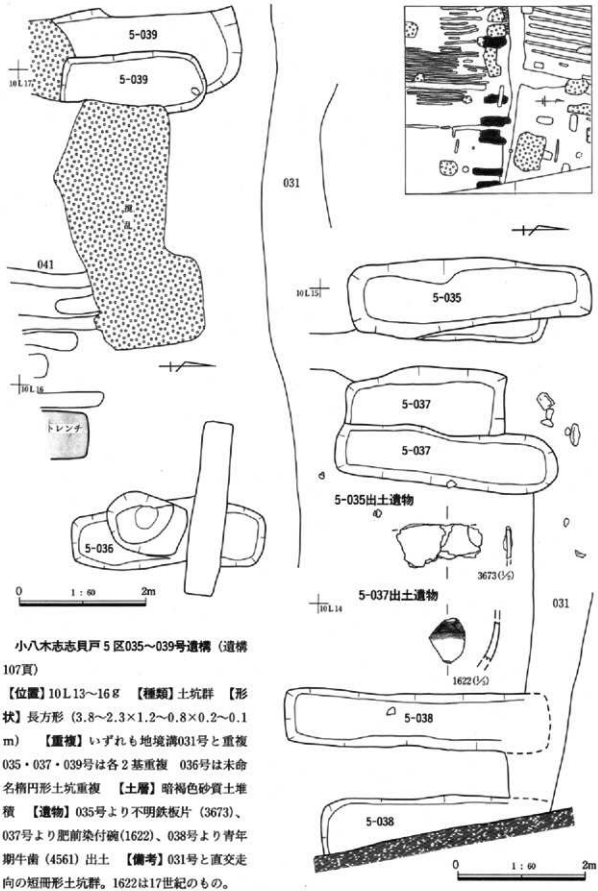






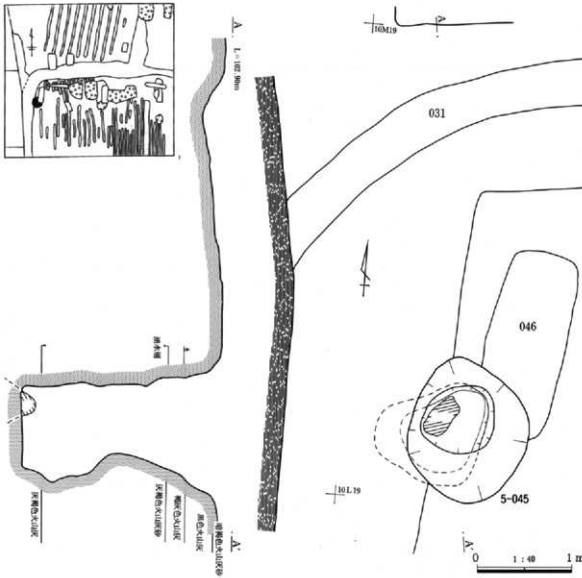


小八木志志貝戸５区414号遺構
（遺構106頁）
【位置】10Ｆ13ｇ　**【種類】**土坑
【形状】楕円形（1.5×0.8×0.1m）
【重複】なし　**【土層】**１黄褐色砂質土　As-B 軽石混在　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。

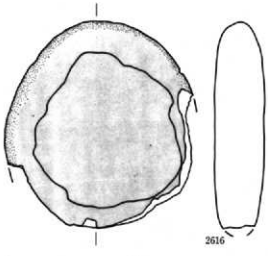


小八木志志貝戸5区035～039号遺構（遺構107頁）

【位置】10L13～16g　**【種類】**土坑群　**【形状】**長方形（3.8～2.3×1.2～0.8×0.2～0.1m）　**【重複】**いずれも地境溝031号と重複　035・037・039号は各2基重複　036号は未命名楕円形土坑重複　**【土層】**暗褐色砂質土堆積　**【遺物】**035号より不明鉄板片（3673）、037号より肥前染付碗(1622)、038号より青年期牛歯（4561）出土　**【備考】**031号と直交走向の短冊形土坑群。1622は17世紀のもの。

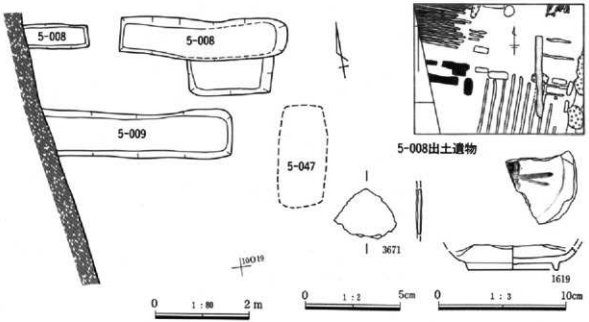


5-045出土遺物

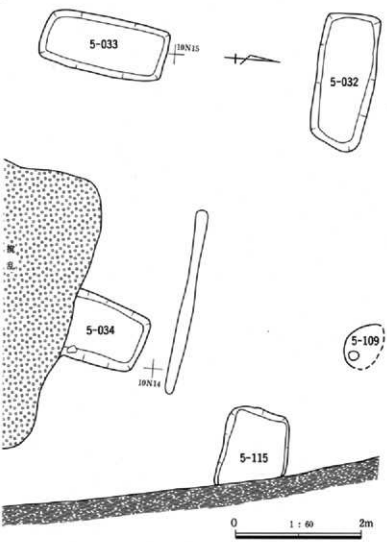


小八木志志貝戸５区045号遺構（遺構・遺物108頁）

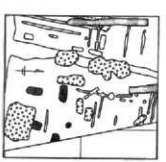
【位置】10Ｌ18ｇ　**【種類】**井戸　**【形状】**円筒形（1.5×1.3×2.1m）**【重複】**地境溝031号、土坑046号と重複　**【土層】**１暗褐色砂質土（～-1.2m）　２暗褐色粘質土（～-1.8m）　３灰褐色砂質土（～-2.1m）　いずれも自然堆積　**【遺物】**関西系？青磁香炉片（1626）、円板状デイサイト（2616）出土　**【備考】**底に木根が残る。やや長期使用。2616は被焼痕がある。重複遺構との関係は不明だが、位置より中世の可能性がある。

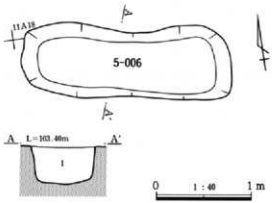


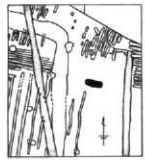
5-008出土遺物



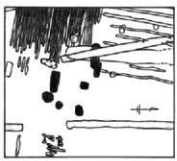
小八木志志貝戸5区008, 009, 047号遺構（遺構・遺物109頁）**【位置】**10OP18, 19 g　**【種類】**土坑群　**【形状】**長方形（4.0～1.2以上×1.0～0.5×0.2m）**【重複】**008号東は未命名土坑と重複　**【土層】**暗褐色砂質土堆積　**【遺物】**008号より瀬戸美濃鉄絵皿（1619）、鉄板片（3671）出土　**【備考】**短冊形土坑群。

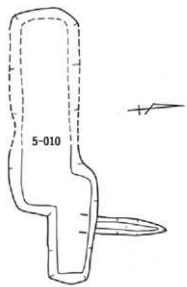


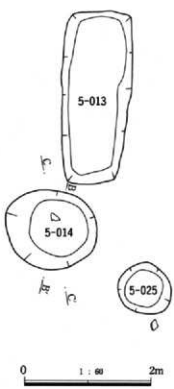


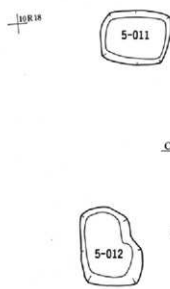


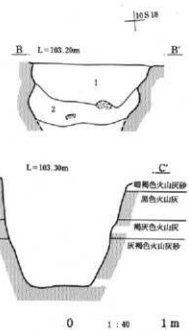
小八木志志貝戸５区006号遺構（遺構110頁）**【位置】**10T17g　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（2.2×0.8×0.4m）**【重複】**なし　**【土層】**１黒褐色砂質土　粘質土混在　**【遺物】**なし　**【備考】**短冊形土坑群。

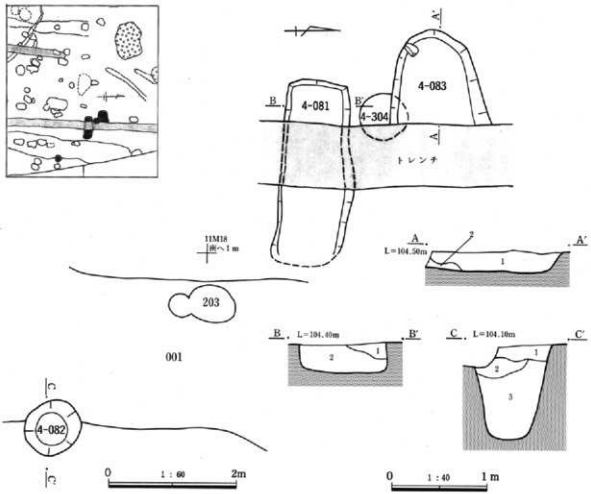












小八木志志貝戸5区032～034, 109, 115号遺構（遺構109頁）

【位置】10MN13, 14g　【種類】土坑群　【形状】長方形（2.1～2.0×1.0～0.8×0.1m）109号ピット状（0.5×0.4m）【重複】なし　【土層】暗褐色砂質土堆積　【遺物】なし　【備考】近世短冊形土坑群。109号は中世か。

小八木志志貝戸5区010～014, 025号遺構（遺構110頁）

【位置】10QR17g　【種類】土坑群・井戸　【形状】010・013号長方形（3.2～2.8×1.1×0.2m）、011・012・025号小長方形（1.2～0.8×0.9～0.8×0.2m）、014号朝顔形（1.5×1.2×1.2m）　【重複】010号は未命名土坑と重複　【土層】014号：1暗褐色砂質土　2黒褐色砂質土　砂含む　【遺物】なし　【備考】010・013号は近世短冊形土坑群。011・012・025号は性格不明。014号は方形枠組みが存在した可能性ある井戸で中世か。

小八木志志貝戸4区081～083, 304号遺構（遺構111頁）

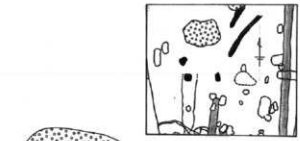
【位置】11LM17, 18g　【種類】土坑群・井戸　【形状】081, 083号長方形（2.5～1.5×1.5～1.1×0.3～0.2m）、304号円形（径0.8m）、082号円形（径0.9深1.0m）　【重複】083号は304号より新　082号は堀001号と重複　【土層】081・083号：1黒褐色砂質土　2　暗褐色砂質土　粘質土塊含む　082号：1暗褐色砂質土　灰褐色土塊含む　2　黒褐色砂質土　3暗褐色砂質土　【遺物】なし　【備考】081・083号は近世短冊形土坑群。082・304号は中世か。

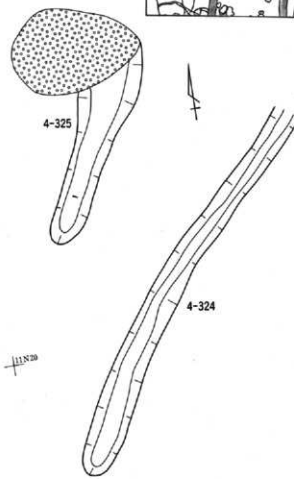
小八木志志貝戸４区059, 069, 078号遺構（遺構112頁）

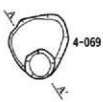
【位置】11M20ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**059号長方形（1.0×0.5×0.3m）、069号楕円形（1.0×1.0×0.2m）、078号不定形（1.0×0.9×0.1m）　**【重複】**078号は溝051号より新か　**【土層】**059号：１暗褐色砂質土　２明黄褐色シルト質土　069号：１暗褐色砂質土　２黒褐色粘質土　シルト粒含む　３　暗褐色粘質土　078号：１黒褐色粘質土　シルト粒混じる**【遺物】**なし　**【備考】**性格時期不明。

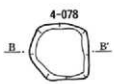
小八木志志貝戸４区324, 325号遺構（遺構112頁）

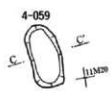
【位置】11N19ｇ　**【種類】**溝　**【形状】**324号（長6.6m上幅0.6m底幅0.3m）325号（長3.0m以上 上幅0.9m底幅0.5m）　**【重複】**なし　**【土層】**不明　**【遺物】**なし**【備考】**北東・南西走向、道路側溝の可能性もあるか。

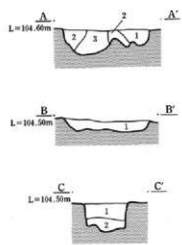






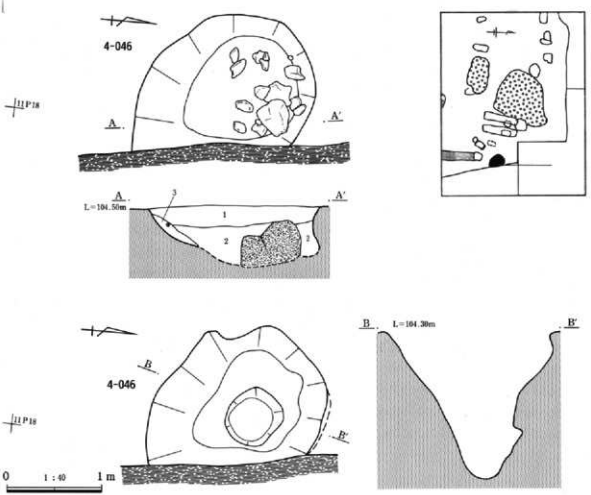






0　1：60　2m

0　1：40　1 m



小八木志志貝戸4区046号遺構（遺構113頁）

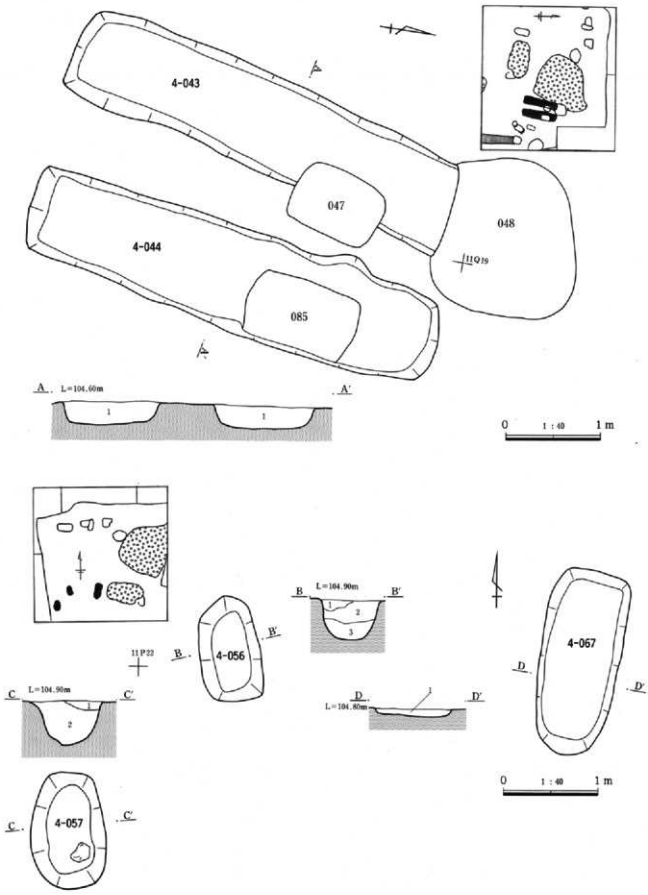
【位置】11P18g　**【種類】**井戸　**【形状】**朝顔形（2.1以上×1.7×1.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**1暗褐色砂質土　2同前　シルト粒混じる　3黒褐色粘質土　シルト粒混じる　**【遺物】**なし　**【備考】**底に方形枠組みがあったか。

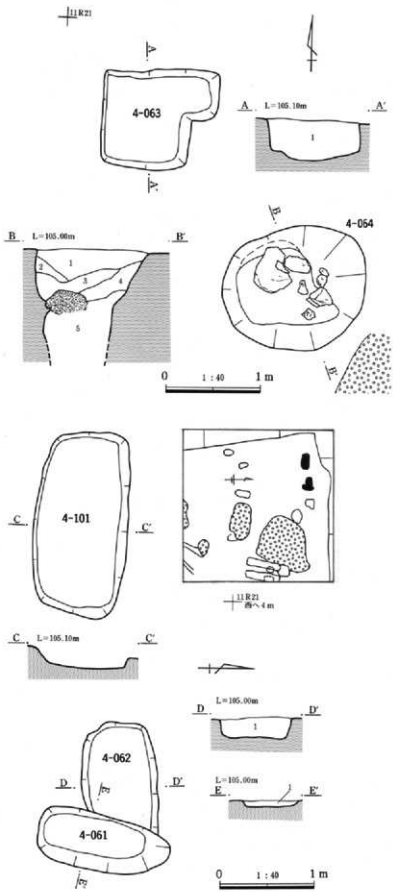
小八木志志貝戸4区043,044号遺構（遺構114頁）

【位置】11P18,19g　**【種類】**土坑群　**【形状】**長方形（4.6×1.0×0.2m）　**【重複】**土葬墓047,085号、土坑048号より新　**【土層】**1にぶい黄褐色砂質土堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**短冊形土坑群。

小八木志志貝戸4区056,057,067号遺構（遺構114頁）

【位置】11OP20,21g　**【種類】**土坑群　**【形状】**056号長方形状（1.1×0.6×0.4m）、057号楕円形（1.3×0.8×0.5m）、067号長方形（2.0×0.8×0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**056号：1黒褐色粘質土　シルト粒混じる　2暗褐色砂質土　3黒褐色粘質土　砂質土混在　057号：1暗褐色砂質土　2黒褐色粘質土　砂質土混在　067号：1暗褐色砂質土　**【遺物】**なし　**【備考】**067号は近世短冊形土坑。056・057号は性格時期不明。


4-043
4-044
047
048
085
11Q 19
A
A'
L=104.60m
1
1
0
1 : 40
1 m
B
B'
L=104.90m
1
2
3
4-056
11P 22
C
C'
L=104.90m
2
D
D'
L=104.80m
1
4-057
0
1 : 40
1 m
4-057



小八木志志貝戸4区063号遺構(遺構115頁)

【位置】11Q20g　**【種類】**土坑**【形状】**長方形2基重複(1.2×1.1×0.4m)　**【重複】**重複関係不明**【土層】**1黒褐色砂質土　粘質土塊混じる　**【遺物】**なし　**【備考】**近世の短冊形土坑の2基重複だろう。

小八木志志貝戸4区064号遺構(遺構115頁)

【位置】11Q20g　**【種類】**井戸**【形状】**円筒形状(1.5×1.3×1.0m以上)**【重複】**なし　**【土層】**1黒褐色粘質土　シルト塊含む　2同前　シルト塊少ない　3褐色砂質土　4黒褐色砂質土　粘質土混在　5同前　灰色粒含む　**【遺物】**なし　**【備考】**底未検出だが方形に近く枠組みがあった可能性。近世か。

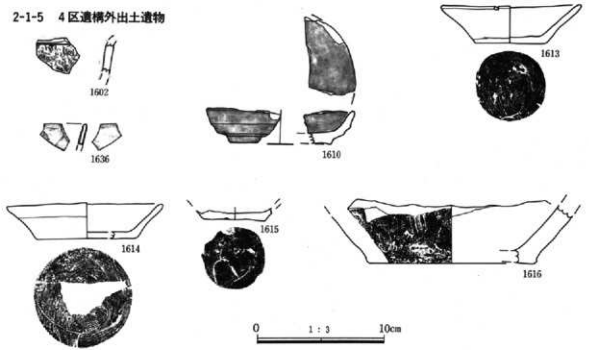
小八木志志貝戸4区101号遺構(遺構115頁)

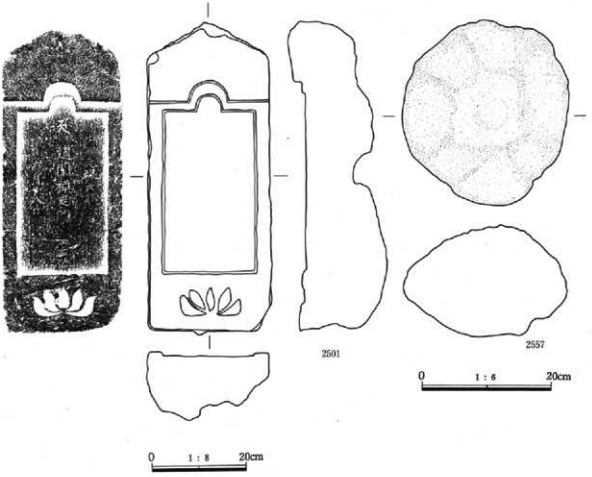
【位置】11Q21g　**【種類】**土坑**【形状】**長方形(2.0×1.0×0.2m)**【重複】**なし　**【土層】**不明**【遺物】**なし　**【備考】**近世の短冊形土坑か。

小八木志志貝戸4区061，062号遺構(遺構115頁)

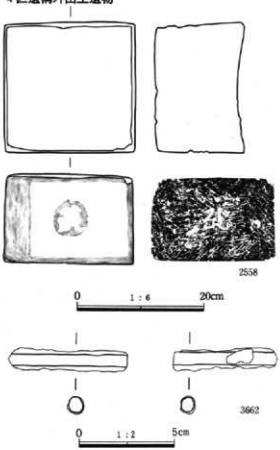
【位置】11Q21g　**【種類】**土坑　**【形状】**061号長方形(1.4×0.6×0.1m)、062号長方形(1.1以上×0.8×0.2m)　**【重複】**061号が062号より新　**【土層】**062号：1暗褐色砂質土　粘質土粒混じる　061号：1暗褐色砂質土　**【遺物】**なし　**【備考】**共に近世短冊形土坑か。

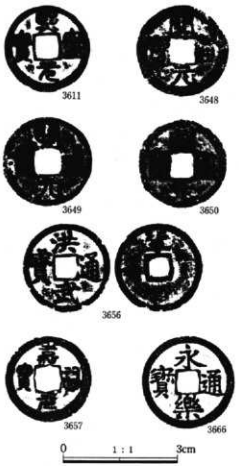
2-1-5　4 区遺構外出土遺物



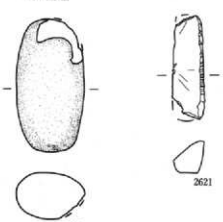


4区遺構外出土遺物

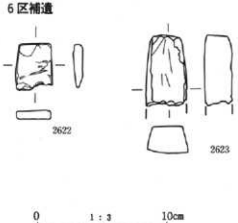


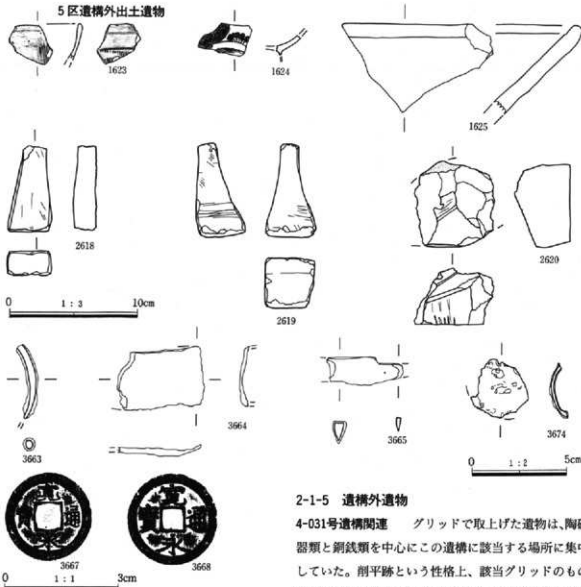


3区補遺



6区補遺





2-1-5　遺構外遺物

4-031号遺構関連　グリッドで取上げた遺物は、陶磁器類と銅銭類を中心にこの遺構に該当する場所に集中していた。削平跡という性格上、該当グリッドのものは同遺構の遺物として捉えた方がより適当であるため、全て移管した。

４区その他　多くは４区南端の002号遺構周辺や溝001号･051号の周辺で出土した。上記削平跡と似た時期の遺物や、破壊された土葬墓出土の可能性があるものが見られる。それに対して焼締陶器コネ鉢（1616）や浙江系青磁碗片（1636）は、墓地形成以前の居館に関する遺物と考えられる。

粗粒輝石安山岩製の片面加工舟形墓標（2501）には元禄６年の銘がある。この遺物は４区の表土中から出土したもので、正確な出土位置は不明である。この墓標に直接かかわる可能性のある遺構は検出されていないため、本来的にこの遺物が４区にあったかについては断言できない。

３・６区補遺　既報告（『小八木志志貝戸遺跡群２』）で漏れた石製品を載せた。砥沢石砥石（2621）は３-002号遺構出土の中世のものである。その他は遺構外出土で、６区の２点の砥石は近世のものだろう。

2-2　小八木井野川遺跡

この遺跡での検出遺構は、次のとおりである。

近世	道路 ……3	小道 ……2	溝 ……1	畠 ……1
	土坑……11			
中世	堀 ……2	溝 ……3	掘立柱建物 …4	ピット列 ……1
	竪穴 ……2	池？ ……2	井戸 ……7	土坑……10
古代	溝 ……7	耕地 ……1	掘立柱建物 …2	井戸 ……1
	土坑 ……5			
古墳	溝 ……7	畠 ……1	土坑 ……8	
弥生	溝 ……5	柱穴 ……1	ピット ……5	土坑 ……3
縄文	溝 ……1	埋甕 ……1	土坑……10	ピット ……4
	掘り込み …1			
時期不明	土坑 ……3	ピット群 …1		

以上のうち、近世と中世は第Ⅰ面、古代・古墳は第Ⅱ面、そして弥生・縄文は第Ⅲ面で概ね検出した。時期不明遺構は第Ⅱ・Ⅲ面でのものである。

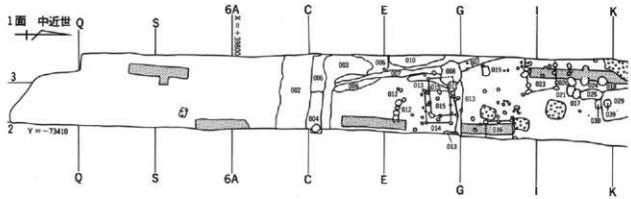
最もまとまっている遺構群は中世のもので、堀・溝で囲まれた内部に掘立柱建物・竪穴・井戸が集中している居館をなしている。

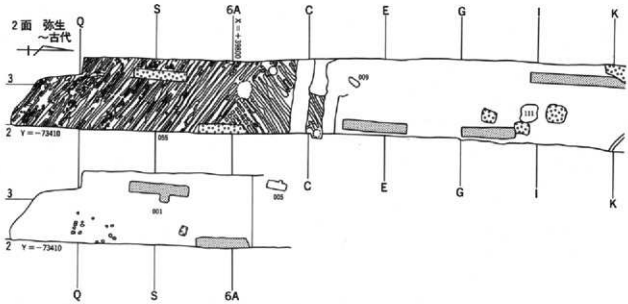
近世・古代・古墳は畠を主体とする耕作地関係の遺構群だが、散在する形である。

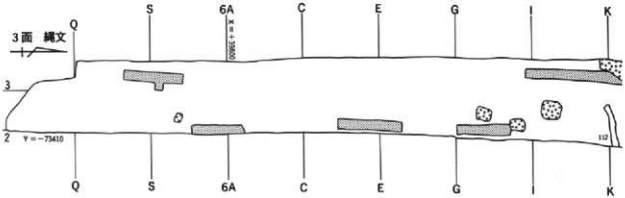
弥生と縄文は、それぞれ居住に関係すると思われる遺構群であるが、検出状況は断片的であり、調査範囲は中心部とは考えにくい。

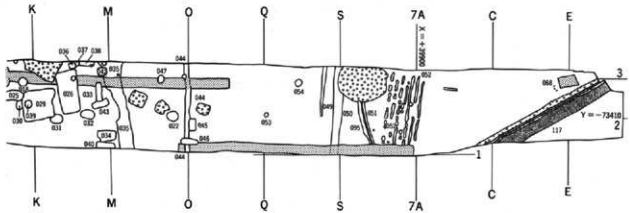
なお調査範囲北端部の古代の溝056・069号遺構は、高崎市教育委員会が「小八木遺跡」調査の際に検出したものと同一の遺構の延長と見ることができる。

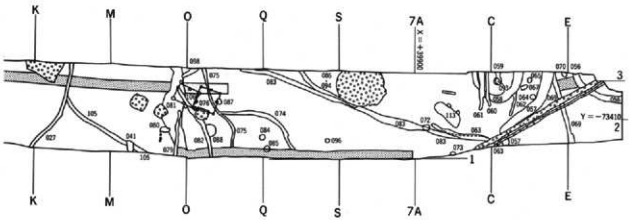
調査に至る経過（3頁）及び調査経過と方法（9頁）に記したように、本遺跡は「小八木遺跡」と同一の遺跡であるが、小八木志貝戸遺跡6区と同様に当初調査対象遺跡としてされないままに本バイパス用地の西側半分が調査されないで破壊されてしまった。そのため調査できたのは半分以下の狭い幅で、多くの遺構は遺憾ながら断片的な検出状態にとどまざるをえなかったことを付記する。

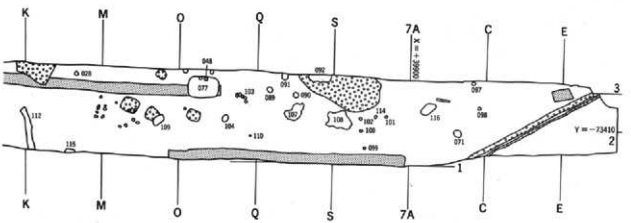

1面　中近世
Q
S
6A
X=+38600
C
E
G
I
K
3
2
Y=−73410
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
018
019
020
021
022
023
024
025
026
027
028
029
030


2面　弥生
～古代
Q
S
6A
X=+38600
C
E
G
I
K
3
2
Y=−73410
009
111
055
001
008


3面　縄文
Q
S
6A
X=+38600
C
E
G
I
K
3
2
Y=−73410
112


K
M
O
Q
S
7A
C
E
X＝−39900
Y＝−73410
1
2
3


K
M
O
Q
S
7A
C
E
X＝−39900
Y＝−73410
1
2
3


K
M
O
Q
S
7A
C
E
X＝−39900
Y＝−73410
1
2
3

0　1:500　10m

2-2-1　中近世

この時期の遺構は、中世居館関連遺構と近世耕作地関連遺構に分かれる。主体をなし一体性がある中世居館関連遺構について、全体の概要をまず説明する。

中世居館

範囲は堀002号が南端をなし、溝035号が北限を形成する内法間50mである。狭い幅11mの調査範囲は、方形居館と思われるものの西端側部分に相当したと推定できる。

南端部では、境界をなす堀の南西角近くを検出し、併せて排水関連遺構が集中して検出した。内部施設は、掘立柱建物・方形竪穴・井戸である。掘立柱建物は、主に南側で計４棟の配置を確認した。また２棟の方形竪穴は、北側で検出した。井戸は６基が全体に散っていた。その他に性格不明の土坑が含まれている。

これらの遺構群は、少なくとも２～３時期の重複がある。この地域は井野川の旧流路に近く何らかの状態で水の影響を受けており、検出地山面の灰褐色粘質土(Ⅳ層）と埋土の褐色砂質土(Ⅱ層）は色調が類似して、確認は簡単ではなかった。また調査可能範囲の幅の狭さのため、個々の遺構の性格は十分には把握できていない。

近世耕作地関連遺構

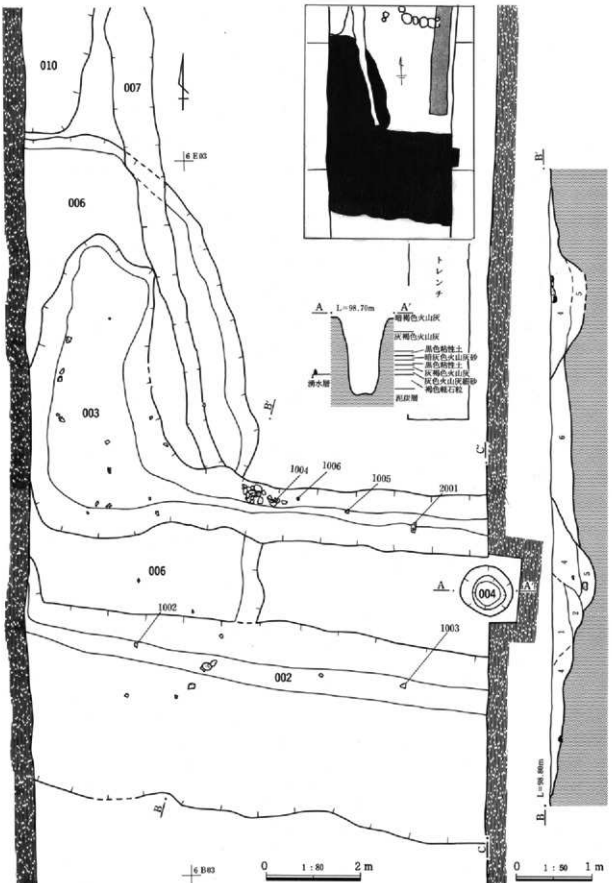
北端で現舗装農道下にあった道路遺構を確認したが、確認面は浅く舗装面の影響が残り良好な状態ではなかった。他に地境溝や畠を検出した。

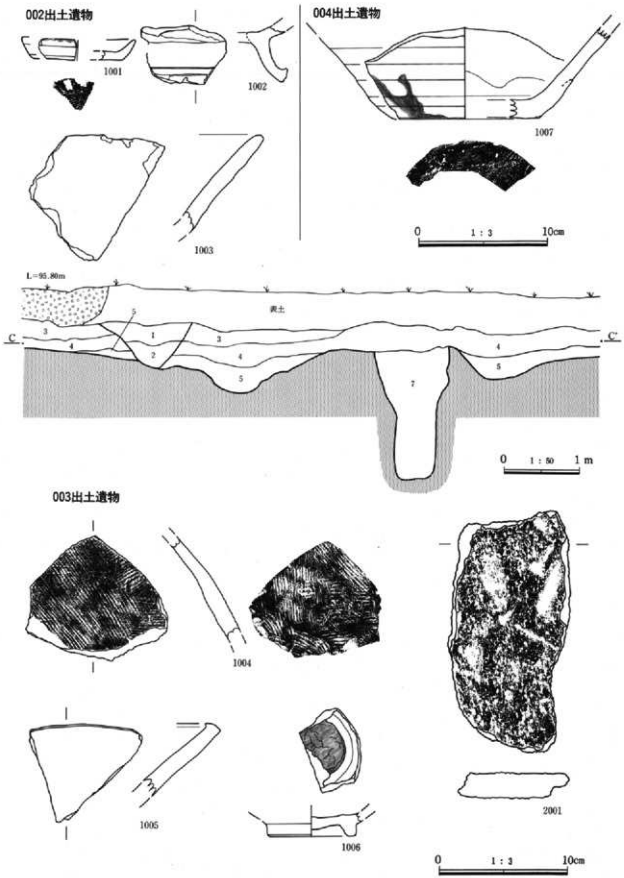
小八木井野川002号遺構（遺構123頁・遺物124頁）　**【位置】**６Ｂ02，03ｇ　**【種類】**堀　**【形状】**東西走向長10m以上（上幅2.1底幅0.3深0.6m走向N80°W）**【重複】**006号より新　**【土層】**１褐色砂質土　As-A混じる　鉄分沈着　２暗褐色砂質土　砂層２層以上含む　３暗褐色砂質土　４同前　As-B含む　５同前　より暗色　**【遺物】**須恵質土器壺（1001，1002）、瓦質土器コネ鉢（1003）出土　**【備考】**西端部で北側に曲がる傾向がありＬ字形走向だろう。

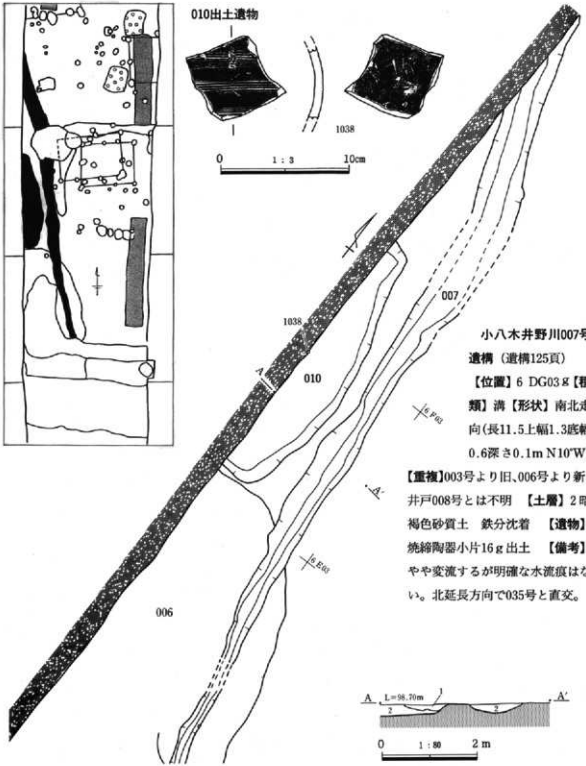
小八木井野川003号遺構（遺構123頁・遺物124頁）　**【位置】**６Ｃ01，Ｂ03ｇ　**【種類】**堀　**【形状】**Ｌ字形走向10m以上×６ｍ（東西走向上幅1.4底幅0.2mN83°W、南北走向上幅2.6底幅1.8深0.5m東西走向）**【重複】**006・007号より新　**【土層】**002号４・５層　**【遺物】**上層より白磁碗（1006）珠洲系壺（1004）瓦質土器コネ鉢（1005）、板碑片（2001）出土　**【備考】**002号とはほとんど同じ走向で間隔が狭いが、それとの新旧関係よりも、北に５ｍ離れた逆Ｌ字形溝013号と同一の遺構と考えたい。とすると南北内側間隔16.5mの方形区画の一部をなすことになる。

小八木井野川004号遺構（遺構123，124頁・遺物124頁）　**【位置】**６Ｃ01ｇ　**【種類】**井戸　**【形状】**円筒形（径1.1深1.6m）**【重複】**なし　**【土層】**７（～－0.4m）暗褐色砂質土　灰褐色土混在　（～－0.8m）黒褐色砂質土　灰褐色土混在　（～－1.7m）黒褐色砂質土　灰色粘質土混在　（～－1.8m）灰褐色砂質土　自然堆積　**【遺物】**瓦質土器コネ鉢（1007）出土　**【備考】**短期間の使用。002・003号とは時期は異なる。

小八木井野川006号遺構（遺構123頁）　**【位置】**６Ｃ02ｇ　**【種類】**池？　**【形状】**楕円形（10×５ｍ以上×0.3m）　**【重複】**002・003・007号より旧　**【土層】**６暗褐色砂質土　ややシルト状で硬い　**【遺物】**焼締陶器小片92ｇ出土　**【備考】**北に接する010号と同じ性格の池状遺構か。


010
007
006
003
006
002
004
1002
1003
1004
1006
1005
2001
6E03
6B03
トレンチ
A
A'
L=98.70m
暗褐色火山灰
灰褐色火山灰
黒色粘性土
明灰色火山灰砂
黒色粘性土
灰褐色火山灰
灰色火山灰細砂
褐色粗石粒
焼土層
泥炭層
B
B'
L=98.80m
0
1:80
2 m
0
1:50
1 m


002出土遺物
1001
1002
1003
004出土遺物
1007
0
1：3
10cm
L=95.80m
表土
C
C'
1
2
3
4
5
7
0
1：50
1 m
003出土遺物
1004
1005
1006
2001
0
1：3
10cm



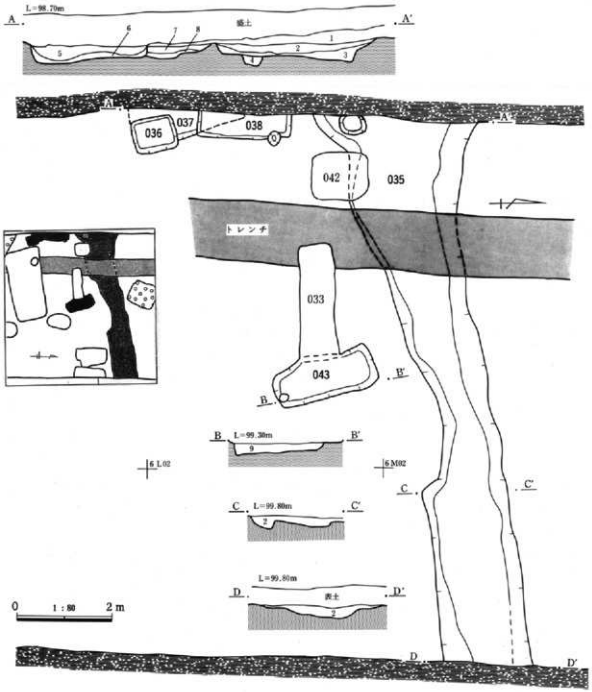
小八木井野川007号遺構（遺構125頁）

【位置】6 DG03 g **【種類】**溝 **【形状】**南北走向（長11.5上幅1.3底幅0.6深さ0.1m N10°W）

【重複】003号より旧、006号より新、井戸008号とは不明 **【土層】**2暗褐色砂質土 鉄分沈着 **【遺物】**焼締陶器小片16 g 出土 **【備考】**やや変流するが明確な水流痕はない。北延長方向で035号と直交。

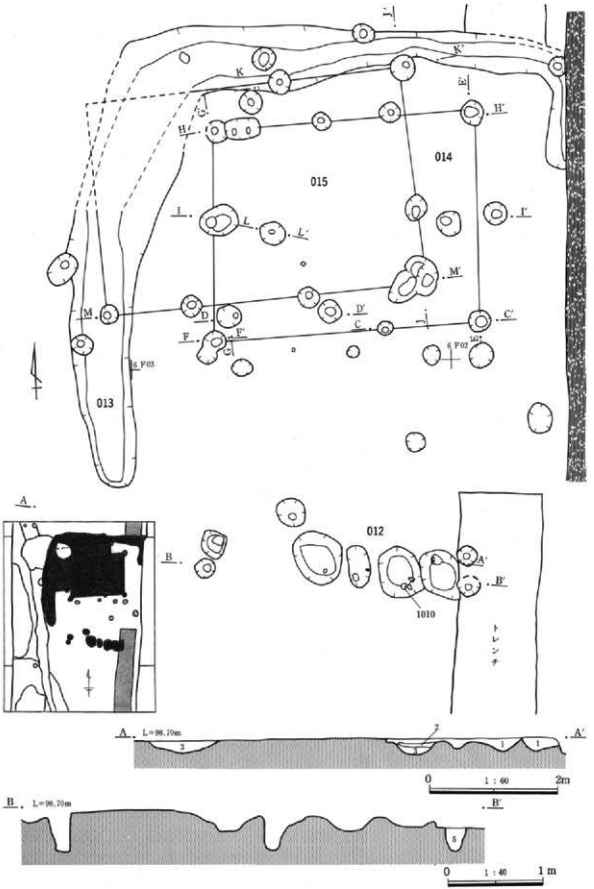
小八木井野川010号遺構（遺構・遺物125頁）

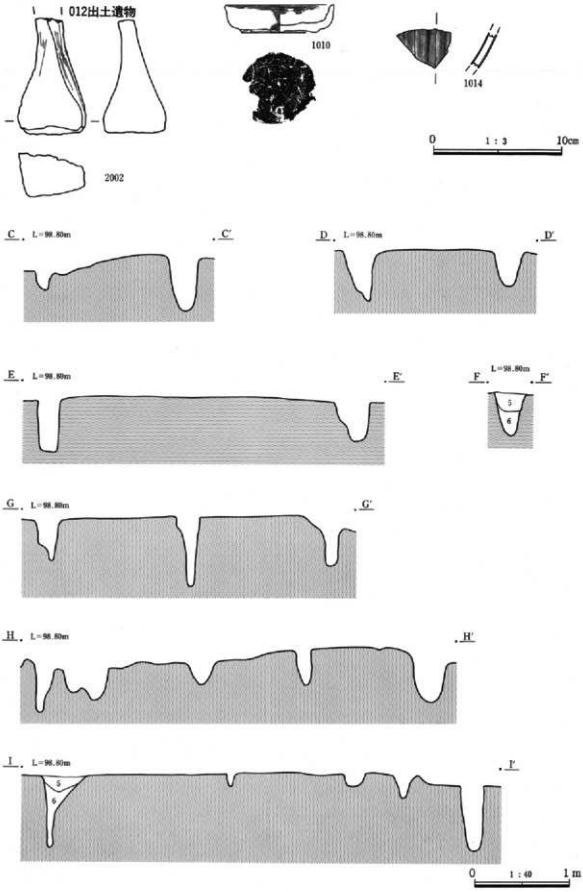
【位置】6 E03 g **【種類】**池？ **【形状】**楕円形？（7×1.5m以上×0.1m） **【重複】**006号に近接 **【土層】**1暗褐色砂質土 硬く鉄分沈着 2暗褐色砂質土 鉄分沈着 **【遺物】**焼締陶器壺（1038）出土 **【備考】**南に接する006号と同じ性格の池状遺構か。

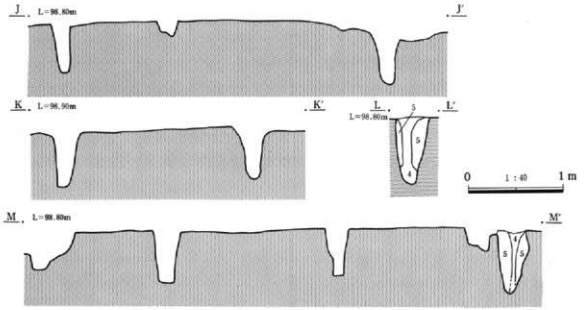


小八木井野川035号遺構（遺構126頁）　**【位置】**６M01～L03ｇ　**【種類】**溝　**【形状】**東西走向12m以上（N80°W上幅2.5底幅2.0深0.4m）　**【重複】**土坑042号より旧　**【土層】**１暗褐色砂質土　As-B含む　２同前暗色　３黒褐色砂質土　シルト粒含む　４黒褐色粘質土　シルト塊混在　**【遺物】**焼締陶器小片14ｇ出土　**【備考】**007号延長方向と西側で直交。

小八木井野川036～038, 043号遺構（遺構126頁）　**【位置】**６L02, 03ｇ　**【種類】**土坑群　**【形状】**長方形（036号0.9×0.7×0.5m、037号2.7×0.7以上×0.4m、038号1.9×0.5m以上×0.3m、043号2.2×0.9×0.2m）**【重複】**037号・038号より新　036・037号重複　**【土層】**５暗褐色砂質土　粘質土粒混在　６黒褐色砂質土　７暗褐色砂質土シルト粒多く含む　８黒褐色砂質土　シルト塊混在　９黒褐色砂質土　粘質土粒多く含む　**【遺物】**037号より焼締陶器小片34ｇ出土　**【備考】**036号以外は人為的埋没。


015
014
013
012
1010
トレンチ
A
A'
B
B'
L=98.70m
0
1 : 60
2m
1 : 40
1 m


012出土遺物
1010
1014
2002
0
1 : 3
10cm
C
L=98.80m
C'
D
L=98.80m
D'
E
L=98.80m
E'
F
L=98.80m
F'
3
4
G
L=98.80m
G'
H
L=98.80m
H'
I
L=98.80m
I'
5
6
0
1 : 40
1 m



小八木井野川013号遺構（遺構127頁）

【位置】 6E03～F01g **【種類】** 溝 **【形状】** 逆L字形走向東西南北各7m（ほぼ座標方向上幅1.2底幅0.7深0.2m） **【重複】** 溝007号 井戸008・011号 掘立014号と重複 **【土層】** 暗褐色砂質土堆積 **【遺物】** なし **【備考】** 南側の003号と同一で方形区画（南北間隔17m）を形成。東端で一部南折傾向。

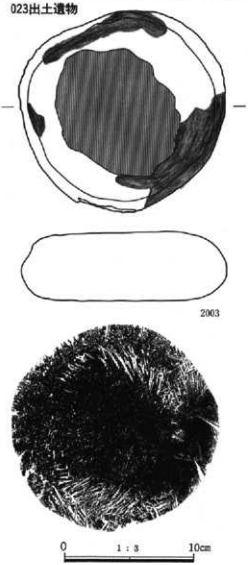
小八木井野川014,015号遺構（遺構127～129頁）

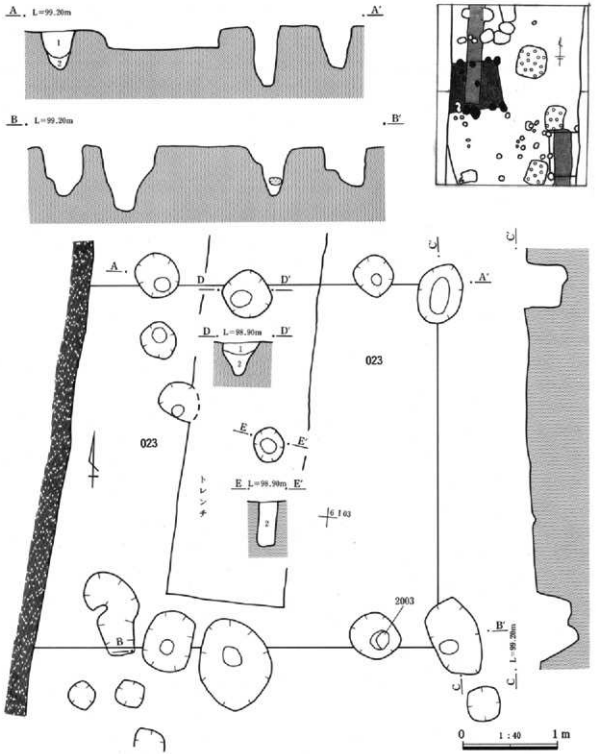
【位置】 6F01,02g **【種類】** 掘立柱建物 **【形状】** 東西棟（014号3×2間 N87°E 4.2×3.4m）、015号：3×1間主軸N85°E5.1×0.4m） **【重複】** 溝013号と重複 **【土層】** 4にぶい黄褐色砂質土 5同前 シルト質土混在 6暗褐色シルト質土 締まり良く硬い **【遺物】** なし **【備考】** 同一建物の建替えか、他にもピットが多くまだ存在した可能性大。

小八木井野川012号遺構（遺構127頁・遺物128頁）

【位置】 6E01g **【種類】** ピット列 **【形状】** 東西走向3.7m 4個のピット並ぶ（N83°W 径0.7深0.2m） **【重複】** 014,015号関係ピットと重複 **【土層】** 1にぶい黄褐色砂質土 2黒褐色粘質土 粘質土塊混在 3暗褐色砂質土 **【遺物】** 竜泉窯青磁碗(1014)、かわらけ灯明皿(1010)、砥沢石砥石(2002)出土 **【備考】** 形状から掘立の柱穴とは考えにくく、何らかの地境痕か。

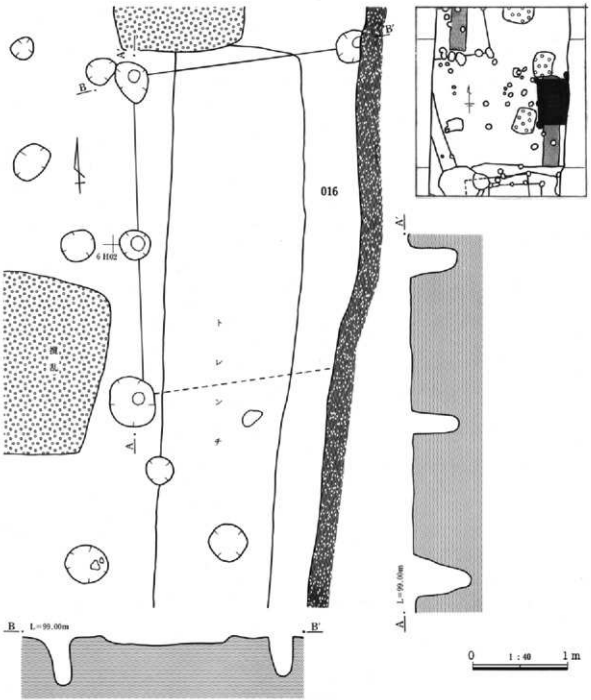
023出土遺物





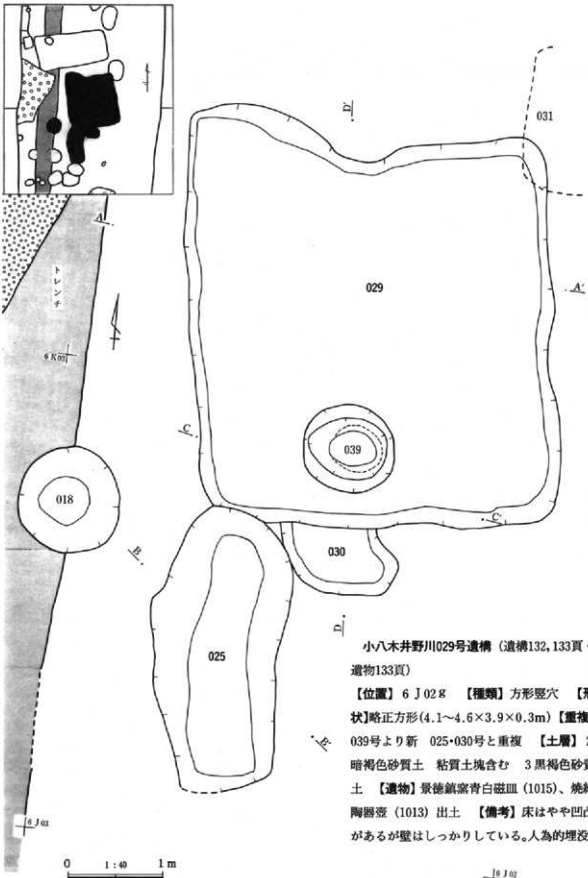
小八木井野川023号遺構（遺構130頁・遺物129頁）

【位置】６H02ｇ　**【種類】**掘立柱建物　**【形状】**東西棟？（２？×１間　N87°E　4.3以上×3.8m）　**【重複】**なし　**【土層】**１にぶい黄褐色砂質土　シルト質土混在　２暗褐色シルト質土　締まり良く硬い　**【遺物】**粗粒輝石安山岩礫石？（2003）出土　**【備考】**８個の柱穴は同一建物の建替えと思われ、他にも建物が重複している可能性大。2003は被焼しており、火災も考えられる。



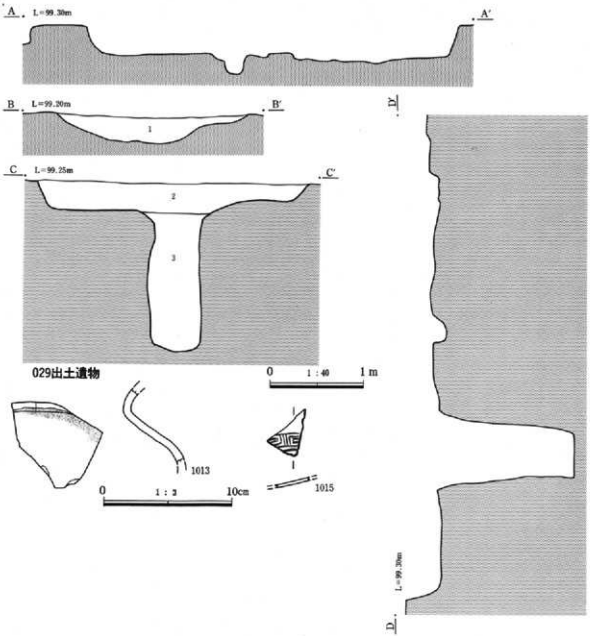
小八木井野川016号遺構（遺構131頁）

【位置】6 G01 g　**【種類】**掘立柱建物　**【形状】**東西棟？（2？×2間　N83°E？　2.4以上×3.4m）　**【重複】**なし　**【土層】**にぶい黄褐色砂質土堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**4個の柱穴のみでやや歪むが、柱穴形状や埋土は他の掘立と同様である。



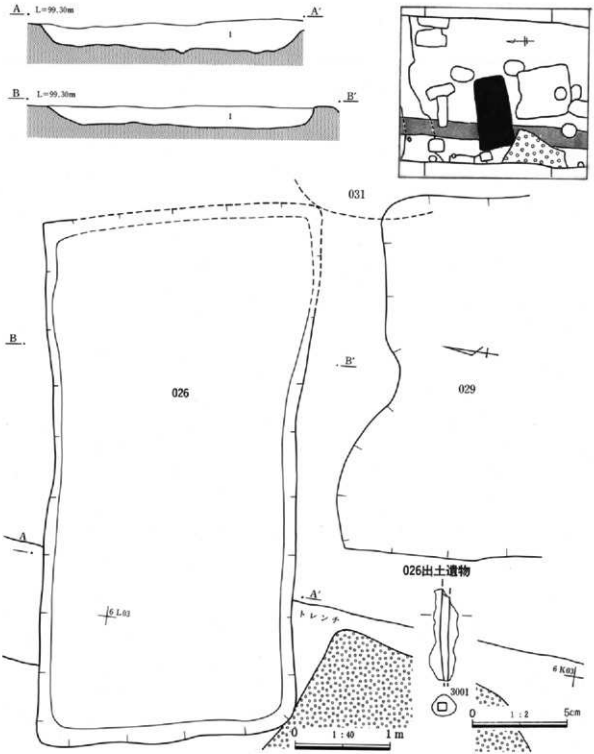
小八木井野川029号遺構（遺構132，133頁・遺物133頁）

【位置】６Ｊ02ｇ　**【種類】**方形竪穴　**【形状】**略正方形(4.1～4.6×3.9×0.3m)**【重複】**039号より新　025･030号と重複　**【土層】**２暗褐色砂質土　粘質土塊含む　３黒褐色砂質土　**【遺物】**景徳鎮窯青白磁皿（1015）、焼締陶器壺（1013）出土　**【備考】**床はやや凹凸があるが壁はしっかりしている。人為的埋没。



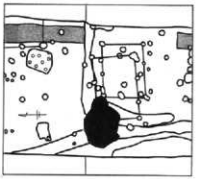
小八木井野川025,030号遺構（遺構132,133頁）

【位置】６Ｊ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**025号：楕円形断面皿状（3.1×1.5×0.3m）、030号：不定形（1.2×0.8以上×0.4m）　**【重複】**029号と重複　025・030号の関係不明**【土層】**025号：１暗褐色砂質土　粘質土塊混在　030号：029号埋土とほぼ同質　**【遺物】**なし　**【備考】**025号は人為埋没だが掘り方は029号とは異なる。030号は029号の突出部の可能性もありうるが性格不明。

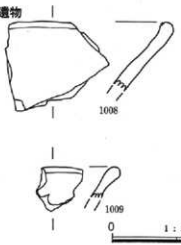


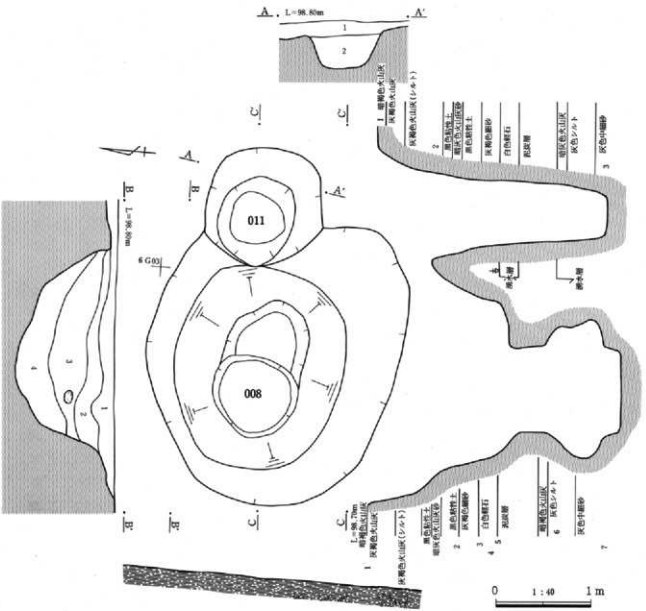
小八木井野川026号遺構（遺構・遺物134頁）

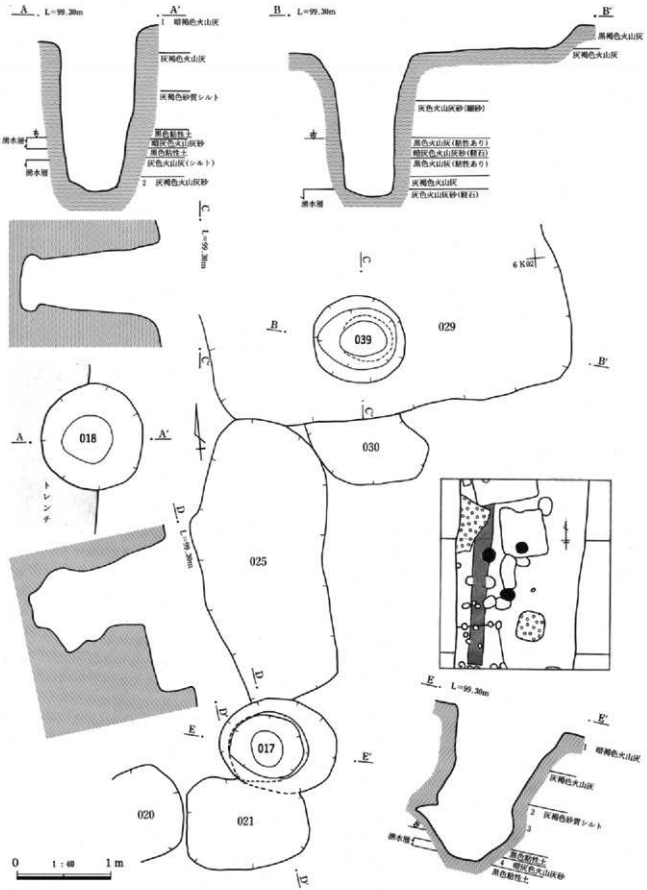
【位置】６Ｋ02ｇ　**【種類】**方形竪穴　**【形状】**長方形(約5.7×2.7×0.3m)　**【重複】**039号より新　025・030号と重複　**【土層】**１暗褐色砂質土　シルト土塊混在し硬い　**【遺物】**鉄釘（3001）出土　**【備考】**床は029号より凹凸が少ない。人為的埋没。



008出土遺物


1008
1009
0
1：3
10cm


A
A'
L=98.80m
1
2
B
B'
L=98.80m
C
C'
L=98.70m
011
008
6 G03
0
1：40
1m


A
L=99.30m
A'
1 暗褐色火山灰
灰褐色火山灰
灰褐色砂質シルト
黒色粘性土
暗灰色火山灰砂
黒色粘性土
灰色火山灰(シルト)
2 灰褐色火山灰砂
湧水層
湧水層
B
L=99.30m
B'
黒褐色火山灰
灰褐色火山灰
灰色火山灰砂(細砂)
黒色火山灰(粘性あり)
暗灰色火山灰砂(粗石)
黒色火山灰(粘性あり)
灰褐色火山灰
灰色火山灰砂(粗石)
湧水層
C
L=99.30m
C'
6 K002
029
039
018
トレンチ
030
025
D
L=99.30m
D'
017
020
021
E
L=99.30m
E'
1 暗褐色火山灰
灰褐色火山灰
2 灰褐色砂質シルト
3
湧水層
黒色粘性土
暗灰色火山灰砂
黒色粘性土
0
1:40
1 m

小八木井野川008号遺構（遺構・遺物135頁）

【位置】６Ｆ02ｇ　**【種類】**井戸　**【形状】**円筒形（6.0×2.7×2.6m）東側中位（－1.4m）にテラス（0.7×0.6m）　**【重複】**溝007・013号、掘立015号、井戸011号と重複　**【土層】**１暗褐色砂質土　２黒褐色粘質土　暗褐色砂質土混在　３暗褐色砂質土　鉄分斑状混在　４黒褐色砂質土　鉄分混在　**【遺物】**山茶碗（1009）瓦質土器コネ鉢（1008）、焼締陶器小片247ｇ曲物小片出土　**【備考】**長期間の使用。テラスは足場状。

小八木井野川011号遺構（遺構135頁）

【位置】６Ｆ02ｇ　**【種類】**井戸　**【形状】**円筒形（1.3×1.3×2.6m）　**【重複】**008号より旧　**【土層】**１暗褐色砂質土　２黒褐色粘質土　暗褐色砂質土混在　**【遺物】**なし　**【備考】**短期間の使用。

小八木井野川018号遺構（遺構136頁）

【位置】６Ｊ02ｇ　**【種類】**井戸　**【形状】**円筒形（1.1×1.0×1.8m）　**【重複】**なし　**【土層】**（～－0.4m）暗褐色砂質土　灰褐色土混在　（～－0.8m）黒褐色砂質土　灰褐色土混在　（～－1.7m）黒褐色砂質土　灰色粘質土混在　（～－1.8m）灰褐色砂質土　**【遺物】**なし　**【備考】**短期間の使用。人為的埋没。

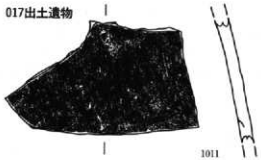
小八木井野川039号遺構（遺構136頁）

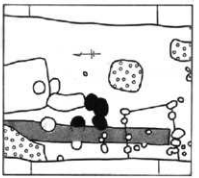
【位置】６Ｊ02ｇ　**【種類】**井戸　**【形状】**円筒形（1.0×0.9×1.5m）　**【重複】**029号より旧　**【土層】**黒褐色砂質土堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**自然埋没だが、長期間の使用痕はない。

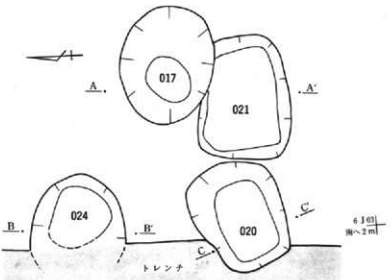
小八木井野川017号遺構（遺構136頁・遺物138頁）

【位置】６Ｉ02ｇ　**【種類】**井戸　**【形状】**円筒形（1.2×0.9×1.6m）　**【重複】**021号より新　025号と重複　**【土層】**（～－0.4m）暗褐色砂質土　（～0.8m）黒褐色砂質土　（～1.4m）黒褐色土　（～－1.6m）黒色砂質土　**【遺物】**丹波系壺（1011）、焼締陶器小片33ｇ出土　**【備考】**長期間の使用。

017出土遺物

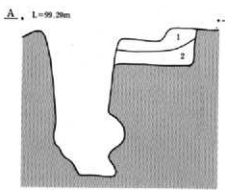






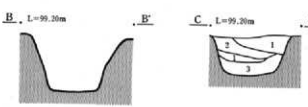
小八木井野川020号遺構（遺構138頁）

【位置】６Ｉ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**箱形（1.2×1.0×0.4m）　**【重複】**021号近接　**【土層】**１褐色砂質土　２にぶい黄褐色砂質土　シルト土塊混在　３黒褐色砂質土　硬い　**【遺物】**焼締陶器小片24ｇ出土　**【備考】**性格不明。



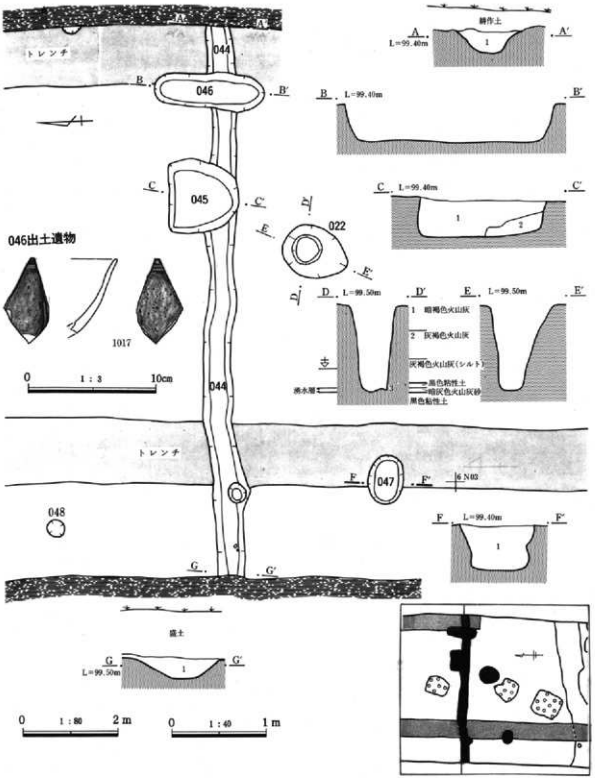
小八木井野川021号遺構（遺構138頁）

【位置】６Ｉ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**箱形（1.3×1.0×0.4m）　**【重複】**017号より旧　020号近接**【土層】**１にぶい黄褐色砂質土　２暗褐色砂質土　**【遺物】**焼締陶器小片44ｇ出土　**【備考】**性格不明。



小八木井野川024号遺構（遺構138頁）

【位置】６Ｊ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**円形？（1.0×0.8以上×0.4m）　**【重複】**なし　**【土層】**褐色砂質土堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。



小八木井野川044号遺構（遺構139頁）

【位置】6 P01～03 g　**【種類】**溝　**【形状】**東西走向11.8m（N90°W上幅0.9底幅0.3深0.2m）　**【重複】**045・046号より旧　**【土層】**1 褐色砂質土　**【遺物】**なし　**【備考】**調査前地割とほぼ平行。水流痕なし。

小八木井野川022号遺構（遺構139頁）

【位置】6 N01 g　【種類】井戸　【形状】朝顔形（1.4×1.0以上×1.8m）　【重複】なし　【土層】（～－0.3m）暗褐色砂質土　灰褐色砂質土混在　（～－0.5m）黒色粘質土　（～－1.2m）暗褐色砂質土　灰褐色砂質土混在　（－1.5m）黒褐色砂質土　砂礫混在　（－1.8m）黒褐色砂質土　【遺物】なし　【備考】短期間使用、人為埋没。

小八木井野川045, 046号遺構（遺構・遺物139頁）

【位置】6 P01 g　【種類】土坑　【形状】045号：三角形（1.6×1.5×0.4m）、046号：長方形（2.3×0.8×0.4m）　【重複】044号より新　【土層】045号 1 暗褐色砂質土　シルト土粒混じる　2 褐色砂質土　シルト土塊混在　【遺物】046号竜泉窯系画花文青磁碗（1017）　【備考】046号は近代短冊形土坑、045号も人為埋没で同様の性格か。

小八木井野川047号遺構（遺構139頁）

【位置】6 M02 g　【種類】土坑　【形状】楕円形（1.0×0.7×0.5m）　【重複】なし　【土層】1 暗褐色砂質土　礫含む　【遺物】なし　【備考】性格不明。

小八木井野川049, 050号遺構（遺構141頁）

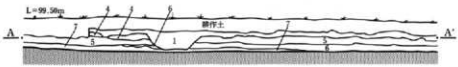
【位置】6 R01, 02 g　【種類】道路か　【形状】東西走向（N86°W長12m以上）路面幅1.5m両側溝（049号：上幅0.5底幅0.3深0.2m、050号：上幅1.3底幅0.5深0.4m）　【重複】なし　【土層】1 褐色砂質土　2 暗褐色砂質土　3 褐色砂質土　黒褐色粘質土粒含む　4 灰褐色粘質土　Hr-FA 含む　5 黒褐色粘質土　As-C 含む　6 暗褐色粘質土　As-C 混在　7 黒褐色粘質土　橙色粒含む　【遺物】なし　【備考】調査前地割とほぼ平行。南側溝は東側で確認できない。顕著な硬化面はない。

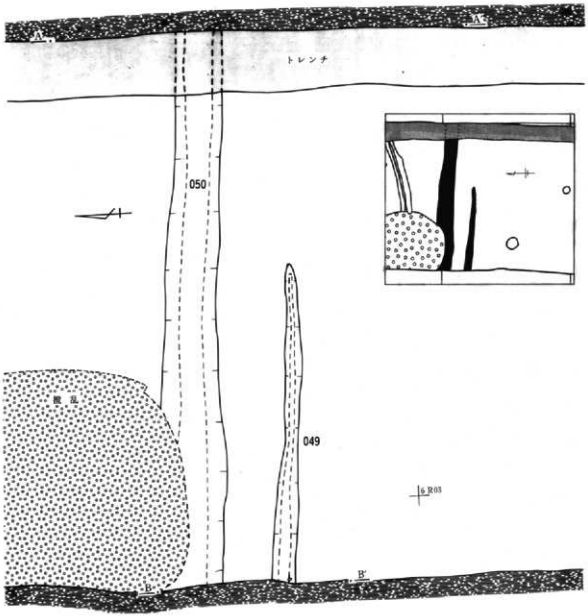
小八木井野川052号遺構（遺構・遺物142頁）

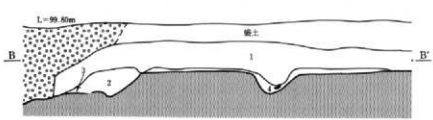
【位置】6 T01～7 A01 g　【種類】畠　【形状】東西走向サク 9 条（9.4以上×5.3m）　【重複】なし　【土層】褐色砂質土堆積　【遺物】肥前染付碗（1019）、滑石製模造品（2004）出土　【備考】浅い溝状で、サク間は密着しない。

小八木井野川051, 095号遺構（遺構142頁）

【位置】6 S01, 02 g　【種類】小道か　【形状】東西走向弧状（N73°E長6.2m以上）路面幅0.2m以上両側溝（051号：上幅0.3、095号：上幅0.4底幅0.2深0.2m）　【重複】なし　【土層】1 黒褐色粘質土　褐色砂質土粒含む　2 同前　砂質土粒多い　【遺物】なし　【備考】051号は 1 面、095号は 3 面で確認したが、基本的に同じ小道の時期の異なる側溝だろう。

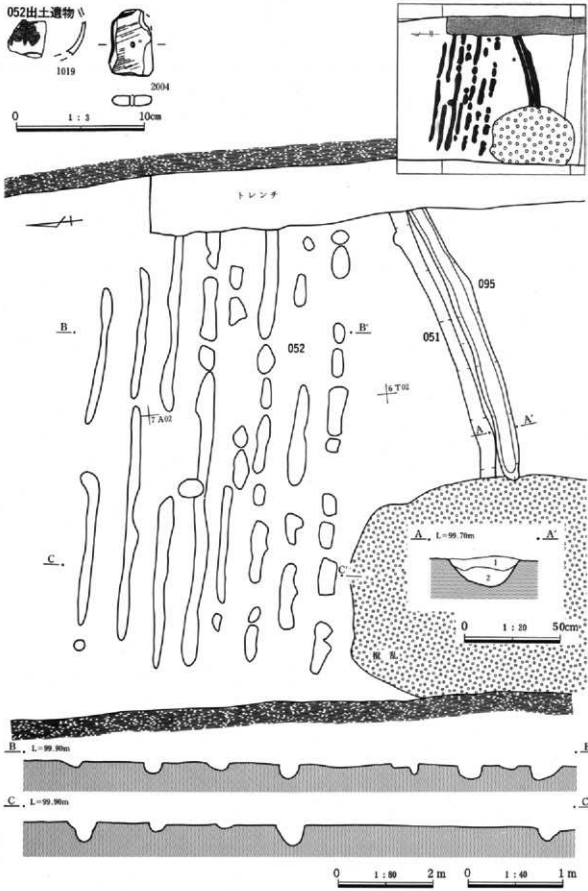


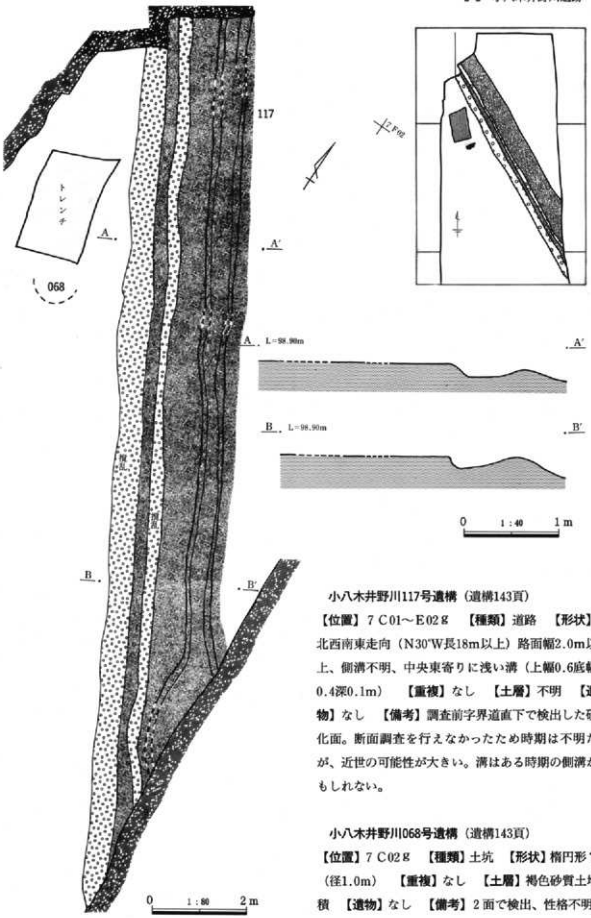




0　1：80　2 m

0　1：40　1 m


052出土遺物
1019
2004
0
1 : 3
10cm
トレンチ
095
051
052
B
B'
C
C'
A
A'
A02
T02
A
L=99.70m
A'
1
2
0
1 : 20
50cm
縄 孔
B
L=99.90m
B'
C
L=99.90m
C'
0
1 : 80
2 m
0
1 : 40
1 m

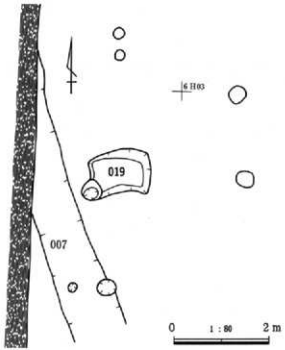


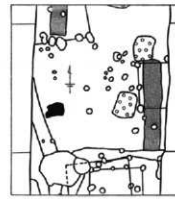
小八木井野川117号遺構（遺構143頁）

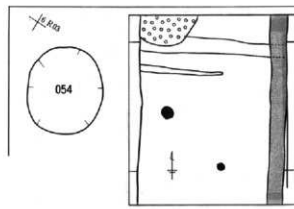
【位置】７Ｃ01～Ｅ02ｇ　**【種類】**道路　**【形状】**北西南東走向（N30°W長18m以上）路面幅2.0m以上、側溝不明、中央東寄りに浅い溝（上幅0.6底幅0.4深0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**不明　**【遺物】**なし　**【備考】**調査前字界道直下で検出した硬化面。断面調査を行えなかったため時期は不明だが、近世の可能性が大きい。溝はある時期の側溝かもしれない。

小八木井野川068号遺構（遺構143頁）

【位置】７Ｃ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形？（径1.0m）　**【重複】**なし　**【土層】**褐色砂質土堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**２面で検出、性格不明。



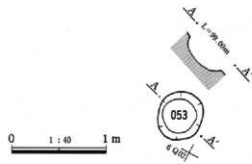




小八木井野川019号遺構（遺構144頁）
【位置】６Ｇ03ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（1.3×0.9×0.2m）　**【重複】**ピット重複　**【土層】**褐色砂質土堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。

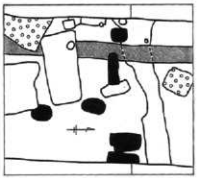
小八木井野川053号遺構（遺構144頁）
【位置】６Ｑ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**円形（径0.5深0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**褐色砂質土堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。

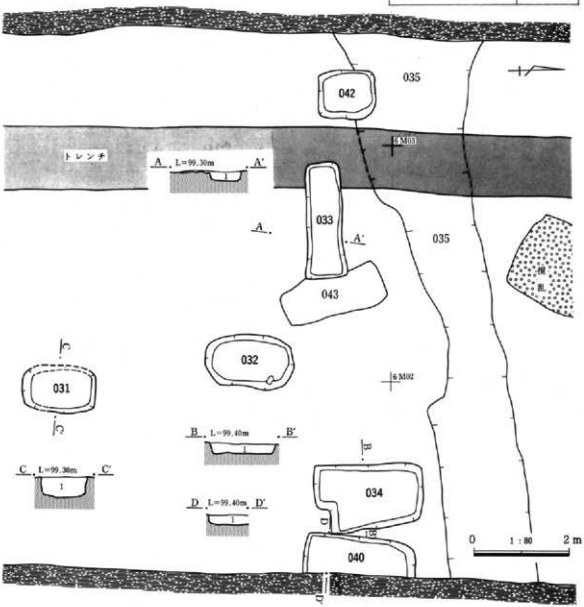
小八木井野川054号遺構（遺構144頁）
【位置】６Ｑ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（0.9×0.8m）　**【重複】**なし　**【土層】**褐色砂質土堆積　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。



小八木井野川042号遺構（遺構145頁）

【位置】6 L03g **【種類】**土坑 **【形状】**長方形（1.2×1.0×0.2m） **【重複】**溝035号より新 **【土層】**褐色砂質土堆積 **【遺物】**なし **【備考】**性格不明。近世か。





小八木井野川031～034, 040号遺構（遺構145頁）

【位置】6 KL01, 02g **【種類】**土坑 **【形状】**長方形（031号：1.6×1.1×0.4m、032号：1.9×1.1×0.2m、033号：2.5×0.9×0.2m、034号：2.3×1.5×0.2m、040号：2.2×0.8以上×0.2m） **【重複】**034号は2基重複の可能性あって040号に近接。 **【土層】**1 褐色砂質土 黒褐色土塊混在 **【遺物】**なし **【備考】**近世の短冊形土坑群。

2-2-2　弥生～古代

主に第２面で検出した遺構群である。時代ごとの種類数量は次のとおりである。

古代

溝 ……7　耕地 ……1　掘立柱建物 …2　井戸 ……1　土坑 ……5

古墳時代

溝 ……7　畠 ……1　土坑 ……8

弥生時代

溝 ……5　ピット ……5　土坑 ……3　柱穴 ……1

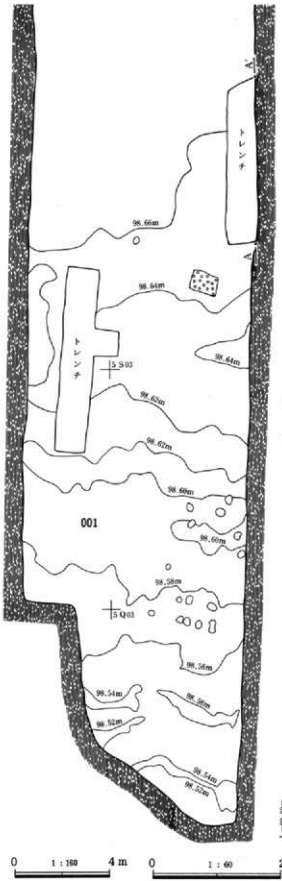
時期不明

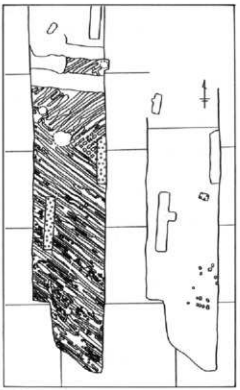
土坑 ……1

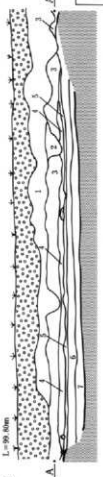
以上の中で古代の溝１条は、小八木遺跡として高崎市が調査した隣接地でかつて検出されたものの延長である。

全体としては古代を除いて、検出遺構の大部分は耕作に関るものが主体である。古墳時代・弥生時代共に溝から居住生活に関係する土器類が出土しているため、周辺に何らかの集落があったことを想定できる。

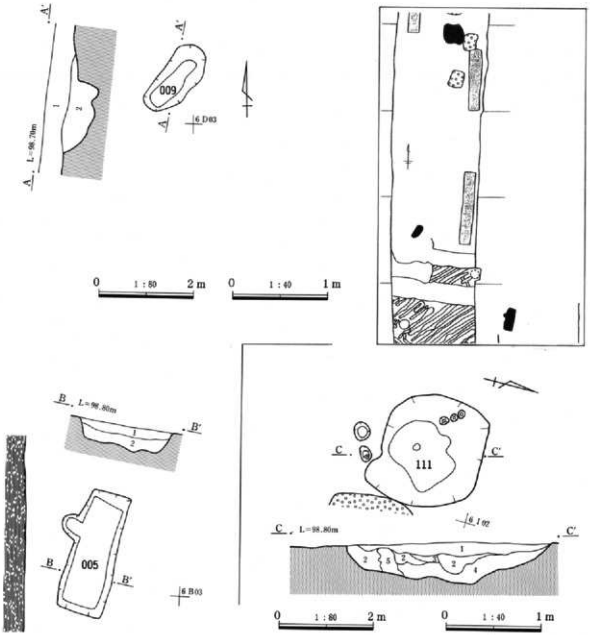
以下、新しい時代から検出遺構を報告する。







小八木井野川001号遺構(遺構147頁)
【位置】 5 O02～6 A03 g　**【種類】** 耕地　**【形状】** 不明（30×10m以上）
【重複】 なし　**【土層】** 1暗褐色砂質土　2にぶい黄褐色シルト質土　砂ラミナ状互層　3暗褐色砂質土　4にぶい黄褐色砂質土　As-B軽石と砂混在　5　褐灰色粘質土　粘性強鉄分付着　6灰黄褐色粘質土　同前　7暗褐色粘質土　同前 As-C 軽石混じる**【遺物】**小片は中世土器62 g、古代須恵器44 g、同土師器23 g、古墳時代須恵器19 g、同土師器61 g など出土　**【備考】** 畦畔など全くないが、表面は無数の小穴で埋まっていた。湿田あるいは畠の可能性も考えられる。As-B降下以後に洪水で埋没。



小八木井野川009号遺構（遺構148頁）

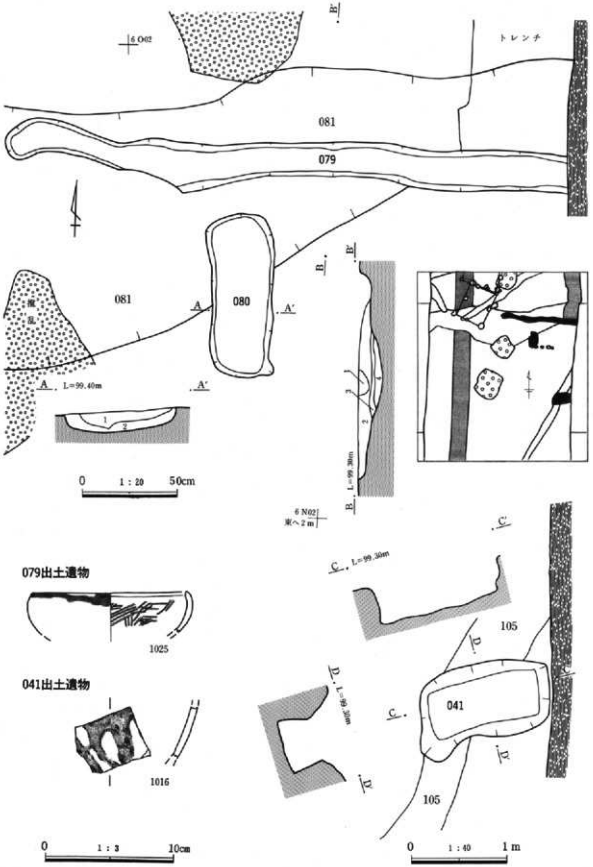
【位置】６Ｄ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**長楕円形（1.7×0.8×0.3m）　**【重複】**006号より旧　**【土層】**１　006号埋土　２黒褐色粘質土　粘性強 As-C 軽石含む　**【遺物】**古墳土師器小片微量含む　**【備考】**性格不明。

小八木井野川005号遺構（遺構148頁）

【位置】６Ａ03ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（2.6×1.3×0.3m）　**【重複】**なし　**【土層】**１暗褐色砂質土　２同前　やや明色　**【遺物】**なし　**【備考】**埋土は001号に似るが性格不明。

小八木井野川111号遺構（遺構148頁）

【位置】６Ｈ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（2.8×2.4×0.5m）底に小ピット　**【重複】**なし　**【土層】**１黒褐色シルト質土　酸化鉄混じる　２黒褐色粘質土　白色シルト混じる　３黒褐色シルト質土　白色シルト混じる　４同前　白色シルト多い　５同前　白色シルト塊混在　**【遺物】**小片は古代陶磁５ｇ、縄文土器128ｇ出土　**【備考】**縄文土坑の可能性もあるが性格不明。


トレンチ
081
079
080
A
A'
B
B'
L=99.40m
L=99.30m
0　1：20　50cm
6 N02
東へ 2 m
C
C'
D
D'
041
105
079出土遺物
1025
041出土遺物
1016
0　1：3　10cm
0　1：40　1 m

小八木井野川079号遺構（遺構・遺物149頁）

【位置】６N01,02ｇ　**【種類】**溝　**【形状】**東西走向６ｍ（N85°W上幅0.5底幅0.3深0.3m）　**【重複】**溝081号より新　**【土層】**１黒褐色粘質土　Hr-FA火山灰少し混じる　２～４　081号埋土　**【遺物】**黒色土器坏（1025）出土　**【備考】**水流痕なし。

小八木井野川080号遺構（遺構149頁）

【位置】６N01ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（1.8×0.7×0.2m）　**【重複】**溝081号より新　**【土層】**１黒色粘質土　褐色粒含む　２黒褐色粘質土　褐色粒含む　**【遺物】**小片は古代陶磁５ｇ、縄文土器128ｇ出土　**【備考】**性格不明。

小八木井野川041号遺構（遺構・遺物149頁）

【位置】６M01ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（1.4×0.8×0.4m底幅0.6m）オーバーハング状　**【重複】**溝105号より新　**【土層】**黒褐色粘質土　シルト塊混在　**【遺物】**猿投窯灰釉陶器瓶（1016）出土　**【備考】**底平坦、人為的埋没で性格不明。

小八木井野川076号遺構（遺構151頁・遺物150頁）

【位置】６O02ｇ　**【種類】**掘立柱建物　**【形状】**東西主軸２×２間（N70°W　4.0×2.7m）　**【重複】**087号・溝075・082号より新　**【土層】**１黒褐色砂質土　２同前　灰黄褐色粘土塊含む　**【遺物】**北西角で縄文深鉢（1024）出土　**【備考】**埋土で古代と想定。

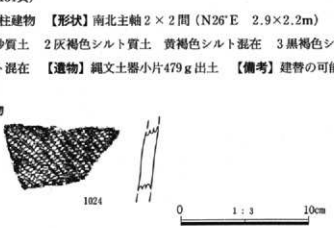
小八木井野川087号遺構（遺構151頁）

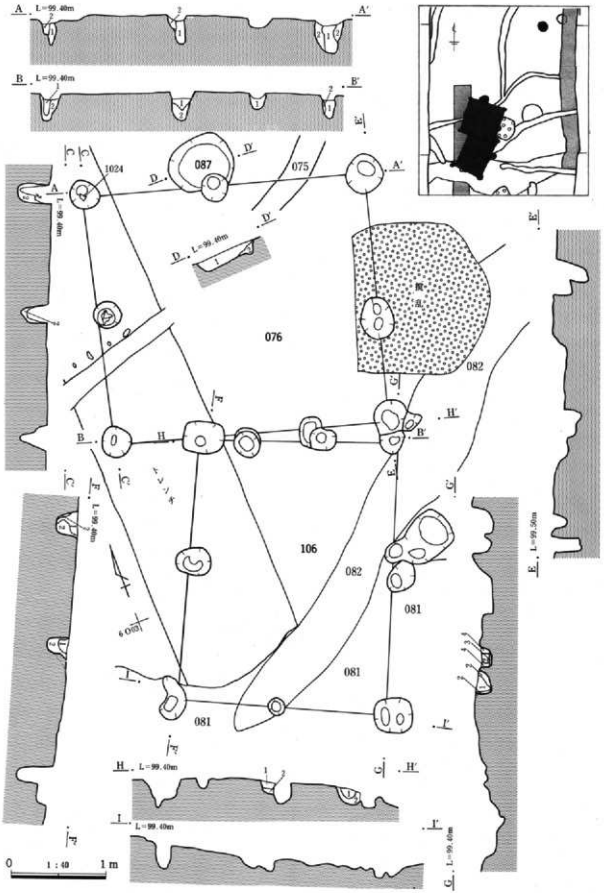
【位置】６O02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形（0.7×0.6×0.1m）　**【重複】**076号より旧　**【土層】**１黒色粘質土　褐色粒含む　２黒褐色粘質土　同前　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。

小八木井野川106号遺構（遺構151頁）

【位置】６N02ｇ　**【種類】**掘立柱建物　**【形状】**南北主軸２×２間（N26°E　2.9×2.2m）　**【重複】**溝081・082号より新　**【土層】**１暗褐色砂質土　２灰褐色シルト質土　黄褐色シルト混在　３黒褐色シルト質土　４灰黄褐色シルト質土　黒褐色シルト混在　**【遺物】**縄文土器小片479ｇ出土　**【備考】**建替の可能性。

076出土遺物




A L=99.40m
A'
B L=99.40m
B'
D L=99.40m
D'
E L=99.50m
E'
G L=99.40m
G'
H L=99.40m
H'
I L=99.40m
I'
087
075
1024
076
082
106
081
0 1:40 1m

小八木井野川084号遺構（遺構・遺物152頁）

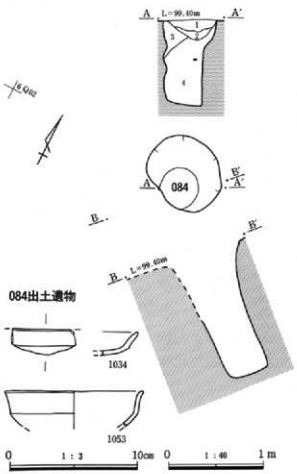
【位置】６Q01ｇ　**【種類】**井戸　**【形状】**円筒形（0.9×0.4×1.8m）　**【重複】**なし　**【土層】**１黒褐色粘質土　As-C 軽石含む　２同前　As-C 少ない　３黒色砂質土　４同前　シルト粒混じる　**【遺物】**土師器坏（1034,53）出土　**【備考】**短期間使用。

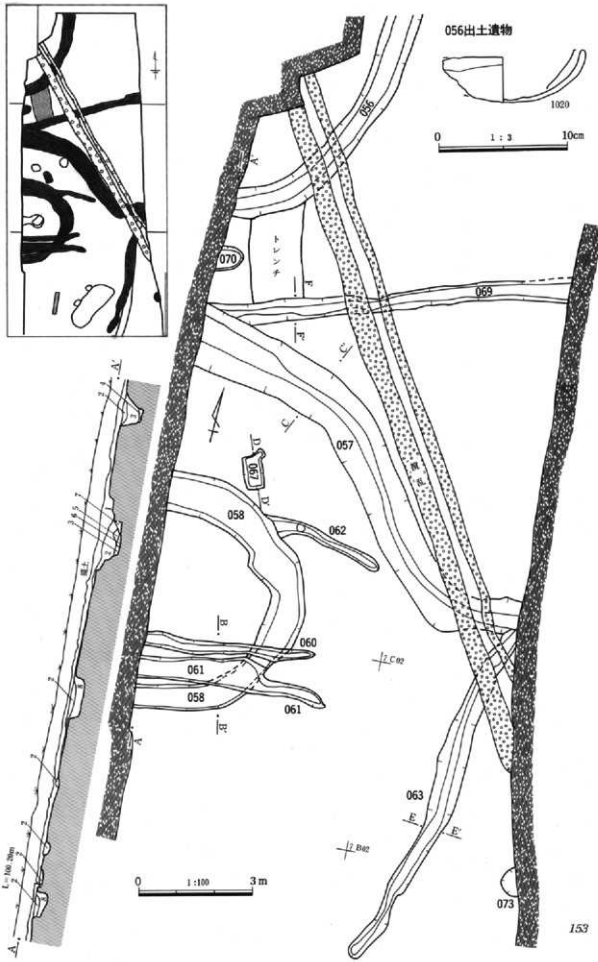
小八木井野川056号遺構（遺構・遺物153頁）

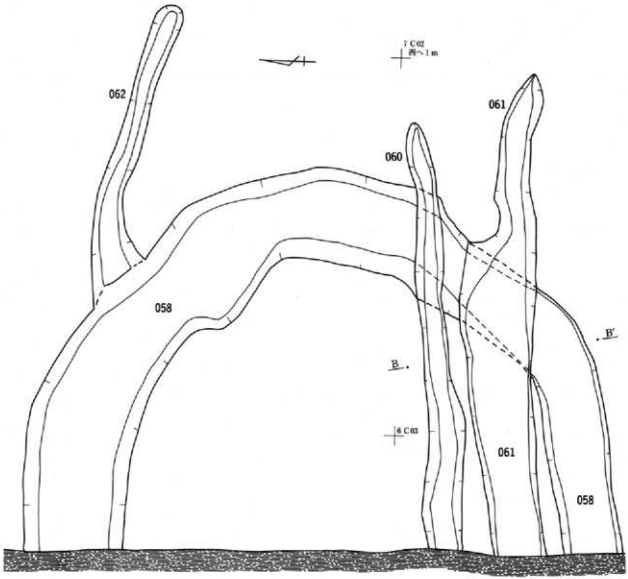
【位置】７E02ｇ　**【種類】**溝　**【形状】**北から西へ屈曲７m（上幅0.8底幅0.4深0.5m）　**【重複】**なし　**【土層】**１褐色砂質土　２黒褐色粘質土　As-C 混じる　３同前　砂質土混じる　４同前　As-C 少ない　５灰黄褐色粘質土　砂ラミナ状に含む　６黒褐色粘質土　砂含む　７同前　シルト粒含む　黒褐色シルト混在　８黒褐色粘質土　シルト塊混じる　**【遺物】**土師器坏（1020）出土　**【備考】**『小八木遺跡』SD１。水流痕なし。

小八木井野川069号遺構（遺構153頁）

【位置】７D01,02ｇ　**【種類】**溝　**【形状】**東西走向10m（N75°E 上幅0.6底幅0.3深0.4m）　**【重複】**溝057・土坑068号より旧　**【土層】**上記７層　９にぶい黄褐色砂　**【遺物】**小片は縄文土器110ｇ、弥生土器76ｇ、古墳土師器50ｇ出土　**【備考】**『小八木遺跡』SD18。水流痕。

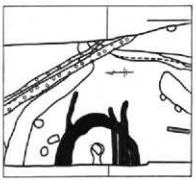



056出土遺物
1020
0
1 : 3
10cm
056
070
トレンチ
069
057
058
062
060
061
058
061
063
073
0
1 : 100
3 m

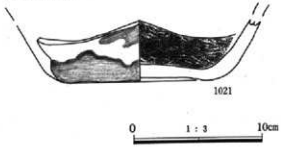

7 C02
西へ1m
062
061
060
058
B
B'
6 C03
061
058

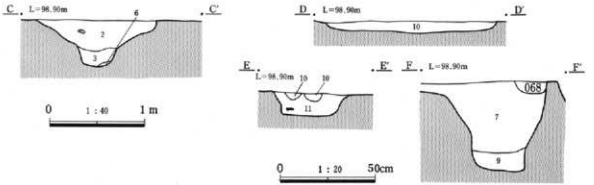
B
L=98.90m
B'
2

0
1 : 40
1 m



058出土遺物


1021
0
1 : 3
10cm



小八木井野川057号遺構（遺構153頁）

【位置】7C01～D03g　【種類】溝　【形状】東西走向12mS字状に屈曲（N26°E上幅2.0底幅0.9深0.5m）【重複】溝069号より新　063号と重複【土層】上記1～3,5,6層　【遺物】小片は縄文土器830g、弥生土器1.4kg、古墳土師器348g、古代須恵器220gは出土　【備考】『小八木遺跡』で非検出。水流痕。

小八木井野川063号遺構（遺構153頁）

【位置】7A～C01g　【種類】溝　【形状】南北走向10m（N15°E上幅0.4底幅0.3深0.2m）　【重複】溝083号より新　057号と重複　【土層】10黒褐色粘質土　As-C・砂質土混在　11同前　砂質土少ない　【遺物】小片は縄文土器276g、弥生土器329g、古墳土師器23g、古代須恵器33g出土　【備考】『小八木遺跡』で非検出。

小八木井野川070号遺構（遺構153頁）

【位置】7D03g　【種類】土坑　【形状】楕円形（0.7×0.5×0.1m）　【重複】なし　【土層】不明　【遺物】小片は縄文土器220g、弥生土器350g、古墳土師器156g、古代土師器須恵器22g出土　【備考】性格不明。

小八木井野川067号遺構（遺構153頁）

【位置】7C02g　【種類】土坑　【形状】長方形（0.9×0.5×0.1m）　【重複】なし　【土層】上記10層　【遺物】古代須恵器小片8g出土　【備考】建替えがなされた可能性がある。

小八木井野川073号遺構（遺構153頁）

【位置】7B03g　【種類】土坑　【形状】円形？（径0.8m）　【重複】なし　【土層】不明　【遺物】なし　【備考】性格不明。

小八木井野川058号遺構（遺構153,154頁・遺物154頁）

【位置】7B02～C03g　【種類】溝　【形状】環状（径6.4m/上幅1.3底幅0.9深0.1m）【重複】061～062号より旧か　【土層】前記2・8層　【遺物】焼締陶器壺（1021）出土　小片は縄文～古代　【備考】性格不明。

小八木井野川060～062号遺構（遺構153,154頁）

【位置】7BC02g　【種類】溝　【形状】東西走向（060号：長4.5m/上幅0.5底幅0.3深0.1m、061号：長5.1m/上幅0.8底幅0.7深0.1m、062号：長3.0m以上/上幅0.5底幅0.3深0.1m）　【重複】058号より新　【土層】上記2層　【遺物】小片は縄文～古墳、061号のみ古代須恵器小片出土　【備考】性格不明。

小八木井野川055号遺構（遺構157頁）

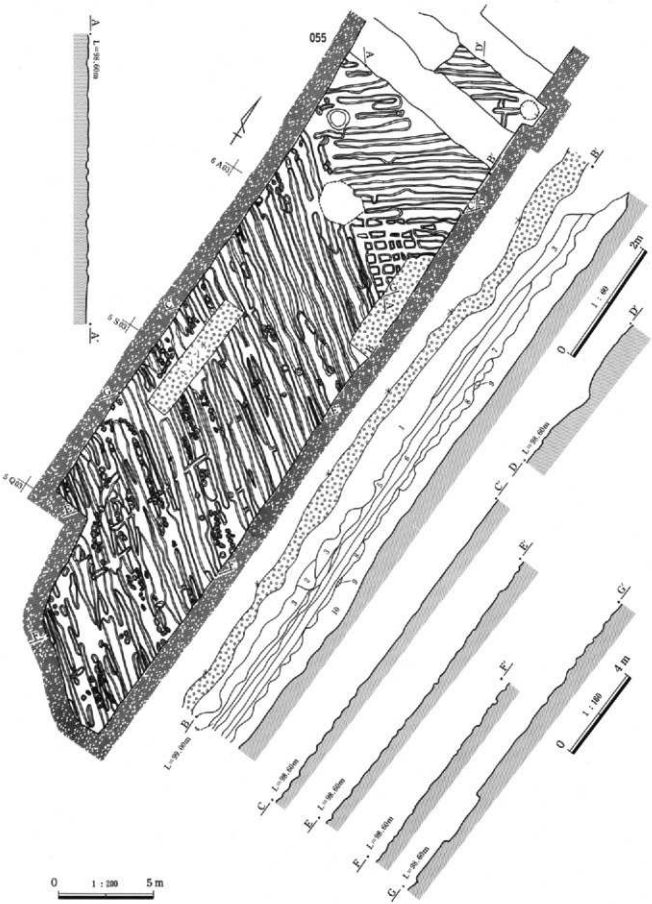
【位置】５Ｏ01～６Ｃ03ｇ　【種類】畠　【形状】南北両側に分離（南側Ｎ54°Ｗ　25×22m以上小ピット連続型間隔密、北側Ｎ54°Ｅ13×12m以上浅い溝状間隔粗）　【重複】畠001号　土坑005号より旧　【土層】１～７前掲001号参照（147頁）　８暗褐色粘質土　As-Ｃ軽石混在　９ As-Ｃと黒褐色土の混在土　10黒褐色粘質土　【遺物】小片は縄文土器169ｇ、古墳土師器201ｇ出土　【備考】時期は古墳中期以前でかなり大規模である。

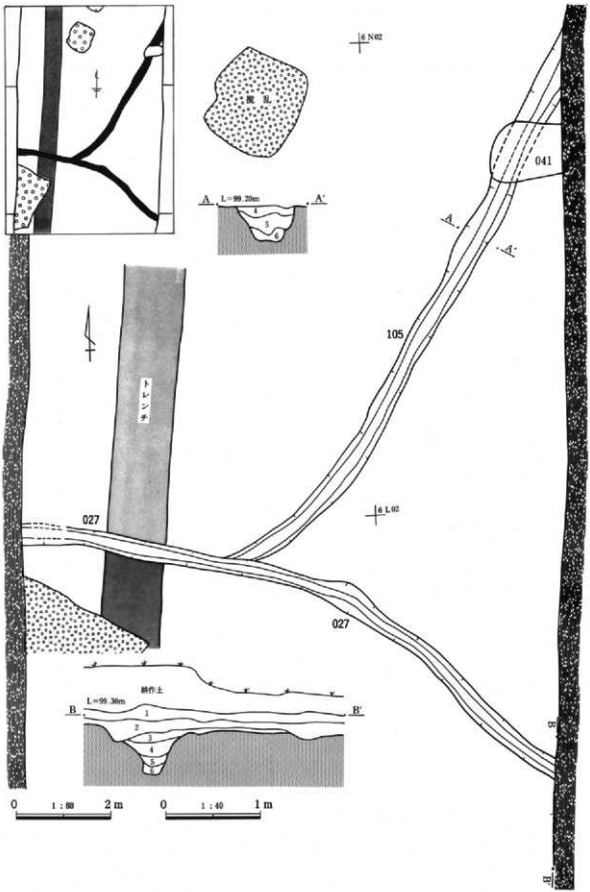
小八木井野川027・105号遺構（遺構158頁）

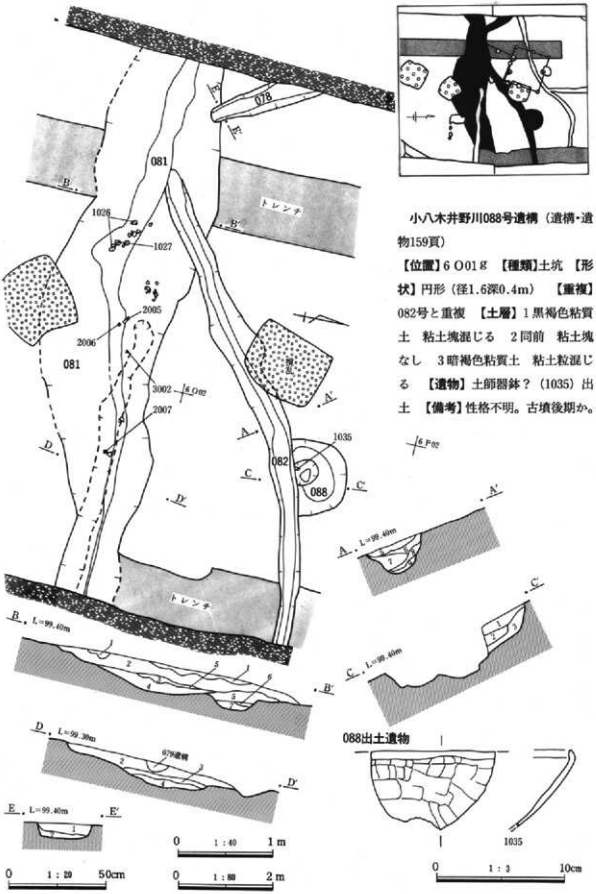
【位置】６Ｊ～M01ｇ　【種類】溝　【形状】027号：弧状東西走向（13m以上上幅0.6底幅0.2深0.5m）105号：弧状南北走向（13m以上上幅0.6底幅0.3深0.4m）　【重複】Ｙ字形で合流　105号は土坑041号より旧　【土層】１にぶい黄褐色砂質土　粘質土塊斑状に含む　２褐色砂質土　小礫混じる　３暗褐色砂質土　２層と同質　４同前　礫少ない　５黒褐色粘質土　粘性強　６　同前　シルト粒混在　【遺物】小片は027号：縄文土器55ｇ、中世焼締陶器109ｇ、105号：縄文土器136ｇ、古墳土師器44ｇ、同須恵器46ｇ出土　【備考】顕著な水流痕はない。分岐状態より両者は同一の遺構と考えられ、古墳時代と推定。

小八木井野川078・082号遺構（遺構159頁）

【位置】６Ｎ03，Ｏ01ｇ　【種類】溝　【形状】078号：南北走向（2.2m以上Ｎ31°Ｗ　上幅0.6底幅0.2深0.5m）082号：弧状東西走向（10m以上上幅0.6底幅0.3深0.3m）　【重複】078号：081号と重複、082号：081号より旧、088号と重複　【土層】078号：１黒色粘質土　褐色土粒混じる　２黄褐色粘質土　082号：５黒褐色砂質土　砂混じる　６暗褐色砂質土　砂混じる　７灰黄褐色砂質土　砂多く含む　８黒色粘質土　砂含む　９にぶい褐色砂質土　砂混在　【遺物】小片は078号：縄文～古墳土器で弥生最大、082号：縄文～古墳土器で弥生最大出土　【備考】082号は顕著な水流痕があり、古墳中期以前。078号は性格時期不明。


055
A
A'
L=98.60m
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
L=98.60m
L=98.60m
L=98.60m
L=98.60m
L=98.60m
L=98.60m
L=98.60m
0
1:200
5m
0
1:80
2m
0
1:160
4m

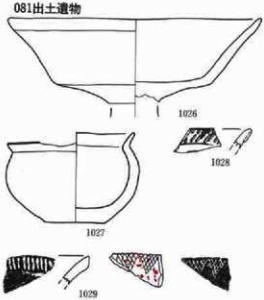

6 N 02
炭 丸
A
L=99.20m
A'
1
5
6
041
A
A'
105
トレンチ
6 L 02
027
027
耕作土
L=99.30m
B
B'
1
2
3
4
5
6
0
1:80
2m
0
1:40
1m

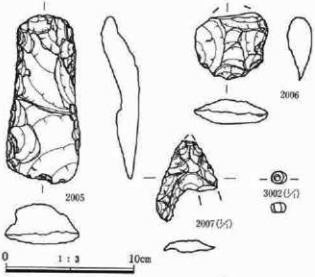


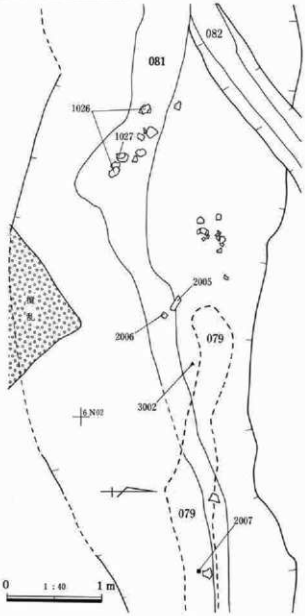
小八木井野川088号遺構（遺構・遺物159頁）

【位置】6O01g　**【種類】**土坑　**【形状】**円形（径1.6深0.4m）　**【重複】**082号と重複　**【土層】**1黒褐色粘質土　粘土塊混じる　2同前　粘土塊なし　3暗褐色粘質土　粘土粒混じる　**【遺物】**土師器鉢？（1035）出土　**【備考】**性格不明。古墳後期か。

081出土遺物







小八木井野川081号遺構（遺構159，160頁・遺物160頁）

【位置】 6 N01～03 g　**【種類】** 溝　**【形状】** 東西走向（11m以上N84°E上幅2.8底幅0.6深0.3m）　**【重複】** 079号より旧、082号より新、078号と重複　**【土層】** 1 榛名Hr-FA火山灰　2 黒色粘質土　浅間As-C混じる　3 同前　As-Cなし　4 にぶい黄褐色砂質土　As-C混じる　**【遺物】** 土師器高坏（1026）碗（1027）、弥生土器壺（1028，29）、短冊形石斧（2005）、スクレーパー（2006）、石鏃（2007）、ガラス小玉（3002）出土　**【備考】** 顕著な水流痕はないが比較的遺物多い。古墳中期。

小八木井野川074・075号遺構（遺構・遺物162頁）

【位置】６Ｏ03～Ｑ01ｇ　**【種類】**溝　**【形状】**074号：弧状南北走向（12m以上Ｎ31°Ｗ　上幅0.6底幅0.3深0.1m）075号：弧状東西走向（12m以上上幅0.3底幅0.1深0.1m）　**【重複】**074号新しい　掘立076号と重複　**【土層】**078号：１黒色粘質土　As-Ｃ混在　２同前　As-Ｃやや少ない　３同前　褐色粒混じる　**【遺物】**075号：縄文土器深鉢（1023）出土。小片は縄文土器121ｇ、074号：小片は縄文土器145ｇ、弥生土器47ｇ出土　**【備考】**顕著な水流痕はないが、同一の弥生の溝だろう。

小八木井野川085号遺構（遺構162頁）

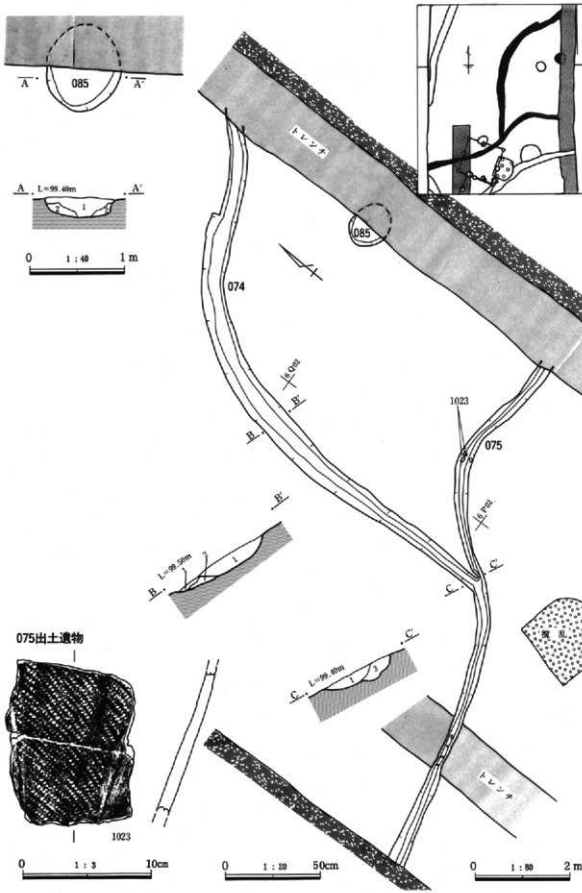
【位置】６Ｑ01ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**円形（径0.8深0.2m）　**【重複】**なし　**【土層】**１黒色粘質土　As-Ｃ含む　２同前　As-Ｃ少ない　**【遺物】**小片は弥生土器60ｇ出土　**【備考】**性格不明。

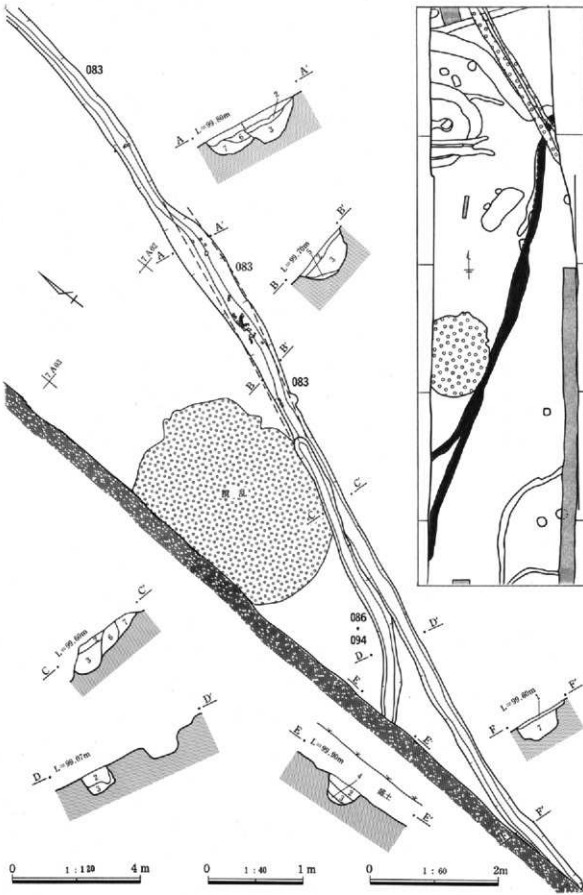
小八木井野川083号遺構（遺構163,164頁・遺物164頁）

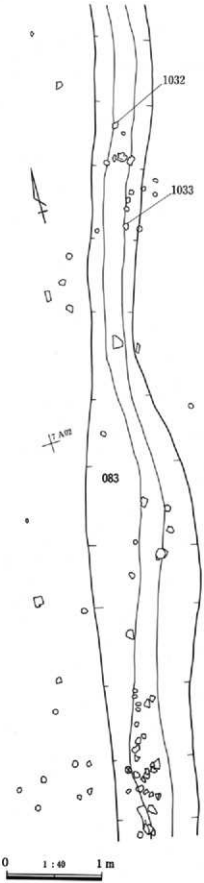
【位置】６Ｐ03～７Ｃ01ｇ　**【種類】**溝　**【形状】**南北走向（34m以上Ｎ15°Ｅ　上幅1.2底幅0.4深0.6m）　**【重複】**063・072・086号より旧　**【土層】**６黒褐色粘質土　As-Ｃ軽石混じる　７黒色粘質土　粘性強褐色粒混じる　**【遺物】**弥生土器甕（1030,31）、壺（1032）、土製勾玉（1033）、砂岩砥石（2008）、また小片は縄文土器1,800ｇ、弥生土器4,900ｇ出土　**【備考】**水流痕なし。弥生の溝だが、市教委調査では未確認。遺物は086号と明確に分けられない。

小八木井野川086,094号遺構（遺構163頁）

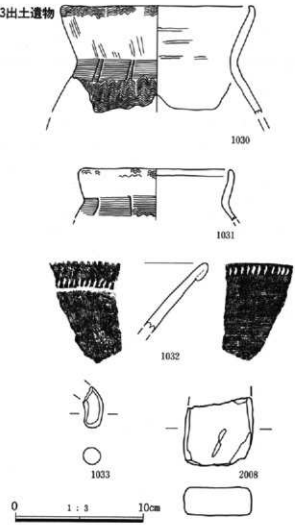
【位置】６Ｒ02ｇ　**【種類】**溝　**【形状】**弧状南北走向（17m以上上幅0.4底幅0.2深0.3m）　**【重複】**083号より新　**【土層】**１黒褐色砂質土　２黒色粘質土　褐色土粒混じる　３黒褐色粘質土　シルト塊含む　４黒色粘質土　５灰白色シルト質土　地山塊　**【遺物】**なし　**【備考】**北側の延長が不明確だが、083号としたものがそのまま相当するかもしれない。弥生だろう。

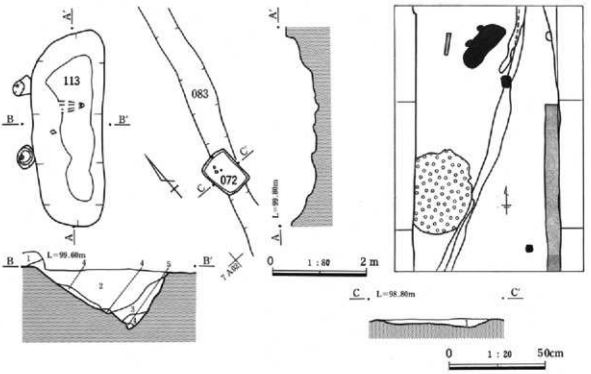

085
A
A'
A
L=99.40m
A'
1
2
0
1 : 40
1 m
トレンチ
085
074
B
B'
16.0m
1023
075
16.0m
B
B'
L=99.50m
1
2
C
C'
C
C'
L=99.40m
1
2
075出土遺物
1023
0
1 : 3
10cm
0
1 : 20
50cm
トレンチ
0
1 : 80
2 m

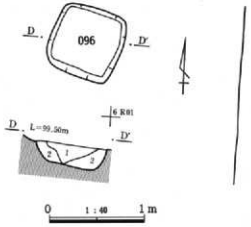

083
A
A'
A. L=99.60m
B
B'
B. L=99.70m
C
C'
C. L=99.60m
D
D'
D. L=99.67m
E
E'
E. L=99.60m
F
F'
F. L=99.60m
086
094
0 1:120 4m
0 1:40 1m
0 1:60 2m



083出土遺物







小八木井野川072号遺構（遺構165頁）

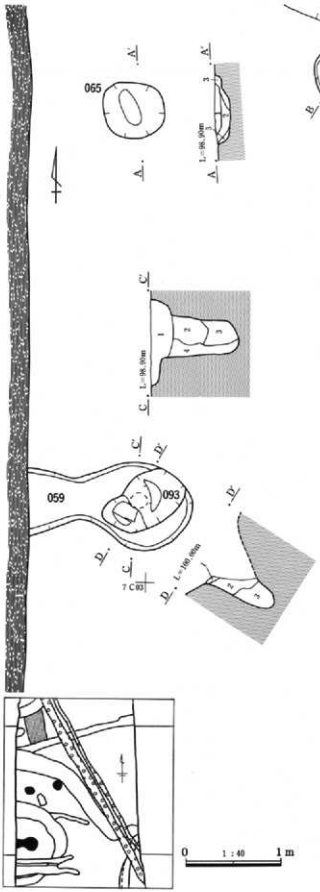
【位置】7A01g　【種類】土坑　【形状】長方形（0.9×0.6×0.1m）　【重複】083号より新　【土層】1黒褐色粘質土　砂質土含む　【遺物】小片は弥生土器187g、古墳土師器69g出土　【備考】古墳時代、性格不明。

小八木井野川113号遺構（遺構165頁）

【位置】7A01,02g　【種類】土坑　【形状】楕円形（4.2×1.5×0.6m）　【重複】なし　【土層】1黒褐色砂質土　2黒色粘質土　3同前　酸化鉄含む　4同前　シルト塊含む　5黒色粘質土　シルト塊含む　【遺物】小片は縄文土器1,300g、弥生土器218g出土　【備考】底不均一、性格不明。弥生だろう。

小八木井野川096号遺構（遺構165頁）

【位置】6R01g　【種類】土坑　【形状】正方形（0.8×0.8×0.2m）　【重複】なし　【土層】1黒褐色粘質土　砂質土混在　2同前　シルト塊混じる　【遺物】小片は縄文・弥生土器が微量　【備考】性格不明、古墳時代か。



小八木井野川064・065号遺構（遺構166頁）**【位置】**７ CD02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**楕円形065号（0.7×0.6×0.2m）、064号（径0.6深0.1m）　**【重複】**064号、溝057号に近接　**【土層】**１黒褐色粘質土　As-C、砂質土混在　２同前　砂質土少ない　３　同前　橙色粒混在　**【遺物】**064号小片は弥生土器が微量　**【備考】**性格不明、古墳時代か。

小八木井野川059・093号遺構（遺構166頁）**【位置】**７ C03ｇ　**【種類】**土坑、柱穴　**【形状】**059号：二重円状（1.7×1.0×0.3m）、093号：ピット状（0.8×0.5×0.7m）　**【重複】**059号が新　**【土層】**１黒褐色粘質土　砂質土混在　２暗褐色粘質土　シルト塊混じる　３にぶい黄褐色シルト質土　灰白色シルト混在　４黒褐色粘質土　**【遺物】**小片は059号弥生土器60ｇ出土　**【備考】**059号は弥生の柱穴で、093号は古墳時代か。

2-2-3　縄文時代

本調査で検出した縄文時代の遺構は、次のとおりである。

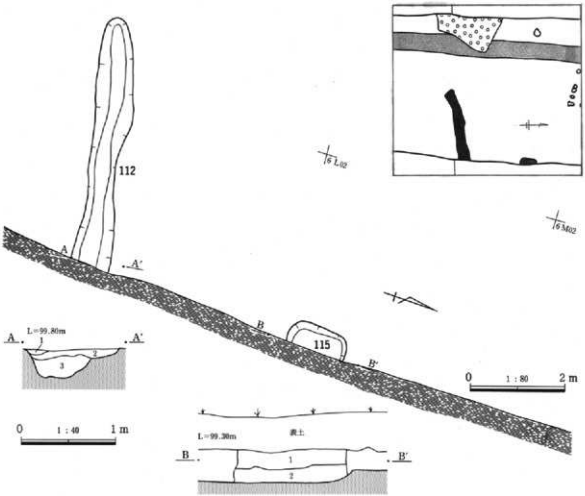
溝 ……1　　埋甕 ……1　　掘り込み …1　　土坑……10　　ピット ……4

掘り込みは中期後半の埋甕に伴う住居の可能性を考えて調査したが、顕著な成果はえられなかった。

同様の中期後半の土器片を集中して出土した二つの土坑があるが、これは形状がはっきりしないもので、遺物出土状態からも積極的な性格を考えにくい。

また同じ第3面で確認した下記の時期不明の遺構も、併せて本欄に掲載した。

土坑 ……1　　ピット群 …1

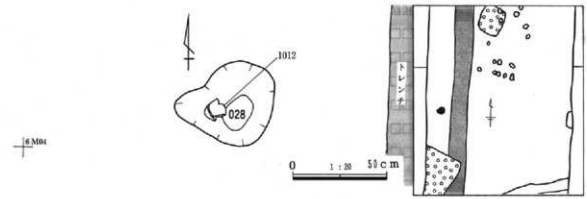


小八木井野川112号遺構（遺構168頁）

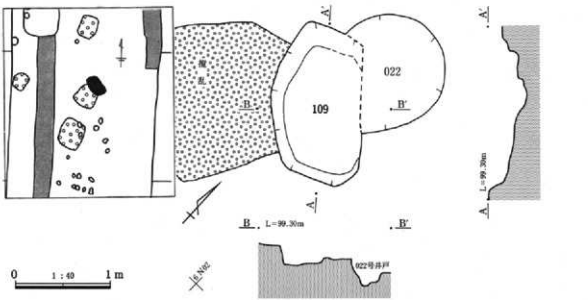
【位置】６JK01,02ｇ　**【種類】**溝　**【形状】**東西走向５ｍ以上（N78°E　0.8×0.4×0.3m）　**【重複】**溝027号より旧　**【土層】**１黒褐色粘質土　２灰黄褐色粘質土　砂質土混じる　３黒褐色粘質土　**【遺物】**小片は縄文土器267ｇ・弥生土器27ｇ出土　**【備考】**性格不明、弥生の可能性もある。

小八木井野川115号遺構（遺構168頁）

【位置】６L01ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**長方形（1.2×0.6以上×0.3m）　**【重複】**なし　**【土層】**１暗褐色粘質土　砂質土混在　２黒褐色粘質土　**【遺物】**なし　**【備考】**性格不明。



028出土遺物

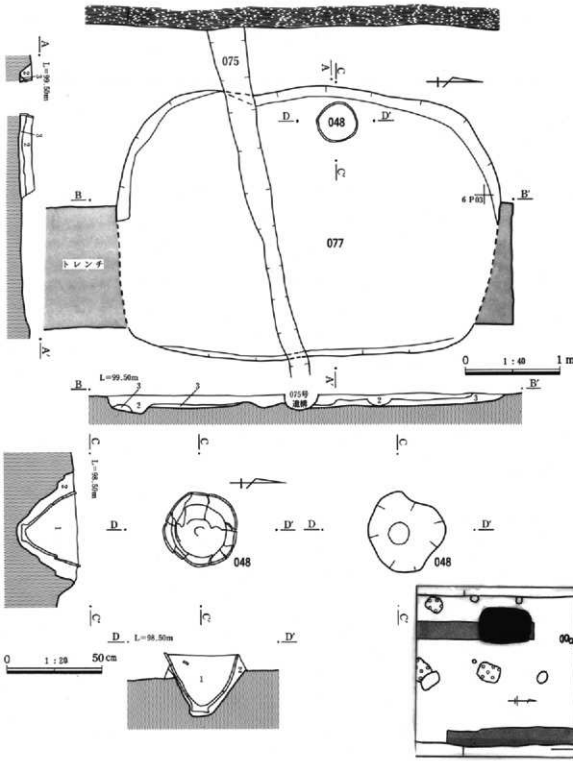


小八木井野川028号遺構（遺構・遺物169頁）

【位置】 6Ｌ03ｇ　**【種類】** ピット？　**【形状】** 楕円形（0.5×0.4×約0.3m）　**【重複】** なし　**【土層】** 不明　**【遺物】** 上層より深鉢（1012）出土　**【備考】** 調査範囲内には周辺に関連遺構は確認できず。

小八木井野川109号遺構（遺構169頁）

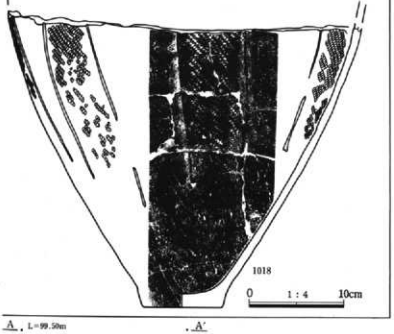
【位置】 6Ｎ02ｇ　**【種類】** 土坑　**【形状】** 長方形（1.6×1.1以上×0.4m）底不均一　**【重複】** なし　**【土層】** 不明　**【遺物】** 小片は縄文土器73ｇ、弥生土器微量出土　**【備考】** 性格不明。

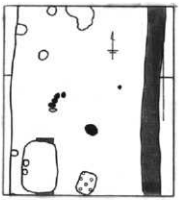


小八木井野川048, 077号遺構（遺構170頁・遺物171頁）

【位置】6 O02～03 g　**【種類】**埋甕・掘り込み　**【形状】**長方形（約4.1×2.9×0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**1 黒褐色粘質土　2 黒褐色粘質土　シルト塊混じる　3 黄褐色粘質土　褐色粒含む　**【遺物】**深鉢（1018）、また小片縄文土器400 g、弥生土器30 g 出土　**【備考】**1 面確認面で埋甕1018（048号）を確認し、周辺で図のような曖昧な掘り込み（077号）を検出したが、埋甕との関係も不明で積極的に遺構とは認定しがたい。1018は下位のみであり、本来の生活面はもう少し上面であったはずだが、すでに失われていた。

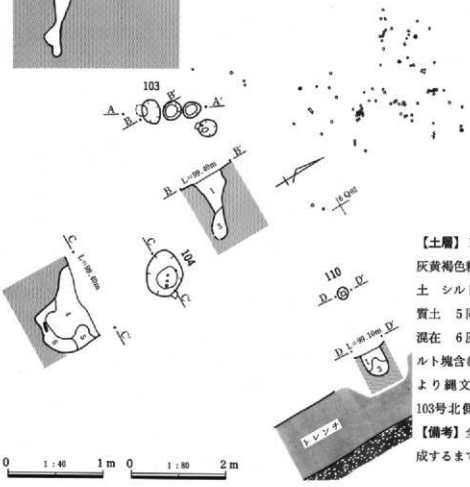
048出土遺物



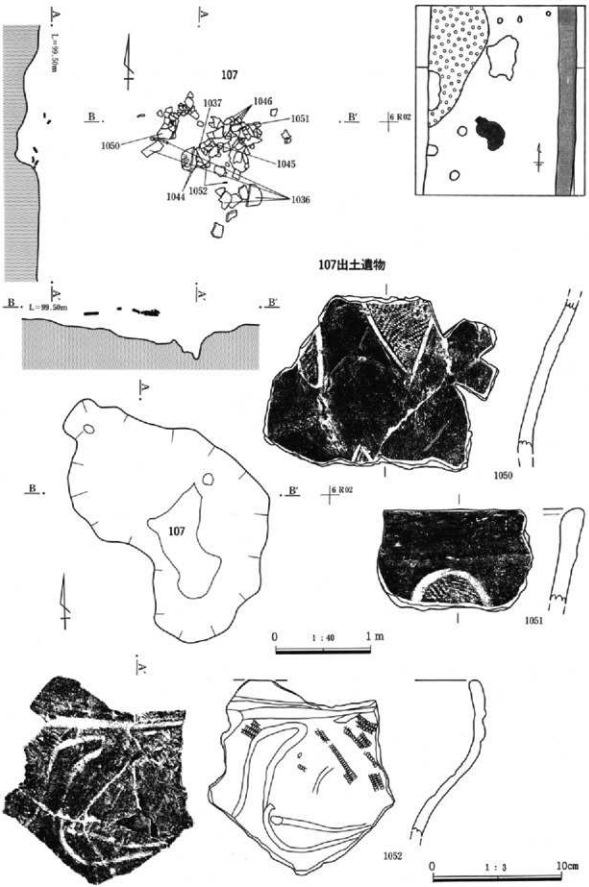


小八木井野川103, 104, 110号遺構（遺構171頁）

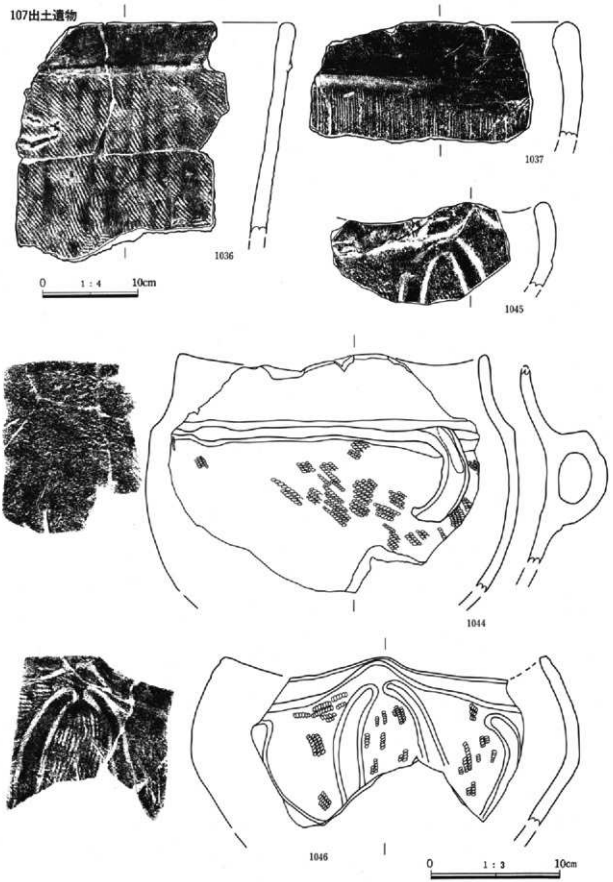
【位置】 6 P01, 02 g **【種類】** ピット群・土坑 **【形状】**103号：円形ピット列(径0.4深0.1～1.0m）104号：楕円形土坑（1.7×0.7×0.6m）110号：ピット（径2深0.3m）**【重複】** なし



【土層】 1黒褐色粒混じる　2灰黄褐色粘質土　3黒褐色粘質土　シルト土塊混在　4褐色粘質土　5同前　地山シルト土塊混在　6灰褐色シルト質土　シルト塊含む　**【遺物】**104号埋土より縄文土器小片260g出土103号北側で縄文土器包含層**【備考】**全体で単独の遺構を形成するまでには至らなかった。


A
A'
L=99.50m
107
1037
1046
1051
1050
1045
1044
1052
1036
B
B'
6 R02
107出土遺物
L=99.50m
107
1050
1051
0
1 : 40
1 m
1052
0
1 : 3
10cm

107出土遺物

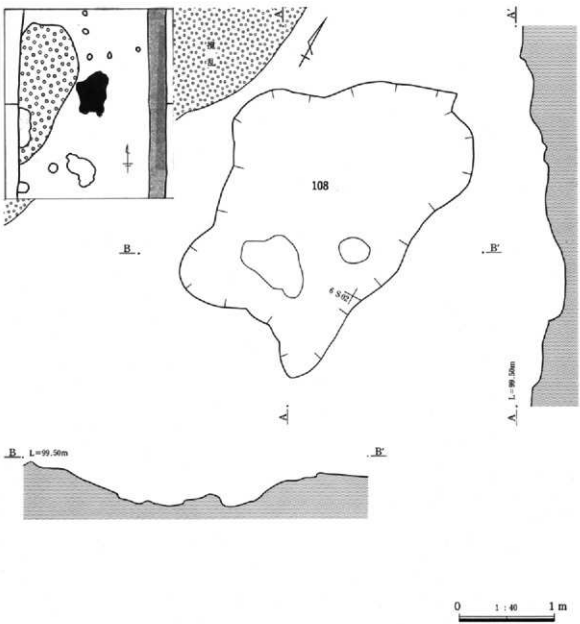


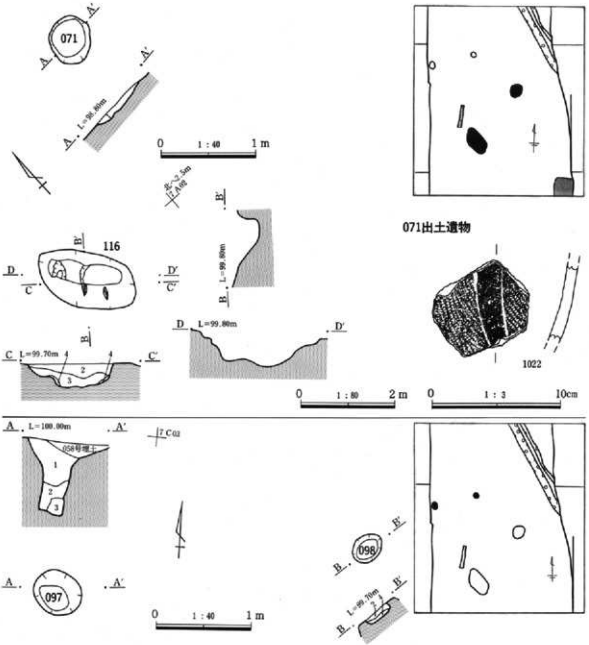
小八木井野川107号遺構（遺構172・遺物172,73頁）

【位置】６Q02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**不定形（2.9×1.4×0.3m）底不均一　**【重複】**なし　**【土層】**不明　**【遺物】**上位より把手付深鉢（1044,46）深鉢（1036,37,45,50～52）出土。小片は土器片のみで7.4kgあった。　**【備考】**単独の遺構としては最大の土器出土があった縄文遺構だが、掘り込みそのものには積極的な性格が考えにくい。土器は集中廃棄か。

小八木井野川108号遺構（遺構174頁）

【位置】６Ｓ02ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**不定形（3.5×2.4×0.5m）底不均一　**【重複】**なし　**【土層】**不明　**【遺物】**縄文土器小片1.5kg出土　**【備考】**南に３m離れた107号とほとんど似た形状で同様の性格が考えられる。ただし大形土器片は見られなかった。



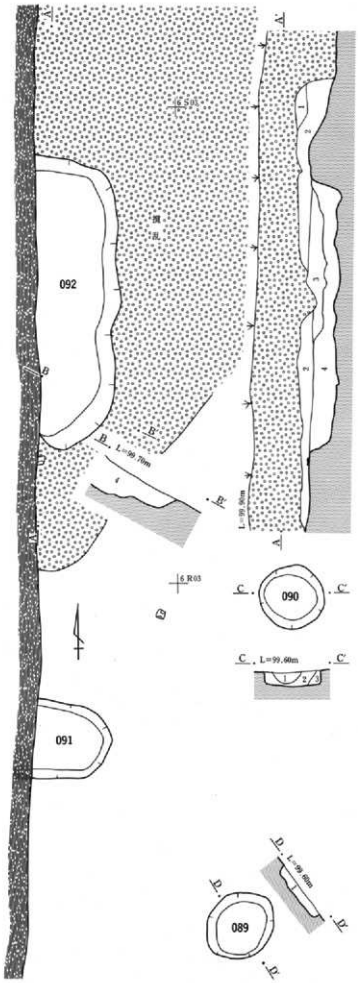


小八木井野川071, 116号遺構（遺構・遺物175頁）

【位置】7 A02, B01 g　**【種類】**土坑　**【形状】**071号：楕円形（0.5×0.4×0.1m）、116号：楕円形（2.2×1.1×0.6m）　**【重複】**なし　**【土層】**1 黒褐色粘質土　砂質土含む　2 黒褐色粘質土　3 同前　鉄分沈着　4 同前　シルト塊混在　**【遺物】**071号：深鉢（1022）、縄文土器小片271 g 出土　116号：縄文土器小片242 g 出土　**【備考】**116号は大形の土坑だが性格不明。071号は遺物やや多いが遺構の特徴は顕著でない。

小八木井野川097, 098号遺構（遺構175頁）

【位置】7 B02, 03 g　**【種類】**ピット　**【形状】**097号円形（径0.5深0.8m）、098号楕円形（0.4×0.3×0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**1 黒褐色粘質土　As-C 混じる　2 同前　シルト粒含む　3 同前　灰色シルト塊含む　4 褐灰色粘質土　褐色粒混じる　**【遺物】**097号：縄文土器小片114 g 出土　**【備考】**097号は柱穴の様相があるが調査範囲内では単独である。098号は性格不明。

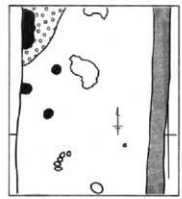


小八木井野川092号遺構（遺構176頁）

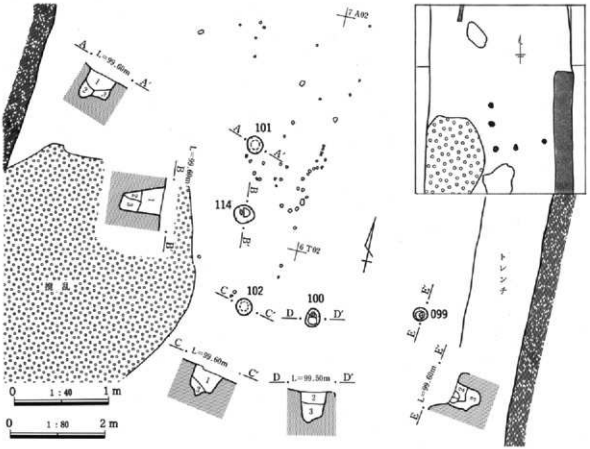
【位置】６Ｒ03ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**方形？（3.0×0.8以上×0.3m）底不均一　**【重複】**なし　**【土層】**１褐色砂質土　２灰褐色粘質土　３黒褐色粘質土　シルト・褐色粒混じる　４黒色粘質土　シルト塊含む　**【遺物】**小片は縄文土器900ｇ、弥生土器575ｇ、古墳土師器272ｇ出土　**【備考】**底は不均一であり、やや大形だが竪穴住居とはみなしがたい。

小八木井野川089～091号遺構（遺構176頁）

【位置】６Ｑ02,03ｇ　**【種類】**土坑　**【形状】**089号：楕円形（0.8×0.6×0.1m）090号：円形（径0.7深さ0.2m）091号：楕円形？（0.8以上×0.8×0.1m）　**【重複】**なし　**【土層】**089号：１黒褐色粘質土　砂質土含む　090号：１黒褐色粘質土　２灰黄褐色粘質土　褐色粒含む　３黒褐色粘質土　１より褐色　**【遺物】**なし　**【備考】**いずれも性格不明。



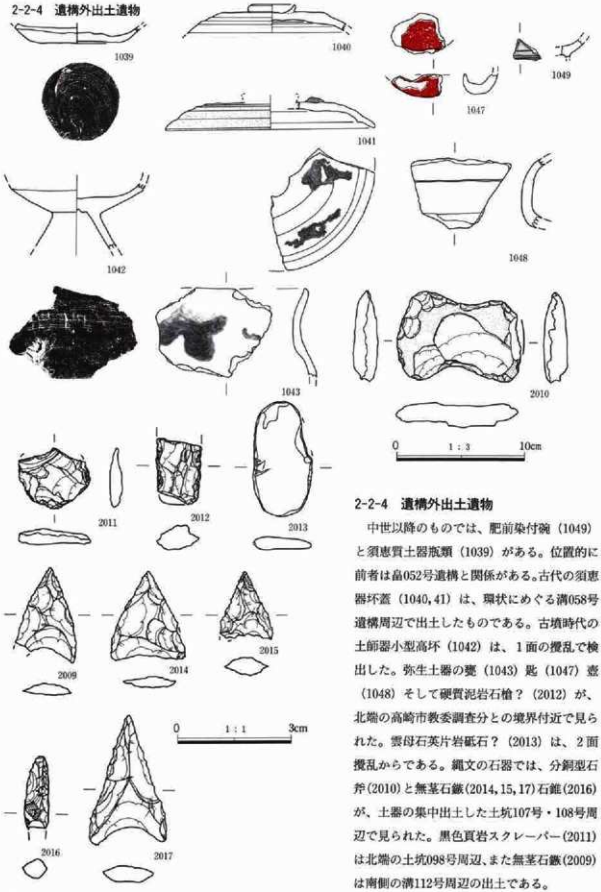
0　1:40　1 m



小八木井野川099～102, 114号遺構（遺構177頁）

【位置】6 ST01, 02 g　**【種類】**ピット群　**【形状】**円形（径0.3深0.3～0.4m）　**【重複】**なし　**【土層】**1 黒褐色粘質土　As-C混じる　2 黒褐色粘質土　シルト塊混じる　3 黒色粘質土　シルト塊含む　3 不明　**【遺物】**いずれも微量の縄文・弥生土器小片出土　**【備考】**全体としてはL字形の配列になっているが、単一の遺構であるとの確証はない。北側遺構外で縄文土器片出土するが、本遺構群は弥生のピット群の可能性もある。

2-2-4　遺構外出土遺物



2-2-4　遺構外出土遺物

中世以降のものでは、肥前染付碗（1049）と須恵質土器瓶類（1039）がある。位置的に前者は畠052号遺構と関係がある。古代の須恵器坏蓋（1040, 41）は、環状にめぐる溝058号遺構周辺で出土したものである。古墳時代の土師器小型高坏（1042）は、1面の攪乱で検出した。弥生土器の甕（1043）匙（1047）壺（1048）そして硬質泥岩石槍？（2012）が、北端の高崎市教委調査分との境界付近で見られた。雲母石英片岩砥石？（2013）は、2面攪乱からである。縄文の石器では、分銅型石斧(2010)と無茎石鏃(2014, 15, 17)石錐(2016)が、土器の集中出土した土坑107号・108号周辺で見られた。黒色頁岩スクレーパー(2011)は北端の土坑098号周辺、また無茎石鏃(2009)は南側の溝112号周辺の出土である。

第３章　自然科学調査

3-1 人歯骨・獣歯

宮 崎 重 雄（群馬県立大間々高等学校）

I はじめに

小八木志志貝戸遺跡の発掘調査は、平成9年から11年まで群馬県埋蔵文化財調査事業団により実施された。今回報告の人骨（一部獣骨）はこのうち平成11年に出土したものである。

出土遺物の年代は人骨が15世紀終末から16世紀はじめ、獣骨は近代である。

II 調査基準

A 歯について

1 計測法は藤田（1949）に従った。

2 計測値による性別判定は権田（1959）、上条（1962）、Matsumura（1994）、埴原・小泉（1979）などのデータとの比較によった。

3 咬耗度による年令判定には栃原（1957）、Brothwell（1992）などを参考にした。

4 歯の形成年代による年令判定には Smith（1991）、Ubelaker（1989）を参考にした。

5 調査項目は主に上条（1962）を参考にした。

B 体肢骨について

1 体肢骨の計測値による性別判定は宮本（1925）、平井・田幡（1928）などを参考にした。

III 調査結果

4501人骨（歯4517と同一、体肢骨4528, 45） 右上顎側切歯、左上顎犬歯・切歯1片と焼骨2片・肢骨片など数片が残存する。遺体は火にかけられ、一部焼骨となったが、高温に晒されることなく、生のまま残存した部分もある。側切歯は切縁のエナメルのみが咬耗を受け、犬歯は尖頭部に最大径2.5mmの象牙質が露出している。上顎犬歯は近遠心径、唇舌径がそれぞれ7.8mm、8.0mmで、側切歯の計測値を見ても、歯の大きさによる性別の判定は困難である。咬耗度は壮年期を示す。齲歯、歯石の付着はない。

4502人骨 13本の歯の歯冠部がほぼ完形を保って残存する。この他に下顎中切歯1片、上顎第1小臼歯3片、下顎第2小臼歯2片、上顎第1大臼歯1片（残存2咬頭に点状の象牙質が露出）などの歯冠部の破片がある。歯以外の部位は残存してない。各歯とも象牙質の露出範囲が大きく、咬耗度は熟年期程度を示す。なかでも犬歯と小臼歯部での咬耗が目立っている。この部分の歯を過度に使用していたのかも知れない。全体的に歯が小振りであることから女性と推定されるが、上顎側切歯のみは男性並みの大きさである。右上顎犬歯には齲蝕の疑いのある凹窩が近心歯頸部にある。歯石の付着している歯は9本に及ぶ。

4503人骨（体肢骨4529） 19本の歯と極めて保存不良の肢骨片が出土している。

右上顎第2大臼歯の遠心側には接触面があるので、第3大臼歯が植立していたことがわかる。このことや歯の咬耗度から壮年期と推定される。右側の方が咬耗が進んでいて、使用頻度が高かったといえよう。歯の大きさによる性別の判定は困難である。右下顎第2小臼歯の遠心歯頸部にはC_2の齲蝕によると思われる凹窩があり、歯石の付着しているものが2本ある。

4504人骨 右上顎第2小臼歯のみの出土である。咬耗度は壮年期程度で歯の大きさは女性相当である。

4505人骨（体肢骨4531） 7本の歯が残存する。上顎犬歯の近遠心径がやや大きいものの、他の歯の大きさ

番号(別周歯番号)	種類	検骨	部位	歯	年令	性別	備考
4501	ヒト	歯	(別掲)		壮年期	?	
4502	ヒト	歯	(別掲)	右上顎犬歯C_1?	熟年期	女性	犬歯・小臼歯部咬耗顕著
4503	ヒト	歯	(別掲)	右下顎第２小臼歯C_2?	壮年期	?	右側の咬耗顕著
4504	ヒト	歯	(別掲)		壮年期	女性？	
4505	ヒト	歯	(別掲)		壮年期前半	女性	
4506	ヒト	歯	(別掲)		青年期後半～壮年期前半	男性	
4507	ヒト	歯	(別掲)		少年期前半	男性	
4508	ヒト	歯	(別掲)		青年期後半	男性	
4509	ヒト	歯	(別掲)		壮年期	男性	
4510	ヒト	歯	(別掲)	右上顎中切歯・側切歯C_1	壮年期～熟年期	男性	左犬歯・小臼歯咬耗顕著
4511	ヒト	歯	(別掲)	左下顎第２小臼歯C_1	青年期後半～壮年期前半	男性	
4512	ヒト	歯	(別掲)	右上顎第２ or 第３大臼歯C_2	壮年期？	男性？	
4513	ヒト	歯	(別掲)		青年期	?	
4514	ヒト	歯	(別掲)		壮年期	男性？	犬歯・大臼歯咬耗顕著
4515	ヒト	歯	(別掲)	右下顎第２乳臼歯C_1	幼年期	男性	
4516	ヒト	歯	(別掲)		乳児期	?	
4517	ヒト	歯	(別掲)		壮年期前半	女性	
4518	ヒト	歯	(別掲)	左上顎第１大臼歯C_1?	壮年期前半	?	上顎第２・第３大臼歯は頬舌方向に極めて大きい
4519	ヒト	歯	(別掲)		壮年期	男性	下顎第１・第２大臼歯は左右とも近遠心径より頬舌径が大きい
4520	ヒト	歯	(別掲)	上顎臼歯C_2	熟年	?	
4521	ヒト	歯	(別掲)		壮年期	男性？	
4522	ヒト	歯	(別掲)	左下顎第２大臼歯C_1	壮年期	女性	
4523	ヒト	歯	(別掲)		壮年期	女性	
4524	ヒト	歯	(別掲)		幼年期	?	
4525	ヒト	歯	(別掲)		青年期前半	男性	
4526	ヒト	歯	(別掲)		壮年期	男性	
4527	ヒト	歯	(別掲)		壮年期？	?	
4528 (4501..4517)	ヒト	○	焼骨２片と肢骨片など数片		壮年期	?	保存最大長20.9mm
4529 (4503)	ヒト		肢骨片？		壮年期	女性？	保存最大長12.0mm
4530	ヒト	○	焼骨片：ほぼ全身各部：切歯・犬歯・第１小臼歯６本の歯槽の残存する下顎骨片ほか１個の残存する下顎骨片，上顎第２又は第３大臼歯の閉鎖歯根		成人		
4531 (4505)	ヒト		大腿骨などの肢骨片		壮年期前半	女性？	保存最大長34.3mm
4532	ヒト		大腿骨などの肢骨片		成人？		保存最大長41.2mm
4533 (4508)	ヒト		肢骨片		青年期後半	男性	保存最大長36.1mm
4534 (4509)	ヒト		大腿骨片（骨体幅24.4mm）など肢骨片数10片		壮年期	男性	保存最大長40.0mm
4535	ヒト	○	焼骨：ほぼ全身各部：頭蓋骨片，上腕骨片，橈骨片，大腿骨片，肋骨片，指骨片１，上肢第５指末節骨１，中手又は中足骨１片		成人		
4536 (4510)	ヒト	○	焼骨，生の骨もわずかに残る：ほぼ全身にわたる数10片残存，前腕＆脛骨存する下顎骨１，中手骨又は中足骨１片，上肢第５指末節骨片など指骨片多		壮年期～熟年期	男性	
4537	ヒト	○	焼骨11片：頭蓋骨片，大腿骨片，脛骨片など		成人		保存最大長35.8mm
4538	ヒト	○	焼骨：ほぼ全身各部：頭蓋骨片，肋椎部２，大腸歯骨１(歯槽閉鎖)，指骨(閉鎖)，大腿骨前後中間骨２，脛腓末端骨２，下肢第１指基節骨１，指骨		成人		
4539	ヒト	○	焼骨：ほぼ全身各部：頭蓋骨片，前腕３(歯槽閉鎖)，肋椎部２，乳様突起1，下顎閉鎖線１，上腕骨遠片，橈骨片（脛腓幅7.1mm），上肢末節骨１など指骨３		成人	女性	保存最大長55.0mm 橈骨，乳様突起小さい
4540 (4511)	ヒト		上腕骨７片など数片		成人？		保存最大長55.3mm
4541 (4512)	ヒト		肢骨７片10数片		壮年期？	?	保存極めて不良
4542	ヒト	○	焼骨：上腕骨７片，橈骨片など75片		成人？		保存最大長41.5mm
4543	ヒト		大腿骨片など数片		成人？		保存最大長38.0mm
4544	ヒト？		肢骨片など10数片		成人？		保存最大長59.8mm
4545	ヒト？		小骨片数片		?		保存最大長34.3mm
4546	ヒト		大腿骨片など10数片		成人？		保存最大長70.0mm
4547 (4516)	ヒト		肢骨片数片		乳児期	?	
4548 (4518)	ヒト		肢骨片数10片		壮年期前半	女性	保存最大長39.5mm
4549	ヒト		大腿骨など肢骨片数10片		成人？		保存最大長59.4mm
4550	ヒト？	○	焼骨：肢骨２１片		?		保存最大長50.2mm
4551 (4519)	ヒト		頭蓋骨片，切歯片，前頬片，上腕骨(緑青により青緑色化)など		壮年期	男性	保存最大長57.0mm
4553 (4520)	ヒト		頭蓋骨片，歯片，大腿骨片，脛骨片など数10片保存最大長9.7mm		熟年期	?	保存最大長43.3mm
4555 (4523)	ヒト		頭蓋骨片(歯槽閉鎖)		壮年期	女性	保存最大長11.5mm
4556	ヒト	○	焼骨（一部なま）頭蓋骨，歯片，橈骨片，大腿骨片，指骨片など	歯冠部鋸断？	成人	女性	
4557 (4510)	ヒト？	○	焼骨５片		?		保存最大長23.7mm
4558 (4525)	ヒト		ほぼ全身各部：頭蓋骨片，岩様部１，下顎骨片(左中切歯・側切歯・犬歯・右中切歯・側切歯の歯槽残存)，歯片など数100片		青年期前半	男性	保存最大長24.0mm
4559 (4526)	ヒト	○	焼骨２，生骨数片：大腿骨片など肢骨		壮年期	男性	
4560	ヒト	○	焼骨（一部なま）：頭蓋骨片，歯根片，肢骨片など		成人		保存最大長20.4mm
4561	ウシ		上顎臼歯片　歯片		成年		歯冠高51.0mm
4562	タヌキ or イタチ		犬歯３個，他骨片16数片		成獣		
4563	ウシ		後臼歯片36片（１～２本分小		成年		歯冠高

は女性相当である。咬耗度は壮年期前半あたりを示している。齲歯はなく、右下顎の２本の大臼歯には舌側に歯石がある。

4506人骨　７本の歯と切歯５片が残存する。右上顎切歯は切縁結節があり、まだ咬耗を受けてない。左上顎側切歯では切縁と近心辺縁隆線にエナメル質の咬耗があり、他の歯にも小さいながらも象牙質の露出がある。青年期前半から壮年期前半の個体であろう。歯の大きさは下顎小臼歯が小さいものの、犬歯は大きめで、他の歯も男性相当である。齲歯や歯石は観察されない。

4507人骨　21本完形の歯冠部と下顎切歯３片が残存する。咬耗を受けているのは第１大臼歯の４本のみで、他の歯は未咬耗である。また、歯の大きさは男性相当であることから、少年期前半の男性と推定される。ほとんどの歯が未萌出であることにより、齲歯や歯石の付着はない。

4508人骨（体肢骨4533）　歯冠部の完存した４本の歯、上顎臼歯１片と保存最大長36.1mmの肢骨片が残存する。このうち象牙質の露出が見られるのは右下顎犬歯と右上顎第１大臼歯である。後者の近心舌側咬頭に1.4mmの径で露出している象牙質が最大である。歯の大きさは下顎第２小臼歯が小さく女性的である他は男性相当の計測値であり、青年期後半の男性と判断した。齲歯・歯石ともない。

4509人骨（体肢骨4534）　３本の歯、大臼歯１片、歯種不明の歯冠３片、保存最大長40.0mmの大腿骨片が残存する。右上顎第３大臼歯はエナメル質の咬耗が広範囲に及び、同第２大臼歯には舌側２咬頭に最大径2.0mmの象牙質が露出していることで壮年期と見なした。歯は上顎右犬歯が近遠心径9.0mm、頬舌径9.0mmと特に大きく、上顎第２大臼歯・第３大臼歯が小さいながらも男性と推定した。齲歯・歯石の付着はない。

4510人骨（体肢骨4536）　歯冠部の完存した７本の歯、歯冠４片と下顎歯槽骨片、中手骨又は中足骨片、上肢第５指末節骨を含むほぼ全身にわたる焼骨片と一部生の骨が出土。焼骨は黒褐色・灰白色化し、亀裂・歪みの目立つものが多い。火熱は全身にまんべんなくわたることなく、一部の骨は生のまま残存した。頭部にもエナメル質を破壊するような高熱は及んでなく、少なくても７本の歯冠部が完存した。

右上顎第３大臼歯では近心舌側咬頭に点状の象牙質が露出していることや他の歯の咬耗度から壮年期～熟年期の個体と判断した。左上顎犬歯には径4.0×2.0mm、左下顎犬歯には径3.8mmの象牙質が露出していて、特に咬耗が激しい。歯の大きさによる性別の判定は困難である。右上顎側切歯の近心及び遠心歯頸部・右上顎中切歯遠心歯頸部にC_3の齲蝕による凹窩がある。歯石は右下顎側切歯の頬側、舌側に少量付着している。

4511人骨（体肢骨4540）　12本の歯と上肢骨３片など数片の骨片が残存する。近心舌側咬頭のわずかに咬耗されている右上顎第３大臼歯が含まれる。このことや他の歯の咬耗度も勘案すると年令は青年期後半から壮年期前半と判断される。一部の歯を除いて歯の大きさは男性相当である。左第２小臼歯の遠心歯頸部にC_1、同じ歯の咬合面中央にも径2.4mmのC_3の齲蝕がある。右下顎側切歯の頬側と舌側に歯石の付着が見られる。

4512人骨（体肢骨4541）　歯冠部の完存する２本の歯、近遠心径が7.0mmの下顎犬歯片、エナメル質の咬耗された右上顎第２？大臼歯、咬頭部に象牙質が点状に露出する右上顎？大臼歯片や左上顎？第１大臼歯？片と極めて保存不良の肢骨片10数片が残存する。

完存する歯は右下顎第１小臼歯と右上顎第２又は第３大臼歯で、前者では咬頭に最大径2.5mmの象牙質が露出しているが、後者ではエナメル質のみ咬耗されている。この咬耗状況から壮年期と推定される。完存する歯の数が少なくて性別判定の材料に乏しいが、右下顎第１小臼歯、下顎犬歯の大きさは男性を示す。右上顎第２又は第３大臼歯遠心歯頸部にC_3の齲蝕による凹窩がある。歯石の付着はない。

4513人骨　歯冠の完存する歯13本と歯冠７片が残存する。未咬耗の第３大臼歯があることや他の歯の咬耗の程度から青年期の個体と判断した。歯の大きさによる性別の判定は困難である。歯石の付着や齲歯はない。

4514人骨　歯冠部の完存した11本の歯と歯種不明の歯冠片10数片が残存する。歯種不明の歯の頬側には径5.6×3.0㎜の象牙質が大きく露出し、舌側にも小さな象牙質が露出しているが、全体的な歯の咬耗度は壮年期を思わせる。犬歯の咬耗は特に顕著である。歯の大きさは男性の可能性を示す。左上顎犬歯の唇側にわずかに歯石が残存する。齲歯はない。

4515人骨　歯冠部の完存した14本の歯と歯冠14片が残存する。このうち９本は永久歯で、すべて未咬耗であり、前歯の歯冠はまだ完成されていない。残る５本は乳歯で、右上顎第１乳臼歯・同第２乳臼歯・左上顎第２乳臼歯・右下顎第１乳臼歯・同第２乳臼歯である。下顎第１乳臼歯、下顎第２乳臼歯にのみわずかにエナメル質の咬耗痕があり、３～４才の幼年期の個体と思われる。歯の大きさは男性相当である。右下顎第２乳臼歯には咬耗面遠心半に三角形のC_3の齲蝕がある。歯石の付着はない。

4516人骨（体肢骨4547）　歯冠の完存する左上顎第１乳臼歯、右下顎第２乳臼歯、右上顎第２乳臼歯１片と肢骨数片が残存する。右上顎第１大臼歯は固有咬合面の近遠心径が頬舌径に大きく勝り、頬舌径の中でも近心のそれの方が遠心より大きい。右下顎第２乳臼歯は頬側面が強く舌側に傾斜していて、固有咬合面は近遠心に長い矩形で頬舌径は遠心部の方が大きい。いずれの乳臼歯も未咬耗で、乳児期の個体であることを示している。性別は不明である。

4517人骨（歯4501と同一、体肢骨4528）　13本の歯が残存する。この他に大臼歯片と思われるものが２片ある。僅かに咬耗された第３大臼歯が検出されることで、壮年期前半と思われる。歯の大きさは女性を示す。齲蝕・歯石ともない。

4518人骨（体肢骨4548）　10本の歯と保存最大長59.4㎜の肢骨数10片が残存する。わずかに咬耗を受けた第３大臼歯が観察されることや、他の歯の咬耗度から壮年期前半と思われる。歯の大きさからは性別の判定は困難である。左上顎第１大臼歯の遠心側にC_1の齲蝕？がある。歯石は上顎側切歯の近心・遠心側、左上顎犬歯舌側、左下顎第１小臼歯遠心側に付着している。左上顎第３大臼歯はきわめて細長く、近遠心径が8.3㎜なのに対して頬舌径は12.6㎜もある。左上顎第２大臼歯にもその傾向がある。

4519人骨（体肢骨4551）　歯冠の完存する22本の歯と切歯片、歯根片、頭蓋骨片、上腕骨片及びサイコロ１個が残存する。上腕骨片には古銭によると思われる緑青で青緑色化している。第３大臼歯がすべて萌出していて、そのうち右下顎第３大臼歯には近心舌側咬頭に点状の象牙質が露出している。他の歯はエナメル質のみ咬耗されている。その他の歯の咬耗度も勘案すると年令は壮年期と思われる。

上顎犬歯の近遠心径・唇舌径がそれぞれ8.5㎜、9.2㎜、下顎犬歯のそれが7.3㎜、8.7㎜とかなり大きく、男性と思われる。この個体の歯の大きな特徴は下顎第一大臼歯・第２大臼歯の近遠心径が頬舌径よりも小さいことである。他の歯でも、頬（唇）舌径が近遠心径を凌ぐことはないが、そのわりに頬（唇）舌径の大きいのが目立っている。歯石は、左下顎側切歯舌側、右下顎第１小臼歯の近心側と遠心側、左下顎第２小臼歯の頬側、右下顎第１大臼歯の近心側に観察される。齲歯はない。

4520人骨（体肢骨4553）　歯冠部の完存する６本の歯・咬耗顕著な下顎切歯？片、遠心頬側咬頭に面状の象牙質の露出した左上顎第１？大臼歯片、遠心頬側舌側咬頭に象牙質の露出した右上顎臼歯片、その他の歯冠片と頭蓋骨片、大腿骨片、脛骨片など保存最大長43.3㎜の数10片の肢骨片が残存する。各歯の咬頭には象牙質が大きく露出し、咬耗が過度に進んでいる。熟年と判断した。歯の大きさからの性別の判定は困難である。齲歯、歯石の付着はない。

4521人骨　８本の歯が残存する。エナメル質のみわずかに咬耗された右上顎第３大臼歯が検出されたことや他の歯の咬耗度から壮年期の個体と判断した。犬歯の大きさから男性と推定した。歯石・齲蝕ともない。

4522人骨　歯冠部の完存する歯が5本と歯種判定不可能な歯冠片35片が残存する。咬耗度からは壮年期と判断される。犬歯の大きさは女性を示す。左下顎第2大臼歯の近心舌側咬頭にC_5の円形の齲蝕がある。歯石の付着はない。

4523人骨（体肢骨4555）　歯冠部の完存する6本の歯、近心咬頭・遠心咬頭に象牙質の露出する大臼歯片と保存最大長11.5㎜の微細骨片が残存する。どの歯にも点状の象牙質が露出し、上顎第1大臼歯には近心頬側咬頭に径2.6㎜の象牙質が観察され、壮年期相当の咬耗度を示している。いずれの歯も小さく女性のものであろう。齲蝕・歯石ともない。

4524人骨　9本の歯と15片の歯冠部片が残存する。左下顎第1大臼歯を除く他の永久歯は未萌出で歯冠部が未完成である。わずかに咬耗を受けているのは左上顎第1乳臼歯・左上顎第2乳臼歯で、右下顎第1乳臼歯では近心2咬頭に点状の象牙質が露出している。幼年期の個体であろう。性別は不明である。齲歯、歯石の付着はない。

4525人骨（体肢骨4558）　歯冠部の完存する28本の歯と岩様部など頭蓋骨片、左中切歯・左側切歯・左犬歯・右中切歯・右側切歯の歯槽の保存された下顎骨片などほぼ全身各部の数100片の生骨が残存する。左上顎第3大臼歯と左下顎第3大臼歯には咬耗痕がなく、他の歯の咬耗度も勘案すると青年期前半と思われる。歯の大きさは男性であることを指示している。13本の歯に歯石が付着している。齲歯はない。この他に第3大臼歯と思われる痕跡的な歯があり、近遠心径、頬舌径、歯冠高がそれぞれ6.3×7.0×5.4㎜と小さく、中心結節がある。

4526人骨（体肢骨4559）　歯冠部の完存する18本の歯、下顎小臼歯片など12片の歯冠片と橈骨2片と大腿骨片など生の肢骨片数片が残存する。焼骨の存在で遺体の一部が火を受けたことを示しているが、火力はそれほど強烈でなく特に頭部や下肢部は弱く、生のままで保存された。咬耗度は壮年期ほどの年令を思わせる。歯の大きさから男性の確率が高い。下顎の4本の切歯と左下顎犬歯は遠心へ咬耗面が強く傾斜している。右下顎側切歯近心側に歯石がある。齲歯はない。

4527人骨　左上顎中切歯と遠心頬側咬頭に面状に象牙質の露出する歯種不明の上顎大臼歯片が残存する。性別は不明で、おそらく壮年期の個体であろう。

4530人骨　ほぼ全身の部位に及ぶ焼骨片である。切歯・犬歯・第1小臼歯など6本の歯槽の残存する下顎骨片、オトガイ棘つきの下顎骨片、根尖孔のほぼ閉鎖した上顎第2又は第3大臼歯の歯根などを含む。火熱は頭部にも十分行き渡ったとみえて、歯冠部は1片も残ってない。顎骨内におさまっていた歯根のみがかろうじて残存している。根尖部の閉鎖により成人と判断されるが、性別は不明である。

4532人骨　保存最大長64.2㎜の大腿骨などの肢骨片が残ったものである。成人であろうが性別は不明である。

4535人骨　ほぼ全身に及ぶ焼骨数100片が残存したものである。頭蓋骨片、上腕骨片、橈骨片、大腿骨片、肋骨片、中手骨または中足骨片、指骨片、上肢第5指末節骨片などが確認される。歯は1片も残っていない。火熱が全身に及び歯を破損消失させたのであろう。骨端の癒合や骨の大きさから成人であることはわかるが、性別は不詳である。

4537人骨　焼骨11片で、頭蓋骨片、大腿骨片、脛骨片などを含む。骨の保存最大長は35.8㎜である。

成人と思われるが性別は不詳である。

4538人骨（体肢骨4550同一）　ほぼ全身に及ぶ焼骨片である。岩様部2個を含む頭蓋骨片、犬歯歯根片、前肢中節骨2片、前肢末節骨2片、この他の肢骨片、大腿骨片、下肢第1指基節骨片などが確認される。火熱は頭部にも行き渡り、歯冠部は1片も残らず、顎骨内におさまっていた歯根のみがかろうじて残存している。歯根の閉鎖していることで成人とわかるが、性別は不明である。

4539人骨　ほぼ全身各部におよぶ焼骨片である。根尖部の閉鎖した歯根３片、頭蓋骨片、岩様部２片、乳様突起１片、下顎頭１片、上腕骨頭１片、橈骨１片、上肢末節骨１片、歯・骨片などが確認される。焼骨化すると容積が最大で25％縮小する（Ubelaker.1989）ことを勘案しても、乳様突起は小さく、橈骨の頸横径が7.1mmと小さいことから女性と思われる。橈骨の近位骨端は癒合しており、永久歯の歯根は閉鎖していることなどから成人と思われる。

4540人骨　保存最大長55.3mmの上腕骨片など数片の骨片である。成人のものだろうが性別は不明である。

4542人骨　上腕骨？片、橈骨片などを含む75片の焼骨片である。最大保存長は41.5mmである。成人のものだろうが性別は不明である。

4543人骨　大腿骨片など数片のきわめて保存不良の骨片が出土している。保存最大長は38.0mmである。成人のものだろうが性別は不明である。

4544人骨　肢骨片など10数片のきわめて保存不良の骨片が出土している。保存最大長は59.8mmである。成人のものだろうが性別は不明である。

4545人骨　保存最大長34.3mmのきわめて保存不良の小骨片が出土している。年令性別などは不明である。

4546人骨　大腿骨片など10数片のきわめて保存不良の骨片が出土している。保存最大長は70.0mmである。成人のものだろうが性別は不明である。

4549人骨　大腿骨片など10数片のきわめて保存不良の骨片が出土している。保存最大長59.9mmである。成人のものだろうが性別は不明である。

4550人骨　焼骨の肢骨１片である。年令性別などは不明である。

4554人骨　保存最大長0.7mmの微細骨片で、年令性別などは不明である。

4556人骨　一部生の骨を含む焼骨細骨片で、ほぼ全身の各部にわたる。頭蓋骨片、側頭突起片、歯根片、寛骨臼片、橈骨片、大腿骨片、指骨片などが確認され、歯冠片には齲蝕されたと思われるものもある。歯根は閉鎖し、成人のものであることを示している。寛骨臼が小さく女性の可能性が高い。

4557人骨？（歯4510、体肢骨4536）　保存最大長23.7mmの焼骨５片である。年令性別などは不明である。

4560人骨　一部生の骨を含む焼骨で、頭蓋骨片、歯根片、指骨片を含み、保存最大長は20.4mmである。成人のものであろうが性別は不明である。

4562　タヌキ（*Nyctereutes procyonoides*）の腰椎３個を含む骨片数10片である。成獣である。タヌキ程度の大きさの家犬（*Canis familiaris*）の可能性もある。椎窩高17.0mm、椎窩幅11.2mm、椎孔幅9.4mm、椎孔高7.5mm、椎体前後径16.3mmを計測する。

4563　家牛（*Bos taurus*）の後臼歯細片36片である。歯冠高32.1mmと高く若獣のものである。

Ⅳ　まとめと考察

１　発掘調査した49基の土坑のうち、タヌキ又はイヌの腰椎等が出土したものが１基、ウシの後臼歯片が出土したのが１基で、他はすべて人骨である。そのうち、１）歯だけ出土したのが12基、２）歯を伴なわず人骨だけが13基、３）歯と人骨が共に出土したのが19基、４）ヒトの歯と牛歯が共伴したのが１基である。

２　出土した人骨は各基とも重複する部位がないことから、各基１個体ずつ埋葬されたと思われる。

性別は、男性が12人、女性が８人、残り26人は不明である。年令はほとんどが成人であるが、少なくても４人の未成年者が含まれている。4507の少年期前半の男性、4515の幼年期の男性、4516の性別不明の乳児、4524の幼年期の性別不明の個体である。死因については不明である。

3 人骨の出土した46基の土坑のうち、焼骨が出土したのは13基である。焼骨には、亀裂や歪みを生じ、灰白色～白色化しているものが少なからずあることから、肉や腱のまだ付着している状態で、すなわち、死後間もない時期に火にかけられたことがわかる。

4 焼骨の出土した13基のうち、1）歯を伴うもの7基、2）人骨だけのもの6基である。

1）については①歯冠エナメル質の残存したもの、②歯根部のみ残存したものの二つのタイプがある。

800℃を越える温度で焼かれると、骨には亀裂・歪みが生じ、白色～灰白色化する。一方、エナメル質は316℃～538℃の熱を受けると崩潰してしまう（平野, 1935）。ところが①のように焼骨中に歯冠エナメル質が残存している事実は、頭部へ十分な高温が及んでいなかったと解釈するしか他にない。一方②については、火力が強く、頭部へも高熱が十分ゆき届き、歯冠エナメル質は破損・崩壊したものの、セメント質に覆われ、顎骨の中におさまって高熱にを免れた歯根のみが残存したということであろう。

5 齲歯又はその疑いのあるものが10個体出土している。

参考・引用文献

Brothwell, D.R., 1992 : *Digging up Bones* (3rd ed.), Cornell University Press, Ithaca, 208pp.

藤田恒太郎, 1949.「歯の計測規準について」.『人類学雑誌』, 61巻, 1-6

樋口和良, 1959.「歯の大きさの性差について」.『人類学雑誌』, 67巻, 151-163

浜野松太郎, 1930.「日本人歯牙萌出時期の統計的観察」.『日本歯科学会雑誌』, 23巻, 285-295

埴原和郎・小泉清隆, 1979.「歯冠近遠心径に基づく性別の判定」.『人類学雑誌』, 87巻, 445-456

平井 隆・田橋文夫, 1928.「現代日本人人骨の人類学的研究. 第4部 下肢骨 その1大腿骨, 膝蓋骨, 脛骨及び腓骨に就いて」.『人類学的研究』, 48巻, 1-82

平野賢二, 1935.「歯牙の熱処理に対する研究（第1編）人類歯牙の熱処理について」.『戸口脛病学雑誌』, 9巻, 375-393

上条雍彦, 1962.『日本人永久歯の解剖学』. アナトーム社, pp.272.

Matsumura, H., 1994. : A Microevolutional History of the Japanese People from a Dental Characteristics Perspective. *Anthropological Science*, vol. 102, p93-118.

宮本博人, 1925.「現代日本人人骨の人類学的研究. 第2部 上肢骨の研究」.『人類学雑誌』, 40巻, 219-305

Smith, B. H., 1991. : Standards of Human Tooth Formation and Dental Age Assessment. *In* Kellyey, M. A. & Larsen C. S., ed., *Advance in Dental Anthropology*, p143-168. Wiley-Liss, New York, 389pp.

栃原 博, 1957.「日本人歯牙の咬耗に関する研究」.『熊本医学会雑誌』, 31巻, 607-656

Ubelaker, D.H., 1989. : *Human Skeletal Remains* (2nd ed.) , Taraxacum, Washinton, 172pp.

680	切歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	右	側切歯	6.8	6.7	9.8	なし	弱	弱		なし	なし	なし		切縁のエナメル質のみ咬耗										
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		左右	犬歯	7.9	8.9	9.8+	なし	弱	弱		隣接状		なし		尖頭に象牙質露出、最大径2.5mm										
681	切歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	右	側切歯	7.4	6.6	9.3	なし	弱		なし		なし	なし		唇側	咬耗は切縁と近心・遠心辺隆線の咬耗量1/3まで及ぶ、切縁に細状に象牙質露出									
		右	中切歯	8.2	10.9	?		2.型		?	?	?	なし		唇側	咬耗は切縁と近心・遠心辺隆線の咬耗量1/3まで及ぶ、切縁に細状に象牙質露出									
		左	中切歯	8.6	6.4+	10.2		2.型		弱	弱	?	なし		唇側	咬耗は切縁と近心・遠心辺隆線の1/3まで及ぶ、切縁に細状に象牙質露出									
		左	側切歯	7.5	6.5	9.7	なし		弱	なし		なし	なし		唇側	切縁に細状に象牙質露出									
	下顎	右	側切歯	6.0	6.2	9.2	なし		弱	弱					唇側・舌側	切縁に細状に象牙質露出									
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	左	犬歯	7.4	8.1	9.2	なし	弱	弱		隣接状		なし		近心歯頸部に象牙質露出、最大径2.5mm C, ?										
		右	犬歯	6.8	7.4	8.7	なし	弱	弱		隣接状		なし		唇側	尖頭部に象牙質露出、最大径4.5mm									
	下顎	右	犬歯	6.5	7.4	8.5	なし	弱	弱		隣接状		なし		唇側	咬耗は歯冠、尖頭部に細状の象牙質露出、最大径3.3mm									
		左	犬歯	6.8	7.4	8.7	なし	弱	弱		隣接状		なし		唇側	尖頭部に点状の象牙質、最大径4.5mm									
	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	Bluck の分類	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度										
		右	第１小臼歯	6.6	7.7	5.8	近心	h		?	なし			なし	咬耗は第二級各型の象牙質、最大径3.5mm										
		左	第１小臼歯	6.5	8.0	6.4	近心	?		h	なし			なし	咬耗は第二級各型の象牙質、最大径4.5mm										
		左	第２小臼歯	6.7	?	5.6	近心						H	なし	近心・咬頭 咬耗は第二級の象牙質露出										
	上顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯心咬頭の歪化	カラベリー結節						歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第２大臼歯	9.6	10.8	6.1	3	なし						遠心・咬頭	遠心咬頭部にエナメル質のみ咬耗										
683	切歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	左	側切歯	6.6	6.8	9.7	なし		?	?		なし	なし		唇側？	尖頭部或い側に向調状に象牙質露出、最大径3.2mm									
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の発達	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	右	犬歯	7.6	8.6	8.6	なし	良	良		隣接状		近心・遠心		尖頭に点状に象牙質露出、近心辺隆線線に尖頭側1/2のエナメル質咬耗										
		左	犬歯	7.4	8.5	10.3	なし	良	良		隣接状		不明瞭	なし	尖頭部から近心辺隆線線上に小さな象牙質露出										
	下顎	左	犬歯	6.7	8.3	10.6	なし	良	良		隣接状		なし	なし	尖頭に菱形の象牙質露出、最大径1.2mm										
	上顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形							歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第２小臼歯	6.9	10.5	6.1	近心							なし	近心咬頭に点状の象牙質露出										
		左	第１小臼歯	7.0	10.0	7.9	近心							なし	咬頭咬頭と遠心辺隆線線に点状の象牙質露出										
		左	第２小臼歯	7.2	9.9	8.0	近心							なし	咬頭咬頭、遠心辺隆線線などでエナメル質咬耗										
		左	第２小臼歯	6.7	10.2	7.9	近心							なし	エナメル質のみ咬耗										
	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	Bluck の分類	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度										
		右	第２小臼歯	7.1	8.5	5.7	近心						H	近心歯頸部に、	エナメル質のみ咬耗										
		右	第１小臼歯	6.8	7.9	7.9	近心	a	b		近心		H	なし	近心	咬耗に象牙質の象牙質、最大径1.8mm									
		左	第２小臼歯	7.2	8.7	5.4	近心						H	なし	エナメル質のみ咬耗										
	上顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯心咬頭の歪化	カラベリー結節						歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第２大臼歯	9.8	11.9	5.9	4	なし						近心	近心舌側咬頭に点状に象牙質露出										
		右	第１大臼歯	10.6	11.0	5.5	4	なし						近心	4咬頭に象牙質露出、近心と咬頭は象牙質縁線										
		左	第２大臼歯				6.8	4						近心	エナメル質のみ咬耗										
	下顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯心咬頭の歪化	第６咬頭	第７咬頭					歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第２大臼歯	10.7	9.9	5.4	5	なし						なし	舌側	咬合面のエナメル質咬耗									
			第１大臼歯	11.1	10.6	6.2	5	なし						なし	舌側	遠心舌側咬頭に外は象牙質露出									
686	切歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	右	中切歯	9.2	7.6	13.4	2.型	弱	弱		なし	なし	なし		切縁部が残存、水咬耗										
		左	側切歯	7.2	?	11.5	?	?	?		あり	なし	なし		切縁・近心辺隆線線にエナメル質のみ咬耗										
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の発達	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	左	犬歯	8.2	8.5	10.6	?	?	?	?	?		なし		尖頭部に菱形状象牙質露出、最大径2.4mm 中ヘチルで5型										
	上顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形							歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第２小臼歯	6.6	9.6	7.7	近心							なし	?	舌側咬頭と近心辺隆線線に象牙質露出に屈曲									
		左	第１小臼歯	7.5	9.6	8.0	近心							なし	?	咬頭・舌側咬頭に点状の微小象牙質露出									
	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		左	第１小臼歯	7.1	7.7	7.5	近心	?	h	X+E+c	近心・遠心			なし	咬耗部位に点状象牙質の象牙質露出										
687	切歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の歪形	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	右	中切歯	9.2	7.9	13.2	2	3.型	弱	弱		なし	なし	なし	切縁にごくわずか咬耗あり										
		左	中切歯	9.3	7.9	12.8	2	3.型	弱	弱		なし	なし	なし	切縁にごくわずか咬耗あり										
		左	側切歯	6.8		8.7								なし	咬耗は認められず										
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	解剖冠の発達	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面窩の発達	舌面歯帯	舌面歯隆線	舌面歯溝	歯軸	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	右	犬歯	8.0	8.9	10.6	2	弱	弱		隣接状		なし	なし	咬耗は認められず										
		左	犬歯	6.9	7.4	9.4		弱	弱		隣接状		なし	なし	咬耗は認められず										
	下顎	左	犬歯	7.1	7.7	11.4		弱	弱		隣接状		なし	なし	咬耗は認められず										

4507	上顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置													齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第2小臼歯	7.1	9.2	7.7	近心													なし	なし	咬耗は認められず			
			第1小臼歯	7.4	9.1	7.9	近心													なし	なし	咬耗は認められず			
		左	第1小臼歯	7.6	9.4	7.8	近心													なし	なし	咬耗は認められず			
			第2小臼歯	7.3	9.2	7.7	近心													なし	なし	咬耗は認められず			
	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	遠心隆線の経過	舌側隆加結節	舌側溝・舌面溝	Black 小分類									齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第2小臼歯	7.7	8.5	8.9	Y													なし	なし	未咬耗			
		左	第1小臼歯	7.4	7.6	7.7	近	c		b		なし								なし	なし	未咬耗			
			第2小臼歯	7.8	8.5	7.5	近												Y	なし	なし	未咬耗			
	上顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	遠心咬頭の高さ	カラベリー結節												齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第2大臼歯	10.8	11.3	6.5	4	なし												なし	なし	未咬耗			
			第1大臼歯	10.9	11.6	5.8	4	なし												なし	なし	咬面のみに咬耗			
		左	第1大臼歯	10.8	11.8	5.7	4	なし												なし	なし	咬面のみに咬耗			
			第2大臼歯	9.7	11.4	6.6	4	なし												なし	なし	未咬耗			
	下顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	遠心咬頭の高さ	第1咬頭	第2咬頭											齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第2大臼歯	12.0	10.6	7.6	5		なし											なし	なし	未咬耗			
			第1大臼歯	12.5	11.4	6.9	5		なし		?									なし	なし	咬面部にエナメルのみ咬耗			
		左	第1大臼歯	12.4	11.1	7.1	5		なし		?									なし	なし	咬面部にエナメルのみ咬耗			
			第2大臼歯	11.4	10.8	5.5	4		なし		なし									なし	なし	未咬耗・未萌出			
4508	犬歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	唇面溝の発達	中央舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面溝間隔	舌面溝間隔	舌面溝間隔							齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
	下顎	右	犬歯	7.3		10.2+	?	弱	弱		?		?							なし	なし	尖頭部に極小の象牙質露出			
	上顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置													齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		左	第2小臼歯	7.1	9.0	7.3	近心													なし	なし	エナメルのみ			
	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	遠心隆線の経過	舌側隆加結節	舌側溝・舌面溝	Black 小分類									齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		左	第2小臼歯	6.5	8.0	7.1	?	?	?	?	?	H								なし	なし	エナメルのみのこぼれが			
	上顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	遠心咬頭の高さ	カラベリー結節												齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第1大臼歯	11.3	11.7	6.5	4	なし												なし	なし	近心舌側咬頭に点状の象牙質露出、最大径1.0mm			
4509	犬歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	唇面の発達	中央舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面溝間隔	舌面溝間隔	舌面溝間隔								齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
	上顎	右	犬歯	9.0	9.0	11.4	?	弱	弱		?	小咬頭	近心							なし	なし	尖頭部遠心側に銀色状に象牙質露出、最大径2.0mm			
	上顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	遠心咬頭の高さ	カラベリー結節												齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第3大臼歯	9.5	9.5	4.7	3	なし												なし	なし	ほぼ全面エナメル質咬耗			
		右	第2大臼歯	9.5	10.7	6.9	4	なし												なし	なし	舌側2咬頭に点状の象牙質露出、最大径2.0mm			
4510	切歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	唇咬頭の位置	唇面溝の分類	唇面隆線の発達	舌側溝の発達		舌側隆線間								齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
	上顎	右	側切歯	7.1	5.8	9.3+	なし	4	弱	弱		?								なし	なし	切端と近心・遠心の隆線の1/3のエナメル咬耗C。			
			中切歯	8.3	6.3	12.5	?	4	良	良		?								なし	なし	切端の遠心側1/4に象牙質露出。近心・遠心は結節部のエナメル咬耗			
	下顎	右	側切歯	5.5	5.5	9.3														なし	なし	咬耗・石側 切端の遠心側1/4に象牙質露出。咬耗面が遠心少量 心・咬頭方向へ偏移			
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	唇咬頭の発達	中央舌隆線の発達	舌側溝の発達	舌面溝の発達	舌面溝間隔	舌面溝間隔								齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
	上顎	左	犬歯	8.3+	8.0+	10.5	?	?	?	?	?	?								なし	なし	尖頭から舌側面の遠心1/3が咬耗。尖頭から遠心側に大きく象牙質露出。径4.5mm×2.0mm			
	上顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置													齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第2小臼歯	7.5																なし	なし	咬頭咬頭に微小の象牙質露出			
	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	遠心隆線の経過	舌側隆加結節	舌側溝・舌面溝										齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		左	第1小臼歯	7.1	7.9	6.7	近心	c		b		なし								なし	なし	咬頭咬耗面に長側円形の象牙質露出、最大径3.0mm			
	上顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	遠心咬頭の高さ	カラベリー結節												齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第3大臼歯	8.5	10.2	6.5	3	なし												なし	なし	近心舌側咬頭に点状の象牙質露出			
4511	切歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	唇咬頭の位置	唇面溝の分類	唇面隆線の発達	舌側溝の発達		舌面溝間隔								齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
	上顎	右	側切歯	7.1	6.3	10.2														なし	なし	切端、近心・遠心部は隆線部にエナメルのみの咬耗			
			中切歯	8.8	7.7	12.2	なし	2	弱	良		良								なし	なし	咬耗は微認できず			
		左	中切歯	8.7	7.6	11.7	なし	2	弱	良		良								なし	なし	切端、近心・遠心部隆線の明瞭より1/4のエナメル咬耗			
	下顎	右	側切歯	5.6	6.5	9.3	なし													なし	なし	咬耗・特徴 切端、近心・遠心部隆線に3つに分離した象牙質露出			
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	唇咬頭の発達	中央舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面溝間隔	舌面溝間隔									齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
	上顎	右	犬歯	8.4	8.8	9.2	?	?	?	?	?									なし	なし	尖頭から近心・遠心の隆線部に結晶状の点状象牙質露出。径1.0mm。舌側面のエナメル質咬耗			
		左	犬歯	8.3	8.8	9.5	?	?	?	?	?	?								なし	なし	尖頭部から舌側面全面咬耗。尖頭部に結晶状の象牙質露出。径2.5mm			
	上顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置													齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第2小臼歯	7.5	9.7	6.6	近心													なし	なし	咬頭・舌側咬頭のエナメルのみ咬耗			
			第1小臼歯	7.4	9.3	7.4	近心													なし	なし	舌側咬頭に円形の象牙質露出。径2.5mm			
		左	第1小臼歯	7.7	10.0	6.9	近心													なし	なし	舌側咬頭に円形の象牙質露出。径2.0mm			
	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	遠心隆線の経過	舌側隆加結節	舌側溝・舌面溝	Black 小分類									齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		左	第1小臼歯	7.4	8.4	7.0	近心	b		b		なし								なし	なし	咬頭咬耗に象牙質露出。径1.5mm			
			第2小臼歯	7.5	8.6	4.8	近							?						なし	なし	近心尖は遠心側なし 舌側面に4mm幅の楕円形の象牙質露出。			
	上顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	遠心咬頭の高さ	カラベリー結節												齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第1大臼歯	9.3	11.5	7.3	3	なし												なし	なし	近心舌側咬頭にわずかに咬耗あり			
4512	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	遠心隆線の経過	舌側隆加結節	舌側溝・舌面溝										齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		左	第1小臼歯	7.6	8.3	6.6	近心	b	?		遠心									なし	なし	咬頭咬耗に象牙質露出。最大径2.5mmの象牙質露出			
	上顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	遠心咬頭の高さ	カラベリー結節												齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第2又は第3大臼歯	9.5	11.8	6.1	3	なし												なし	なし	遠心舌側部に C_1			
4513	切歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	唇咬頭の位置	唇面溝の分類	唇面隆線の発達	舌面溝の発達		舌面隆線間								齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
	下顎	左	中切歯	5.5	6.0	7.0	?	?	?	?	?	?								なし	なし	切端の咬合面は中央凹状しゃ。特徴へ偏移			
			側切歯	6.6	5.3+	6.8	?	?	?	?	?									なし	なし	切端に等状に象牙質露出			
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	唇咬頭の発達	中央舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面溝間隔	舌面溝間隔									齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
	下顎	右	犬歯	6.8	8.1	9.6	なし	良	良	?		?								なし	なし	尖頭部に優形の象牙質露出。咬耗面は特徴へ偏移			
	上顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置													齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度			
		右	第2小臼歯	6.9	9.6	6.7	近心													なし	なし	エナメル質のみおずかに咬耗			
			第1小臼歯	7.5	10.0	8.1	近心													なし	なし	咬頭咬耗に点状の象牙質露出。近心半が咬耗面な			

| | | |

4548	下顎大臼歯	左右	歯槽	近遠心径	頰舌径	歯冠高	遠心咬頭の退化	第5咬頭	第7咬頭				齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
		左	第1大臼歯	11.1	10.8	6.8	5-	なし	あり				なし	なし	咬頭2咬頭に中位の象牙質露出				
			第2大臼歯	11.4	10.6	7.0	4-		なし				なし	なし	エナメルのみ咬耗				
			第3大臼歯	11.0	10.5	5.1	5-		?				なし	なし	わずかに咬耗				
4549	切歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌側隆起の欠如	舌面窩の分類	舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	下顎	右	側切歯	6.1	5.9+	9.2	なし	弱	弱	弱	なし	なし	なし	切端に線状の象牙質露出、縁子状咬合					
		左	中切歯	5.2	6.0	9.3	なし	?	弱	弱	なし	なし	?	切端に線状の象牙質露出、咬耗面は赤茶半					
			側切歯	6.1	6.4	9.4	なし	?	弱	弱	なし	なし	著	切端に線状の象牙質露出、咬耗面は赤茶半					
	犬歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面前隆溝	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度						
	上顎	右	犬歯	8.5	9.2	10.9	2.8-	良	良	隆線状	なし?	なし	なし	尖頭部に小象牙質露出					
	下顎	右	犬歯	7.3	8.7	11.0	なし	良	良	隆線状	なし	なし	なし	尖頭部に極微の象牙質露出					
	上顎小臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌側隆起の位置						齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
		右	第2小臼歯	5.5	7.1	8.1	遠心						なし	なし	象牙質わずかに露出				
			第1小臼歯	7.4	10.0	8.2	遠心						なし	なし	歯頸咬耗に大きく、咬頭咬耗に小さく象牙質露出				
	下顎小臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	遠舌隆線の発達	舌側溝加減形	舌側溝・舌面溝	Black の分類	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
		右	第2小臼歯	5.0	6.4	6.5	遠心		なし				なし	なし	咬頭咬耗に点状の象牙質露出				
		左	第1小臼歯	7.0	8.0	9.3	遠心	b	b		遠心と遠心	Y	なし	近心と遠心	咬頭咬耗に極微象牙質露出、最大径1.8mm				
			第1小臼歯	7.1	8.3	8.2	遠心	b	b		近心と遠心		なし	なし	咬頭咬耗に長径極微の象牙質露出、最大径3.5mm				
			第2小臼歯	7.2	8.5	6.8	遠心					Y	なし	咬頭	咬頭咬耗に点状の象牙質露出				
	上顎大臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	遠心咬頭の退化	カラベリー結節					齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
		右	第3大臼歯	8.3	10.2	5.8	3+	なし					なし	なし	咬頭部がすでに咬耗				
			第2大臼歯	9.1	11.9	7.1	3+	なし					なし	なし	遠心相咬咬耗と近心舌咬咬耗に点状の象牙質露出				
			第1大臼歯	9.8	11.8	6.8	4	なし					なし	なし	?	赤咬耗に点状の象牙質露出、遠心相咬咬耗と近心舌咬咬耗は中央大きく、径12.8×2.2mm				
		左	第2大臼歯	9.1	11.8	5.3	3+	なし					なし	なし		遠心相咬咬耗と近心舌咬咬耗に点状の象牙質露出				
			第3大臼歯	8.9	11.1	6.0	3	なし					なし	なし	エナメル質がすでに咬耗				
	下顎大臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	遠心咬頭の退化	第6咬頭	第7咬頭				齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
		右	第3大臼歯	10.5	10.2	5.6	3+	なし					なし	なし	近心舌咬咬耗に点状の象牙質露出				
			第2大臼歯	10.7	10.9	6.1	4-	なし					なし	なし	相咬と咬頭に点状の象牙質露出				
			第1大臼歯	10.7	11.2	5.9	5-	なし					なし	なし	4咬頭に中位の象牙質露出				
		左	第1大臼歯	10.6	11.0	5.7	5-	なし					なし	なし	4咬頭に中位の象牙質露出				
			第2大臼歯	10.8	10.9	6.2	4	なし					なし	なし	遠心舌咬咬耗に極微象牙質露出、最大径2.5mm				
			第3大臼歯	10.9	10.0	4.7	3?	なし					なし	なし	エナメル質がすでに咬耗				
4550	切歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面溝の発達	舌面前隆線	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	上顎	左	側切歯	6.9	5.7+	6.5	なし			中央			なし	なし	長方形の象牙質露出、最大径4.8mm				
	犬歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	中央舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面前隆溝	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	上顎	左	犬歯	8.0	8.3	7.7	なし	前隆線と連絡		隆線状	なし	なし	なし	尖頭部に小象牙質露出、径5.8×3.2mm					
	下顎	右	犬歯	7.9	7.6	8.0	なし	良	良	不明	なし	なし	なし	尖頭部に一つの平形象牙質露出、径4.6×1.8mm					
	上顎小臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置						齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
		右	第2小臼歯	7.9	9.4	7.6	近心						なし	なし	咬頭咬耗に極微象牙質露出、最大径2.5mm				
	下顎小臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	遠舌隆線の発達	舌側溝加減形	舌側溝・舌面溝	Black の分類	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
		右	第2小臼歯	7.4	8.2	7.3	近心					Y	なし	なし	咬頭咬耗に長径極微象牙質露出、最大径4.2mm				
		左	第1小臼歯	7.9	8.7	5.0	中央	?	b	?			なし	なし	咬頭咬耗にヘラ状の象牙質露出、最大径5.0mm				
4551	切歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面溝の発達	舌面前隆溝	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	上顎	右	側切歯	7.2	5.3+	7.9+?	なし	?	?	?			なし	なし	切端に点状の象牙質露出				
		左	中切歯	8.0+	9.9	相咬の近心・遠心側に咬耗とエナメル質露出							なし	なし	?				
	犬歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	中央舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面前隆溝	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	上顎	右	犬歯	8.2	7.9	7.7	?	?	?	?	?		なし	なし	尖頭部に点状の象牙質露出				
	下顎小臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	遠舌隆線の発達	舌側溝加減形	舌側溝・舌面溝	Black の分類	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
		右	第2小臼歯	7.8	7.7	7.9	近心	a	b	なし			なし	なし	咬頭咬耗に点状の象牙質露出				
			第1小臼歯	7.2	7.7	6.0	近心					H	なし	なし	エナメルのみわずか咬耗				
	上顎大臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	遠心咬頭の退化	カラベリー結節					齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
		右	第2大臼歯	9.2	10.9	6.5	3	なし					なし	なし	エナメルのみわずかに咬耗				
	下顎大臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	遠心咬頭の退化	第6咬頭	第7咬頭				齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
		左	第2大臼歯	11.0	10.4	5.2	5-	なし	なし				なし	なし	エナメルのみわずかに咬耗				
4552	切歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面溝の発達	舌面前隆溝	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	上顎	左	中切歯	8.5+	7.7	9.0	?	?	?	?	?		なし	なし	切端に咬耗はとんど見られず				
	下顎	右	側切歯	6.6	7	8.7	?	?	?	?	?		なし	なし	切端に線状の象牙質露出、咬耗面遠心へ傾斜				
		左	側切歯	6.1	7	7.1+	?	?	?	?	?		なし	なし	切端に点状の象牙質露出				
	犬歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	中央舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面前隆溝	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	上顎	左	犬歯	7.7	8.0	7.5	?	?	?	?	?		なし	なし	尖頭部に細溝状の象牙質露出、咬耗面舌側に傾斜				
	下顎大臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	遠心咬頭の退化	第6咬頭	第7咬頭				齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
		左	第2大臼歯	9.4	8.7	4.2	5-	なし	なし				なし	なし	エナメルのみ咬耗				
4553	切歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面溝の発達	舌面前隆溝	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	上顎	左	中切歯	8.1	?	10.6	破損不明						なし	なし	切端に線状の象牙質露出、咬耗面舌側に傾斜				
	上顎小臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置						齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
			第1小臼歯	6.4	8.0	6.6	近心						なし	なし	咬頭咬耗に点状の象牙質露出				
	下顎小臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌側咬頭の位置	遠舌隆線の発達	舌側溝加減形	舌側溝・舌面溝	Black の分類	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
		右	第2小臼歯	6.8	7.8	5.0						H	なし	なし	咬頭咬耗に点状の象牙質露出				
			第1小臼歯	6.9	7.2	7.2	近心	b	b		遠心と遠心	なし	なし	なし	咬頭咬耗に点状の象牙質露出				
		左	第2小臼歯	6.7	7.1	4.2						H	なし	なし	咬頭咬耗に点状の象牙質露出				
	上顎大臼歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	遠心咬頭の退化	カラベリー結節					齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度				
		右	第1大臼歯	9.9+	?	?	?	?	?				なし	なし	近心咬頭咬耗に径2.6mmの象牙質露出				
4554	切歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面溝の発達	舌面前隆溝	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	下顎	右	側切歯	5.5	破損未完成										未咬耗				
			中切歯	4.8											未咬耗。3個の切端結節あり				
	犬歯	左右	歯槽	近遠心径	唇舌径	歯冠高	舌隆線の発達	中央舌隆線の発達	舌面溝の発達	舌面前隆線	舌面前隆溝	齲蝕	歯石	咬耗部位・咬耗度					
	上顎	左	犬歯	7.2+	破損未完成										未咬耗				
	下顎	右	犬歯	7.0											未咬耗				

4324	上顎犬歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	歯冠高	遠心咬頭の退化	カラベリー結節					動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		左	第1乳歯	8.1	9.1	5.5			なし					なし	なし	わずかに咬耗？									
			第2乳歯	10.1	11.6	5.7		4	なし					なし	なし	わずかに咬耗									
	下顎犬歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	歯冠高	遠心咬頭の退化	第6咬頭	第7咬頭				動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第1大臼歯	11.9	10.4	6.7		5	なし	なし				なし	なし	未咬耗・未萌出									
			第2大臼歯	10.4	10.0	6.4								なし	なし	近心の2咬頭に点状の象牙質露出									
		左	第1大臼歯	11.6	10.3	5.7		5	なし	なし				なし	なし	未咬耗・未萌出									
4325	切歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯冠高	唇側面の退化	舌面窩の分類	舌面隆線の発達	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面溝発達	動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	右	側切歯	8.2	7.2	12.2		なし	例	例				なし	なし	切縁上面・遠心辺縁隆線　ほぼ全部エナメル咬耗									
			中切歯	9.5	7.7	12.5		1	2型	例	例		なし	なし	なし	切縁上面・遠心辺縁隆線の切縁側1/3がエナメルのみ咬耗									
		左	中切歯	9.2	7.7	13.8		2	2型	例	例		薄心	なし	なし	切縁上面・遠心辺縁隆線の切縁側1/3がエナメルのみ咬耗									
			側切歯	8.4	7.2	12.3		なし		例	例		なし		なし	切縁上面・遠心辺縁隆線　ほぼ全部エナメル咬耗									
	下顎	右	側切歯	6.7	6.6	10.9								なし	遠心微量	切縁上近心辺縁隆線の切縁側のエナメルわずかに咬耗									
			中切歯	6.1	6.4	11.3									なし	切縁に点状に極細の象牙質露出									
		左	中切歯	6.2	6.5	11.1								なし	近心微量	切縁にエナメルの咬耗、咬耗面の左2/3は左側へ傾斜し、右1/3は右へ傾斜									
			側切歯	6.7	6.6	10.3								なし	遠心、右より中央の2/3	咬耗に点状の象牙質露出									
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	歯冠高	咬頭の発達	中央溝隆線の発達	舌面溝の発達	舌面歯間隆線	舌面歯間溝		動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	左	犬歯	8.3	10.4	12.4		1	?	?		結節状	なし	なし	遠心少量	尖頭部に点状の象牙質露出、咬耗面舌側へ傾斜する									
	下顎	右	犬歯	7.4	9.0	11.2		なし	良	良	なし	なし		なし	なし	尖頭のみ象牙質結節状に露出									
		左	犬歯	7.6	8.2	11.5		なし	良	良	なし	なし		なし	近心少量	尖頭のみ象牙質結節状に露出									
	上顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	歯冠高	舌側咬頭の位置						動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第2小臼歯	8.1	10.5	7.8		近心						なし	なし	咬頭咬頭に小さい点状象牙質露出									
			第1小臼歯	8.5	9.6	8.2		近心						なし	なし	咬頭咬頭に小さい点状象牙質露出									
		左	第1小臼歯	8.6	10.6	8.9		近心						なし	近心	舌側面に微量 咬頭・舌側咬頭のエナメル咬耗、舌側の方量が大きい									
			第2小臼歯	8.2	10.5	7.8		近心						なし	なし	咬頭・舌側咬頭のエナメル咬耗、舌側の方がとさい									
	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	歯冠高	咬頭咬頭の位置	遠心隆線の発達	舌側咬頭の発達	舌側咬頭の結果	舌側溝・舌面溝	Black の分類	動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第2小臼歯	8.3	9.2	6.6		近心					Y	なし	なし	咬頭・舌側咬頭のエナメルのみ咬耗、咬頭咬頭の方がとさい									
			第1小臼歯	7.7	9.5	9.5		近心	b	c	なし			なし	なし	舌側咬頭に点状の象牙質露出									
		左	第1小臼歯	7.7	9.3	9.7		近心	b	c	近心			なし	遠心微量	舌側咬頭のエナメルのみ									
			第2小臼歯	8.0	9.6	7.4		近心					Y	なし	近心微量	咬耗こくぼがあ									
	上顎犬歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯冠高	遠心咬頭の退化	カラベリー結節					動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第3大臼歯	欠如なし																					
			第2大臼歯	10.1	13.4	6.8		4-	なし					なし	なし？	エナメルわずかに咬耗									
			第1大臼歯	11.7	12.8	7.0		4	なし					なし	なし？	舌側咬頭に点状の象牙質									
		左	第1大臼歯	11.6	12.9	7.2		4	なし					薄心微量	舌側咬頭に点状の象牙質に少量										
			第2大臼歯	10.6	13.2	6.8		4-	なし					なし	なし？	エナメルわずかに咬耗									
			第3大臼歯	10.1	12.6	5.9		3	なし					なし	なし	未咬耗									
	下顎大臼歯	左右	歯種	近遠心径	頬舌径	歯冠高	歯冠高	遠心咬頭の退化	第6咬頭	第7咬頭				動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第3大臼歯	13.6	12.1	7.4		5+1	あり？	なし				なし		舌側・遠心面に象牙質露出	近心 咬頭咬頭に点状の象牙質露出								
			第1大臼歯	12.6	12.0	7.5		5	なし	なし				なし	遠心に微量	遠心2咬頭に点状の象牙質露出									
		左	第1大臼歯	12.6	12.0	7.5		5	なし	なし				なし	近心に微量	咬頭2咬頭に点状の象牙質露出									
			第2大臼歯	12.5	11.9	7.4		5+1	あり？	なし				なし	舌側に微量	エナメルのみわずか									
			第3大臼歯	11.9	11.0			?	?	著も				なし	なし	未咬耗									
	頬歯間の隙3大臼歯間であり、6.3+7.5+5.4、中心結節あり																								
4326	切歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯冠高	唇側面の退化	舌面窩の分類	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面溝発達		動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	右	側切歯	8.2	6.9	10.4		7	?	?	?		中央	なし	なし	切縁上近心辺縁隆線の全周と遠心辺縁隆線1/2咬耗、切縁上近心辺縁隆線上寄りに象牙質露出									
			中切歯	9.0	7.1	12.4		4	2型	例	例		なし	なし	なし	切縁がわずと遠心辺縁隆線1/2と遠心辺縁隆線1/3のエナメル咬耗									
	下顎	右	側切歯	5.7+	6.6	9.2								なし	近心小少量	切縁に縦状の象牙質露出、咬耗面は遠心へ強く傾斜する									
			中切歯			9.3								なし	なし	咬耗面遠心へ浅皿状傾斜									
		左	中切歯	6.1		9.4	骨板にエナメルのみの傾斜							なし	なし	切縁に縦状の象牙質露出、咬耗面は遠心へ強く傾斜する									
			側切歯	6.3	6.1	8.5								なし	なし	切縁に縦状の象牙質露出、咬耗面は遠心へ強く、舌側へ強く傾斜する									
	犬歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯冠高	咬頭咬頭の発達	中央溝隆線の発達	舌面溝の発達	舌面歯間隆線	舌面歯間溝		動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	右	犬歯	8.1+	9.8	10.2		咬耗のため詳細不明						なし	なし	象牙質は尖頭部と遠心辺縁隆線に線状に露出									
		左	犬歯	8.9	9.4	9.4		咬耗のため詳細不明						なし	なし	尖頭部・舌側面のほぼ全面咬耗、尖頭部に4.4×2.5の象牙質露出									
	下顎	右	犬歯	7.2	8.9	8.6		なし	良	良	隆起	なし		なし	なし	咬耗は尖頭部のみで、象牙質が前状に露出。咬耗面は「へ」の字型に2個のみなる。									
		左	犬歯	7.2	8.8	8.5		なし	良	良	隆起	なし		なし	なし	結節状に象牙質露出、咬耗面は遠心へ35°程傾斜し、わずかに凹曲する。									
	上顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯冠高	咬頭咬頭の位置						動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第2小臼歯	5.9	9.7	6.4		近心						なし	なし	ほぼ全部エナメル咬耗									
			第1小臼歯	7.0	10.1	7.7		近心						なし	なし	ほぼ全部エナメル咬耗、咬耗咬頭と遠心辺縁隆線に線状の象牙質露出									
	下顎小臼歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯冠高	咬頭咬頭の位置	遠心隆線の発達	舌側咬頭の発達	舌側溝・舌面溝	Black の分類		動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第2小臼歯	6.2	8.5	6.4		近心					H	なし	なし	咬頭咬頭に点状の象牙質露出									
			第1小臼歯	6.7	7.9	7.4		近心	a	b	なし			なし	なし	咬頭咬頭に点状の象牙質露出									
		左	第1小臼歯	6.9	8.0	7.7		近心	a	b	なし			なし	なし	咬頭咬頭に斑点型象牙質露出、径2.5×1.8									
	上顎犬歯	右左	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯冠高	遠心咬頭の退化	カラベリー結節					動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
		右	第2大臼歯		9.8	7	6.3	7						?なし	なし	遠心咬頭咬頭と遠心舌側咬頭などに大きな象牙質の露出									
					9.8(?)																				
4327	切歯	左右	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠高	歯冠高	唇側面の退化	舌面窩の分類	舌面隆線の発達	舌面溝の発達	舌面溝発達		動物	歯石	咬耗部位・咬耗度									
	上顎	左	中切歯	8.5	?	10.8		?	?	?	?		?	なし	なし	咬耗は舌側へ傾斜し、歯上に象牙質の露出があったと推察									

3-2 プラント・オパール、花粉分析

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

3-2-1 プラント・オパール分析

プラント・オパールとは、根から吸収された珪酸分が葉や茎の細胞内に沈積し形成された植物珪酸体（機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体）が、植物が枯れるなどして土壌中に混入して土粒子となったものを言い、機動細胞珪酸体については藤原（1976）や藤原・佐々木（1978）など、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。また、土壌中より検出されるイネのプラント・オパール個数から稲作の有無および稲作地の広がりについての検討も行われている（藤原,1984)。こうした研究成果から近年、このプラント・オパール分析を用いて稲作の検証が各地・各遺跡で行われている。

小八木志志貝戸遺跡群において行われた発掘調査では、畠地や水田址とみられる遺構および用途不明の平坦地などが検出され、こうした遺構および平坦地における稲作あるいは他の作物について検証する目的で2回のプラント・オパール分析や一部花粉分析を行った。ここでは第2次分析（南部1998年11月）を報告する。

1 試料と分析方法

分析用試料は、いずれも浅間Bテフラ（As-B）堆積層直下の土層より採取されている。各試料について、試料1は小八木志志貝戸遺跡6区002号遺構（9L10g）より採取された黒～黒褐色の粘土、試料2は小八木井野川遺跡001号遺構より採取された黒～黒褐色粘土、試料3は井野屋敷前遺跡西側地点の畦畔をともなう水田遺構の水田面直下の黒褐色砂質粘土である。試料4、5は井野屋敷前遺跡東側地点の浅間Bテフラ直下黒色粘土層（やや泥炭質）より採取された。そのうち試料4は特に黒色の強い最上部2cmより採取され、試料5は浅間Bテフラ層の下4cmより採取された。プラント・オパール分析はこれら5試料について以下のような手順にしたがって行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約40μm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により10μm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数はガラスビーズが300個に達するまで行った。

2 分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（表)、それらの分布を図に示した（195頁)。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、全試料より非常に多くのイネのプラント・オパールが検出された。個数としては、最も少ない試料4（井野屋敷前天水地区）でも15,000個で、試料2においては100,000個弱に達している。

イネ以外についてみると、ネザサ節型は30,000個前後、ウシクサ族は20,000個前後検出され、キビ族も3,000個前後を示し、遺跡により多少異なる結果を示しているがそれほど大きな違いでは無い。これらに比べヨシ属は3試料は30,000個前後を示すものの、試料2（小八木井野川遺跡）においては6,000個と少なく、試料4では反対に約90,000個と非常に多く検出されている。その他、クマザサ属型やジュズダマ属などが若干検出されている。

3　稲作について

上記したように、全試料より多くのイネのプラント・オパールが検出された。検出個数の目安として水田址の検証例を示すと、福岡市の板付北遺跡では、イネのプラント・オパールが試料1ｇ当り5,000個以上という高密度で検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原,1984)。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。

今回分析を行った各地点においてはいずれも5,000個を越える個数が得られており、検出個数からは稲作が行われていた可能性は高いと判断される。これらのうち、試料3（井野屋敷前遺跡屋敷前地区）は畦畔をともなう水田遺構の水田面直下の試料である。また、花粉分析結果をみると、多くのイネ科花粉の検出とともにオモダカ属（オモダカ，ウリカワなど)、ミズアオイ属（ミズアオイ，コナギなど）などの水田雑草を含む分類群も産出しており、水田稲作を支持する結果を示している。また、同様の水田遺構が検出されている試料1（小八木志志貝戸遺跡6区002号遺構）についてもプラント・オパール分析および花粉分析結果を合わせ水田稲作が行われていた可能性は高いと判断される。

しかしながら試料2についてみると、イネのプラント・オパールは非常に多く検出されているが、ヨシ属は他の試料に比べ非常に少なく、花粉化石もほとんど検出されていない。これらのことから、試料2採取層は地下水位が低く、他の地点に比べ乾いた環境であったことが予想され、花粉化石の多くは分解・消失してしまったと推測される。よって、試料2、すなわち小八木井野川遺跡001号遺構において稲作が行われていたとするとかなり乾いた状況での稲作（陸稲？）が予想されよう。また、稲作ではなく、そうした状況は示されていないが畑作であるとすると、肥料などとして稲藁が試料採取地点付近に供給された結果大量のイネのプラント・オパールが検出されたことも考えられよう。このようなことから、小八木井野川遺跡における稲作についてはさらに検討が必要と考える。

また、試料4についてみると、プラント・オパール分析および花粉分析とも水田稲作を支持する結果を示している。そのうちプラント・オパール分析においてはヨシ属（ヨシ，ツルヨシなど）が非常に多く検出されており、花粉分析においてはガマ属（ガマ，ヒメガマなど）の多産が示されている。これらは池沼や湿地などに生育する植物であり、堆積物もやや泥炭質と他地点に比べ水環境の影響が予想される。このような堆積層における稲作について、東京都の溜池遺跡では良質な草本泥炭層においてヨシ属の多産とともにイネが検出されており、ヨシ属，ガマ属，カヤツリグサ科の湿原の形成とともに一部で水田稲作が行われるようになった(鈴木,1997a)と考えられている。また、神奈川県海老名市の四大縄遺跡においても分解質泥炭層より大量のヨシ属とともにイネが検出され、ヨシ原を切り開いて水田稲作が行われるようになった(鈴木,1997b)と考えられている。

このように、湿地環境が予想される堆積物においても水田稲作が予想される結果となった。なお、井野屋敷前遺跡天水地区において、試料4直下の試料5ではヨシ属，ガマ属とも他地点と同様の産出を示しており、これらが大量に検出された環境は一時的であったと推測される。

4　水田稲作と土壌

上記した井野屋敷前遺跡天水地区の試料4は特に黒色が強い粘土であり、これは泥炭が酸化分解して形成されたもの（黒泥）と考えられる。また、赤褐色酸化鉄の集積が認められないことから還元環境であったと推測され、水田としては湿田であったと思われる。一方、同遺跡屋敷前地区の水田遺構より採取された試料3は砂質粘土であり、赤褐色酸化鉄の集積が認められる。また、小八木志志貝戸遺跡の試料1にも酸化鉄の集積が認められる。この赤褐色酸化鉄の集積は土壌が空気と接していたことを示すと考えられ、水が常時ついているわ

けではない水田、すなわち乾田あるいは半乾田における稲作と推測される。また、先にも記したが、溜池遺跡にみられる良質な泥炭土においても稲作が予想されている（鈴木,1997a)。

一般的な水田土壌としては試料３のような砂質粘土あるいは砂質シルトと予想されるが、このように泥炭や黒泥においても水田稲作が行われていた可能性があり、土相だけでは判断しにくいことを示していると考える。

引用文献

鈴木　茂,1997a：「溜池遺跡の植物珪酸体」『溜池遺跡第Ⅱ分冊』帝都高速度交通営団・地下鉄７号線溜池・駒込間遺跡調査会, p.146-154.

鈴木　茂,1997b：「海老名市四大縄遺跡のプラント・オパール」『四大縄遺跡』海老名市No47遺跡発掘調査団,p.87-90,（p.19）

藤原宏志,1976：「プラント・オパール分析法の基礎的研究（１）一数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法一」『考古学と自然科学』９,p.15-29.

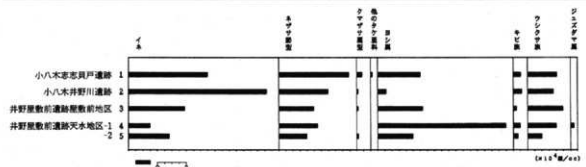
藤原宏志,1984：「プラント・オパール分析法とその応用一先史時代の水田址探査一」『考古学ジャーナル』227,p.2-7.

藤原宏志・佐々木彰,1978：「プラント・オパール分析法の基礎的研究（２）一イネ（Oryza）属植物における　機動細胞珪酸体の形状一」『考古学と自然科学』11,p.9-20.

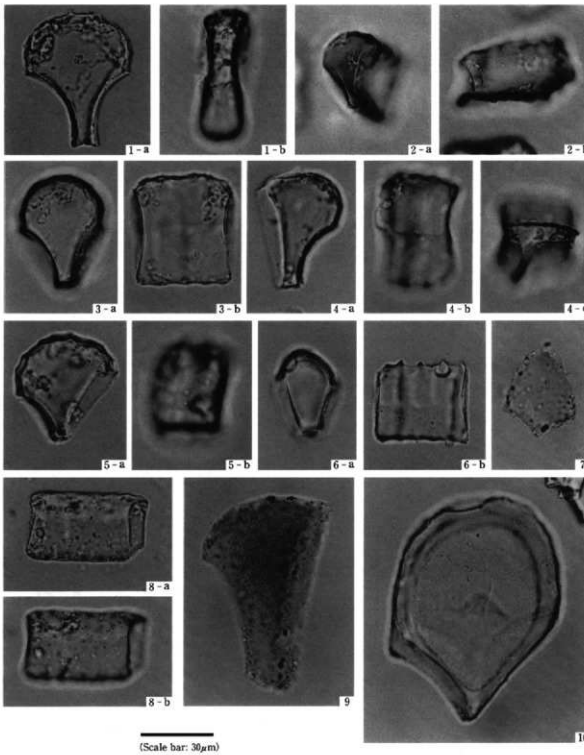
群馬文,1999：『井野屋敷前遺跡』

試料１ｇ当りのプラント・オパール個数

遺　跡	試料番号	イネ（個/g）	ネザサ節型（個/g）	クマザサ属型（個/g）	他のタケ亜科（個/g）	ヨシ属（個/g）	キビ族（個/g）	ウシクサ族（個/g）	不明（個/g）
小八木志志貝戸遺跡	1	54,900	49,400	4,100	1,400	30,200	5,500	20,600	19,200
小八木井野川遺跡	2	96,500	35,000	1,200	0	6,000	6,000	18,100	16,900
井野屋敷前遺跡屋敷前地区	3	38,900	24,800	1,200	0	31,800	2,400	24,800	18,900
井野屋敷前遺跡天水地区－１	4	15,000	27,400	0	0	89,800	2,500	20,000	32,400
井野屋敷前遺跡天水地区－２	5	28,300	19,900	1,700	0	24,900	3,300	10,000	8,300



プラント・オパール分布図



第２次分析

出産プラントオパールの顕微鏡写真

1～5　イネ（a：断面、1-b、3-b、4-b：断面、4-c：表面、2-b、5-b：裏面部）
1：試料１　2：試料２　3：試料３　4：試料４　5：試料５
6：ネザサ節型（a：断面、b：側面）断面４　7：クマザサ属型（断面）試料１
8：キビ属（断面）試料１　9：ウシクサ属（断面）　試料１
10：ヨシ属（断面）試料４

3-2-2 花粉分析

新 山 雅 広（パレオ・ラボ）

小八木志志貝戸遺跡、小八木井野川遺跡、井野屋敷前遺跡の3遺跡から採取された合計5試料について、各試料を採取した土層が水田耕作土層であるか否かを推定することを主な目的として花粉化石群集の検討を行った。

1 試料

分析に用いた試料は、以下の通りである。なお、この5試料はプラント・オパール第2次分析の検討にも用いられている。

試料1：小八木志志貝戸遺跡6-002号遺構の黒色～黒褐色粘土層より採取された。この土層の上部には褐鉄鉱が根状に集積しており、直上には浅間B軽石(As-B)が多量に混じる黒褐色シルト層が堆積する。

試料2：小八木井野川遺跡001号遺構の黒色～黒褐色粘土層より採取された。この土層は、根状の褐鉄鉱の集積が僅かに認められ、直上には浅間As-B軽石が多量に混じる黒褐色シルト層が堆積する。

試料3：井野屋敷前遺跡屋敷前地区の黒褐色砂質粘土層より採取された。この土層は、水田耕作土層と考えられており、試料は水田遺構面の直下より採取された。この土層の直上には浅間B軽石が堆積する。

試料4、5：井野屋敷前遺跡天水地区の黒色粘土層より採取された。この土層は、最上部1cm程が特に黒色が強く、試料4はこの最上部約1cmの部分から、試料5はその下の最上部から約4～8cmの部分から採取された。この土層の直上には浅間As-B軽石が堆積する。

2 分析方法

花粉化石の抽出は、試料約2～3gを10%水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸9の混液で湯煎約5分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、全ての試料において重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。

検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に出現した全ての種類について同定・計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した。ただし、クワ科、バラ科、マメ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

3 花粉化石群集の記載

試料1（小八木志志貝戸遺跡）：同定された分類群数は、樹木花粉19、草本花粉13、形態分類で示したシダ植物胞子2である。樹木花粉の占める割合は約47%である。その中で、コナラ亜属が約39%で最優先し、次いでアカガシ亜属（約16%）、クマシデ属―アサダ属（10%）、スギ属（約8%）が出現する。草本花粉では、イネ科が約26%で最優先し、次いでカヤツリグサ科が約13%で出現する。他に、ガマ属、オモダカ属、ミズアオイ属などが低率で出現する。

試料2（小八木井野川遺跡）：同定された分類群数は、樹木花粉8、草本花粉6、形態分類を含むシダ植物胞子2である。樹木花粉の産出個数が不十分なため花粉化石分布図として示せなかった。樹木花粉では、コナラ亜属が比較的多産し、クマシデ属―アサダ属、アカガシ亜属などが僅かに産出した。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科が比較的多産し、ガマ属、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科や水生シダ植物のサンショウモなどが産出した。

試料3（井野屋敷前遺跡屋敷前地区）：同定された分類群数は、樹木花粉21、草本花粉15、形態分類を含むシ

ダ植物胞子２である。樹木花粉の占める割合は約32％と低率である。その中で、コナラ亜属が約27％で最優先する。次いで、アカガシ亜属（約23％）、スギ属（約11％）、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科（約６％）、クマシデ属―アサダ属（約６％）などが出現する。草本花粉では、イネ科が約36％で最優先し、次いでカヤツリグサ科が約17％で出現する。他に、オモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属、サンショウモなどが低率で出現する。

試料４（井野屋敷前遺跡天水地区）：同定された分類群数は、樹木花粉21、草本花粉15、形態分類を含むシダ植物胞子３である。樹木花粉の占める割合は約24％と低率である。その中で、コナラ亜属が約23％で最優先する。次いで、アカガシ亜属（約21％）、スギ属（約11％）、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科（約10％）、クマシデ属―アサダ属（約７％）などが出現する。草本花粉では、イネ科が約27％で最優先し、次いでカヤツリグサ科が約23％で出現する。他に、ガマ属が約18％と突出した出現傾向を示し、オモダカ属、ミズアオイ属、サンショウモなどが低率で出現する。

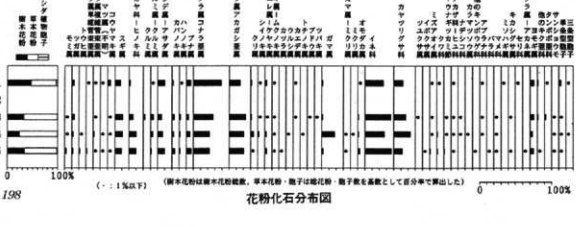
試料５（井野屋敷前遺跡天水地区）：同定された分類群数は、樹木花粉20、草本花粉17、形態分類を含むシダ植物胞子２である。樹木花粉の占める割合は約33％と低率である。その中で、コナラ亜属が約22％で最優先する。次いで、アカガシ亜属が約21％、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、スギ属、クマシデ属―アサダ属が約10％で出現する。草本花粉では、イネ科が約37％で最優先し、次いでカヤツリグサ科が約12％で出現する。他に、ガマ属、オモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属、サンショウモなどが低率で出現する。

４　考察

検討した５試料の花粉組成は、いずれもイネ科が比較的高率で出現し、オモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属、サンショウモなどの現在の水田において普通にみられるいわゆる水田雑草が随伴するという特徴がある。従って、花粉化石群集からみた場合、いずれの試料を採取した土層も水田耕作土層である可能性が考えられる。試料３（井野屋敷前遺跡屋敷前地区）については、既に発掘調査で水田遺構が確認されており、水田耕作土層と考えられる土層から採取された試料であるが、花粉組成からも水田遺構であることを支持する結果が得られたことになる。ただし、試料４（井野屋敷前遺跡天水地区）については、ガマ属が他試料に比べて非常に多産する傾向がみられ、水田に類似した水位の低い湿地的環境が存在していた可能性も考えられる。

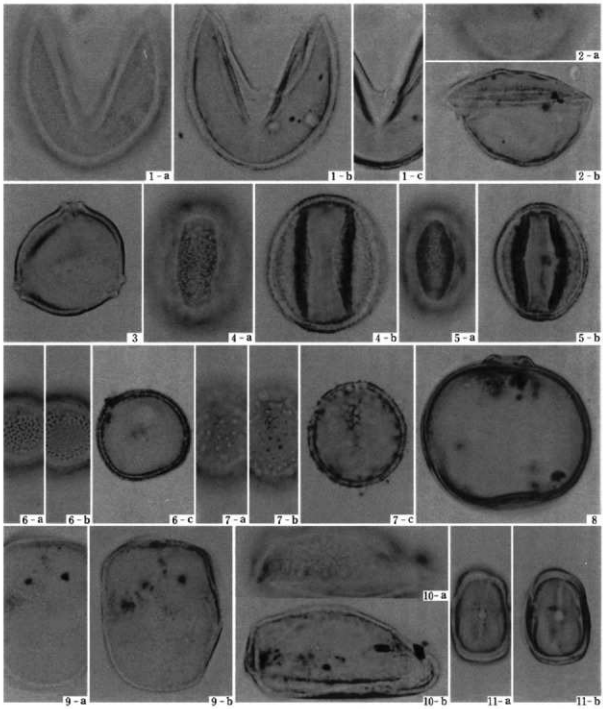
遺跡周辺の植生については、いずれの試料も花粉組成は概ね類似しており、コナラ亜属、アカガシ亜属を主体に針葉樹のスギ属、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、落葉広葉樹のクマシデ属―アサダ属などを混じえた森林が成立していたことが予想される。

参考　群馬文，1999：「井野屋敷前遺跡」


樹木花粉
草本花粉・シダ植物胞子
シダ植物胞子
草本花粉
樹木花粉
ママコナ
ツブラバラ
高麗ツバキ
年縞藻ウコギ
褐藻類ウキヤガラ
トリモチ
モッカ
とがり
高麗
管藻
密室藻
密室藻
ヤマモモ
ヤマハギ
ヤブ
高麗
スギ
高麗
ヒノキ科
イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科
ルミ
ルミ
ルミ

花粉化石一覧表

和名	学名	1	2	3	4	5
樹木						
モミ属	*Abies*	-	-	1	1	5
ツガ属	*Tsuga*	7	1	8	5	5
トウヒ属	*Picea*	-	-	-	1	3
マツ属単維管束亜属	*Pinus* subgen. *Haploxylon*	1	-	-	-	3
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	1	-	1	4	2
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	1	-	-	2	1
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	8	-	1	1	1
スギ属	*Cryptomeria*	17	1	23	23	21
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	4	-	12	22	22
クルミ属	*Juglans*	-	-	5	-	-
サワグルミ属－クルミ属	*Pterocarya-Juglans*	2	-	9	7	3
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	21	3	12	15	21
カバノキ属	*Betula*	4	-	7	5	9
ハンノキ属	*Alnus*	1	1	5	3	3
ブナ属	*Fagus*	13	-	7	11	15
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	82	11	56	48	49
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	33	3	48	44	45
クリ属	*Castanea*	4	2	3	10	2
シイノキ属	*Castanopsis*	2	-	1	4	-
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	6	1	1	4	6
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	2	-	2	1	1
カツラ属	*Cercidiphyllum*	-	-	-	-	1
ウルシ属	*Rhus*	-	-	-	1	-
カエデ属	*Acer*	1	-	1	-	-
トチノキ属	*Aesculus*	-	-	-	1	-
ブドウ属	*Vitis*	-	-	1	-	-
ツバキ属	*Camellia*	-	-	1	-	-
草本						
ガマ属	*Typha*	7	2	9	158	14
ガマ属－ミクリ属	*Typha - Sparganium*	-	-	-	2	2
ミクリ属	*Sparganium*	-	-	-	1	-
オモダカ属	*Sagittaria*	4	-	9	12	21
イネ科	Gramineae	116	16	232	238	240
カヤツリグサ科	Cyperaceae	58	15	107	207	80
ツユクサ属	*Commelina*	-	-	1	-	-
イボクサ属	*Aneilema*	-	-	-	-	1
ミズアオイ属	*Monochoria*	3	-	4	1	7
クワ科	Moraceae	1	-	-	10	8
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	-	-	3	2	7
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	1	-	3	3	1
ナデシコ科	Caryophyllaceae	-	-	1	1	-
カラマツソウ属	*Thalictrum*	-	-	-	1	-
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	-	-	-	-	3
アブラナ科	Cruciferae	1	-	3	1	-
バラ科	Rosaceae	-	-	-	-	1
マメ科	Leguminosae	-	-	2	3	1
ミソハギ属	*Lythrum*	1	-	-	-	-
キカシグサ属	*Rotala*	-	-	2	-	3
セリ科	Umbelliferae	1	-	-	-	-
ヤエムグラ属－アカネ属	*Galium - Rubia*	-	-	-	-	2
ヨモギ属	*Artemisia*	24	5	33	30	31
他のキク亜科	other Tubuliflorae	5	3	8	-	3
タンポポ亜科	Liguliflorae	4	1	12	-	-
シダ植物						
サンショウモ	*Salvinia natans* All.	-	1	1	1	3
単条型胞子	Monolete spore	14	6	5	4	6
三条型胞子	Trilete spore	1	-	-	1	-
樹木花粉	Arboreal pollen	210	23	205	213	218
草本花粉	Nonarboreal pollen	226	42	429	670	425
シダ植物胞子	Spores	15	7	6	6	9
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	451	72	640	889	652
不明花粉	Unknown pollen	4	3	11	4	3



(Scale bar: 20μm)

出産した花粉化石

1．スギ属、試料3、PAL. MN　1179
2．イチイ科―イマガヤ科―ヒノキ科、試料4、PAL. MN　1171
3．クマシデ属―アサダ属、試料5、PAL. MN　1174
4．クマシデ属コナラ亜属、試料3、PAL. MN　1180
5．コナラ属アカガシ亜属、試料5、PAL. MN　1173
6．ガマ属、試料4、PAL. MN　1170
7．オモダカ属、試料5、PAL. MN　1175
8．イネ科、試料5、PAL. MN　1178
9．カヤツリグサ科、試料4、PAL. MN　1172
10．ミズカオイ属、試料5、PAL. MN　1177
11．キカシグサ属、試料5、PAL. MN　1176

3-3　樹種同定

植　田　弥　生（パレオ・ラボ）

第３次調査で検出した炭化材・生材計73点の樹種同定を行ったが、ここでは同定結果の中から、本書報告に関る部分の概要を記す（全体の結果については、『小八木志貝戸遺跡群４』で報告する）。

１　結果

今回の調査試料の本書報告関係では、針葉樹のトウヒ属・アカマツ・ヒノキ・ヒノキ属の４分類群、落葉広葉樹のクヌギ節・ヤナギ属・クリ・ケヤキ・エノキ属・ウツギ属・モモまたはウメ・ナナカマド属の８分類群、常緑広葉樹のシイノキ属の１分類群、そしてタケ亜科（タケ類）が検出された。

２　まとめ

全体的にはクリが圧倒的に多く検出された。クリは、中世の火葬墓・井戸そして井野川遺跡の井戸などから検出された。クリは奈良時代から中世では利用度の高い樹種であったようである。『小八木志志貝戸遺跡群２』で報告した古墳時代初期の竪穴住居（２区080号遺構）から出土した炭化材52試料の樹種は、すべてクヌギ節が圧倒的に多くほかにクリ・コナラ節・エノキ属が各１～２点づゞ検出されている。従って当遺跡では、奈良時代から中世の様々な遺構からはクリが多く出土するがクヌギ節はあまり検出されていないのに対し、弥生時代から古墳時代初期の住居からはクヌギ節が圧倒的に優先して出土しクリはあまり検出されていない傾向が認められた。クリもクヌギ節も共に建築材や道具類に利用される樹種であることから、クリとクヌギ節は時代により利用頻度が変化した可能性も考えられる。

中世の火葬墓から出土した炭化材３試料はすべてクリであり、今までに知られている同様な時期・遺構の一般的な事例と符号していた。

井戸からは、針葉樹や広葉樹そしてタケ類の複数種の樹種が検出され、径１～３cmの丸木や加工痕がある破片などが多かった。ウツギ属の枝が４区045号から検出されたが、経験的な見解ではあるが井戸から出土した植物体の中にウメやモモ核と共にウツギ属が検出される機会が多いように思える。ウツギ属に属するウツギは、古代より忌み植物として民俗的には扱われてきたそうであり、またウツギの花の咲き具合によりその年の豊作を予想するなど、呪いや水・稲作などとの関連性が深い植物であるようなので、単に井戸周辺に生育していた枝が井戸内に落ちたものではなさそうである。

試料番号	調査地区	遺構番号	遺構種類	時代	番号	材状態	樹　種	備　考
1	４区	028号	火葬跡	中世	1	炭	クリ	
2	４区	028号	火葬跡	中世	2	炭	クリ	
3	４区	028号	火葬跡	中世	覆土	炭	クリ	
4	４区	032号	火葬墓	中世		炭	クリ	
5	４区	174号	火葬墓	中世	2	炭	クリ	
6	４区	174号	火葬墓	中世	2	炭	タケ亜科	タケ類
7	４区	174号	火葬墓	中世	3	炭	クリ	
8	４区	174号	火葬墓	中世	4	炭	クリ	
9	４区	174号	火葬墓	中世	4	炭	エノキ属	
10	４区	174号	火葬墓	中世	4	炭	タケ亜科	タケ類
12	５区	045号	井戸	近世	覆土	生材１	ウツギ属	
13	５区	045号	井戸	近世	覆土	生材２	ウツギ属	
14	５区	045号	井戸	近世	覆土	生材３	ヤナギ属	
15	５区	045号	井戸	近世	覆土	生材４	クリ	
16	５区	045号	井戸	近世	覆土	生材５	アカマツ	
63	井野川	008号	井戸	中世	覆土	生材１	ナナカマド属	径2.5cm他同径５点あり
64	井野川	008号	井戸	中世	覆土	生材２	モモかウメ	径１cm
65	井野川	008号	井戸	中世	覆土	生材３	トウヒ属	径１cm　ねじれた枝
66	井野川	008号	井戸	中世	覆土	生材４	ヒノキ	曲物のわっぱの破片
67	井野川	008号	井戸	中世	覆土	生材５	ヒノキ属	薄板（曲物のわっぱの破片？）
68	井野川	008号	井戸	中世	覆土	生材６	クヌギ節	
69	井野川	008号	井戸	中世	覆土	生材７	クリ	径３cm　表面焦げ跡あり
70	井野川	008号	井戸	中世	覆土	生材８	ケヤキ	
71	井野川	008号	井戸	中世	覆土	生材９	タケ亜科	タケ類
72	井野川	018号	井戸	中世	覆土	生木	シイノキ属	径0.8cm　樹皮付き　他同径４点あり
73	井野川	022号	井戸	中世	覆土	生木	クリ	他破片10点あり

3-4　自然科学調査成果まとめ

以上の各自然科学調査の成果について、次のようにまとめることができる。

3-4-1　人骨歯・獣歯について

3-4-1-1　中世墓出土の人骨

性別区分については次章で詳述するが、2区の北側墓域で女性が圧倒的に多かった(『小八木志志貝戸遺跡群2』で既述）のに比べると、本報告での4区の南側墓域は判明した男女比に大きな差が見られない。また幼児骨が南側墓域のみであったことも含めて、南北両墓域の性格の差を現わしたことになる。さらに本鑑定のまとめではあまり強調して触れられていないが、北側墓域で目だった異常な咬耗状態の歯は、程度がやや劣るものの一程度存在していたことも確かである。これは、逆に両墓域の一体性を想定させることでもある。

次に焼骨に焼成状態から2種類あったことは、興味深い。支脚石を設置したり明瞭な焼土の堆積があるもの以外から出た焼骨が生焼け部分を持っていたということは、遺構形態で外見される以上に火葬が存在していたことを意味する。火力が強い火葬と弱い火葬の差が何によるものなのかは、簡単には結論を出すことはできないが、そのような火葬の存在の指摘は注意すべきだろう。

3-4-1-2　その他

タヌキまたはイヌは、遺構番号を付与しなかった現代のものである。またウシの歯が出土したのは、本報告では対象外とした古代の遺構であった。性格は、『小八木志志貝戸遺跡群2』で報告したのと同様だろう。

3-4-2　プラント・オパール、花粉分析

3-4-2-1　プラント・オパール分析

小八木井野川の浅間As-Bで覆われた井野川沿いの古代末の畠（001号遺構）で、大量のイネが出たことが最も興味深い。畦が全くない遺構であり、陸稲の畠と解釈せざるをえない。またその下から検出された椨名Hr-FAで覆われた規則的な畠については、分析試料採集の時点では検出されていなかったため、作物を考える材料をえられなかった点が残念である。

3-4-2-2　花粉分析

12世紀初頭の周辺の植生は、落葉高木（コナラ亜属、アカガシ亜属）を主体に針葉樹（スギ属、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科）と落葉広葉樹（クマシデ属―アサダ属）を混じえた森林であった。小八木井野川の上記畠では、井野川の氾濫のためかほとんど樹木花粉の検出が見られなかった。そのことが、この畠の特徴を示しているのかもしれない。

3-4-3　樹種同定

中世の火葬墓の燃料は、残存していたものの全てはクリが大部分でタケが一部だった。上述の火葬の方法と程度を考える上で、この燃料材の特定は基本的な資料として考えることができる。また井戸から忌み植物としてウツギが出土する例が多いとの指摘は、井戸の閉鎖儀礼との関りを考えるべきかもしれないが、今回の調査ではそれ以上の材料はえられなかった。

第4章　まとめ

4-1　中世墓地と居館

4-1-1　小八木志志貝戸の墓地

1　調査概要

小八木志志貝戸遺跡では、すでに報告した２区（「小八木志志貝戸遺跡群２」）の墓地と連続する、本書で報告した４区の墓地が同一の墓域を形成している。

両区で検出した墓は208頁表１のように総数85基（２区30基、４区55基）で、分布範囲は南北95m東西25m以上に及ぶ。調査範囲外にどのように延びるかは必ずしも明確ではないが、少なくとも東側には同程度の密度で展開する可能性は大きい。即ち、総数が100基を下回ることは考えにくく、これまで上野地域で発見された中世墓地としては最大級の規模を持つものといえる。

以下、２区検出分も併せながら、本墓地の性格を検討したい。

2　構造と種類

全85基については、次のように検出状況より種類区分することができる（表１）。

火葬跡　３基
火葬墓　７基
石塔墓　４基
集石墓　５基
土葬墓　66基

まず墓の認定だが、ア．混入ではなく人歯骨を検出、イ．混入ではなく副葬品２種類（銅銭・かわらけ）を検出、のいずれかを条件とした。そのため後述のように、明らかに墓と関係のある五輪塔各部位のみを出土した遺構は、この中に含めていない。

火葬跡は、燃焼痕跡（焼土・炭化材）と焼骨を検出したものである。次の火葬墓との区別は、副葬品が全く見られないことである。他遺跡では荼毘跡とも称されているもので、埋葬施設そのものではない。4-028号遺構は東側に煙道が延びるＴ字形したもので、火葬跡として典型的な形状をしている。

火葬墓は、副葬品を伴って焼骨が発見された遺構である。大部分が長方形をなしているが、７基の中で４基は焼成不良のため生骨が残っていた。また３基は上記火葬跡4-028号と同様の支脚石を用いていたが、それは必ずしも良好な焼成とは繋がっていない。4-028号に比べればはるかに未焼成部分が多い。

石塔墓は、五輪塔の各部が墓坑の埋土中に見られたものである。五輪塔廃棄坑との差は、ア．人骨歯が出土、イ．副葬品が出土のいずれかが基準となる。2-028号は、人骨歯はなかったが銅銭とかわらけがあったため石塔墓としたが、4-027号は全ての要素があるものの重複土坑や近接する4-028号からの流入の可能性があるため墓には含めていない。五輪塔の各部が原位置にあったものはなく、地業的な構造も見られなかった。確実にこれらの墓の上に五輪塔が立っていたかは、不明である。2-027号と4-042号では焼骨が出土している。

集石墓は、墓坑の埋土中に自然礫が積まれていたものである。大部分は不規則な状態で積まれているが、2-045号遺構は、箱形掘り込みの壁に人頭大の礫を組んで全体を覆った特異な形態である。これらの石は石塔の地業と見ることもできるが、上記石塔墓とは逆に石塔が伴った例はない。

全体の８割近くを占めるのが土葬墓である。ア．非火葬の骨歯が出土したもの、あるいはイ．副葬品があるが明確な火葬痕がないものをここに含めた。これまで土坑墓と呼んでいたものだが、上記火葬墓と区別するために、土葬墓とした。横臥膝抱え葬が可能な小判形もしくは長方形掘り方が基本で、4-014号及び同090号を除

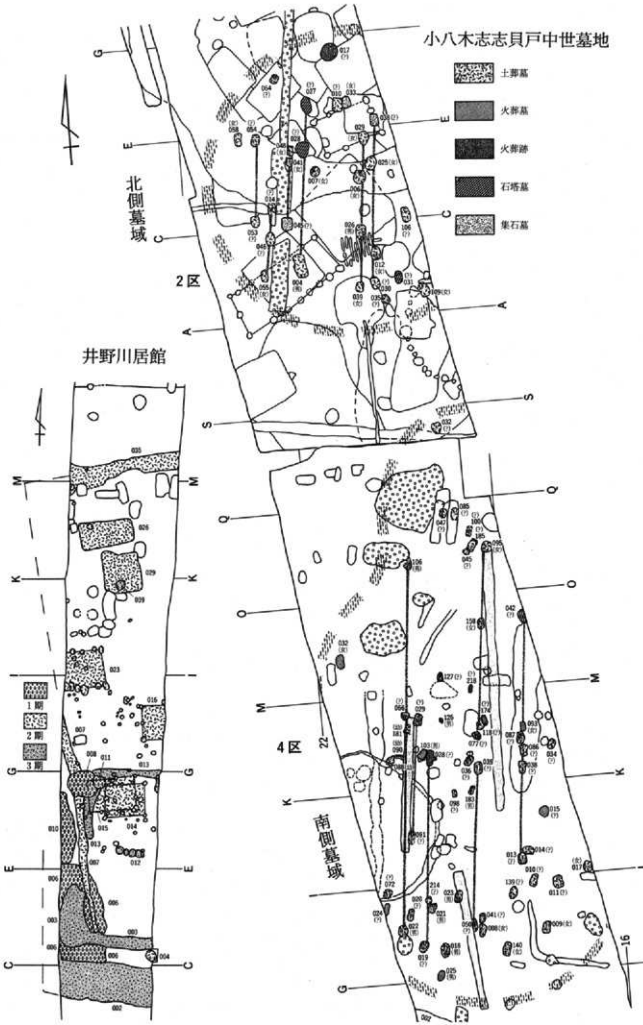

小八木志志貝戸中世墓地
土葬墓
火葬墓
火葬跡
石塔墓
集石墓
北側墓域
2区
井野川居館
1期
2期
3期
4区
南側墓域

表1　総数

	円形	楕円形	小判形	長方形	方形箱形	T字形	不定形	不明	計	割合	2区			4区		
											前期	後期	不明	前期	後期	不明
火葬跡	0	0	0	2	0	1	0	0	3	3.5%	0	0	1	0	0	2
火葬墓	0	1	0	6	0	0	0	0	7	8.2%	0	0	0	3	3	1
石塔墓	0	1	2	1	0	0	0	0	4	4.7%	2	1	0	0	0	1
集石墓	0	1	3	0	1	0	0	0	5	5.9%	0	3	1	1	0	0
土葬墓	3	6	39	14	1	0	1	2	66	77.6%	9	9	4	12	17	15
計	3	9	44	23	2	1	1	2	85		11	13	6	16	20	19

表2　性別の墓種類

		火葬跡	火葬墓	集石墓	石塔墓	土葬墓	計	割合	2区	4区	前期	後期	不明
男	幼年期					1	1	8.3%		1	1		
	少年期			1		0	1	8.3%		1	1		
	青年期					2	2	16.7%		2	0	1	1
	壮年期		1			7	8	66.7%	2	6	3	3	2
	熟年期		0			0	0	0.0%	0	0	0	0	
	成人期					0	0	0.0%					
	小計	0	1	1	0	10	12		2	10	5	4	3
女	幼年期						0	0.0%					
	少年期			1			1	5.0%	1	0	0	1	0
	青年期			1		1	2	10.0%	2	0	0	2	
	壮年期		1	0		14	15	75.0%	9	6	4	8	3
	熟年期					1	1	5.0%	0	1	1	0	
	成人期		1				1	5.0%	0	1		1	
	小計		2	2	0	16	20		12	8	5	12	3
不明	幼年期					2	2	7.4%	0	2	1	1	
	少年期						0	0.0%					
	青年期				1	3	4	14.8%	2	2	1	3	
	壮年期			1	1	6	8	29.6%	5	3	3	2	3
	熟年期					1	1	3.7%	0	1	0	1	
	成人期	1	4		1	6	12	44.4%	0	12	4	3	5
	小計	1	4	1	3	18	27		7	20	9	10	8
総計		1	7	4	3	44	59		21	38	19	26	14

	幼年期	少年期	青年期	壮年期	熟年期	計
年代総計	3	1	8	31	2	45
割　合	7%	2%	18%	69%	4%	

いて長軸を北に向けている。

全体の傾向は、火葬墓全てが4区側であるのに対し、石塔墓と集石墓の多くは2区に集まっている。

3　副葬品

共通する副葬品は、銅銭とかわらけ皿類である。

銅銭は、唐銭から明銭までの舶載銭で、火葬跡を除く出土数は合計240枚（2区112枚平均3.9枚、4区128枚平均2.4枚）である。火葬跡を除く単純平均は1墓坑当たり2.9枚になるが、内容的には唐宋銭152枚・明銭66枚・不明銭22枚で、区ごとでは2区が唐宋銭80枚（金銭1枚含む）・明銭25枚・不明銭7枚、4区が唐宋銭72枚（南唐銭1枚含む）・明銭41枚・不明銭15枚となる。出土状態の組み合わせは、銭種判明分のみで見ると、唐宋銭のみ27基・唐宋銭＋明銭もしくは明銭のみ33基・非検出22基となる。最も新しい初鋳年の銭種は、計3枚が出土した宣徳通宝である。

かわらけ皿類は、合計155枚（2区53枚、4区102枚）が見られたが、単純平均では1基当たり1.9枚（2区1.8枚、4区1.9枚）である。実際には42基で出土が全くなかったが、反対に13基では3枚以上見られた。最大は7枚が出土した土葬墓4-118号遺構である。

いずれも基本的には白手焼成で、底部切り離し技法は左回転糸切り無調整のものばかりである。だが少数ながら、底部に簀子痕のあるもの（4-009号・023号・029号・103号遺構）、底部が調整されたもの（4-100号2点）、赤手焼成（4-066号・090号2点）が見られた。それらの中で底部簀子痕の103号と赤手焼成の両者は、他のものと混在していない。これは当然生産地の差と思われるが、それらの墓と他の墓との間で重複も含めて決定的な差は見られない。

器種は皿・小皿・片口の3種類だけである。皿と片口は区別し難いものもある。小皿の大部分は強い油煙痕があり、灯明具の転用と考えられる。皿には弱い油煙痕があるものも含まれるが、片口にはほぼ認められない。そのためすでに指摘したように器形差は一次用途の差として捉えられ、全て二次的用途で副葬されたと考えられる。なお各器種内での形態変化は小さく、遺構どうしの重複がほとんどなく共伴銅銭組成以外に相対時期決定の要素がないため、ここでは型式学的検討は行わない。

他に例外的な副葬品として、2-045号遺構での刀子、2-058号遺構でのシカ角があった。また4-118号では棺材を想定させるカスガイ状鉄製品が見られた。4-106号の木製サイコロは、確実に副葬されたものかははっきりしない。4-014号の埋土中で見られたベンガラ状のものの性格は不明である。また2-045号や2-031号の底に垂直に刺さっていた篠竹の意味も不明である。

4 被葬者と墓域の構成

全体で59基の遺構からヒトの骨歯が出土した(表2)。性別が判明したものは、32体である。男女比は3：5の検出状況だが、区ごとでは4区が5：4であるのに対し2区は1：6と極端な差が見られる。

次に年齢（表では鑑定された幅の中で若い時期で区分）を見ると、全体としては壮年期が7割近くで次に青年期が2割弱と自然な感じである。しかし男女別では、男の方が青年期以下の割合が高いのに対し、女の方は壮年期以上の年代が比較的多い。

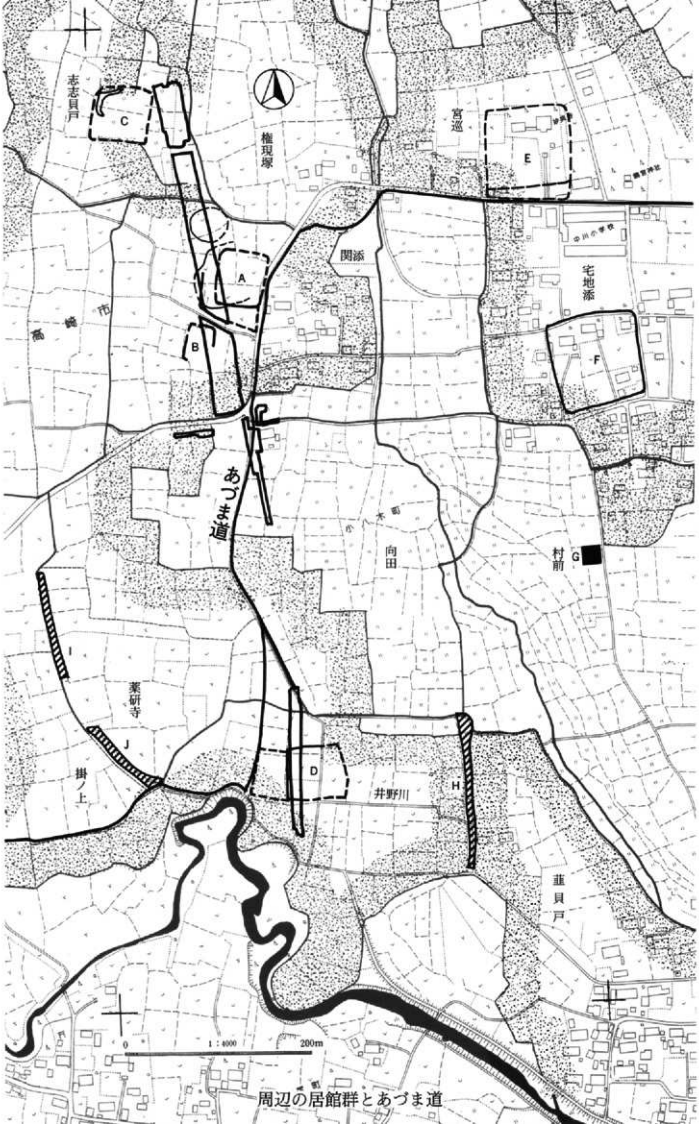
全体として見れば、図に示したように2区の大部分を占める北側墓域と4区側の南側墓域に分けることができる。北側墓域は基本的に壮年期以上の女性の埋葬が集中しているのに対し、南側墓域は性別に年代に大きな差はない。しかし南側墓域の中央西部分では、男幼児の集中埋葬が見られる。また前述のように両者に火葬跡はあるが、火葬墓の検出は南側に集中している。石塔墓・集石墓は北側に多い。それぞれ東にやや振れたN3～4°Eほどの南北ラインが造墓の基軸として意識されている。

なお北側墓域では、すでに報告したように片側の歯の咬耗が異常もしくは顕著な遺体が8体（女7・不明1）あったが、それに近いものが南側墓域でも4体（男2・女1・不明1）見られた。全体としてはこの異常咬耗の被葬者は、北側に葬られた女性に集中していることになる。

5 時期—近世遺構との重複関係

南北それぞれの墓域共に、基本的には極めて整然とした造墓がなされている。墓どうしの重複は、北側では土葬墓2-010号と集石墓2-033号だけで、南側では火葬跡4-028号と火葬墓4-103号及び火葬墓4-174号と土葬墓4-118号だけである。しかもそれらは近接の程度が強いような重複である。

つまり、明らかに全ての墓の造営に際しては、既存の墓の存在がかなり意識されていたことは間違いない。これは後述のような大量の五輪塔を中心とする地上施設が、各墓の上に存在したことを示唆するものである。同時に、墓地としての意識が継続された期間のものともいえる。



周辺の居館群とあづま道

この墓地の存続期間を考えるために、副葬された銅銭の組成そして重複遺構の問題を見てみたい。

まず銅銭を見ると、前述のように唐宋銭のみの副葬が27基、明銭を含んだものが33基であった。今仮に前者を前期、後者を後期とすると、全体としてはあまり大きな差がないが、女性の埋葬に限ると後期は前期の２倍以上に増えている。ただし区ごとに見ると、前期から後期にかけて同じ２～３割程度の増加であり、大きな差はない。そのため、両墓域の形成と使用は、同時に進んだと考えるのが妥当である。

次に他遺構との重複状況は、南側墓域が４区居館堀4-001号、4-016号そして4-051号を壊しているが、さらに南の５区居館堀5-003号とは全く重なっていない点が注目される。４区居館の関連遺構の一つである井戸4-033号遺構からは、13世紀と推定される浙江系青磁碗片（1542）が出土している。またその近くの遺構外からは、14世紀頃の可能性が推定される同様の青磁碗片（1636）が見られる。また５区居館の堀5-003号からは13世紀の同安窯青磁皿片（1618）が出土し、遺構外からも同様の青磁碗片（1624）があった。

一方、南側墓地を壊して作られた近世祠堂関係の遺構では、廃棄坑4-004号で17世紀の瀬戸美濃灰釉小皿（1507）、4-005号から16世紀後半の漳州窯白磁菊皿（1510）及び16世紀頃の瀬戸美濃天目釉小碗（1512）・飴釉卸皿（1517）、削平跡4-031号から16世紀頃の瀬戸美濃鉄釉皿（1538）・灰釉段皿（1607）・灰釉皿（1608）が出土している。

以上により本墓地の形成は、14世紀から16世紀前半頃にあたる時期とするのが妥当である。

6　墓地の性格

本墓地については、次のようにまとめることができる。

1　南北二つの墓域に分かれるが全体として一体性がある

2　北側は壮年期以上の女性墓が多く、南側には幼児墓区画がある

3　土葬墓と火葬墓が併存するが、五輪塔を上部構造とした可能性のものが多い

4　壮年期の女性を主体とする埋葬では、特殊な歯の使用者が多い

5　居館を壊して14世紀に成立し、16世紀中に上部構造は破壊されて祠堂用地となる

上部構造の五輪塔については後述する。

4-1-2　墓地の立地―居館群と街道

1　小八木志志貝戸遺跡の居館

209頁図に示したように本遺跡４・５区には中世居館が存在し、また北西側の３区でも同様のものを検出した（『小八木志志貝戸遺跡群２』既報告）。

４区居館（A）は、二重の堀の南西角部を確認したもので、井戸２基と方形竪穴１基が関連遺構である。内郭は、やや南北に長い方形区画（約50×60m）が地割より想定される。西側の溝4-031号は、外郭をなすものと考えられる。外郭の南辺は近世溝4-002号が相当した可能性がある。外郭の他の部分での状況は分からない。５区居館（B）は、北東隅部のみを検出した。関連遺構は井戸２基がある。地割から西側に南北に長い方形区画（約30×40m）が確認できる。この区画はあまりに狭く、また検出した東辺堀が途切れることから外側に外郭の存在が当然考えられるが、調査成果及び地割からは確認することができない。

上述のように二つの居館は13世紀には成立しており、別個のものというより同一の施設（以下、関添（せきぞえ）居館と呼ぶ）の異なった部分と考えられる。しかし、14世紀のある時点で４区側は廃絶して墓地に変わっている。猛烈な勢いで拡がった墓地化は、南側には全く及ばず、５区側の領域は最後まで墓地領域にはならなかった。

一方、墓地北西150mには14世紀に３区居館（C）が成立した。これは地割から方形区画（一辺約60m）が想

定される。

2　小八木井野川の居館

ここでは206頁図に示したように、少なくとも3時期の変化が見られる。内部構造がある程度はっきりしているのは2期と3期である。

1期は井戸2基と池？状の遺構の一部を検出しただけである。井戸中より12世紀頃と推定される山茶碗窯系の碗片（1009）が出土した。

2期は南北50mほどの区画で、掘立柱建物4棟以上、方形竪穴2基からなる。建物群が西に偏っているため、さらに西側に区画の存在が想定できる。方形竪穴029号から出土した景徳鎮窯青白磁皿片（1015）から13世紀頃が想定される。

3期は南北17mほどの内郭と南側の外郭堀を検出した。内郭内にはピット群があり建物があった可能性が高い。13世紀後半の竜泉窯青磁碗片（1014）がそこから出土し、また内郭南辺堀の埋土中に珠洲焼壺片、さらに14世紀頃の福建系粗製白磁碗片（1006）が見られた。内郭と外郭が接近しすぎ、また内郭が南に偏っているため、さらに南側の区画の存在も想定されるが、調査成果と地割からは不明である。存続期間は13世紀後半頃から14世紀頃だろう。

以上より、本居館は12世紀頃から14世紀頃までの存続期間が想定され、また他の居館に比べ舶載陶磁を含めた他地域の陶磁器類の所有が多い。地割からは東西方向に長い長方形区画（約50×100m）が想定される。そして南西角は井野川に接している。

なお本居館の東西には、非自然的な地割りH～Jが見える。東のHは、井野川へ向かう大規模な水路のようで、条里地割と一致するようである。西のIとJは、天王川と井野川を結ぶ水路のようにも考えられる。共に本居館の立地点の重要性を示唆している。

3　あづま道と墓地・居館群

本調査で検出した中世の遺構は、以上の居館の他に幹線道「あづま道」跡がある（「小八木志貝戸遺跡群2」で既報告）。この道は、東山道が12世紀初頭の浅間山の大噴火で壊滅した際に、在地豪族の共同事業によって作られた東西走向の幹線道である。本遺跡地周辺では、地割や旧地形との関係で図のようなルートが調査成果に合わせて想定できる。

ここで興味深いのは、少なくとも関添居館と井野川居館がこのあづま道に接している可能性が高い点である。関添居館の西北西250mには、妙典寺居館推定地（E）がある。ここには後述する大五輪塔と共に、康元2（1257）年銘の板碑が現存している。この板碑は、磯部淳一によれば武蔵型板碑としては上野最古で、また大きさも第三位になるものとされている（磯部,1999）。この妙典寺居館推定地（約85×100m）も、あづま道に接している。またその南150mの字宅地添にも16世紀と推定される方形居館（一辺約100m）の小八木環濠遺構（F）がある（茂木渉,1996）。さらにその南約150m（G）では、小八木遺跡B区の発掘調査で高崎市教委は中世の掘立柱建物を確認している。

以上の状況を整理すると次のようになる。12世紀初頭のあづま道築造時には、井野川渡河点に位置する井野川居館が成立していた可能性は高い。そしてあづま道の通交発達に伴い、関添居館や妙典寺居館が誕生した。両者は井野川居館も含めて、同一の勢力による居住を考えた方がよいだろう。磯部は妙典寺居館の居住者について、上野守護の安達氏の可能性を述べている。

14世紀のある時点で、関添居館の一部が墓地化を始めた。その流れは、16世紀に入る頃まで継続していた可能性が高い。総数は恐らく200基をはるかに上回る大規模なものだっただろう。その成立原因が何かは特定しが

たいが、あづま道に接していることに大きな意味が考えられる。これまで述べた周辺の居館の居住者のみでは、ここまで巨大化するとは言い難い。群馬郡単位程度の広域的な集団の墓域と見なければ、このような規模は説明できない。

とすれば中世後期に群馬郡の最大勢力となった、長野氏との関係が想定される。長野氏の16世紀初頭までの本拠地浜川は、本道跡から北西に2.8キロ離れた井野川右岸に位置している。また16世紀後半における墓地の破壊についても、永禄9（1566）年の武田信玄の箕輪城攻略による長野氏没落と関係しているのではないだろうか。

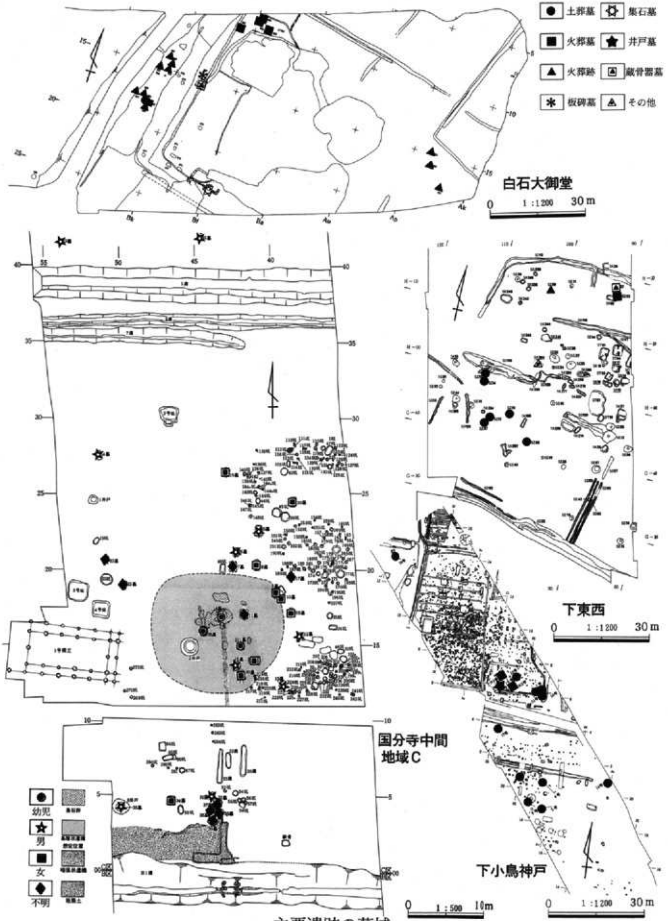
また広域流通品を保持していた井野川居館に象徴されるような幹線道あづま道そのものの衰退も含めて、小八木地域の地政学的な役割が16世紀に変容したことは間違いなく、本墓地の終焉もそこに現れたとも言える。

表3　高崎市・群馬町の中世墓分類

	円形	楕円形	長楕円形	小判形	長方形	方形箱形	T字形	地下坑	不定形	不明	計	割合
骨蔵器墓	4	5	0	0	0	4	0	0	1	0	14	3.5%
火葬墓	19	15	2	0	3	9	7	0	1	3	59	14.9%
石塔墓	3	6	0	0	6	2	0	0	0	7	24	6.1%
集石墓	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.5%
板碑墓	4	7	0	0	0	1	0	0	2	3	17	4.3%
火葬跡	0	2	1	0	6	2	27	0	2	7	47	11.9%
土葬墓	4	33	2	55	46	41	0	1	13	24	219	55.4%
井戸墓	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.5%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	2.8%
計	33	63	5	55	62	55	34	1	18	55	395	

表4　高崎市・群馬町の主要中世墓地

	骨蔵器墓	火葬跡	火葬墓	板碑墓	石塔墓	土葬墓	その他	計	男	女	計	備　考
白石大御堂	1	11	5	1	0	2	1	21			0	15c
富田遺跡群	5	2	36	7	8	0	1	59			0	應治1～貞和3年銘
根小屋一丁畑	3	0	0	8	1	0	0	12			0	延文2年銘
下小島陣[13]	0	1	2	0	0	12	1	16	2	5	7	13～15c
下東西	1	1	1	0	0	10	0	13	4	4	8	合葬墓1　15後～16c前
西国分Ⅱ	0	0	0	0	2	13	0	15			0	前期後期／15中～16c中
北原	0	0	0	0	0	22	0	22			0	近世
国分寺中間地域A	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
国分寺中間地域B	0	0	0	0	0	9	0	9	3	6	9	
国分寺中間地域C	0	0	0	0	0	33	0	33	10	9	19	女斬首1体
国分寺中間地域D	0	0	0	0	0	7	0	7	1	1	2	
国分寺中間地域F	0	0	0	0	0	7	0	7	3	3	6	
国分寺中間地域G	0	0	0	0	0	6	0	6	1	1	2	
国分寺中間地域H	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	
国分寺中間地域J	0	0	0	0	0	1	0	1	1		1	
国分寺中間地域小計	0	1	0	0	0	64	0	65	20	21	41	14末～16c


土葬墓
集石墓
火葬墓
井戸墓
火葬跡
蔵骨器墓
板碑墓
その他
白石大御堂
1:1200 30m
下東西
1:1200 30m
国分寺中間
地域C
1:500 10m
下小鳥神戸
1:1200 30m
幼児
男
女
不明

主要遺跡の墓域

4-1-3　周辺の中世墓地

1　全体の傾向

本遺跡周辺の高崎市内及び群馬郡群馬町内において発掘調査で中世墓地検出の74遺跡と、上野内における代表的中世墓地遺跡である藤岡市白石大御堂遺跡及び前橋市富田遺跡群で発見された中世墓（一部近世墓含む）の中で、図が報告された395基は表3（212頁）のようにまとめることができる。

種類では骨蔵器墓は下部構造の分類だが、上部構造としては板碑や石塔が乗る場合もある。火葬墓は下部構造に明確な容器を伴わない火葬骨墓の総称だが、本遺跡例のような長方形はあまり多くない。土葬墓は全体の55.4%であり、むしろ14.9%の火葬墓や11.9%の火葬跡の割合が本遺跡例に比べれば高い。本遺跡では全くなかった骨蔵器墓と板碑墓が、石塔墓に近い割合を示している。それらは全て火葬関係の施設であり、発見遺構数では土葬に近い割合になっている。集石墓は極めて少ないが、これは礫の位置づけにも起因しているだろう。形態では、方形箱形のような小判形・長方形以外の棺の存在を想定させるものが比較的多い。また煙道の付いたT字形のものは、火葬跡だけでなく火葬墓としても使われている。火葬墓にもかなり形態種類が多いことが分かる。

2　主要遺跡の墓域構造

次に墓域の構造を考えるために、墓が数多く検出された8遺跡の内容をまとめたものが、表4（212頁）である。白石大御堂（しらいしおおみどう）の墓地は、15世紀のものである。多様な墓が検出されたが、火葬跡が最も多くまた火葬墓もそれに次いでいる。ここの火葬墓は本遺跡と同様に、火葬施設をそのまま埋葬施設にしたものである。しかし図に示したように、ここではそれぞれ種類ごとに異なった墓域に分かれている点に特徴がある。富田遺跡群の墓地はせまい範囲に集中して発見された14世紀前半のもので、ここも種類が多いが土葬墓は全くない。板碑墓も石塔墓も火葬骨の埋葬で、逆に火葬墓の上部には板碑や石塔があった可能性がある。骨蔵器墓の検出が最も多く、火葬に限定された墓地である。いずれも火葬墓は焼成痕がないもので、骨蔵器墓と同じように、他の火葬施設から火葬骨を運んだと考えられる。14世紀中葉の板碑を伴う根小屋一丁畑（ねごやいっちょうはた）（高崎市）も板碑墓を中心とする同様の性格の墓地で、狭い調査範囲の中では土葬墓は全く見られなかった。

それらに対し、13～15世紀の時期が考えられている下小鳥神戸（しもことりかんど）（高崎市）の場合は、土葬墓が主体でそこに火葬関係の施設が少し混じった状態である。図のように居館の一郎区域にそれらの施設が集まっているが、あまり規則性は認められない。火葬墓は焼成痕のあるものである。同様の土葬墓を主体とする下東西（しもとうざい）（群馬町）の墓地は、15世紀後半から16世紀前半のものである。火葬関係の施設があるものの、ここでは図のように土葬墓墓域と明確に分かれている。しかし堀と溝で区画された部分には埋葬関係の施設のみがあるわけではない。また火葬墓には焼成痕は見られない。

15世紀中葉から16世紀中葉の墓地である西国分（にしこくぶ）II（群馬町）の墓地は、土葬墓を主体とするが、それに石塔墓が混じっている。五輪塔の一部が見られた石塔墓は2基だけだが、近くで大量の五輪塔各部の集積状態があったため、土葬墓の上部構造としてはさらに多くの五輪塔が立っていた可能性がある。北原（群馬町）は18世紀を中心とする近世墓地で、ここでは全て土葬墓である。上部構造が何であるかは判然としない。

一方、65基の埋葬関連遺構を検出した国分寺中間地域（群馬町）では、14世紀末から16世紀にかけての墓地群8カ所が検出されている。全体としては火葬跡1基を除いて全て土葬墓である。最大の集中を見せるC区は、33基の土葬墓が検出されているが、性別による墓の領域区分は図に示したように存在していない。また他の墓域でも特に顕著な男女区分について、本遺跡北側墓域ほどのものは見えない。ただしC区中央部分に幼児墓が集中しており、本遺跡の例と似ている。

3　まとめ

以上のように周辺地域の中世墓地のあり方を概観してきたが、まず数量の点では本遺跡が最大規模の遺構検出を見たことは間違いない。単純な数では、これまでの総検出数の２割以上にあたるものが本遺跡２・４区の僅か2,400平米足らずの場所で発見されたことになる。

火葬と土葬が併用されることについては、他の遺跡の多くと変わりはない。しかし、より高階層の被葬者が想定できる骨蔵器墓あるいは板碑墓が全くないことが、本遺跡の重要な要素である。西国分Ⅱの場合と同様に、本遺跡の多くの土葬墓の上部構造は五輪塔であった可能性は大きい。

上記周辺地域の主要な墓地検出遺跡の中で性格が判明しているのは、寺院関係が白石大御堂、下東西、国分寺中間地域であり、下小鳥神戸が居館関係である。ただし白石大御堂は、中世前期に存在していた寺院が廃絶した後に墓地化したとされている。下東西と国分寺中間地域は、寺院区画の一部ではあるが、完全に墓地に特化した区画ではない。下小鳥神戸の場合もほぼ同様である。

その点を考えると、本遺跡の墓域は同時期の他の遺構が存在していないことに、最大の特徴がある。そして女性埋葬の集中した北側墓域が存在するという大きな要素もあった。遺跡の性格から考えると本遺跡の場合は、下小鳥神戸と同様に、居館の一部とすることができる。そして興味深いことに、同遺跡は南西に僅か1.8キロしか離れていなく、またあづま道沿いに位置している。この幹線道沿いに寺院付属の墓地とは少し異なった性格の墓地が接近して存在していた点は、大きな意味があるだろう。

4-2　中世石塔

4-2-1　小八木志志貝戸出土の五輪塔

1　種類・材質・数量

本遺跡で出土した石塔の大部分は、五輪塔である。表５(218頁)に示したように数量の合計は、空風輪29個、火輪17個、水輪29個、地輪23個となり、材質は粗粒輝石安山岩・二ツ岳石・二ツ岳軽石の３種類である。圧倒的多数を占める材質は、各部位ともに75％を越える二ツ岳軽石である。その他の材質では、わずかに１片の牛伏(うしふせ)砂岩の刻片（2529）が見られただけである。

材質ごとの部位の数を見ると、二ツ岳軽石と粗粒輝石安山岩はいずれも空風輪と水輪の数がほぼ一致しているが、火輪と地輪の数は少ない。同じ材質で組合わさって立てられたとするなら、それぞれの材質の部位個数の最大数が少なくとも存在していたことになる。即ち、二ツ岳軽石製23基、粗粒輝石安山岩製６基、二ツ岳石製３基で、合計32基になる。これは火葬跡を除く墓82基に対し、４割近くに当たる。

各材質部位ごとの大きさと形状は必ずしも一致していないが、217頁図にはそれぞれ高/幅比（空風輪と火輪の高さは接合部を除いて計測した）が平均のものと最大・最小のものを図示した。極端なものを比べると同一材質部位でもかなり差があるが、高/横比が平均値から0.1以内の割合は、粗粒輝石安山岩の空風輪（67％）と二ツ岳軽石の地輪（89％）を除いて100％である。全体としては、大多数の形態は基本的に類似していると考えてよいだろう。

各部位の中には、梵字部及び稜線部を墨彩もしくは朱彩するものが少なからず見られた。大部分が二ツ岳軽石のもので、空風輪で墨彩３個・朱彩５個、火輪で墨彩１個・朱彩４個、水輪で墨彩２個・朱彩４個、地輪で墨彩５個・朱彩９個である。他に二ツ岳石の地輪には２個の墨彩があった。

同様の墨彩例は、浜川高田遺跡（高崎市）出土の天文16（1547）年銘の同じ二ツ岳軽石製地輪にも見られる

(群埋文,1998『浜川遺跡群』)。

2 出土状態

圧倒的多数は、近世の遺構からの出土である。中世の墓から出たもので同一材質と部位の個数からそこに五輪塔が立っていた可能性が考えられるのは、前述のように僅か4基に過ぎない。それらにしても原位置を保っていたわけではなく、廃棄の可能性は捨てきれない。

そのため、近世の祠堂遺構に伴うと考えられる粗粒輝石安山岩の火輪(2502)を除いて、他の五輪塔各部位が本当に各墓遺構の上に立っていたかについては、直接の確証は極めて乏しいと言わざるをえない。しかしここで重要な点は、これらの各部位の中に未成品がかなり含まれていたことである。その数は、表5で示したように空風輪では半数近くに達している。また上述の牛伏砂岩剝片以外にも、二ツ岳軽石7点、粗粒輝石安山岩4点の石塔未成品または剝片が出土している。

それらも近世遺構からの出土ではあるが、未成品資料の存在から、墓域周辺で五輪塔製作がなされていた可能性は否定できない。そしてそのような製作行為が近世に行われていた積極的な証拠はないため、中世墓の造営のために五輪塔がここで製作されたと考えることは、決して無理ないことと言えるだろう。

4-2-2 周辺の中世五輪塔

1 全体の傾向

周辺の高崎市・群馬町で出土及び現存する五輪塔の各部位は、総数が空風輪61個、火輪78個、水輪67個、地輪101個である(図が報告されたもののみ)。これらの材質ごとの数は、表6(218頁)に示した。

本遺跡非検出のものとしては、牛伏砂岩・凝灰岩そして意味は異なるが板碑線刻の五輪塔がある。しかしその割合は決して大きなものではない(二ツ岳石と二ツ岳軽石は、周辺資料では明確に区分されていない)。それらの高/幅比を見ると、空風輪を除いてほぼ本遺跡出土の五輪塔の平均値と一致している。

空風輪の場合は、同じ材質の二ツ岳軽石を比べると、本遺跡のものの方が少し縦長の傾向があることになる。粗粒輝石安山岩の場合も同様である。ちなみに紀年銘を持つ高崎市・群馬町内の地輪55個の高/幅比は、1351年から25年ごとの平均を取ると、全体としては0.72ほどになる。その値から最も離れた年代が1501～25年の0.68と1526～50年の0.77であり、あまり形態変化は大きくない。その時間差より変化が大きい理由は、本遺跡の空風輪の半数近くが未成品であるためだろう。

2 まとめ

本遺跡東250mの妙典寺境内には、前述のように康元2(1257)年銘板碑と凝灰岩製の五輪塔がある。推定高2mに近いこの五輪塔は、磯部淳一によれば板碑と同時期の上野あるいは関東最古の製作が考えられるという(磯部,1999)。

すでに述べたように五輪塔が多く立てられていた本遺跡墓地の年代は、14世紀から16世紀の間と想定できるため、妙典寺塔よりは後の時代になる。しかし妙典寺塔と同時期の凝灰岩製大形水輪が、あづま道沿いに東に2キロほど離れた中尾町墓地にあり、あづま道と五輪塔製作の関係が指摘できる。

磯部は、高崎を中心とした地域の五輪塔の変遷について、次のように述べている(磯部,1996)。

鎌倉中期に板碑と共に伝播した五輪塔設立は、上野では高崎から安中にかけての地域にまず定着した。そして南北朝にかけて新田氏との関係で東毛地域でも発展が見られるが、室町から戦国にかけては高崎・群馬町地域に爆発的に集中する。その理由は「長野氏の存在であったことはまちがいない」としている。さらにこの時期には「大きな勢力をもっていた在地豪族しか造立できなかった石造物が、中小の在地武士団にまで拡がった」

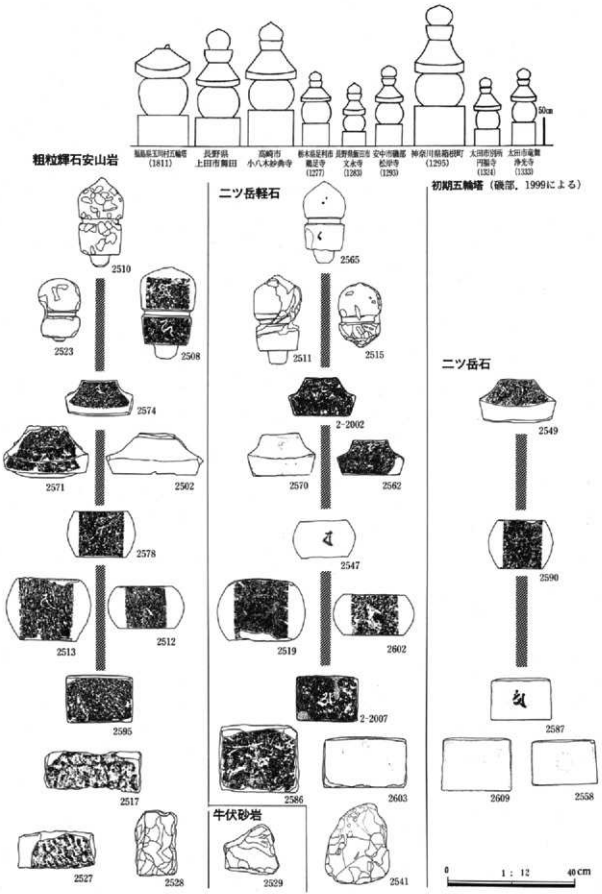

福島県玉川村五輪塔
(1311)
長野県
上田市舞田
岡崎市
小八木妙典寺
栃木県足利市
鶴法寺
(1277)
長野県飯田市
文永寺
(1283)
安中市磯部
松井寺
(1293)
神奈川県鎌倉郡
(1295)
太田市別所
円福寺
(1324)
太田市滝窪
浄光寺
(1333)
50cm
粗粒輝石安山岩
二ツ岳軽石
初期五輪塔（碓部，1999による）
2510
2523
2508
2574
2571
2502
2578
2513
2512
2595
2517
2527
2528
2565
2511
2515
2-2002
2570
2562
2547
2519
2602
2-2007
2586
2603
牛伏砂岩
2529
2541
二ツ岳石
2549
2590
2587
2609
2558
0
1：12
40cm

表5　小八木志志貝戸五輪塔　高/幅比

	粗粒輝石安山岩	二ツ岳石	二ツ岳軽石	平均	未成品
空風輪	1.57		1.66	1.64	
数	6	0	23	29	13
火輪	0.47	0.57	0.56	0.54	
数	3	1	13	17	2
水輪	0.64	0.75	0.61	0.62	
数	6	1	22	29	1
地輪	0.61	0.72	0.72	0.71	
数	2	3	18	23	2

表6　高崎・群馬町五輪塔　高/幅比

	板碑緑泥	牛伏砂岩	凝灰岩	粗粒輝石安山岩	二ツ岳石	二ツ岳軽石	不明	平均
空風輪	1.28			1.45	1.43	1.55	1.54	1.46
数	5	0	0	16	24	8	8	61
火輪	0.45	0.56		0.58	0.57	0.58	0.53	0.56
数	5	1	0	31	28	1	12	78
水輪	0.72	0.69	0.6	0.65	0.65	0.67	0.63	0.64
数	5	3	2	18	25	2	12	67
地輪	0.64	0.76	0.64	0.73	0.69	0.76	0.67	0.72
数	3	3	2	65	13	6	9	101

ためで、また高崎市下滝町慈眼寺の384基などのように集中傾向があるとしている。

磯部が示した初期五輪塔の形態（217頁図に転載）あるいは上記の高/幅比の変化を見ても、五輪塔の形態と大きさにはあまり統一的な時期変化があるとは考えにくい。そのため、本遺跡の五輪塔についても、厳密な意味で時期推定をすることは難しい。

しかし前述のように本遺跡では、推定造立五輪塔数は墓数の４割近くである。逆に見ると半数近くは五輪塔のない墓と考えられ、それは墓地形成の中で14世紀から15世紀にかけての最初の段階では、まだ造立が一般化していなかったことを示しているのかもしれない。また浜川高田出土と同様の墨彩例が多いことや、材料に二ツ岳軽石を多用したことも、長野氏との関係を伺わせる。

妙典寺塔の時代には本遺跡には墓地はなかったが、初期五輪塔の造立はあきらかに安中に至るあづま道と切り離すことはできず、本遺跡での墓地成立にもそのことの大きな影響が考えられる。特に他遺跡ではあまり見られない本遺跡での加工の事実は、まだ機能が残っていたあづま道との関連で考えるのが最も妥当と思われる。

参考文献

磯部淳一, 1996,「五輪塔」『高崎市史資料編３中世１』、高崎市史編さん室。
1999,「高崎市小八木町妙典寺の石像物」『高崎市史研究』10、高崎市史編さん専門委員会
群埋文, 1998,『浜川遺跡群』

4-3 成果概要

井野川左岸の湧水起源の低地が入り組んだ微耕地に、両遺跡は位置している。調査面積が限定された小八木井野川遺跡では、古代以前の調査は遺跡の中心部分からはずれたものとなった。

近世 小八木志志貝戸4区では16世紀後半に、それまで存在していた墓地の五輪塔類を整理して、円形に整地された祠堂用地が生まれた。この祠堂への信仰は近代に至るまで続くが、特に17世紀から18世紀前半が盛んだった。仏像が備えられ、また高橋姓の一族の供献が見られる。

南側の5区は畠地として最近まで残っていた地割が形成されている。サクの形状より少なくとも2種類の作物が栽培されていた。南端には村道となった中世のあづま道に灌漑用と思われる暗渠が作られている。小八木井野川も畠地になっていたはずだが、痕跡は道跡を除いてあまりはっきりしない。

中世 12世紀初頭の浅間山噴火直後のあづま道成立時には、小八木志志貝戸には関添居館が、また南の井野川左岸沿いには井野川居館が存在していた。それらの居館を結ぶ形であづま道が造成されると、経済的な物資流通は盛んになり、また政治的権力も及ぶようになってきた。舶載中国陶磁や希少な北陸の珠洲焼壺と推定されるものなどが持ち込まれ、また東に近接する妙典寺居館には上野最古の武蔵型板碑や凝灰岩五輪塔が造立されている。

14世紀以降、関添居館の北側は大規模な墓地に変化した。16世紀前半頃までに全体では200基を越えるような数の墓が築かれた。全体として被葬者たちには大きな階層差は乏しく、大部分は土葬された。しかし少数ながら火葬された人たちも存在した。火葬の多くは、火葬場そのものが埋葬場所になっている。墓城は大きく南北に分かれ、北側は壮年期以上の女性の埋葬が集中し、南側の一部は幼児用の区域であった。女性を中心とする被葬者には、片側の歯を激しく使用した人たちが含まれている。15世紀から16世紀前半にかけて、五輪塔の樹立が増えた。その襲作は墓地内でなされている。少なくとも群馬郡では最大規模のこの墓地の被葬者は、関添居館の関係者というより、広範囲な同一階層の人々の可能性が想定できる。

関添居館南部や井野川居館は墓地と共に併存していたが、あづま道の弱体化と共に15世紀以降活動は下降した。そして長野氏没落と関係するかのように、16世紀後半には墓地は機能を失った。

弥生～古代（小八木井野川遺跡） 弥生後期に北側隣接地の低地では水田耕作が営まれ、それは古墳時代後期までは継続したと思われる。それに関連する水路を発見している。だが集落そのものは、弥生のものは少し離れていると考えられ、また古墳中後期のものは北側隣接地から北西側に展開していた。そのため、今回の調査では直接集落の検出には至っていない。古墳後期の畠地は、南端部にかなり規則的な形で営まれている。

古代では、集落の一部と考えられる掘立柱建物を確認した。あまり規模は大きくないが、周辺に集落中心部が存在すると推定できる。また古代末期には南端部に陸稲を栽培した可能性のある畠地が拡がり、それが中世の井野川居館を支える農業基盤に継続した可能性がある。

縄文時代（小八木井野川遺跡） 中期後半の埋甕と土器集中遺構などを確認した。竪穴住居のような居住遺構は確認できなかったが、出土土器には大形破片も多く、かなり近い位置に集落の中心部があったはずである。

summary

1. Outline of the Site

We did an archaeological excavation at Koyagi-shishikaido site and Koyagi-inogawa site, Takasaki city, Gunma prfc., from June 26th 1997 untill December 22th 1999, as an administrative research because of the construction for prefectural road's by-pass. On this excavation, had be found enormous artifacts that consist of porcelain, pottery, stone-ware, metal works, and human bones in several kinds monuments of various age, from Johmon to pre-Modern. In this book, we reported only a part of analysis results both from Middle age to pre-Modern age on Koyagi-shishikaido and all ages on Koyagi-inogawa.

2. Nunber of Main Monuments and Artifacts

In these sites, we found many number of main monuments as following ;

Middle age :	tombs	55
	residences	2
Ancient age :	pillar type dwellings	2
	dry rice field	1
Kofun age :	dry rice field	1
Yayoi age :	water way	1
Johmon age :	buried jar	1

As a most sepecial artifacts found 38 human bones and tooth, more 32 sets small stone pagodas in tombs. And as the others are Chines coins also sherds of Chinese seladon and Japanese Suzu wares.

3. Characteristic Results of the Research

A. Necropolis of Middle age

Added survey result of northern part, this necropolis, one of largist in Gunma/ancient Kohzuke, presumed more 2 hundred number of tombs, formed at from 14th to early 16th century. As a very interesting fact in the northern part, had reported in book vol. 2, had buried concentrated women who used tooth by any sepecial way. And in the southern part found a sepecial area for babies. No class level found in the large part of burried people who had come from also Gunma district area through-out the main load of Azuma-michi.

B. Small stone padodas

On the later period of the necropolis, perhaps from 15th century, numerous number of small sotone padodas, *gorintoh*, builded upper each tombs. These pagodas were manufacted in this area too, because of finds several parts of semi-complited or sherds of fragmental part. It is thought that the materials, a kind of Andecite from Haruna volcano, were brought by the authority of the necropolis, the Nagano clan, a powerful familiy in this district.

C. Locational Situation

These sites, espesially Koyagi-shishikaido, located on area in where well out under warter of Haruna volcano. And in the southern part Inogawa river, one of Tonegawa river's branch and had functioned as the historical trafic route, are streaming to south-east. Probably because of this natural condition, on these sites had found large number of monuments and artifacts more over in other surrounding sites, and large part of discoveries has burial or ceremonial character.

(Sakai T.)

第5章　資　　料

5-1　遺構索引

5-1-1　小八木志志貝戸遺跡4・5区

（非報告遺物重量　単位g）

区	番号	grid	種　類	時代	頁	古　代	中世土器	中世陶器	近世土器	近世陶磁	近代陶磁	石製品	金属製品	その他
4	001	11L17	溝	中世	85									
4	002	11D18	溝	近世	103									
4	004	11I19	集石土坑	近世	17				30	130				
4	005	11J19	集石	近世	17	250	250	1250	4560	870	2170	330		20
4	006	11F18	井戸	近世？	40									
4	007	11G18	土坑	近世？	40									
4	008	11G18	土葬墓	中世	47									
4	009	11G17	土葬墓	中世	41									
4	010	11H17	土葬墓？	中世？	45									
4	011	11H17	土葬墓	中世	44									
4	012	11H16	土坑	中世？	85									
4	013	11I17	土葬墓	中世	45									
4	014	11I17	土葬墓	中世	45									
4	015	11J17	火葬墓	中世	55									
4	016	11G16	溝	中世？	85					30				
4	017	11I16	土葬墓	中世	44									
4	018	11G19	土葬墓	中世	42									
4	019	11G20	土葬墓	中世	42									
4	020	11H20	土葬墓	中世	49									
4	021	11H19	集石墓	中世	47									
4	022	11H20	土葬墓	中世	50									
4	023	11H19	土葬墓	中世	47									
4	024	11H20	火葬墓	中世	53									
4	025	11G19	火葬墓	中世	42									
4	026	11F17	土坑	中世？	40									
4	027	11K19	土坑	近世？	65		10							
4	028	11K19	火葬跡	中世	63									
4	029	11L19	土葬墓	中世	73									
4	030	11H16	土坑	？	41									
4	031	11I20	開平跡	近世	17			50		80	10			
4	032	11M21	火葬墓	中世	74									
4	033	11K17	井戸	中世	57									
4	034	11K17	土葬墓	中世	57									
4	035	11K18	土葬墓	中世	61									
4	036	11K18	土葬墓？	中世？	61									
4	037	11K19	土坑	中世？	61									
4	038	11K17	土葬墓	中世	55									
4	040	11L17	土坑	？	58									
4	041	11H18	土葬墓？	中世？	47									
4	042	11N17	石塔墓	中世	74									
4	043	11P19	土坑	近世？	113									
4	044	11P18	土坑	近世？	113									
4	045	11O18	土葬墓	中世	78									
4	046	11P18	井戸	近世？	113									
4	047	11P19	土葬墓	中世	79									
4	048	11Q19	土坑	中世？	79									
4	049	11I19	土坑	？	31									
4	050	11H19	土葬墓	中世	47									
4	051	11I20	溝	中世	89			20						
4	052	11J20	土坑	近世？	39									
4	053	11K18	ピット	？	61									
4	054	11K18	ピット	中世	61									
4	055	11L18	方形竪穴？	？	66									
4	056	11P21	土坑	？	113									
4	057	11Q22	土坑	？	113									
4	058	11L19	土坑	？	72									
4	059	11M20	土坑	？	112									
4	061	11Q21	土坑	近世？	115									
4	062	11Q21	土坑	近世？	115									
4	063	11Q20	土坑	近世？	115									
4	064	11Q20	井戸	近世？	115									
4	065	11M21	土坑	近世？	74									
4	066	11L20	土葬墓？	中世	72									
4	067	11P21	土坑	？	113									
4	068	11L20	土坑	？	89									
4	069	11M20	土坑	？	112									
4	070	11I19	土坑	近世	31									
4	071	11I19	土坑	近世	31									
4	072	11H20	土葬墓	中世	53									
4	073	11H18	井戸	近世？	47									
4	074	11K21	土坑	近世	37									
4	075	11K21	土坑	近世	39									
4	076	11K21	土坑	近世	39									
4	077	11L18	土葬墓		69									

区	番号	grid	種　類	時 代	頁	古　代	中世土器	中世陶器	近世土器	近世陶磁	近代陶磁	石製品	金属製品	その他
4	078	11M20	土坑？	？	112									
4	079	11K20	土坑	？	62									
4	081	11M18	土坑	近世？	111									
4	082	11L17	井戸	中世？	111									
4	083	11M18	土坑	？	111									
4	085	11P18	土師墓	中世	79									
4	086	11K17	土師墓？	中世	59									
4	087	11K17	土師墓？	中世	59									
4	088	11K20	土師墓	中世	66									
4	089	11K20	土坑	？	66									
4	090	11K20	土師墓	中世	66	20								
4	091	11I20	土師墓？	中世	32									
4	092	11K20	ピット	？	66									
4	093	11L17	火葬墓	中世	59									
4	095	11O18	土師墓	中世	78									
4	097	11J19	土坑	近世？	56									
4	098	11J19	土師墓	中世	19									
4	099	11L19	集石	？	74									
4	100	11P18	土師墓	中世	77									
4	101	11Q21	土坑	近世？	115									
4	103	11K19	火葬墓	中世	62									
4	106	11O19	土師墓	中世	81	10								
4	118	11L18	土師墓	中世	66									
4	126	11L19	土師墓	中世？	72									
4	127	11M19	土師墓？	中世	74									
4	129	11I19	土坑	中世？	31									
4	139	11H18	土師墓	中世	47									
4	140	11G18	土師墓	中世？	39									
4	143	11I19	集石	近世？	19						60			
4	158	11N18	土師墓	中世	77									
4	174	11L18	火葬墓	中世	66									
4	181	11L20	土師墓	中世	73									
4	183	11J18	土師墓	中世	56									
4	185	11O18	土師墓？	中世？	77									
4	203	11L17	土坑	中世？	85									
4	207	11K19	土坑	？	63									
4	214	11H19	土師墓	中世	47									
4	218	11L18	火葬墓	中世？	74									
4	304	11M18	土坑	中近世	111									
4	324	11N19	溝		112									
4	325	11N19	溝		112									
4	遺構外						20	500	260	810	500			
5	001	11A17	畠	近世	102	10								
5	002	11A19	畠	近世	101									
5	003	10Q18	堀	中世	83	10				10	10	200		
5	005	10S19	畠	近世	99									
5	006	10T17	土坑	近世	110									
5	007	10P19	畠	近世	98			10		10		10		
5	008	10P19	土坑群	近世	109									
5	009	10O19	土坑群	近世	109								5	
5	010	10R18	土坑	近世？	111									
5	011	10R17	土坑	近世？	111					1				
5	012	10R17	土坑	近世？	111									
5	013	10Q18	土坑	近世	111									
5	014	10Q17	井戸	中世	111									
5	015	10T15	畠	近世？	100					3				
5	016	10R19	井戸	中世	84									
5	017	10R16	土坑	近世	96					5				
5	018	10O18	土坑	近世	96									
5	019	10O17	土坑	近世	96					7				
5	020	10M16	畠	近世	97					5	1			
5	021	10M16	地境溝	近世	89				380	23	70			
5	022	10P14	畠	近世	96									
5	023	10P14	土坑	近世	96									
5	024	10T15	土坑	近世	100									
5	025	10Q17	土坑	近世	111					2				
5	026	10Q16	畠	近世	96									
5	027	10O16	土坑	近世	96									
5	028	10P16	畠	近世	96									
5	029	10N16	土坑群	近世	96									
5	030	10M16	土坑	近世	96									
5	031	10L13	地境溝	近世	89				160	120	40			
5	032	10N14	土坑	近世	111					20				
5	033	10M14	土坑	近世	111									
5	034	10M14	土坑	近世	111									
5	035	10L15	土坑	近世	107					20				
5	036	10L15	土坑群	近世	107									

区	番号	grid	種類	時代	頁	古代	中世土器	中世陶器	近世土器	近世陶磁	近代陶磁	石製品	金属製品	その他
5	037	10L14	土坑群	近世	107									
5	038	10L13	土坑群	近世	107						1			
5	039	10L16	土坑群	近世	107					10				
5	040	10M19	溝	近世？	89					63				
5	041	10J15	畠	近世	92			10		20				
5	042	10K17	畠	近世	92			5						
5	043	10M17	土坑群	近世	96			2						
5	044	10L17	畠	近世？	94									
5	045	10L18	井戸	中世？	108					10				
5	046	10L18	土坑	近世	94									
5	047	10O18	土坑	近世	109									
5	095	10Q14	ピット	中世	96									
5	109	10N14	土坑	中世	111									
5	115	10N13	土坑？	中世	111									
5	222	10Q19	土坑	中世	84									
5	401	10H13	土坑	近世？	105									
5	402	10H13	土坑	近世？	105									
5	403	10H13	土坑	近世？	105									
5	404	10H13	土坑	近世？	105									
5	405	10H13	土坑	近世？	105									
5	406	10H15	土坑	近世？	105									
5	407	10H16	土坑	近世？	105									
5	408	10H17	土坑	近世？	104									
5	409	10H17	土坑	近世？	104									
5	410	10H17	土坑	近世？	104									
5	411	10I17	土坑	近世？	104									
5	412	10I17	土坑	近世？	104									
5	413	10G17	畠	中世？	92									
5	414	10F13	土坑	中世？	106									
5	415	10E14	道路	近世	91									
5	416	10D16	道路	近世	91									
5	417	10D17	畠	近世？	91									
5	遺構外						99		200	120	340	365	50	

5-1-2 小八木井野川遺跡

（非報告遺物重量　単位 g）

番号	grid	種類	時代	頁	縄文	石器	弥生	土師古墳	須恵古墳	土師古代	須恵古代	古代陶磁	中世土器	中世焼締	近世陶磁	近代	石製品
001	5E02	窯跡	古代	147	10		21	61	19	23	44		62		7		3
002	6B02	竈	中世	122	188			18						701	6		
003	6C02	竈	中世	122	126		43	42			439			184			
004	6C01	井戸	中世	122			19							5			
005	6A03	土坑	古代？	148				3									
006	6C02	他？	中世	122	42			2						92			
007	6D03	溝	中世	125	83		134	7		1				16			
008	6F02	井戸	中世	137	75								21	247			
009	6D02	土坑	古墳？	148	15			9									
010	6E03	他？	中世	125			1	4									
011	6F02	井戸	中世	137	5		2										
012	6E01	ピット列	中世	129				7			54			57			115
013	6E03	溝	中世	129													
014	6F01	掘立柱建物	中世	129							3						
015	6F02	掘立柱建物	中世	129													
016	6G01	掘立柱建物	中世	131													
017	6I02	井戸	中世	137	64		3				7			33			
018	6J02	井戸	中世	137	27			7			48						180
019	6G03	土坑	中世	144													
020	6I02	土坑	中世	138	71		11							24			
021	6I02	土坑	中世	138	19		81		115		27			44			
022	6N01	井戸	中世	140													
023	6H02	掘立柱建物	中世	130	53			4									20
024	6J02	土坑	中世	138													
025	6J02	土坑	中世	133	210												14
026	6K02	方形竪穴	中世	134	215		83	61			9			90			
027	6J01	溝	古墳？	156	55									109			
028	6L03	ピット？	鎌倉	169	188												
029	6J02	方形竪穴	中世	132	355			29					9	58			
030	6J02	土坑	中世	133													
031	6K02	土坑	近世	145													
032	6L02	土坑	近世	145	113			9									
033	6L02	土坑	近世	145	88			1									
034	6L01	土坑	近世	145	49			8									
035	6M01	溝	中世	126	683		45	61						14			74
036	6L03	土坑	中世	126													
037	6L03	土坑	中世	126			11							34			
038	6L03	土坑	中世	126													
039	6J02	井戸	中世	137	6			7									
040	6L01	土坑	近世	145	32			4						1			